

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
小野田奈穂			
Subject Code : G13C06			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要)</p> <p>心理学は、人の心のはたらきを研究する学問であり、学習心理学・発達心理学・性格心理学・社会心理学・臨床心理学等、多様な領域にわたる。多様な領域の中から、学生の関心が高く、また学生と関わりが深いと思われるテーマを選び、そのテーマについての理論や概念を学ぶ。日常生活に関連するような内容も含まれているので、各自考えを深め、生活の中で応用できるように具体的な例を多く出しながらか講義をすすめる。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○B：対人関係にまつわる心理学の理論を通じて、人の話を聴き、自分の考えを上手に伝える力を身につける。</p> <p>◎C：日常生活における様々な物事について新しい視点を知ること、物事を多面的に深く考えられるようになる。</p>		
授業計画	1	オリエンテーション 心理学とはどのような学問か？	
	2	感覚・知覚・認知 人はどのように環境や情報を捉えるのか	
	3	動機づけ “やる気”のこころの働きを知る	
	4	性格 心の個人差を考える	
	5	発達① 人の発達を学ぶ	
	6	発達② 人の発達を学ぶ	
	7	青年期の心理 青年期特有の心理発達を学ぶ	
	8	家族の心理 心理学の視点から家族を捉える	
	9	対人関係と恋愛心理 心理学の視点から対人関係と恋愛について考える	
	10	対人関係とコミュニケーション① (ロールプレイ、ディスカッション：体験して、話し合う) 自分の気持ちを上手に伝える方法を考える	
	11	社会の中の心理 他者や社会との関係を考える	
	12	ストレスの心理学 ストレスの仕組みと対処を考える	
	13	心理療法から学ぶ (ロールプレイ、ディスカッション：体験して、話し合う) 日常生活での工夫を学ぶ	
	14	勉強を頑張るコツ 勉強を頑張るコツを心理学の視点から考える	
	15	対人関係とコミュニケーション② (ロールプレイ、ディスカッション：体験して、話し合う) 人の話を上手に聴く方法を考える	
到達目標・基準	○B：実際の対人関係の場において、上手なコミュニケーションのための工夫を取り入れて応用できる。 ◎C：日常生活で当たり前として考えることになかったような物事にも違う視点があるということを知り、視野を広げて捉えることができる。		
事前・事後学習	事前学習：生活の中で生じる疑問や相談したいような気がかりなことについて意識して考えてみる。(90分) 事後学習：自身の生活に照らし合わせながら、講義の内容を振り返る。(90分)		
指導方法	授業は原則として、プロジェクターを使用し、パワーポイントや図表等を示し、それに沿った講義を行う。また、心理学という学問を体験的に理解できるよう、簡単な心理検査等を体験できるようにする。ワークシートを使って日常生活に応用できるよう練習する。講義終了時に、毎回コメントペーパーを書かせ、疑問の解消や講義のふりかえりと整理を行えるようにする。 フィードバックの方法：コメントペーパーに書かれた疑問点や質問には次の回で答えるか、学生に問いかけて解決していく。		
成績評価の方法・基準	B：受講態度(コメントペーパー含む)と定期試験を評価する。 C：受講態度(コメントペーパー含む)と定期試験の記述回答を評価する。 定期試験70% 受講態度(コメントペーパー含む)30%		
テキスト	適宜プリントを配布する。		

参考書	『心理学』 東京大学出版会 『心理学の基礎 改訂版』 培風館
履修上の注意	他者の心理を読み取る術や他者を操作する方法などは心理学の学問ではないことを理解して受講すること（講義内容にもこのような内容は含まれていない）。心理学は、それぞれが自身の体験に引き付けながら学ぶことにより一層関心を持てる学問であるので、積極的に学ぶ姿勢を持って講義に参加することがのぞましい。授業中の私語や携帯の使用、途中退席等は厳禁。
アクティブ・ラーニング	ロールプレイ、ディスカッション
I C Tの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
黒澤 佳子			
Subject Code : G13C16			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 近年はインターネットで買い物をする機会が増え、モノやサービスの購入スタイルも多様化してきた。また、貯蓄・投資や保険などの金融商品を選ぶ際には、自己責任が求められるようになってきている。将来生きていく上で知っておくべき経済の知識と、ライフデザインに必要なお金に関する知識について、事例や体験談、ニュースで話題になっている事柄などを取り上げてわかりやすく解説する。 (授業目標) ○C：経済の動きを理解して、心豊かな生活を送るための生活設計や生活していく上での自己防衛について考えられるようになる。 ◎D：社会の中で役立つ正しいお金の知識を身につけ、自らの経済行動が社会全体の中でどのような意味を持つのかを理解する。
授業計画	<p>1 お金と経済活動 景気や経済活動におけるモノ・サービスの動きとお金の役割や循環について学ぶ。必要なもの（ニーズ）と欲しいもの（ウォンツ）の違い、賢いお金の使い方を考える。</p> <p>2 外国の通貨と為替（グループワーク） 外国の通貨と為替（円高/円安）について、身近な事例をもとに学ぶ。</p> <p>3 輸出と輸入 貿易の経済的なメリットについて学び、円高/円安と輸出/輸入の関係を理解する。</p> <p>4 お金を貯める（増やす）(1) お金の貯め方・増やし方について、預金と貯蓄の種類、金利とは何かを学ぶ。</p> <p>5 お金を貯める（増やす）(2)（個人ワーク） 金融商品（預貯金、株、債券、投資信託など）の特性の違いについて学び、運用におけるリスクとリターンについて理解する。</p> <p>6 需要と供給、物価と金利 「欲しい」が値段を決めることを理解する。物価と金利の関係、経済成長について学び、「景気が悪い」というのはどういうことかを理解する。</p> <p>7 インフレとデフレ、雇用と失業 インフレ、デフレが起こる要因について理解し、デフレスパイラルを学ぶ。「仕事がない」とはどのような状態なのか、失業率と景気の関係について学ぶ。</p> <p>8 国の財政状況と国債、財政政策 国の支出はどのようにになっているのか、予算はどのようにして組まれるか、政府はどのような場合に財政政策を行うのか、財政政策にはいくつかの手法があり、その方法を学ぶ。</p> <p>9 銀行の役割、金融政策 「お金がまわる」とはどのようなことか、銀行の役割や直接金融と間接金融の違いについて学ぶ。日銀が行う金融政策とはどのようなものかと、その効果を学ぶ。</p> <p>10 お金を借りる（ローン）（グループワーク） ローンの仕組みを知り、お金を借りるには信用が大切であることや利息の付き方、返済方法について学ぶ。奨学金もローンであることを理解する。</p> <p>11 お金を借りる（クレジットカード）（個人ワーク） 一括払、分割払、リボ払の違いを知り、クレジットカード利用のメリット・デメリットを理解する。</p> <p>12 お金のトラブル（グループワーク） 契約の成立と責任、消費者金融や多重債務について学ぶ。さまざまな悪徳商法や学生が狙われやすい金融犯罪について学び、トラブル時の対処法を知る。</p> <p>13 税金と社会保険 給与明細を使って、税金・社会保険の概要や意義、仕組みを学ぶ。使えるお金は年収ではなく、可処分所得（手取り給与）であることを認識する。</p> <p>14 万が一に備える（保険） これからの人生に起こり得る万が一に備えるためのヒト・モノに関する保険を知り、どのような時にどのような保険が必要なのかを学ぶ。</p> <p>15 相続と贈与 お金や資産を受け継いでいくためにどのような制度があるのか、どう利用すればよいのかを知る。</p>
到達目標・基準	○C：新聞やニュースに関心を持ち、起こった出来事から自分の将来に役立つ学びを得ることができる。 ◎D：買い物や旅行、アルバイトなどの日常生活において、どのような経済活動が関連しているか説明できる。
事前・事後学習	事前学習：経済に関するニュースを見る。わからないワードは調べておく。（90分） 事後学習：授業の内容を踏まえ、事前学習で疑問に思った点に対し、自分なりの答えを考えてみる。（90分）
指導方法	授業は原則として、パワーポイントを使った講義と、個人ワーク形式で進める。 ワークシートを配布、授業で扱ったテーマからミニレポートを書き、授業後に提出する。 フィードバックの方法：提出物は必要に応じ、全体講評によりフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準	C：ミニレポート、定期試験等の内容によって評価する。 D：授業貢献度、ミニテスト等によって評価する。 授業への貢献度、ミニレポート、ミニテスト（50%）、定期試験（50%）と総合的に評価する。
テキスト	無し。適宜プリントを配布する。
参考書	『10代から学ぶパーソナルファイナンス』日本FP協会 『学生生活マネー&キャリアお役立ちハンドブック』日本FP協会 『若手社会人のマネー&ライフプラン お役立ちハンドブック』日本FP協会
履修上の注意	毎日ニュースを見る習慣をつけ、授業の中で疑問に思ったことを質問できるようにする。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、個人ワーク
I C Tの活用	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
井上香緒里、藤田正			
Subject Code : G14C25			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) プレゼンテーションソフトは事務職のみならず様々な職業で使用する機会がある。 本授業ではMicrosoft Office Specialist (MOS) 検定の「Microsoft Office PowerPoint 2016」の出題範囲に 合わせてプレゼンテーションソフトPowerPointの機能を勉強する。 また、試験に合格するコツや、テクニックなどについても学習する。 (授業目標) ◎E：スライドの作成・操作、グラフィックやマルチメディアの挿入、グラフや表の作成、アニメーション設定 について、MOS PowerPoint 合格相当のPCの操作ができる。		
授業計画	1	ガイダンス/プレゼンテーションの作成と管理（1） ・学習の進め方 MOS PowerPoint 2016の出題範囲の説明 1-1-1 新しいプレゼンテーションを作成する 1-1-2 テンプレートをもとにしてプレゼンテーションを作成する 1-1-3 Wordのアウトラインをインポートする 1-2-1 特定のスライドのレイアウトを挿入する 1-2-2 スライドに別のレイアウトを適用する	
	2	プレゼンテーションの作成と管理（2） 1-2-3 既存のスライドを複製する 1-2-4 スライドを表示する、非表示にする 1-2-5 スライドを削除する 1-2-6 個々のスライドの背景を変更する 1-2-7 スライドのヘッダー、フッター、ページ番号を挿入する 1-3-1 スライドの順番を移動する 1-3-2 セクションを作成する 1-3-3 セクション名を変更する 1-3-4 セクションの順番を変更する	
	3	プレゼンテーションの作成と管理（3） 1-4-1 スライドのサイズを変更する 1-4-2 プレゼンテーションの表示を変更する 1-4-3 ファイルのプロパティを設定する 1-5-1 プレゼンテーションの全体または一部を印刷する 1-5-2 ノートや配布資料を印刷する 1-5-3 カラー、グレースケール、白黒で印刷する	
	4	プレゼンテーションの作成と管理（4） 1-6-1 目的別スライドショーを作成する 1-6-2 スライドショーのリハーサル機能を使用する 1-6-3 スライドショーのオプションを設定する 1-6-4 発表者ツールを使用してスライドショーを発表する 1-7-1 スライドのレイアウトを変更する 1-7-2 スライドマスターのテーマや背景を変更する 1-7-3 スライドのレイアウトを作成する 1-7-4 スライドマスターのコンテンツを変更する	
	5	プレゼンテーションの作成と管理（5）/テキスト、図形、画像の挿入と書式設定（1） 1-7-5 配布資料マスターを変更する 1-7-6 ノートマスターを変更する 2-1-1 スライドにテキストを挿入する 2-1-2 テキストに書式やスタイルを適用する 2-1-3 箇条書きや段落番号を作成する 2-1-4 テキストに段組みを設定する 2-1-5 テキストにワードアートのスタイルを適用する 2-1-6 ハイパーリンクを挿入する	
	6	テキスト、図形、画像の挿入と書式設定（2） 2-2-1 図を挿入する 2-2-2 図のサイズを変更する、図をトリミングする 2-2-3 図のスタイルや効果を適用する 2-3-1 図形を挿入する、置き換える 2-3-2 テキストボックスを挿入する 2-3-3 図形やテキストボックスのサイズを変更する 2-3-4 図形やテキストボックスにスタイルを適用する 2-3-5 図形やテキストボックスの書式を設定する	
	7	テキスト、図形、画像の挿入と書式設定（3）/表、グラフ、SmartArt、メディアの挿入（1） 2-4-1 オブジェクトを並べ替える 2-4-2 オブジェクトを配置する 2-4-3 オブジェクトをグループ化する 2-4-4 配置用のツールを表示する 3-1-1 表を作成する 3-1-2 表に行や列を挿入する、削除する	

	<p>3-1-3 表のスタイルを適用する 3-1-4 表をインポートする 表、グラフ、SmartArt、メディアの挿入（2） 3-2-1 グラフを作成する 3-2-2 グラフの種類を変更する 3-2-3 グラフのスタイルを変更する 3-2-4 グラフに凡例を追加する 3-2-5 グラフをインポートする 3-3-1 SmartArtを作成する 3-3-2 箇条書きをSmartArtに変換する 3-3-3 SmartArtに図形を追加する 3-3-4 SmartArtの中で図形を並べ替える 3-3-5 SmartArtの色を変更する</p> <p>9 表、グラフ、SmartArt、メディアの挿入（3） 3-4-1 サウンドやビデオを挿入する 3-4-2 メディアのウィンドウサイズを調整する 3-4-3 メディアのタイミングのオプションを設定する 3-4-4 メディアの再生オプションを設定する 3-4-5 ビデオの開始時間と終了時間を設定する</p> <p>10 画面切り替えやアニメーションの適用 4-1-1 画面切り替えを挿入する 4-1-2 画面切り替えの効果のオプションを設定する 4-2-1 文字やオブジェクトにアニメーションを適用する 4-2-2 アニメーションの効果のオプションを設定する 4-2-3 アニメーションの軌跡効果を設定する 4-3-1 画面切り替えの効果のタイミングを設定する 4-3-2 アニメーションの開始と終了のオプションを設定する 4-3-3 同じスライドにあるアニメーションの順序を並べ替える</p> <p>11 複数のプレゼンテーションの管理（1） 5-1-1 ほかのプレゼンテーションからスライドを挿入する 5-1-2 2つのプレゼンテーションを比較する 5-1-3 コメントを挿入する 5-1-4 コメントをレビューする 5-2-1 プレゼンテーションの校正を行う</p> <p>12 複数のプレゼンテーションの管理（2） 5-2-2 プレゼンテーションを検査する 5-2-3 プレゼンテーションを保護する 5-2-4 プレゼンテーションの内容を保持する 5-2-5 プレゼンテーションを別の形式にエクスポートする</p> <p>13 試験対策講座（1）（デジタル教材による模擬試験） ・ 模擬試験プログラムの使い方 ・ MOS 2016の試験形式や攻略ポイントの説明</p> <p>14 試験対策講座（2）（デジタル教材による模擬試験） ・ 第1回模擬試験の実施とポイント解説</p> <p>15 試験対策講座（3）（デジタル教材による模擬試験） ・ 第2回模擬試験の実施とポイント解説</p>
到達目標・基準	◎ E：PowerPointを使用して、基本的なスライド作成・操作、グラフィックの挿入、表の作成をし、スライドショーを実行できる。
事前・事後学習	事前学習：試験対策講座で複数回にわたって最終課題を行う。最終課題の内容はMOSの模擬試験問題に準ずるものとなっている。出題範囲は事前に明確になっているため、試験対策講座の授業回を待たず、十分な事前学習による高得点の獲得を期待する。なお授業計画内の1-2-2などの表記はテキストの章番号である。事前学習の参考にすること。(90分) 事後学習：授業内で正答できなかった問題は事後学習で各自補完する。自己解決が困難な場合、メディアセンターアネックスを活用すると良い。(60分)
指導方法	パソコンを操作する実習が中心である。前半は講師と共に行う操作練習、後半は個別演習形式で進める。また授業終盤ではデジタル教材によるMOSの模擬試験を用いた実践演習を行う。フィードバックの方法：模擬試験は実施の都度授業内で採点し、アドバイスをを行う。
成績評価の方法・基準	◎ E：最終課題で評価を行う。またMOS合格者は評価を原則1段階アップさせる。 (MOS合格者は本来A評価の者をS評価に、B評価の者はA評価にアップ。元々S評価の者はそのままS評価の成績となる) 受講態度30%、課題及び最終課題70%の割合で成績評価を行う。
テキスト	よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist Microsoft PowerPoint 2016 対策テキスト& 問題集 (FOM出版)
参考書	
履修上の注意	「情報リテラシー」履修済みか、同等以上のコンピュータ操作技能があることが履修の前提条件となる。
アクティブ・ラーニング	
ICTの活用	デジタル教材による模擬試験

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
井上近子			
Subject Code : G13C17			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 近年、小売業を取り巻く環境は厳しい状況にあり、小売業者による生活者ニーズに合った店づくり、商品の品揃えなど満足のいく対応が求められている。本講義は、流通における小売業の基本的役割を理解し、流通経路の重要性や店舗形態別小売業の特徴を解明していく。さらに、中小小売業の現状と役割、商業集積の変遷や課題についても取り上げる。2月に実施される「リテールマーケティング（販売士）検定3級」受験に対応し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) 流通業界の第一線で活躍できる人材として「リテールマーケティング（販売士）検定3級」程度の知識を身につける。 ◎D：製造業、卸売業、小売業の基本的役割および流通のしくみを理解し、店舗形態別小売業の現状と課題について考察する。
授業計画	1 流通とは何か 小売業の定義、流通構造について 2 小売業の歴史の変遷 小売業を取り巻く社会環境の変化、新しい業態の台頭について 3 日本における小売業の特徴 零細性、過多性、多段階性について 4 小売業の機能と役割 小売業が消費者に提供している便益について 5 卸売業の機能と役割 需要結合、情報伝達、金融、リスク分散、物流、リテールサポートについて 6 製造業の流通経路政策 開放的流通チャネル政策、選択的流通チャネル政策、排他的流通チャネル政策について 7 販売形態の種類と特徴 業種と業態の違い、有店舗販売と無店舗販売について 8 衣料品店の販売形態 百貨店の売上高推移と低迷要因、専門店の強みと弱みについて 9 食料品店の販売形態 総合品ぞろえスーパー、スーパーマーケットの店舗形態について 10 医療品、化粧品の販売形態 ドラッグストア、コンビニエンスストアの品ぞろえ特性について 11 欧米で生まれた小売形態 アウトレットストア、スーパーセンター、ホールセールクラブの特徴について 12 チェーンストアの種類と特徴 経営上のメリットとデメリット、レギュラーチェーン、フランチャイズチェーン、ボランタリーチェーンの違いについて 13 フランチャイズシステム概念 フランチャイザー（本部）とフランチャイジー（加盟店）の役割について 14 ショッピングセンターの動向 商圈による4つの分類、新業態の展開について 15 商店街の課題 活性化の条件、大型店と共存共栄について
到達目標・基準	◎D：小売業に関する流通チャネルや業種・業態の特徴について説明できる。
事前・事後学習	事前学習：新聞記事や経済誌、テレビ等で新規出店やリニューアル、新業態に関するニュースを確認する（60分程度）。分からない専門用語を調べてまとめておく（60分程度）。 事後学習：興味のある記事・ニュースを1つ取り上げて、要約する（60分程度）。
指導方法	教科書、プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることが心がかけることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答
成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、授業内で実施する小テスト20%、受講態度・貢献度20%
テキスト	「販売士養成講習会3級テキストⅠ」日本商工会議所・全国商工会連合会編
参考書	「流通論」著者：村松幸廣・井上崇道・村松潤一 出版社：同文館 「流通の基本知識」著者：宝子山嘉一・松原寿一 出版社：評言社

履修上の注意	服飾芸術科の学生で「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の資格取得を目指す場合は、本科目と「商品企画」「販売と経営」の3科目すべてを同学期に履修し、以下の条件を満たすことで、検定試験5科目のうち1科目が受験免除される。①第1回の授業に出席すること（本学で受験免除希望者名簿を作成するため）。②11月末に学内で実施する予備試験までの出席率が80%以上であること。③予備試験は70点以上であること。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
山内明美			
Subject Code : G12A04			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) ①基本マナーの修得、②社会人基礎力の伸長、③ホスピタリティの実践が主な内容です。洗練された立ち居振る舞い、丁寧な言葉遣い等、就職活動でも活かせるマナーを身に付けるだけではなく、付加価値となるホスピタリティ力を実践し、戸板女子短期大学の理想の女性像の基盤を創ります。また、企業側の視点に立ち、その際に必要となるコミュニケーション力、発信力、対話力も磨いていきます。 (授業目標) ○B：信頼感を与える話し方、共感が伝わる聴き方ができる。マナーにかなった顧客対応や就職活動に臨むことができる。 ◎E：マナーの5原則を理解し、戸板女子短期大学の理想とする女性像となるような言動ができる。
授業計画	<p>1 オリエンテーション（講義の目的と約束/演習：挨拶の極意/ホスピタリティとは）（グループワーク、ロールプレイ） 講義の目標と講義中の4つのルールを理解する。 何故挨拶が大切かを、極意で学ぶ。（正しい姿勢、綺麗なお辞儀、挨拶の後の言葉かけロールプレイ）。</p> <p>2 サービスとホスピタリティの語源を理解し、ホスピタリティの実践を目指す意識を高める。 コミュニケーションゲームを通して、きき手の態度や受け止め方の重要性を学ぶ。</p> <p>3 第一印象の演出法（演習：スマイルトレーニング） マナーの基本となる対応の5原則（視覚的要素、聴覚的要素）を理解する。 スマイルトレーニングでは、笑顔を科学的に分析し、常に口角の上上がった笑顔が出来るように練習する。 笑顔の効用を理解し、前向きに考える癖をつける。</p> <p>4 エレガントな身のこなし1（演習：ウォーキング、椅子の座り方・立ち方、O脚をなおす体操等） ビジネスウォークとエレガントウォークを覚え、颯爽とリズムカルに歩けるよう練習する。 入退室時の挨拶、椅子の座り方/立ち方、自己紹介、傾聴の姿勢を、一連の流れで出来るように練習する。</p> <p>5 敬語マスター術1（演習：敬語、接遇用語） 敬語の種類を整理し、尊敬語と謙譲語の違いを明確にする。 NGとされている言い回しと接遇用語を練習問題で繰り返し練習しながら覚える。 (ICT：Web Classにて復習)</p> <p>6 敬語マスター術2（演習：接遇話法） 接遇話法の使い方、クッション言葉＋依頼形での話し方や湾曲な表現法を覚える。 実際の場面で応酬話法を用いて、綺麗な日本語で自分の思いを伝えられるよう練習する。 (ICT：Web Classにて復習)</p> <p>7 魅力的な話し方（演習：ボイストレーニング、発声発音の基本練習、スピード、イントネーションなど） アナウンサーと同じ練習法で信頼される声をつくる。 表現の3原則では、声の演出法（話すスピード、間の取り方、イントネーション、プロミネンス）を中心に、魅力的で印象に残る話し方が出来るように声を出しながら練習する。</p> <p>8 電話対応（演習：電話の特性、名乗り、電話慣用句）（グループワーク） 会ってみたいと思わせる名乗りが出来るよう、自分の話し癖を知る。 電話のかけ方、受け方の慣用表現を声に出しながら覚え、電話対応に自信を持つ。 人事への問い合わせ、お客様への留守電の残し方、商品問い合わせの受け答え、等、就活時と実際のビジネス場面での対応力をつける。 携帯電話での電話対応の留意点を理解する。</p> <p>9 積極的なきき方（演習：きき方5ポイント、アクティブリスニング、リフレクティングプラスワン話法） きき方5ポイントを覚え、きき姿勢を身につける。 相手の話を100%聴き取るリスニング力と質問力を磨く。 言葉で伝えていない思いに共感し、ホスピタリティを発揮しながら会話を続ける練習をする。</p> <p>10 来客訪問（演習：挨拶の口上、上座下座、ドアの開閉の仕方、お茶の出し方・いただき方）（ロールプレイ） 来客訪問時の流れを理解し、訪問側と対応側に応じたロールプレイで体得する。 湯茶供給時の留意点を学び、お茶の出し方、いただき方を実際に体験する。 応接室、乗り物、エレベーター等、シチュエーションに応じた上座、下座を覚える。 会社訪問時の面接マナーを習得する。 (ICT：Web Classにて復習)</p> <p>11 ホスピタリティコミュニケーション1（演習：挨拶のTPO、就活対応例）（グループディスカッション） マニュアル通りの言葉かけではない会話ができるよう場面に応じた言い回しを自分の言葉で話せるようになる。 企業側が期待する積極的で肯定的な表現を覚え、興味ある業界が求める人材に近づける。 (ICT：Web Classにて復習)</p> <p>12 ホスピタリティコミュニケーション2（演習：業界研究）（グループワーク） 販売のステップを覚え、物販サービス業界で求められる対応を学ぶ。</p>

	<p>自分と相手の間に立ちふさがる4つの壁を学び、ファーストアプローチ～好印象でスタートし、販売の流れに沿って、ステップを踏みながら商品提案が出来るように練習する。 アパレル、サービス業界が求める人材や業界指導での体験談を聞き、自分のキャリアイメージに繋げる。 グループ内で役割分担し、授業内で身に付けた表現力が発揮できる台本を作成する。 (ICT: Web Classにて資料作成)</p> <p>1 2 エレガントな身のこなし2 (演習: 物の授受、指し示し、ご案内、外国人との挨拶) TPOに合わせた動作のポイントを理解し、一つひとつの動きを覚える。 書類の手渡し、名刺の授受、指し示し、ご案内の仕方、ペンの渡し方をペアで何度も練習する。 外国人との挨拶、自己紹介を英語を交えて練習する。</p> <p>1 3 ビジネス文書の書き方 (演習: ビジネス文書の基本、封筒の書き方、メールの送り方) ビジネス文書の型を覚え、TPOに応じた文書作成ポイントを理解する。 封筒を使用し、字の大きさ、バランスのととり方、上座下座を考えながら練習する。 ビジネスルールに則った電子メールが送れる留意点を理解する。 インターンシップ先やお世話になった方への「お礼状」の書き方を覚える。</p> <p>1 4 接客ロールプレイ大会 (ロールプレイ) 販売のステップに沿った商品提案が出来るかグループ対抗戦で発表する。 マナーとホスピタリティの観点から客観評価し、今後習得すべきスキルを整理しながらキャリアイメージを描く。 (ICT活用: クリッカーにて投票)</p> <p>1 5 場面に応じた立ち居振る舞いと服装 (演習: 目的に応じた服装、慶事弔事の心得、パーティーマナー) (グループワーク、相互フィードバック) 面接時の持ち物、スーツ着用時のポイント、慶事弔辞での決まり、服装を学ぶ。 袱紗の使い方、祝儀袋の書き方、パーティーでの所作やテーブルマナー等、幅広い知識を覚える。 ロールプレイ大会入賞グループ発表。気づきをグループで共有する。 質疑応答。 (ICT: Web Classにて事前アンケート記入)</p>						
到達目標・基準	<p>○B: 丁寧な言葉で話し、相手の話に反応を示しながら会話ができる。 ◎E: お辞儀、挨拶、身だしなみ、表情などで人に礼儀正しい印象を持たせることができる。</p>						
事前・事後学習	<p>事前学習: テーマごとに進めるのでテキストに目を通してから授業に臨む。Web Classでの課題に取り組む。(60分程度) 事後学習: 定期的に小テストを実施するので授業終了毎に事後学習をする。(60分程度) テーマごとの課題を分析し、反復練習し、ポイントを整理しておく。(60分程度)</p>						
指導方法	<p>・テーマ毎に①手本を示し、②ロールプレイで体得(個別指導も含む)、③学生相互で評価、④必要に応じ理想とする基準を示し、理解を深める。 ・講義内容により、①小テストを実施、②小テスト結果にコメント記載の上、返却、③授業内で正答確認、④授業後に質疑応答。理解度に応じて繰り返し行う。 フィードバックの方法: 小テストはコメント記載の上返却。演習は個別に改善ポイントをアドバイス。</p>						
成績評価の方法・基準	<p>B: 普段の授業で行うボイストレーニング及び授業を聴く態度で評価する。 E: 普段の授業での挨拶、立ち居振る舞い及び授業内での演習発表にて評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>ロールプレイ・プレゼンテーション</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>授業態度、授業への貢献度、授業内で行う小テスト</td> <td>40%</td> </tr> </table>	ロールプレイ・プレゼンテーション	30%	定期試験	30%	授業態度、授業への貢献度、授業内で行う小テスト	40%
ロールプレイ・プレゼンテーション	30%						
定期試験	30%						
授業態度、授業への貢献度、授業内で行う小テスト	40%						
テキスト	<p>テキスト: 『マナー演習』 発行元: 株式会社アッサンプラージュ</p>						
参考書							
履修上の注意	<p>マナーとは国際的にも通用するコミュニケーション表現です。授業を通じて何故必要かを理解しながら、身に付けて下さい。反復練習することで意識せず自然に表現できるようになります。カリキュラムごとに授業を進めるので継続することでマナーへの関心と奥深さに気づきます。全授業に出席して、一生役に立つマナーを習得しましょう。授業内では、ホスピタリティの理解を高めるための気づきや業界別に求められる対応力をロールプレイで練習します。臨機応変な現場力も身につくので興味ある業種への情報収集をしておいてください。</p>						
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決型学習 ・ディスカッション ・グループワーク ・相互フィードバック 						
ICTの活用	<p>授業内・外での理解度を図るために、Web Classを活用する。 授業内で他の学生の相互評価を可視化するために、クリッカー、ビデオ撮影を活用する。 事前アンケートにより、学生の就職活動支援のためWeb Classを活用する。</p>						

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
中山宏子			
Subject Code : G12A04			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) ①基本マナーの修得、②社会人基礎力の伸長、③ホスピタリティの実践が主な内容です。洗練された立ち居振る舞い、丁寧な言葉遣い等、就職活動でも活かせるマナーを身に付けるだけではなく、付加価値となるホスピタリティ力を実践し、戸板女子短期大学の理想の女性像の基盤を創ります。また、企業側の視点に立ち、その際に必要となるコミュニケーション力、発信力、対話力も磨いていきます。 (授業目標) ○B：効果的な話し方、聴き方ができる。マナーにかなった電話対応や就職活動に臨むことが出来る。 ◎E：マナーの5原則を理解し、戸板女子短期大学の理想とする女性像となるような言動ができる。		
授業計画	1	オリエンテーション（講義の目的と約束／演習：挨拶の極意／ホスピタリティとは）（ロールプレイ） 講義の目標と講義中の4つのルールを理解する。 何故挨拶が大切かを、極意とロールプレイで修得する（正しい姿勢、綺麗なお辞儀）。 サービスとホスピタリティの語源を理解し、ホスピタリティの実践を目指す意識を高める。	
	2	第一印象の演出法（演習：スマイルトレーニング） マナーの基本となる対応の5原則（視覚的要素・聴覚的要素）を理解する。 スマイルトレーニングでは、笑顔を科学的に分析し、常に口角の上上がった笑顔が出来るように練習する。 笑顔の効用を理解し、前向きに考える癖をつける。	
	3	エレガントな身のこなし（演習：ウォーキング、椅子の座り方・立ち方、O脚を直す体操） ビジネスウォークとエレガントウォークを覚え、さっそうとリズムカルに歩けるよう練習する。 入室時の挨拶、椅子の座り方、自己紹介、立ち方を一連の流れで出来るように練習する。	
	4	エレガントな身のこなし（演習：物の授受、指し示し、ご案内、外国人との挨拶） 動作のポイントを理解し、一つ一つの動きを覚える。 履歴書、名刺の授受、指し示しの仕方をペアで何度も練習する。 外国人との挨拶、自己紹介を英語を交えて練習する。	
	5	敬語マスター術（演習：敬語、接遇用語） 敬語の種類を整理し、尊敬語と謙譲語の違いを明確にする。 NGとされている言い回しと接遇用語を練習問題で何度も練習しながら覚える。	
	6	敬語マスター術（演習：接遇話法） 接遇話法の使い方、クッション言葉＋依頼形での話し方や婉曲な表現法を覚える。 実際の場面で応酬話法を用い、綺麗な日本語で自分の思いを伝えられるよう練習する。	
	7	魅力的な話し方（演習：ボイストレーニング、発声・発音の基本練習、スピード、イントネーションなど） アナウンサーと同じ練習法で信頼される声をつくる。 声の演出法を覚え、印象に残る魅力的な話し方が出来るように練習する。	
	8	積極的な聞き方（演習：きき方5ポイント、アクティブリスニング、リフレクティングプラスワン話法） きき方5ポイントを覚え、きく姿勢を身につける。 相手の話を100%聴き取るリスニング力と質問力を磨く。 相手が言葉で伝えていない思いに共感し、ホスピタリティが発揮出来るように練習する。	
	9	電話対応（演習：電話の特性、名乗り、電話慣用句）（グループワーク） 会ってみたいと思わせる名乗りが出来るよう、話癖を知る。 電話のかけ方、受け方の慣用句を覚え、実際のビジネス場面での対応力をつける。 人事への問い合わせ台本（学外実習先申込等）を完成させ、気持ちを込めて話せるようになる。 （ICT:Web Classにてアンケート記入）	
	10	来客対応・訪問マナー（演習：挨拶の口上、ご案内、上座・下座、ドアの開閉、お茶の出し方・いただき方など）（ロールプレイ） 受付での取り次ぎ依頼～入室、着席～自己紹介、辞去の挨拶～退室までの一連の流れを、訪問側と対応側に応じたロールプレイで体得する。 お茶の入れ方、出し方、いただき方を実際にやってみる。 シチュエーションに応じた上座、下座を覚える。 （ICT:Web Classにて復習）	
	11	ホスピタリティコミュニケーション（演習：挨拶のTP0、業種別対応事例） マニュアル通りの言葉かけではない会話が出来るように自分の言葉で話す練習をする。 企業が求める対応力に近づき、興味ある業界が求める人材となる。 外国人客への対応が出来るように簡単な接客用語を練習する。（課題解決型授業） （ICT:Web Classにて復習）	
	12	業界研究（飲食サービスの現場を知る）（グループディスカッション） 飲食業界でのサービス対応力、業界で求められる人材を、現場でのサービスの流れを体験し、自分のキャリアイメージに繋げる。 面接時のNGを覚え、第一印象で加点出来るようにする。	
	13	ビジネス文書の書き方（演習：ビジネス文書の基本、封筒の表書き、メールの送り方） ビジネス文書の型を覚え、TP0に応じた文書作成力を身につける。	

	<p>実際の封筒を使用し、字の大きさ、バランスの取り方を覚える。 ビジネスルールに則った電子メールが送れるように練習する。 学外実習先等への「お礼状」の書き方を覚える。 キャリアビジョンを描く（演習：「私の理想の女性像」個別プレゼンテーション）（プレゼンテーション、相互フィードバック）</p> <p>各自の理想の女性像を具体的に考え、その理由と意気込みを一人づつ発表する。 自分の考えを発表することで、今やるべきこと、今後修得すべきスキルを、マナーとホスピタリティの観点から整理し目標達成への計画を立てる。 プレゼンテーションする姿を客観的にみることで、デリバリー技術の向上へ繋げる。 （ICT：クリッカーにて投票）</p> <p>1 5 場面に応じた服装（グループワーク） 面接時の持ち物、スーツ着用時のポイント、慶事弔辞での決まり、服装を学ぶ。 袱紗、祝儀袋の使い方、パーティでの所作、テーブルマナー等、幅広い知識を身に付ける。 授業を通じての気づきをグループで共有。 質疑応答。 （ICT:Web Classにて事前アンケート記入）</p>
到達目標・基準	<p>○B：丁寧な言葉で話し、相手の話に反応を示しながら会話ができる。 ◎E：お辞儀、挨拶、身だしなみ、表情などで人に礼儀正しい印象を持たせることができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：テーマごとに進めるのでテキストに目を通してから授業に臨む。Web Classでの課題に取り組む。 （60分程度） 事後学習：定期的に小テストを実施するので授業終了毎に事後学習をする。（60分程度） テーマごとの課題を分析し、反復練習し、ポイントを整理しておく。（60分程度）</p>
指導方法	<p>・テーマ毎に①手本を示し、②ロールプレイで体得（個別指導も含む）、③学生相互で評価、④必要に応じ理想とする基準を示し、理解を深める。 ・講義内容により、①小テストを実施、②小テスト結果にコメントを記載の上返却、③授業内で正答確認、④授業後に質疑応答。理解度に応じて繰り返す。 フィードバックの仕方：小テストはコメント記載の上返却。演習は個別に改善ポイントをアドバイス。</p>
成績評価の方法・基準	<p>B：普段の授業で行うボイストレーニング及び授業を聴く態度で評価する。 E：普段の授業での挨拶、立ち居振る舞い及び授業内での演習発表にて評価する。</p> <p>ロールプレイ・プレゼンテーション 30% 定期試験 30% 授業態度、授業への貢献度、授業内で行う小テスト 40%</p>
テキスト	<p>テキスト：『マナー演習』 発行元：株式会社アッサンブラージュ</p>
参考書	
履修上の注意	<p>マナーとは国際的にも通用するコミュニケーション表現です。授業を通じてなぜ必要なのかを理解し、身につけてください。反復練習することで意識せずに自然に表現できるようになります。カリキュラムごとに授業を進めるので継続することでマナーへの関心と一生役立つマナーを修得出来ます。全授業に出席しましょう。業種別に求められるコミュニケーション力をロールプレイで練習します。現場で求められる対応力が身につくので積極的に参加することが重要です。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>・課題解決型学習 ・ディスカッション ・グループワーク ・プレゼンテーション ・相互フィードバック</p>
ICTの活用	<p>授業内外での理解度を図るために、Web Classを活用する。 授業内で他の学生の相互評価を可視化する。 事前アンケートにより、学生の就職活動支援のためWeb Classを活用する。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
松岡友子 山田真紀			
Subject Code : G12A04			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) ホスピタリティあふれる、戸板女子短期大学の目指す理想の女性像に向けての第一歩となる授業です。まずマナー5原則の基本を身につけます。型にとどまらない心のこもったマナーがホスピタリティへとつながることを理解し、実践できるようにします。また、グループワークやペアワークで繰り返し練習することで、自分の魅力を自信をもって表現する力を身につけ、コミュニケーション力の向上へとつなげていきます。 (授業目標) ホスピタリティを表現するためのスキルとマインドを身につける。 ○B：相手と良好な関係を築くための効果的な話し方、聴き方ができる。面接の際のマナーや職種に応じたマナーを理解し、自信を持って就職活動に臨むことができる。 ◎E：マナーの5原則を理解し、女性として手本となるような言動ができる。サービス接客検定3級に合格するだけの実力をつける。ホスピタリティを理解し、場面に応じた対応をスムーズに行える。
授業計画	<p>1 オリエンテーション（ディスカッション：グループごとにまとめを発表、スピーチ：グループ内で一人ずつ発表） 講義の到達目標の確認と、授業の共通ルールの徹底 挨拶と自己紹介 マナーを学ぶ必要性を理解し、修得意識を高める 授業内で整えた自己紹介を振り返り、改善させるためにWebClassを入力する (ICT：WebClassで提出)</p> <p>2 第一印象の重要性（グループワーク、演習：グループ内でチェックしながら演習） 人間関係に大きく影響する第一印象の重要性を理解する 自身の強み、改善点を把握する 第一印象を向上させるためのポイント（表情・身だしなみ）を確認する (ICT：スマートフォンにて動画撮影)</p> <p>3 立ち居振る舞い（グループワーク、演習：グループ内でチェックしながら演習） 美しい立ち姿勢・お辞儀・座り方・歩き方・物の授受などを実習により修得する 一連の流れで実習し、定着させる</p> <p>4 サービス接客実務検定試験対策（1） 試験の目的と心構え、意義を理解する 練習問題、解説により知識を得る</p> <p>5 美しい日本語（1）（グループワーク：グループ内で練習問題を解く） 尊敬語・謙譲語・丁寧語を正しく使いこなせるまで繰り返し練習し修得する</p> <p>6 美しい日本語（2）（グループワーク：グループ内で練習問題を解く） マジックフレーズを使えるよう練習する 間違いやすい言葉遣いに注意し、正しい言葉遣いを修得する 練習問題により理解度をはかり、課題を明確にする</p> <p>7 サービス接客実務検定試験対策（2） 授業前にWebClass内の資料を参考に過去問題を解く 授業内で解説を受け、理解を深める 質疑応答により疑問を払拭する (ICT：WebClassにて事前学修)</p> <p>8 好感の持てる話し方（グループワーク、スピーチ：グループ内で一人ずつ発表） ボイストレーニングを行い、堂々とハキハキと話せるようにする 感じの良い話し方のポイントを理解し、実習する 感情豊かに自分を表現し、信頼される話し方で発表する 自身を客観視し、改善ポイントを抽出するためにスマートフォンで撮影する (ICT：スマートフォンにて動画撮影)</p> <p>9 積極的なきき方（グループワーク：グループで演習） 聴き方（傾聴力）・訊き方（質問力）などアクティブリスニングの方法を実習する ホスピタリティーが感じられる聴き方を修得する</p> <p>10 手紙の書き方 封筒の宛名書き・手紙の形式・書類送付状の書き方・メールの書き方を理解する</p> <p>11 電話対応（グループワーク、演習：グループ内で演習） 電話対応の特徴を理解し、印象の良い第一声を修得する かけ方、受け方のポイント、慣用表現を理解する 自身の声の印象を把握するためにスマートフォンで声を録音して聴く (ICT：スマートフォンにて音声録音)</p> <p>12 訪問のマナー（グループワーク、演習：グループメンバーと演習） 訪問前の準備・心構え・席次を理解する 受付でのマナー・取り次ぎ依頼を修得する ドアの開閉・ご案内・お茶の出し方・いただき方を修得する</p> <p>13 面接演習（1）（演習：グループ毎に演習） 当授業で学んだことのポイントを振り返り、演習前にイメージングする 一連の流れを演習し、自信を持ってできるようにする 自身を客観視し、課題を抽出するためにスマートフォンで撮影する</p>

	<p>(ICT：スマートフォンにて動画撮影) 14 面接演習（2）（演習：グループ毎に演習） 各々の課題に対する改善ポイントを理解し、さらに表現力を高める演習を行う 成果の確認のため、自身をスマートフォンで撮影する (ICT：スマートフォンにて動画撮影)</p> <p>15 目標設定・発表（スピーチ：グループ内で一人ずつ発表） 15回の授業を通して目指してきたマナーとホスピタリティの実践を振り返り、 理想の女性像を描き、到達のための行動目標を立てる</p>
到達目標・基準	<p>○B：スピードや声の大きさに配慮して話すことができる。傾聴を意識して感じのよい聴き方ができる。 ◎E：お辞儀、挨拶、身だしなみ、表情などで人に礼儀正しい印象を持たせることができる。ホスピタリティを意識し、マニュアル以上の対応をしようと努力できる。面接試験における入室から退室までの一連の流れを、動作と言葉を添えて行うことができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：事前に配布されたテキストには目を通してくる。サービス接遇検定の過去問題対策の前には問題演習を行う。（90分程度） 事後学習：前回までの授業内容を実生活で積極的に反復練習したり、WebClassで配信された資料がある場合は復習する。（60分程度）</p>
指導方法	<p>1. テーマごとにグループワークやペアワークでロールプレイを実施（個別指導も含む）し、体得する。 2. 講義や問題演習とも併用して確認する。 3. プロジェクター・パワーポイントなど、パソコン機器を利用する。 4. 内容によっては課題提出を課す。 課題によっては、WebClassを活用して提出や発表を行う。 フィードバックの方法：プレゼンテーションなどの発表にはタイムリーに口頭でアドバイスを行う。</p>
成績評価の方法・基準	<p>B：気持ちのこもった話し方、聴き方を心がけているかを評価する。 E：お辞儀、挨拶、身だしなみ、表情などがきちんなくても、礼儀正しい印象を持たせようとしているかを評価する。ホスピタリティを常に意識している姿勢を授業内でも示しているかを評価する。面接試験における入室から退室までの一連の流れを身につけようとしているかを評価する。</p> <p>演習・発表 30% 定期試験 30% 授業態度・授業への貢献度 40%</p>
テキスト	早稲田教育出版 実務技能検定協会編 サービス接遇検定実問題集3級／マナー演習レジュメ、プリント
参考書	
履修上の注意	<p>毎週の授業で反復練習することで、自然と身についたマナーを表現できるようになります。 毎回の授業は前回までのマナーの積み重ねですので、休まず出席してください。 マナーに対する意識の向上に努めてください。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>ディスカッション グループワーク スピーチ</p>
I C Tの活用	WebClass、スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：必修
担当教員			
服飾芸術科専任教員			
Subject Code：F21A01			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	2年間の短期大学生活で修得する知識や思考力、コミュニケーション能力を通して、前半は自身の学修成果と学生生活を振り返る。後半では港区Kissポート財団との産学連携により、各モデルに適したプログラムでプレゼンテーションに取り組む。産学連携の活動は、地域貢献をすることを目標としている。 (授業目標) ◎B：産学連携プログラムでグループワークや地域連携でコミュニケーション能力を身につける。 ○C：プレゼンテーションのテーマにふさわしい内容を構成することで思考力・判断力を修得する。		
授業計画	1	ガイダンス（服飾芸術科専任教員） 2年間の学びの振り返り、eポートフォリオ制作に向けての概要	
	2	TOITA Fes準備、避難訓練（服飾芸術科専任教員） TOITA Fes準備、避難訓練	
	3	履修登録の確認、個別指導（1）（服飾芸術科専任教員） 卒業要件に対する履修状況の確認、個別指導（1）	
	4	eポートフォリオ制作（1）、個別指導（2）（服飾芸術科専任教員） 研究テーマと概要、eポートフォリオの内容確認、調査方法、制作方法をまとめた研究計画書の提出 制作（1）、個別指導（2）	
	5	eポートフォリオ制作（2）、個別指導（3）（服飾芸術科専任教員） eポートフォリオ計画書の確認、制作の手法指導、制作（2）、個別指導（3）	
	6	eポートフォリオ制作（3）、個別指導（4）（服飾芸術科専任教員） 制作（3）、個別指導（4）	
	7	各アドバイザーによるeポートフォリオの確認 産学連携（1）（服飾芸術科専任教員） 港区Kissポート財団との産学連携に向けて～ガイダンス	
	8	産学連携（2）（服飾芸術科専任教員） 港区Kissポート財団との産学連携に向けて～グループ分け、プレゼンテーション・テーマの研究及び決定	
	9	産学連携（3）（グループワーク）（服飾芸術科専任教員） プレゼンテーション制作	
	10	「生涯の学び」（菊池桃子客員教授） キャリア形成に必要な考え方について	
	11	産学連携（4）（グループワーク）（服飾芸術科専任教員） プレゼンテーション制作	
	12	「民法講座」 ゲスト講師による「民法講座」	
	13	産学連携（5）（服飾芸術科専任教員） プレゼンテーションの完成、指導教員による内容確認及びプレゼンテーション指導	
	14	PROGテスト PROGテスト	
	15	産学連携（6）（プレゼンテーション）（服飾芸術科専任教員） まとめとして港区Kissポート財団に対してプレゼンテーション、意見交換及び評価	
到達目標・基準	◎B：自分の役割を明確にし、周囲の人々とコミュニケーションを図りながら参加できる。 ○C：プレゼンテーションのテーマに沿った構成を思考し説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：設定したテーマを表現するにあたり、どのような手法がふさわしいかを考えること（20分）。 事後学習：進捗過程に合わせて教員に指導を仰ぎ、友人と意見交換を行いながら修正を行うこと（25分）。		
指導方法	2年間の学習成果のまとめ方を指導する。産学連携のプレゼンテーションにおいて、研究内容やプレゼンテーション方法について個別もしくはグループでの指導を行う。		
成績評価の方法・基準	B：受講態度やワークに対する貢献度を評価する。 C：プレゼンテーションの資料や作品、発表方法を評価する。 課題 70%、授業態度・貢献度 30%		
テキスト	なし		
参考書	適宜、指示する		

履修上の注意	2年間における学修成果の達成状況を確認するゼミである。また、産学連携に於いては地域で行われている活動を精査し、関係者と意見交換をしながらプレゼンテーションに臨むこと。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
朝月真次郎			
Subject Code : F13C18			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	服飾文化の歴史をデザインとアートの視点で解釈することからはじめて、伝説的なファッションデザイナー、ファッションエディター、ファッションフォトグラファーの作品やアート作品をもとに、多面的な視点からファッションデザインを考える。加えて、ファッションデザインの歴史の理解を通じて、理論や感性などの複眼的視点やアプローチ法を養う。後半では、ファッションを一つのスタイルと捉え、衣食住、遊、知、美、景にて構築し、本学オリジナルブランドであるMARIE de TOITA と事例としてのラグジュアリーブランドを比較し分析することで、右脳・左脳を使った複眼的な思考法を解説する。 (授業目標) ◎D：ラグジュアリーブランドのビジュアルを多く知ることで、美的センスを身につける。		
授業計画	1	ファッションデザインとは デザインの分類と、本学オリジナルブランドMARIE de TOITAについて	
	2	世界の文化史 中世からルネサンスまでのヨーロッパの服飾について	
	3	服飾文化史 古代からベルエポックまでの服飾について	
	4	伝説のエディター、ダイアナ・ヴリーランドに学ぶ BAZAARでのエディターとしての仕事、およびVOGUEでの編集長としての仕事について	
	5	ラグジュアリー百貨店について（バーニーズNY、バーグドルフグッドマン） セレクトショップの原点について	
	6	ファッション文化 デザイナーの歴史について	
	7	美術文化 ファッションとアートの関連	
	8	世界のフォトグラファー リチャード・アヴェドン、ブルース・ウェーバー、アーヴィング・ペン等のファッションフォトグラファーについて	
	9	エンタテインメントとファッション 舞台、映画、イベントの中のファッションについて	
	10	世界のダイニングスタイル ライフスタイル、フードとファッションの融合	
	11	ダイアナ・ヴリーランドとアナ・ウィンターの比較 ファッション業界伝説の編集長の対比	
	12	ラグジュアリーブランドのブランディング（1） ラグジュアリーブランドの歴史と変遷	
	13	ラグジュアリーブランドのブランディング（2） ラグジュアリーブランドのモノづくり 本学オリジナルブランドMARIE de TOITAのモノづくり	
	14	オリジナルファイル、レポート MARIE de TOITAのポートフォリオ作成	
	15	ファッションデザインのグローバリゼーション ライフスタイルとファッションデザイン	
到達目標・基準	◎D：書籍から興味のある印象的なビジュアルを選び、ファッションデザインの観点から説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：本学図書館に於いて指定されている書籍でライフスタイルの知識を得ておくこと。（90分） 事後学習：発表した内容を更に授業時に得たヒントやアイデアを基に分析し要約しておくこと。（90分）		
指導方法	講義内容に関連する映像やパワーポイント等を使用して、視覚媒体を多く取り入れながら講義形式で行う。スタイルを解説する際は、ビジネス（左脳）と感性（右脳）の両視点をバランスを考え指導する。特に感性（右脳）面ではビジュアルを多く使用し、毎回テーマごとに進めていき、ポートフォリオを作成していく。		
成績評価の方法・基準	D：定期試験を評価する。 定期試験 50%、課題 30%、授業態度・貢献度 20%		
テキスト	なし 参考文献に関してはその都度指示する		
参考書	なし		
履修上の注意	本学図書館にて定期購読している書籍の中から、左脳として東洋経済、週刊ダイヤモンド、AERA、ファッション大辞典を、右脳としてWalter Van Beirendonck、Goddess：the classical mode、モードデザイナーの家、和楽、PEN、マリークレールビジュ、VOGUE、BAZAAR、View、Wear、を必ず一読すること。レポート等の題材		

	を記載の書籍から取り上げる。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択必修
担当教員			
朝月真次郎			
Subject Code : F17B56			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	生活の様式や営み方、人生観・価値観・習慣などを含めた個人の生き方をライフスタイルという。今日、生活様式や行動様式は多様化し、それに伴い業界の垣根もボーダレス化している。本講義は、文化、アート、エンタテインメントの知識を深めることを目的に、ライフスタイルを「衣」「食」「住」「遊」「休」「知」「美」の7つのカテゴリーに分類し、それぞれに携わる業界に関する事例、およびファッション化、エンタテインメント化するビジネスについてを解説する。 (授業目標) ライフスタイル関連業界とそのビジネス手法を知ること、人の興味を惹きつける力を養う。 ◎C：人の感情に働きかけ高揚させるビジネスの仕組みを理解する。		
授業計画	1	ライフスタイル関連業界とビジネス ライフスタイルと文化、アート、エンタテインメント、ファッションの関連	
	2	「遊」関連業界 エンタテインメント業界とビジネス	
	3	「衣」関連業界 ファッション業界とビジネス	
	4	「衣」関連業界と「遊」業界 ファッション業界のエンタテインメント化、エンタテインメント業界のファッション化	
	5	「食」関連業界 フード業界とビジネス	
	6	「食」関連業界と「遊」業界 フード業界のエンタテインメント化、ファッション化	
	7	「住」関連業界 「住まい」に関わる業界とビジネス	
	8	「住」関連業界と「遊」業界 「暮らし」に関わる業界のエンタテインメント化、ファッション化	
	9	「知」関連業界（1） 「知的好奇心を刺激する」業界とビジネス	
	10	「知」関連業界（2） 「知的好奇心を満たす」業界とビジネス	
	11	「美」関連業界（1） 「文化」に関わる業界とビジネス	
	12	「美」関連業界（2） 「アート」に関わる業界とビジネス	
	13	「美」関連業界（3） 「美しくあること」に関わる業界とビジネス	
	14	「休」関連業界（1） 「休みの過ごし方」に関わる業界とビジネス	
	15	「休」関連業界（2） 「余暇を満たす」業界とビジネス ライフスタイル関連業界の今後の展開	
到達目標・基準	◎C：ライフスタイルに影響を及ぼす文化、アート、エンタテインメントを説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：ライフスタイル関連業界での最新のニュースやビジネスの知識を得ておくこと（60分）。 事後学習：講義の中で生じた「疑問」や「問い」をまとめ、それを調べ、理解を深めること（120分）。		
指導方法	パワーポイントやDVD、資料等を使用して講義形式で行う。授業内容を各学生が独自の視点でポートフォリオを作成することで、自身の世界観を確立していく。		
成績評価の方法・基準	C：定期試験を評価する。 定期試験 50%、課題 30%、授業への貢献度 20%		
テキスト	なし 参考文献に関してはその都度指示する。		
参考書	日本経済新聞、WWD、日系MJ、週刊ダイヤモンド、東洋経済、AERA、Beaton。		
履修上の注意	参考書に指定した書籍は、本学図書館にて定期購読しており、社会の第一線で活躍する人材が参考にし、就職活動や就業の際にも役立つものであるため、必ず一読すること。なお、レポートの題材は書籍より取り上げる。		

アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
朝月真次郎			
Subject Code : F17C57			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「変化が日常」の現在、今までの慣習やかつての成功例が役立たない時代となった。テクノロジーの進化は、新しい芸術形態や表現手段を生み出し、学びやライフスタイルにおいても多様化をもたらした。ビジネス環境が目まぐるしく変わる今日、人生100年時代を乗り切るセルフプロデュース力が必要となる。本講義は、人の感情に働きかける、エンタテインメント業界とファッション業界の事例を取り上げて解説する。</p> <p>(授業目標) ◎C：自身のライフスタイルを創造する思考力を身に付ける。</p>		
授業計画	1	ライフスタイルプロデュースとは 人生100年時代に備える戦略的セルフプロデュース	
	2	プロデューサーの役割（1）ファッション業界 プロデューサーの仕事内容とキャリアと求められる力	
	3	プロデューサーの役割（2）エンタテインメント業界 プロデューサーの仕事内容とキャリアと求められる力	
	4	ファッションライフスタイル（1） ファッション企業、ライフスタイル企業の情報発信	
	5	ファッションライフスタイル（2） コレクション（ファッションショー）の企画立案	
	6	ファッションディレクター（1） ラグジュアリーブランドのクリエイティブ・ディレクターの仕事	
	7	ファッションディレクター（2） コレクション（ファッションショー）の運営とスタイル	
	8	エンタテインメントの世界（1） エンタテインメントでのプロデューサーの役割とキャストとスタッフ	
	9	エンタテインメントの世界（2） 商業演劇としてのミュージカルのプロデュース	
	10	エンタテインメントの世界（3） 文化・芸術としてのオペラ、バレエのプロデュース	
	11	エンタテインメントの世界（4） 映画のプロデュース	
	12	ライフスタイルプロデュース（1） ビジネスパーソンの学びのプロデュース	
	13	ライフスタイルプロデュース（2） 「仕事」と「余暇」のプロデュース	
	14	ライフサイクルモデル キャリア目標と生活スタイルの確立	
	15	セルフプロデュース 学び続けるために自身をプロデュースする	
到達目標・基準	◎C：自身のライフスタイルやキャリアについての考えを説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：ファッション業界とエンタテインメント業界での最新のニュースやビジネスの知識を得ておくこと（60分）。 事後学習：講義の中で生じた「疑問」や「問い」をまとめ、それを調べ、理解を深めること（120分）。		
指導方法	講義内容に関連する映像やパワーポイントを使用し、視覚媒体を多くとり入れながらの講義形式で行う。人生設計100年時代のビジネスパーソンのライフスタイルをテーマとしたポートフォリオを作成する。		
成績評価の方法・基準	C：定期試験を評価する。 定期試験 50%、ポートフォリオ 30%、授業態度・貢献度 20%		
テキスト	なし 参考文献に関してはその都度指示する		
参考書	なし		
履修上の注意	毎回決められたテーマの資料作りを欠かさないこと。		
アクティブ・ラーニング	特になし		

ICTの活用	特になし
--------	------

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
朝月真次郎			
Subject Code : F17C58			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	プロデューサーの仕事は、クリエイターが作った「作品」を、「売れる」商品仕上げることであり、必要とされる要件は企業経営者と同等である。本授業は、グループワークをとおして「ファッションショー」「商業演劇」「学内イベント」等を題材に企画立案・運営からコスト回収までの事例研究を行うことで、クリエイティブとビジネスのバランス感覚を養う。 (授業目標) ◎E：「クリエイティブ面」と「ビジネス面」のバランス感覚を身につける。		
授業計画	1	「ファッションショー」プロデュース（1）（グループワーク） 個人ワークによるファッションショーの企画立案	
	2	「ファッションショー」プロデュース（2）（グループワーク） グループワークによるファッションショーの企画立案	
	3	「ファッションショー」プロデュース（3）（グループワーク） グループワークによるファッションショーの運営とコスト管理研究	
	4	「ファッションショー」プロデュース（4）（グループによるプレゼンテーション） 各グループによるファッションショーのプレゼンテーション	
	5	「ファッションショー」プロデュース（5） グループのプレゼンテーションの評価と振り返り	
	6	「舞台」プロデュース（1）（グループワーク） 個人ワークによる舞台の企画立案	
	7	「舞台」プロデュース（2）（グループワーク） グループワークによる商業舞台の企画立案	
	8	「舞台」プロデュース（3）（グループワーク） グループワークによる商業舞台の運営とコスト管理研究	
	9	「舞台」プロデュース（4）（グループによるプレゼンテーション） 各グループによる商業舞台のプレゼンテーション	
	10	「舞台」プロデュース（5） 各グループのプレゼンテーションの評価と振り返り	
	11	「TOITA Fes ファッションショー」プロデュース（1）（グループワーク） 個人ワークによるTOITA Fes ファッションショーの企画立案	
	12	「TOITA Fes ファッションショー」プロデュース（2）（グループワーク） グループワークによるTOITA Fes ファッションショーの企画立案	
	13	「TOITA Fes ファッションショー」プロデュース（3）（グループワーク） グループワークによるTOITA Fes ファッションショーの運営とコスト管理研究	
	14	「TOITA Fes ファッションショー」プロデュース（4）（グループによるプレゼンテーション） 各グループによるTOITA Fes ファッションショーのプレゼンテーション	
	15	「TOITA Fes ファッションショー」プロデュース（5） 各グループのプレゼンテーションの評価と振り返り	
到達目標・基準	◎E：イベント企画を作成し、人前でプレゼンテーションすることができる。		
事前・事後学習	事前学習：授業テーマに沿った動画や資料を本学図書館で探すこと（20分）。 事後学習：インターネット等で最新のコレクションの情報を得ること（25分）。		
指導方法	パワーポイントや映像を使用した講義とワークショップ形式で授業をすすめる。個人ワーク、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れる。		
成績評価の方法・基準	E：プレゼンテーションを評価する プレゼンテーション 50%、課題 30%、授業態度・貢献度 20%		
テキスト	なし 参考文献に関してはその都度指示する		
参考書	なし		
履修上の注意	毎回決められたテーマの資料作りを欠かさないこと。 本学図書館に於いてファッション、ビューティ、インテリア、グルメ、アート等ライフスタイル関連の参考文献に必ず目を通す事。		

アクティブ・ラーニング	・プレゼンテーション ・グループワーク
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
朝月真次郎			
Subject Code： F26C57			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ビジュアルアートとは視覚を介して鑑賞される芸術のことで、一般的には絵画、彫刻、工芸、建築、写真などが含まれる。現在、ファッションとエンタテインメントの世界は一段と、ビジュアルアーツが持つ力を必要としている。本講義は、世界の文化史から始まり、意味深いアートやファッションの事例や現象を取り上げる。これからのビジュアルアーツを考えられることを目的に、ポイントを絞って視覚芸術を解説する。さらに、大変革期にあるファッションの現象や最新情報との比較対象も行う。 (授業目標) ファッションとエンタテインメントの二つの世界を様々なビジュアルアートを題材に想像し創出できる。 ◎D：独自の表現力を身に付けるため、視覚芸術を理解する。		
授業計画	1	ビジュアルアートとは 授業に関するガイダンス	
	2	世界の文化史 ビジュアルアートと文化史	
	3	ビジュアルアートのカテゴリー ビジュアルバリエーションの説明	
	4	スクリーンから観たビジュアル 名作映画からのアイデア	
	5	スクリーンから観たアート 名作映画からヒントを得る	
	6	ビジュアルアートとシンボルマーク 彫刻、工芸を含む オリジナルマーク、ロゴの解説、作り方	
	7	表現のグローバリゼーション 絵画について 西洋絵画とピオトープ	
	8	インテリアから観たビジュアルアート 工芸と建築 中世から現代までの建築とインテリア	
	9	建築とファッションとエンタテインメント 住宅から観たビジュアルアート、有名住宅からのヒント	
	10	フードから観たビジュアルアート 日本の食文化とグルメ、フード雑誌からのヒント	
	11	ビジュアルアートとライフスタイル (1) スタイル誌「View」とフォルナセッティ	
	12	ビジュアルアートとライフスタイル (2) スタイル誌「Wear」とフォルナセッティ	
	13	ビジュアルアートとグローバリゼーション (1) 個々のスタイルとフォルナセッティのMIX	
	14	ビジュアルアートとグローバリゼーション (2) 個々のスタイルとビジュアルアートのMIXの構築	
	15	ビジュアルアートの役割 今後のファッションとビジュアルアートによるイメージ伝達について	
到達目標・基準	◎D：自分独自のスタイルを説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：文化・芸術における知識や最新のニュースを得ておくこと (60分)。 事後学習：講義の中で生じた「疑問」や「問い」をまとめ、それを調べ、理解を深めること (120分)。		
指導方法	講義内容に関連する映像やパワーポイント等を使用して、視覚媒体を多く取り入れながら講義形式で行う。文化を含めたポートフォリオが作成できるように指導する。		
成績評価の方法・基準	D：ポートフォリオ、定期試験を評価する。 定期試験 50%、ポートフォリオ 30%、授業態度・貢献度 20%		
テキスト	なし 参考文献に関してはその都度指示する		
参考書	本学図書館にあるストーリー性の高い書籍として、「Fornasetti」「Emilio Pucci fashion story」「Tim Walker pictures」等。情報力が強い雑誌として「View」「Wear」。文化情報としては、「ビジュアル教養大辞典」「世界服飾大図鑑」。		
履修上の注意	参考書に指定した書籍は、本学図書館にて定期購読しており、社会の第一線で活躍する人材が参考にし、就職活動や就業の際にも役立つものであるため、必ず一読してアイディア、レイアウトに至る中で自身の情報力をためておくこと。なお、レポートの題材は本学図書館所蔵の上記雑誌より考案する。		

アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
朝月真次郎			
Subject Code：F39A66			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「ライフスタイルモデル」 ライフスタイル関連業界に就職を望む学生に対して、テーマを絞り込み、ゼミ形式あるいは講義形式で授業を行う。ライフスタイル関連業界で活躍するためには必須となる、自分の考えやアイデアをまとめる力や、自分を表現する力を養いながら、学生の就業意識を高める。履修した学生は舞台のゲネプロなどに参加する場合もある。 (授業目標) ○A：グループワークにおける自分の役割を実行し、主体的にグループの考えをまとめる力を修得する。 ◎C：論理性、感性から多面的な視点を身につける。</p>		
授業計画	1	業界研究（1） ライフスタイルに関わる業界 エンタテインメントのグローバルな役割 幅広いのりしろのある考えがもてる人物になるには	
	2	職種研究（1）（グループワーク） マーチャンダイザー、ディレクター、プロデューサーの役目とそれぞれの立ち位置の解説 プロデューサー職の仕事内容、役割をグループで議論する	
	3	職種研究（2）（グループによるプレゼンテーション） 「TOITA Fesでのプロデューサー職」をテーマに グループによるプレゼンテーションを行う	
	4	プロフェッショナルに学ぶ（1）（ゲスト講師） エンタテインメント化するファッションメイク実演① ライフスタイルゼミ学生をモデルにメディアで活躍中のメイクアップアーティストがメイク実演	
	5	業界研究（2） エンタテインメントの仕組み 芸能ではなく、幅広いゾーンの中で作り上げていく要素を解説（衣食住遊知美景）	
	6	プロフェッショナルに学ぶ（2）（ゲスト講師） エンタテインメント化するファッションメイク実演② ライフスタイルゼミ学生をモデルにメディアで活躍中のメイクアップアーティストがメイク実演	
	7	キャリア講座（1）「SPI模試」（キャリアセンター） 就職のための筆記試験対策として、SPI模擬を行う	
	8	「TOITA Fesでのプロデューサーとして」（1）（グループワーク） TOITA Fesの今後の課題、考えられることを分析	
	9	プロフェッショナルに学ぶ（3）（ゲスト講師） エンタテインメント化するファッションメイク実演 ライフスタイルゼミ学生をモデルにメディアで活躍中のメイクアップアーティストがメイク実演	
	10	プロフェッショナルに学ぶ（4）（ゲスト講師） 2.5次元キャラクターメイク実演 ライフスタイルゼミ学生をモデルにメディアで活躍中のメイクアップアーティストがメイク実演	
	11	プロフェッショナルに学ぶ（5）（ゲスト講師） 文化・芸術におけるマーケティング活動 エンタテインメント業界と文化芸術分野に於ける人作り、作品作り、興業的売上作り	
	12	キャリア講座（2）（キャリアセンター） 就職活動にあたり、業界の就職状況を説明する	
	13	「TOITA Fesでのプロデューサーとして」（2）（グループワーク） TOITA Fesでのイベントプロデュース	
	14	キャリア講座（3）（キャリアセンター） 今後の就職活動スケジュールを説明する	
	15	「TOITA Fesでのプロデューサーとして」（3）（プレゼンテーション） 各グループによる「TOITA Fesでのイベントプロデュース」の発表	
到達目標・基準	業界研究、企業研究、職種研究をすることでエンタテインメント業界で必要とされる力を理解し、就業意識を高める。 ポートフォリオを製作することで自分の強みを発見し、自分を表現する力を高める。 ○A：グループワークにおける自分の役割を責任を持って遂行できる。 ◎C：自分の考えや計画を論理的に説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：本学図書館にてメイク、ライフスタイル、ビジネス、ファッション等エンタテインメントに必要な知識を身につけ、授業で発言及び発表が出来る段階まで準備しておくこと（20分）。 事後学習：各回の授業内で生じた「問い」を本学図書館において調べ、分析し、問題解決しておくこと（25分）。		
指導方法	映像やパワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。また第一線で活躍するプロフェッショナルなゲスト講師を招き、そのスキルを学べる場も取り入れる。		

成績評価の方法・基準	A：グループワークでの貢献度を評価する。 C：プレゼンテーション、課題を評価する。 プレゼンテーション40%、課題40%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布する
参考書	参考文献に関してはその都度指示する
履修上の注意	ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。 左脳と右脳を認識しながら、左脳として東洋経済、週刊ダイヤモンド、アエラ、CUT等、右脳としてBeaton、View、WeAr、VOUGUE、BAZAAR、ELLEatTABULE、ELLE DECO等を毎日図書館にて目を通すこと。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク ・プレゼンテーション
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
朝月真次郎			
Subject Code：F28C68			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	エンタテインメント業界及びエンタテインメント関連業界での就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、エンタテインメント業界の第一線で活躍するプロフェッショナルなゲスト講師も招き、講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式で行う。ファッション、インテリア、エンタテインメントなど幅広い分野を題材に、右脳・左脳の両脳を駆使しエンタテインメント業界で生き抜き、活躍できる力を学ぶ。 (授業目標) 1年次からの活動を振り返り、自身のキャリアビジョンを立てることができる。 ◎A：主体的にエンタテインメント業界を調査し、グループワークを通して、責任感を身につける。 ○C：舞台芸術にふれ、エンタテインメント業界で必要となる力を知る。		
授業計画	1	エンタテインメント業界に必要な力（1） 感覚と経験値① 情報量のグローバルな取り入れ方	
	2	エンタテインメント業界に必要な力（2） 感覚と経験値② 思考は内なる考えの結果だけではなく感覚で得た印象に基づく理論	
	3	エンタテインメント業界で働くには（1） 就職にむけた情報量 情報量を増やす技と就職先の見分け方	
	4	プロフェッショナルに学ぶ（1）（ゲスト講師） プロのメイクアップアーティストによるメイク実演及び講義 メイクテーマ「女優」講義テーマ「エンタテインメント業界におけるメイク業界の情報」	
	5	プロフェッショナルに学ぶ（2）（ゲスト講師） プロのメイクアップアーティストによるメイク実演及び講義 メイクテーマ「女優」講義テーマ「ウェブデザインでの表現方法について」	
	6	エンタテインメント業界に必要な力（3） 左脳と右脳、両脳を使った複眼的視点① 左脳、右脳分析	
	7	エンタテインメント業界に必要な力（4） 左脳と右脳、両脳を使った複眼的視点② 両脳バランス説明	
	8	プロフェッショナルに学ぶ（3）（ゲスト講師） プロのメイクアップアーティストによるメイク実演及び講義 メイクテーマ「キャラクターメイク」講義テーマ「2.5次元ミュージカル」	
	9	プロフェッショナルに学ぶ（4）（ゲスト講師） プロのメイクアップアーティストによるメイク実演及び講義 メイクテーマ「キャラクターメイク」講義テーマ「日本のエンタテインメント業界の今」	
	10	エンタテインメント業界で働くには（2）（グループワーク） 就職にむけて① 特殊メイクとコスチューム実演	
	11	エンタテインメント業界で働くには（3）（グループワーク） 就職にむけて② エンタテインメント業界の区分け	
	12	プロフェッショナルに学ぶ（5）（ゲスト講師） 第一線で活躍中の演出家による講義 エンタテインメントスタイルとプロデュース感覚と芸術論を学ぶ	
	13	エンタテインメント業界で働くには（4）（グループワーク） 就職にむけて③ 「エンタテインメント業界で働くには」をテーマにグループワークを行う①	
	14	エンタテインメント業界で働くには（5）（グループワーク） 就職にむけて④ 「エンタテインメント業界で働くには」をテーマにグループワークを行う②	
	15	エンタテインメント業界で働くには（6）（グループによるプレゼンテーション） グループによる「エンタテインメント業界で働くには」のプレゼンテーション、評価と振り返り エンタテインメントのグローバルな産業への広がり	
到達目標・基準	◎A：エンタテインメント業界の現状に対して、協調性を持って話し合いをすすめることができる。 ○C：舞台芸術の比較、分析を討議できる。		
事前・事後学習	事前学習：本学図書館にてビジュアル系雑誌とビジネス系雑誌である日経MJ、WWDを必ず読んで授業で説明、発表出来るようにしておくこと（20分）。 事後学習：毎回到授業で学んだことを更に深める為、アート系雑誌、及び東洋経済、週間ダイヤモンド、アエラを一読すること（25分）。		
指導方法	映像を使用した講義とワークショップ形式で授業をすすめる。グループワーク、プレゼンテーションを取り入れる。様々な職種にもふれ、役割や仕事内容なども解説する。レポート作成やファイル作りも加えながら指導		

	していく。
成績評価の方法・基準	A：課題のオリジナリティを評価する。 C：プレゼンテーションを評価する。 課題60%、プレゼンテーション20%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 参考文献に関してはその都度指示する
参考書	左脳と右脳を認識しながら、左脳としては東洋経済、週刊ダイヤモンド、AERA、CUT、等。 右脳としては、View、Wear、VOGUE、BAZAAR、ELLEatTABULE、ELLEDECO、等を毎日図書館にて目を通すこと。
履修上の注意	本学図書館にある上記書籍は、社会の第一線で活躍する人材が参考にしているものであり、就職活動や就業の際にも役立つものである。なお、レポート等の題材は参考書籍より取り上げる。
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク ・プレゼンテーション
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
Subject Code : F12C06			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>色彩について物理科学的側面、生理・心理的側面、文化的側面から基本知識を修得する。日常生活のなかにある実例をあげながら、色が見えるしくみ、色名、色の心理効果、配色方法、日本の伝統色、フランスの伝統色などについて順序立てて学ぶ。色彩検定受験者には、検定対策の参考となるように問題集も活用する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>色の3属性(色相・明度・彩度)のしくみについて確実に理解する。</p> <p>◎D：色のしくみを順序立てて理解し、色の3属性で説明することができる。</p> <p>○E：色の3属性に基づいて、色相環・トーン図を描くことができる。</p>		
授業計画	1	色はなぜみえるか 電磁波と可視光 太陽光とスペクトル 照明と色の見え方	
	2	眼のしくみ 色をみる眼のしくみ 網膜における光の処理 分光反射率と色相、明度、彩度	
	3	混色(1) 混色とは何か 同時加法混色 併置加法混色、継時加法混色	
	4	混色(2) 減法混色 カラーモニターの色 カラー印刷の色	
	5	色の分類と三属性 色相、明度、彩度 色立体	
	6	純色、清色、中間色 PCCS、マンセル、JIS PCCSの色相、明度、彩度、トーン 等色相面と色立体 色の表示	
	7	言葉による色表示 基本色名 系統色名 慣用色名	
	8	色彩心理 色の心理的効果 感覚・感情と装い 色のイメージと使い方	
	9	色彩調和(1) 配色調和論の系譜 色相を手がかりにした配色	
	10	色彩調和(2) 明度・彩度を手がかりにした配色 トーンを手がかりにした配色	
	11	色彩調和(3) アクセントカラー セパレーションカラー グラデーションカラー	
	12	色彩とファッション (ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明) :12~15回 ファッションにおける配色 ナチュラルハーモニー、コンプレックスハーモニー イエローベースとブルーベース 配色分析課題	
	13	色彩と生活 生活環境と色彩 インテリア	
	14	五感(音楽、香り、味、触感)と色彩 日本とフランスの伝統色 平安・江戸の色 フランス的慣用色・季節別配色	

	15 流行色 インターカラー 各時代の社会背景と流行色
到達目標・基準	色相、明度、彩度という色の3属性の意味を理解すること。色名を覚え、色彩心理を活かした配色調和を自由に行える基礎知識を身につける。 ◎D：色相、明度、彩度について説明ができる。 ◎E：色の3属性に基づいて、色相環・トーン図の基本を描くことができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容に相当するテキストを読み、項目ごとにレポートとしてまとめる（20分）。 事後学習：授業中に行った練習問題を見直し、相当するテキストと並行して理解を深める（25分）。
指導方法	色とはなにかという身近な疑問を明らかにするために、毎回配色カードを使用し視覚的な訓練を大切にする。順序立てて色のしくみが理解でき、色による心理作用を効果的に活用できる基盤を養うことをめざして指導する。 色彩検定受験者には、検定対策に直結するように問題集をテキストとして活用する。 パワーポイントを使用し、生活の中での実例を紹介するなどわかりやすい工夫を行う。 Webclassで課題を配信し、提出を求める。
成績評価の方法・基準	D：定期試験を評価する。 E：提出課題の完成度を評価する。 定期試験60%、提出課題20%、授業態度・貢献度20%
テキスト	「カラーコーディネーター入門・色彩」 大井義雄・川崎秀昭著（日本色研事業株式会社） 「文部科学省後援 色彩検定2・3級問題集」A・F・T最新テキスト対応（新星出版） 「Work paper 配色演習台紙」（日本色研事業株式会社） 「新配色カード199a」（日本色研事業株式会社）
参考書	
履修上の注意	毎回、テキスト、新配色カード199a、はさみとのりを各自持参する。 新配色カードを常に持ち歩き、カラーサンプルと色名を対応させる習慣をつける。 身の回りの色彩に興味を持ち、授業で学ぶ知識との関連を心掛ける。 後期「カラーコーディネーター演習」は、本科目が履修済みであることが条件となる。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C T の活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
Subject Code : F22C07			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「カラーコーディネート論」で学んだ色彩の基礎知識を生かし、身近なものを通して実践的に配色調和の方法を身につける。アーティフィシャルフラワーによるフラワーコーディネート制作を行い、めざすイメージやTPOをふまえた配色技法を体験する。さらに、アロマセラピー精油を用い、色と香りの関係を学び五感と色彩について理解を深める。</p> <p>(授業目標) 色彩調和の原則を理解し、目的や場面に合う魅力的な配色ができるようになる。 ○D：色彩調和の原則や心理効果を理解できる。 ◎E：目的や場面に応じ、主な配色技法を用いてフラワーコーディネート製作ができる。</p>		
授業計画	1	配色技法（１）（実習：配色カードを用いて色相差による配色のトレーニングをする） 色相差による配色	
	2	配色技法（２）（実習：配色カードを用いて色相とトーンによる配色のトレーニングをする） 色相とトーンによる配色	
	3	配色技法（３）（実習：配色カードを用いて基本的な配色技法のトレーニングをする） 配色における面積効果 ハーモニーカラー配色、コントラストカラー配色、アクセントカラー配色、セパレーションカラー配色	
	4	配色技法（４）（実習：配色カードを用いてイメージによる配色のトレーニングをする） イメージによる配色	
	5	配色技法（５）（実習：配色カードを用いて主な配色技法による配色のトレーニングをする） トーン・オン・トーン配色、トーン・イン・トーン配色 ドミナント配色、トータル配色、カマイユ配色、ピコロール配色、トリコロール配色 配色技法について的小テスト	
	6	ブーケA（１）（実習：ブーケ制作の基本を知り、準備を行う） 花の種類と色 フラワーコーディネートに生かす主な配色技法 花の下準備	
	7	ブーケA（２）（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明） ブーケA制作 配色説明パワーポイント作成	
	8	ブーケA（３）（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明） 色と関連するエッセンシャルオイルの選択 ブーケA提出	
	9	ブーケB（１）（実習：ブーケの配色方法を理解し、花の準備を行う） 花の下準備 ブーケB制作	
	10	ブーケB（２）（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明） ブーケB制作 配色説明パワーポイント作成	
	11	ブーケB（３）（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明） 色と関連するエッセンシャルオイルの選択 ブーケB提出	
	12	リース（１）（実習：リースの配色方法を理解し、花の準備を行う） リースの配色方法をふまえた花選び 花の下準備	
	13	リース（２）（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明） リース制作 配色説明パワーポイント作成	
	14	リース（３）（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明） リース制作 配色説明パワーポイント作成	
	15	リース（４）（プレゼンテーション） 完成したリースの色に関連する香りのエッセンシャルオイルをつける WebClassに各自が提出したパワーポイントのプレゼンテーションを行う リース提出	
到達目標・基準	○D：色彩調和の原則や心理効果の基本を理解できる。 ◎E：基本的な配色技法を用いてフラワーコーディネート製作ができる。		
事前・事後学習	事前学習：テキストによる配色技法のトレーニング、課題の準備に取り組む（20分）。 事後学習：テキストの理解不足の部分を復習し、課題の不足を補う（25分）。		

指導方法	講義は、パワーポイント、テキスト、配布プリントを適宜使用する。 フラワーコーディネート制作は、パワーポイント資料を配布する。 フィードバックの方法：提出された課題に対して教員から項目ごとの評価を伝える。 Webclassで課題を配信し、提出を求める。
成績評価の方法・基準	D：配色調和についての理解度を小テストで評価する。 E：課題制作の完成度を評価する。 課題制作60%、小テスト20%、授業態度・授業貢献度20%
テキスト	「カラーコーディネーターのための配色入門」川崎秀昭（日本色研事業株式会社）
参考書	「はじめてのインテリアブーケ」渡辺俊治監修（株式会社KADOKAWA） 「アーティフィシャルフラワー基本テクニック2 イメージを伝える 花合わせ色合わせのコツ」渡辺俊治（六耀舎）
履修上の注意	前期「カラーコーディネート論」を履修済みであることが履修の条件である。 授業内容に応じて、テキスト、配布プリント、新配色カード199a、はさみとのかしこを各自持参すること。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション 実習
I C T の活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
Subject Code : F16C45			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	人はなぜその人らしい装いをするのだろうか。自分を適確に表現しようとするとき、人は言語だけではなく外観を重視する。また逆に、初対面の相手がどのような人かを私たちは外観を手がかりにすることが多い。装うことは自己表現や対人行動を促し、個人の自信やアイデンティティの形成といった心身の健康に大きく貢献している。装うという着装行動の要因について服装心理学的側面から改めて考える。また、自分らしい装いには欠かせないパーソナルカラーコーディネートの基本知識を、色の3属性に基づいてきちんと身につける。 (授業目標) ◎C：自分らしく装うためのパーソナルカラーコーディネートに必要な幅広い知識を身につける。 ○D：人はなぜ装うのかという着装行動の要因を個人的、対人的、集团的、社会的・文化的側面で理解する。		
授業計画	1	着装行動の要因 着装行動の要因 マズローの欲求5段階理論 衣服の感覚的特性 衣服と感情	
	2	自己概念と装い ライフステージと衣服 自己概念・アイデンティティと装い 身体イメージと装い 現実的自己と理想的自己	
	3	体型によるコーディネート プロポーション測定 体型・顔型の見分け方 体型補正のコーディネート	
	4	情報伝達と装い 装いと非言語コミュニケーション 装いの情報伝達機能	
	5	社会的役割・社会的規範と装い TPOをふまえたコーディネート フォーマルウェアの基礎知識 社会的規範と装い 制服、ユニフォーム	
	6	流行と装い 流行普及のプロセス ファッショントレンドのしくみ 流行採用の動機 流行の文化的・社会的要因	
	7	化粧・装いと心身の健康 化粧の心理的効用 化粧行動と意識 装いが心身に及ぼす影響 ファッションセラピー、メイクセラピー	
	8	カラーによるトータルコーディネート 色の4属性による配色 主な配色技法による配色 TPOをふまえた配色 パーソナルカラー配色	
	9	パーソナルカラーコーディネートの基本 (1) パーソナルカラー診断 パーソナルアイデンティティ イエローベースとブルーベース	
	10	パーソナルカラーコーディネートの基本 (2) 4タイプの3属性の特徴 カラーイメージワード分類 4タイプ別慣用色名	
	11	パーソナルカラーコーディネートの基本 (3) (ICT:WebClassによる小テスト) 身体(肌・髪・眼)の色素の見分け方 パーソナルアイデンティティとは チャームポイントとコンプレックス	
	12	パーソナルカラーコーディネートの基本 (4) 似合う色・似合わない色の見分け方 カラーペーパーによる診断 4タイプ別・3属性別の診断方法	
	13	パーソナルカラーコーディネートの基本 (5) (ICT:WebClassによる小テスト) 似合う色の取り入れ方	

	<p>14 4タイプ別カラーコーディネート パーソナルカラーコーディネートの基本(6) 似合う柄・質感の取り入れ方 4タイプ別コーディネート</p> <p>15 自分のなりたいイメージと似合う色(ICT:WebClassによる小テスト) なりたいイメージと似合う色のズレの原因 パーソナルアイデンティティ形成と自分らしいコーディネート</p>
到達目標・基準	<p>◎C:自分らしく装うためのパーソナルカラーコーディネートに必要な基本的知識を身につける。 ○D:人はなぜ装うのかという着装行動の主要因を理解できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習:次回の講義内容を確認し、テキストの相当部分を項目ごとにまとめる(20分)。 事後学習:小テストに向けて、項目ごとに問題集に取り組む(25分)。</p>
指導方法	<p>テキスト、パワーポイントを使用し、視覚的にわかりやすく順序だてて論理的に学べるように指導する。 「色彩活用パーソナルカラー検定3級」受験に対応し、トータルコーディネートに必要な知識と技術を確実に養うことで、自信につながるよう指導する。 WebClassによる小テストを行う。</p>
成績評価の方法・基準	<p>C:小テスト・定期試験を評価する。 D:小テスト・定期試験を評価する。 定期試験50%、小テスト30%、授業態度・貢献度20%、</p>
テキスト	<p>「装いの心理と行動」編著:小林茂雄・藤田雅夫、著:内田直子ほか(アイ・ケイコーポレーション) 「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト3級」改訂版(産経新聞出版) 「色彩活用パーソナルカラー検定 3級・2級公式問題集」(一般社団法人 日本カラーコーディネーター協会) 「新配色カード199a」(日本色研事業株式会社)</p>
参考書	<p>「被服行動の社会心理学」神山進編集(北大路書房)</p>
履修上の注意	<p>「トータルコーディネート演習」は、本科目が履修済みであることが条件である。 日頃から、人はなぜその人らしい装いをするのかについて自ら深く考え、人の個性の多様性、ファッション商品・技術の多様性に興味を持ち情報収集をしておく。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>特になし</p>
ICTの活用	<p>WebClass</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
Subject Code : F22C20			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	人はなぜその人らしい装いをするのだろうか。自分を適確に表現しようとするとき、人は言語だけではなく外観を重視する。また逆に、初対面の相手がどのような人かを私たちは外観を手がかりにすることが多い。装うことは自己表現や対人行動を促し、個人の自信やアイデンティティの形成といった心身の健康に大きく貢献している。装うという着装行動の要因について服装心理学的側面から改めて考える。また、自分らしい装いには欠かせないパーソナルカラーコーディネートの基本知識を、色の3属性に基づいてきちんと身につける。 (授業目標) ◎C：自分らしく装うためのパーソナルカラーコーディネートに必要な幅広い知識を身につける。 ○D：人はなぜ装うのかという着装行動の要因を個人的、対人的、集团的、社会的・文化的側面で理解する。
授業計画	1 カラーによるトータルコーディネート 色の4属性による配色 主な配色技法による配色 TPOをふまえた配色 パーソナルカラー配色 2 パーソナルカラーコーディネートの基本(1) パーソナルカラー診断 パーソナルアイデンティティ イエローベースとブルーベース 3 パーソナルカラーコーディネートの基本(2) 4タイプの3属性の特徴 カラーイメージワード分類 4タイプ別慣用色名 4 パーソナルカラーコーディネートの基本(3) (ICT:WebClassによる小テスト) 身体(肌・髪・眼)の色素の見分け方 パーソナルアイデンティティとは チャームポイントとコンプレックス 5 パーソナルカラーコーディネートの基本(4) 似合う色・似合わない色の見分け方 カラーペーパーによる診断 4タイプ別・3属性別の診断方法 6 パーソナルカラーコーディネートの基本(5) (ICT:WebClassによる小テスト) 似合う色の取り入れ方 4タイプ別カラーコーディネート 7 パーソナルカラーコーディネートの基本(6) 似合う柄・質感の取り入れ方 4タイプ別コーディネート 8 自分のなりたいイメージと似合う色 (ICT:WebClassによる小テスト) なりたいイメージと似合う色のズレの原因 パーソナルアイデンティティ形成と自分らしいコーディネート 9 着装行動の要因 着装行動の要因 マスローの欲求5段階理論 衣服の感覚的特性 衣服と感情 10 自己概念と装い ライフステージと衣服 自己概念・アイデンティティと装い 身体イメージと装い 現実的自己と理想的自己 11 体型によるコーディネート プロポーション測定 体型・顔型の見分け方 体型補正のコーディネート 12 情報伝達と装い 装いと非言語コミュニケーション 装いの情報伝達機能 13 社会的役割・社会的規範と装い TPOをふまえたコーディネート フォーマルウェアの基礎知識 社会的規範と装い 制服、ユニフォーム 14 流行と装い 流行普及のプロセス ファッショントレンドのしくみ

	15 流行採用の動機 流行の文化的・社会的要因 化粧・装いと心身の健康 化粧の心理的効用 化粧行動と意識 装いが心身に及ぼす影響 ファッションセラピー、メイクセラピー
到達目標・基準	◎C：自分らしく装うためのパーソナルカラーコーディネートに必要な基本的知識を身につける。 ○D：人はなぜ装うのかという着装行動の主な要因を理解できる。
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容を確認し、テキストの相当部分を項目ごとにまとめる（20分）。 事後学習：小テストに向けて、項目ごとに問題集に取り組む（25分）。
指導方法	テキスト、パワーポイントを使用し、視覚的にわかりやすく順序だてて論理的に学べるように指導する。 「色彩活用パーソナルカラー検定3級」受験に対応し、トータルコーディネートに必要な知識と技術を確実に養うことで、自信につながるよう指導する。 WebClassによる小テストを行う。
成績評価の方法・基準	C：小テスト・定期試験を評価する。 D：小テスト・定期試験を評価する。 定期試験50%、小テスト30%、授業態度・貢献度20%、
テキスト	「装いの心理と行動」編著：小林茂雄・藤田雅夫、著：内田直子ほか（アイ・ケイコーポレーション） 「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト3級」改訂版（産経新聞出版） 「色彩活用パーソナルカラー検定 3級・2級公式問題集」（一般社団法人 日本カラーコーディネーター協会） 「新配色カード199a」（日本色研事業株式会社）
参考書	「被服行動の社会心理学」神山進編集（北大路書房）
履修上の注意	「トータルコーディネート演習」は、本講義の履修者が受講できる。 日頃から、人はなぜその人らしい装いをするのかについて自ら深く考え、人の個性の多様性、ファッション商品・技術の多様性に興味を持ち情報収集をしておく。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
Subject Code：F22C21			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	「トータルコーディネート論」と並行してコーディネートの理論と実践を結びつける授業である。人の個性と服飾の個性について、色・形・素材・イメージの視点からトータルバランスのとり方を探る。特に自分らしいトータルコーディネートに必要なパーソナルカラーの基礎を理解し、色彩活用パーソナルカラー検定に対応できるように授業を進める。その後パーソナルカラーを生かしたビーズブレスレットを制作し、装いによる自己表現を体験する。 (授業目標) ファッションが自分らしさの自己表現として機能することをワークを通してまなび、目的に合ったトータルコーディネート提案ができるようになる。 ◎A：パーソナルカラー診断をグループワークで行う時、接客力にも繋げてグループワークで診断ができる。 ◎E：パーソナルカラーを生かしたブレスレットを制作し、プレゼンテーションすることができる。
授業計画	<p>1 トータルコーディネートの条件と要素 コーディネート説明による自己紹介 色・形・素材・イメージの視点</p> <p>2 パーソナルカラーコーディネート（1）（演習：各自、配色カードでカラーマップ作成） 4タイプの3属性の特徴 カラーマップ作成</p> <p>3 パーソナルカラーコーディネート（2）（演習：各自、配色カードでカラーマップ作成） カラーイメージワード分類 4タイプ別慣用色名 カラーマップ作成</p> <p>4 パーソナルカラーコーディネート（3）（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 身体（肌・髪・眼）の色素の見分け方 チャームポイントとコンプレックス</p> <p>5 パーソナルカラーコーディネート（4）（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 似合う色・似合わない色の見分け方 カラーペーパーによる4タイプ別・3属性別の診断</p> <p>6 パーソナルカラーコーディネート（5）（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 似合う色・似合わない色の見分け方 ドレープによる4タイプ別の診断</p> <p>7 パーソナルカラーコーディネート（6）（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 似合う色・似合わない色の見分け方 ドレープによる3属性別の診断</p> <p>8 パーソナルカラーコーディネート（7）（演習：各自、ビジュアルカラージュ作成） 似合う色・柄・質感の取り入れ方 4タイプ別ビジュアルカラージュ作成</p> <p>9 パーソナルカラーコーディネート（8）（演習：各自、ビジュアルカラージュ作成） 似合う色・柄・質感の取り入れ方 4タイプ別ビジュアルカラージュ作成 小テスト</p> <p>10 パーソナルカラーを生かしたパワーストーンブレスレット制作（1）（実習） 色の心理効果 基本ブレスレット制作①</p> <p>11 パーソナルカラーを生かしたパワーストーンブレスレット制作（2）（実習） カラーストーン選び 基本ブレスレット制作② 配色説明パワーポイント課題</p> <p>12 パーソナルカラーを生かしたパワーストーンブレスレット制作（3）（実習） カラーストーン選び 応用ブレスレット制作①</p> <p>13 パーソナルカラーを生かしたパワーストーンブレスレット制作（4）（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明） カラーストーン選び 応用ブレスレット制作② 配色説明パワーポイント課題</p> <p>14 パーソナルカラーを生かしたパワーストーンブレスレット制作（5）（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明） パーソナルイメージカラージュ作成 配色説明パワーポイント課題 ブレスレット提出</p> <p>15 パーソナルカラーを生かしたパワーストーンブレスレット制作（6）（プレゼンテーション） WebClassに各自が提出したパワーポイントのプレゼンテーションを行う パーソナルカラーを生かしたトータルコーディネートの振り返り</p>
到達目標・基準	◎A：パーソナルカラー診断をグループワークで行うことができる。 ◎E：色の特徴を生かしたビーズブレスレットを制作することができる。

事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容を確認し、テキストの予習、課題の準備を行う（20分）。 事後学習：授業終了後、学んだことを振り返り、課題に取り組む（25分）。
指導方法	トータルコーディネートに必要な技術の一つとして、パーソナルカラー診断を理解し使いこなせるように指導する。 パーソナルカラーの考え方を生かしたファッションコーディネート、ビジュアルコラージュ作成やビーズブレスレット制作の実習を行い指導する。「色彩活用パーソナルカラー検定3級」受験に対応し、色の実践方法を具体的に学べるよう指導する。 パワーポイントを使用する。 WebClassで課題を配信し、提出を求める。
成績評価の方法・基準	A：グループワークでの主体性・責任感を評価する。 E：作品制作の完成度を評価する。 作品50%、小テスト30%、授業態度・貢献度20%
テキスト	「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト3級」改訂版（産経新聞出版） 「色彩活用パーソナルカラー検定 3級・2級公式問題集」（一般社団法人 日本カラーコーディネーター協会） 「新配色カード199a」（日本色研事業株式会社）
参考書	
履修上の注意	「トータルコーディネート論」を同時に履修していることがこの科目を受講する条件である。
アクティブ・ラーニング	実習 グループワーク プレゼンテーション
I C Tの活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
新井葉子、平光くり子			
Subject Code：F39A66			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、ゲスト講師を招くなど、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。</p> <p>(授業目標) 主に美容業界を目指すための心構え、マナー、業界知識を身に付ける。 ◎D：美容業界のしくみや職種についての知識を身に付ける。</p>		
授業計画	1	業界研究（新井） 本ゼミナールの概要、美容業界について	
	2	就職活動準備（1）（平光） ビューティゼミ2年生内定者による就職活動の流れについて	
	3	職種研究（1）（ゲスト講師） 美容部員の仕事内容・美容部員のキャリア、企業が求める美容部員について	
	4	職種研究（2）（キャリアセンター） 業界研究ネイリスト、エステティシャン、リフレクソロジスト	
	5	就職活動準備（2）（ゲスト講師） 就職活動の流れ、自己分析について	
	6	個人ワーク（1）企業研究（ゲスト講師） 企業研究、ブランド研究、店舗見学について	
	7	キャリア講座（1）SPI模擬試験（キャリアセンター） 就職のための筆記試験対策としてのSPI模擬試験を行う	
	8	就職活動準備（3）（ゲスト講師） 美容業界に就職するための履歴書とエントリーシートの書き方のポイントについて	
	9	日本化粧品検定3級対策講座（1）（ゲスト講師） 対策講座（肌悩みに応じた化粧品の使用方法について）	
	10	日本化粧品検定3級対策講座（2）（ゲスト講師） 対策講座（ボディケア、ヘアケアの基本知識について）	
	11	個人ワーク（2）企業研究（ゲスト講師） 憧れる企業を比較、検討し、各企業が求める人材を報告書にまとめる	
	12	キャリア講座（2）2年生内定者懇談会（キャリアセンター） 今後の就職活動スケジュールを説明する	
	13	ブランド研究（1）（グループワーク：グループごとに討論）（ゲスト講師） メイクアップブランドの特徴について討論する	
	14	ブランド研究（2）（グループワーク：グループごとに資料の作成）（ゲスト講師） メイクアップブランドの特徴について発表用の資料を作成する	
	15	ブランド研究（3）（グループワーク：グループごとにまとめを発表）（ゲスト講師） メイクアップブランドの特徴についてプレゼンテーション、評価する	
到達目標・基準	◎D：美容業界のしくみや職種について説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：美容雑誌、インターネット等美容に関する最新情報を調べる（20分）。 事後学習：ゼミで学んだことを調べ、就職活動に役立てるようまとめておく（25分）。		
指導方法	美容業界で活躍したい学生を対象にした就職活動準備のためにゲスト講師を招いて行うゼミナールである。希望職種を明確にし、そのためには何が必要かを考え主体的に学ぶ。各自の興味にもとづいた就職活動準備を行えるよう指導する。		
成績評価の方法・基準	D：プレゼンテーション、課題を評価する。 プレゼンテーション40%、課題40%、授業態度・授業への貢献度20%		
テキスト	なし		
参考書	なし		
履修上の注意	受け身ではなく、常に主体的な受講態度で臨むこと。 清潔感、礼儀、思いやり、知性を重視し、美容を志す者として普段から自分自身を磨く努力を惜しまないこと。		
アクティブ・ラー	グループワーク、プレゼンテーション		

ニング	
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
新井葉子、平光くり子			
Subject Code : F28C67			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	美容業界への就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、美容部員を例に美容業界で働く心構えを学ぶ。美容業界で活躍する方をゲスト講師として迎え講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式で授業を行う。 美容を仕事にする場合、相手の身体に触れるため、対人マナーをふまえて相手のめざすイメージや好みなどの気持ちと向き合うコミュニケーション力を養うことも重視する。 (授業目標) 美容業界で働くために必要なマナー、接遇、コミュニケーションを身につける。 ◎D：美容業界で働くために必要なマナーと接遇を修得する。 ○E：美容業界で働くために必要なコミュニケーションを身につける。
授業計画	<p>1 就職活動準備(1)(新井) 本ゼミナールの概要、美容業界での就職活動について</p> <p>2 就職活動準備(2)(キャリアセンター) グループディスカッション練習</p> <p>3 日本化粧品検定2級対策講座(1)(ゲスト講師) 皮膚のしくみについて</p> <p>4 日本化粧品検定2級対策講座(2)(ゲスト講師) 肌の手入れと正しい知識について</p> <p>5 理想の美容部員とは(1)(ゲスト講師) 店頭につつ上で身につけておくべきこととは</p> <p>6 理想の美容部員とは(2)(ゲスト講師) 接遇マナー基礎、第一印象の作り方について</p> <p>7 理想の美容部員とは(3)(ゲスト講師) チーム接客、売上につながる接客とは</p> <p>8 理想の美容部員とは(4)(ゲスト講師) カウンセリング、クロージングの基本について</p> <p>9 理想の美容部員とは(5)(ゲスト講師) 美容部員のサービス、コミュニケーションとは</p> <p>10 魅力的なプレゼンテーションとは(ゲスト講師) 論理的なプレゼンテーションを学び、魅力的なプレゼンテーションを考える</p> <p>11 理想の美容部員とは(6)(ゲスト講師) 個人ワークによる理想の美容部員の研究</p> <p>12 理想の美容部員の接客とは(1)(グループワーク)(ゲスト講師) 理想の美容部員の接客についての討論と研究</p> <p>13 理想の美容部員の接客とは(2)(グループワーク)(ゲスト講師) 理想の美容部員の接客について報告書の作成(グループごとに報告書の作成)</p> <p>14 理想の美容部員の接客とは(3)(グループワーク)(プレゼンテーション)(ゲスト講師) 理想の美容部員の接客について研究経過報告(グループによる発表)</p> <p>15 理想の美容部員の接客とは(4)(プレゼンテーション)(ゲスト講師) 「理想の美容部員」についてグループごとに発表する</p>
到達目標・基準	◎D：美容業界で働くために必要なマナーと接遇を理解し、説明できる。 ○E：自分の考えを人前でプレゼンテーションできる。
事前・事後学習	事前学習：美容業界のニュースをチェックする(20分)。 事後学習：学修した内容をもとに、美容雑誌、店舗調査、インターネット等から情報収集を行い、理想の美容部員について考える(25分)。
指導方法	各自の就職活動ノートに毎週活動の進捗状況を確認できるよう指導する。 パワーポイント、DVD等を使用する。
成績評価の方法・基準	◎D：小テスト、課題を評価する。 ○E：プレゼンテーションを評価する。 プレゼンテーション40%、小テスト20%、課題20%、授業態度・授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	なし
履修上の注意	受け身ではなく、常に主体的な受講態度で臨むこと。 清潔感、礼儀、思いやり、知性を重視し、美容を志す者として普段から自分自身を磨く努力を惜しまないこと。

アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択必修
担当教員			
久保顯彦			
Subject Code : F14B27			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	日本のファッションビジネスは、1960年代に繊維産業の中の小売段階で確立したが、近年のグローバル化とデジタルテクノロジーの急速な進化により、取り巻く環境は厳しさを増している。本講義は、ファッション業界の生産と流通を学ぶことでファッションビジネスを考察できるようになることを目的に、本学オリジナルブランドであるMARIE de TOITAの社員を想定してすすめる。大きく業界研究、職種研究、企業研究、ブランドビジネス研究の4項目に分類し概説する。さらに、日本のファッションブランドも事例として取りあげる。 (授業目標) ファッション業界の歴史と現状の理解を通じて、業界で働くために必要となる専門的知識を身につける。 ◎D：ファッション業界の仕組みを知ること、ファッション業界のブランドビジネスを理解する。		
授業計画	1	ファッション業界研究 (1) 本学オリジナルブランドMARIE de TOITAのコンセプト ファッションの生産と流通について	
	2	ファッション業界研究 (2) 日本のファッション業界の歴史 日本の繊維産業およびファッション関連業界について	
	3	ファッション業界研究 (3) 企業と組織 ブランドの種類、使命、コンセプト、哲学について	
	4	ファッション業界・職種研究 (1) デザイナーとパタンナーの仕事	
	5	ファッション業界・職種研究 (2) 生産管理 (プロダクトコントローラー) の仕事	
	6	ファッション業界・職種研究 (3) 営業とマーチャンダイザーの仕事	
	7	ファッション業界・職種研究 (4) アタッシュ・ドゥ・プレスの仕事	
	8	ファッション業界研究 (4) ファッション小売業の業態	
	9	ファッション業界・企業研究 (1) デザイナーズブランド	
	10	ファッション業界・企業研究 (2) SPAブランド	
	11	ファッション業界・企業研究 (3) セレクトショップ、ライフスタイルショップ	
	12	ファッション業界・企業研究 (4) オンラインショップ、zozoとマッシュスタイルラボ	
	13	ブランドビジネス研究 (1) ライセンスビジネス	
	14	ブランドビジネス研究 (2) 垂直統合型ビジネス ブランド拡張戦略	
	15	ブランドビジネス研究 (3) ファッション業界の最新事情およびこれからについて	
到達目標・基準	◎D：日本のファッション業界の仕組みを説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やファッションサイト等で最新のファッショントレンドの知識を深めておくこと。毎回の小レポート対策として、次回授業計画の内容を調べておく (60分)。 事後学習：実店舗やECサイトを企業と顧客、双方の視点から分析すること (120分)。		
指導方法	パワーポイントや映像を使用し講義形式で行う。毎回授業内でのリアクションペーパーの提出、およびレポート提出がある。		
成績評価の方法・基準	D：リアクションペーパー・定期試験を評価する 定期試験 60%、課題 25%、授業態度・貢献度 15%		
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示する。		
参考書	授業内で指示する。		
履修上の注意	ファッション セールモデル、ファッション プランニングモデル、ファッション デザインモデルを履修する		

	学生は受講すること。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：必修
担当教員			
久保顯彦			
Subject Code：F23A31			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	自身のキャリアビジョンを描くには、企業での生き方や働き方が深く関わってくる。企業から必要とされる人材になるには、独自の強みや成果を上げるために必要となる力を持たなければならない。本講義は、社会的・職業的自立を図るための力が理解できるようになることを目的に、主にファッション業界で働くビジネスパーソンに必要とされるビジネスマナーやビジネス知識、仕事術を中心に概説する。さらに、ビジネスシーンでの事例や最新ニュース等を取りあげる。 (授業目標) ◎C：現状を分析し、成果を出す方法を知る		
授業計画	1	企業と組織 (1) 業界と職種、役職と人事、就業力について	
	2	企業と組織 (2) 新人として必要な力、ケブナー・トリゴー法と主体性について	
	3	職場でのコミュニケーション (1) ファッションビジネスマナー 挨拶と言葉遣い、EQ (心の知能指数) について	
	4	職場でのコミュニケーション (2) ファッションビジネスマナー メールの基本ルール	
	5	職場でのコミュニケーション (3) ファッションビジネスマナー 「依頼」「断る」「謝罪」の方法	
	6	職場でのコミュニケーション (4) ファッションビジネススキル 応援される力「好かれる力」	
	7	職場でのコミュニケーション (5) ファッションビジネススキル 応援される力「反省力」「巻き込み力」	
	8	ファッションビジネス基礎力 (1) 情報収集 情報の収集と活用、インターネットと読書	
	9	ファッションビジネス基礎力 (2) 整理術 情報、思考の整理	
	10	ファッションビジネス基礎力 (3) 時間の使い方 時間管理、時間の作り方と生かし方	
	11	ファッションビジネス実践力 (1) 段取りと改善 仕事の方法、手順と優先順位、PDCAとPDS、SWOT分析	
	12	ファッションビジネス実践力 (2) 分析 課題を発見するフレームワーク	
	13	ファッションビジネス実践力 (3) 分析 アイデアを練るためのフレームワーク	
	14	仕事術 (1) リーダーシップとプロフェッショナル リーダーとマネジャー、プロフェッショナルの力	
	15	仕事術 (2) デジタルリテラシー デジタルテクノロジーとビジネスシーン	
到達目標・基準	◎C：成果を出すために役立つ枠組みについてを説明できる		
事前・事後学習	事前学習：日経MJ、週刊東洋経済、週刊ダイヤモンド、アエラそしてビジネスサイトに目をとおり、最新のビジネス情報を得る。毎回の小レポート対策として、次回授業計画の内容を調べておくこと (60分)。 事後学習：授業で得た知識やスキルを深めるため図書館やインターネット等で調べる (120分)。		
指導方法	パワーポイントや映像を使用し講義形式で行う。毎回授業内でのリアクションペーパーの提出、およびレポート提出がある。		
成績評価の方法・基準	C：リアクションペーパー、定期試験を評価する 定期試験 60%、課題 25%、授業態度・貢献度 15%		
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示する		
参考書	授業内で指示する。		
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネットなどで最新のビジネスに関する情報を得ておくこと。 映画、舞台芸術、美術館へ行き感性を養うこと。		
アクティブ・ラー	特になし		

ニング	
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
久保顯彦			
Subject Code：F23C38			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	近年のグローバル化とデジタルテクノロジーの急速な進化により多様な価値観が生まれ、結果としてファッションは急激に売れなくなり、現在、日本のファッションビジネスは大きな壁にぶつかっている。本講義は、ファッションビジネスで円滑な人間関係を構築するための手法を知り理解することを目的に、本学オリジナルブランドであるMARIE de TOITAの本社および店舗で働く社員を想定してすすめる。事例としてラグジュアリーブランドやファストファッションブランドを取り上げ、消費者を惹きつけるブランドの戦略について概説する。さらに、ファッション業界でのコミュニケーションに役立つ文化・アートの知識も取り上げる。 (授業目標) ◎B：ファッション業界で必要となるコミュニケーションスキルを理解する。		
授業計画	1	MARIE de TOITAの組織 企業としてのMARIE de TOITA、組織形態、本部の職種と役割	
	2	MARIE de TOITAの経営（1） MARIE de TOITAの経営戦略、ビジョンとミッション	
	3	MARIE de TOITAの経営（2） MARIE de TOITAの経営戦略、ブランド構想	
	4	MARIE de TOITAの経営（3） MARIE de TOITAの生産	
	5	MARIE de TOITAのマーケティング（1） MARIE de TOITAのマーケティング戦略、市場の分析	
	6	MARIE de TOITAのマーケティング（2） MARIE de TOITAのマーケティング戦略、マーケティングミックスと顧客の分析	
	7	MARIE de TOITAのコミュニケーション（1） MARIE de TOITAのコミュニケーション戦略、他者に伝えるビジネスツール	
	8	MARIE de TOITAのコミュニケーション（2） MARIE de TOITAの販売戦略、店舗展開とプロモーション	
	9	MARIE de TOITAのブランドビジネス（1） ラグジュアリーブランド戦略①チャンネルとカール・ラガーフェルド	
	10	MARIE de TOITAのブランドビジネス（2） ラグジュアリーブランドの戦略②クリスチャン・ディオールとイブ・サンローラン	
	11	MARIE de TOITAのブランドビジネス（3） ラグジュアリーブランド戦略③グッチとケリング	
	12	MARIE de TOITAのブランドビジネス（4） ラグジュアリーブランド戦略④ルイ・ヴィトンとLVMH	
	13	MARIE de TOITAのブランドビジネス（5） ラグジュアリーブランド戦略⑤エルメスとラグジュアリー	
	14	MARIE de TOITAのブランドコミュニケーション（1） デジタルテクノロジーとファッションビジネス、ファッションケーススタディ①米国の企業	
	15	MARIE de TOITAのブランドコミュニケーション（2） デジタルとファッション、ファッションケーススタディ②日本の企業	
到達目標・基準	◎B：ファッション業界で役立つコミュニケーションの手法を説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：日本経済新聞、日経MJ、WWD、アエラそしてビジネスサイトに目をおし、最新のビジネス情報を得る。毎回の小レポート対策として、次回授業計画の内容を調べておくこと（90分）。 事後学習：授業で得た知識やスキルを深めるため図書館やインターネット等で調べる（90分）。		
指導方法	パワーポイントやビデオ・映像を使用し講義形式で行う。毎回授業内でのリアクションペーパーの提出、およびレポート提出がある。		
成績評価の方法・基準	B：毎回のリアクションペーパー・定期試験を評価する 定期試験 60%、課題 25%、授業態度・貢献度 15%		
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示する		
参考書	授業内で指示する。		
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネットなどでファッションビジネスに関する記事をチェックすること。 映画、舞台芸術、美術館へ行き感性を養うこと。		
アクティブ・ラー	特になし		

ニング	
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
久保顯彦			
Subject Code : F23C35			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ICTの進化とスマートフォンの普及により、表現の進化が促され、ビジネスパーソンにとってデジタルリテラシーは必須のものとなっている。本授業は、本学オリジナルブランドであるMARIE de TOITAのデジタル部門の仕事を想定してすすめる。ファッション業界の仕事に必要なデジタル関連の情報や知識を概説し、仕事に役立つテクニックを磨くために「Adobe Illustrator」「Adobe Photoshop」「Keynote」「iMovie」の基本操作を身につける。さらに、デジタルでの課題制作をとおして表現力や独創性を高める。 (授業目標) ◎E：Macintoshの操作方法を理解し、「Adobe Photoshop」「Adobe Illustrator」「Keynote」「iMovie」の基本操作を身につける。		
授業計画	1	Macintoshの使い方 Macintosh (MacBook Pro) の基本操作とGoogleアプリの使い方	
	2	Adobe Photoshopの基本操作 Adobe Photoshopを使用した個人ワークとDropboxの使い方	
	3	Adobe Illustratorの基本操作 Adobe Illustratorを使用した個人ワークとEvernoteの使い方	
	4	Keynoteの基本操作（1） Keynote、Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを使用した個人ワーク	
	5	Keynoteの基本操作（2） Keynote、Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを使用した個人ワーク	
	6	iMovieの基本操作（1） iMovieを使用した個人ワーク	
	7	iMovieの基本操作（2） Movie、Keynote、Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを使用した個人ワーク	
	8	iMovieの課題制作（1） iMovie、Keynote、Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを使用した個人ワーク	
	9	iMovieの課題制作（2） Movie、Keynote、Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを使用した個人ワーク	
	10	プレゼンテーション（個人課題作品のプレゼンテーション） コンテスト形式での課題作品のプレゼンテーション	
	11	グループワーク MARIE de TOITAの動画制作（1）（グループワーク） iMovie、Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを使用したグループワーク	
	12	グループワーク MARIE de TOITAの動画制作（2）（グループワーク） iMovie、Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを使用したグループワーク	
	13	グループワーク MARIE de TOITAの動画制作（3）（グループワーク） iMovie、Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを使用したグループワーク	
	14	グループワーク プレゼンテーション（1）（グループによるプレゼンテーション） 各グループによるコンテスト形式での作品発表	
	15	グループワーク プレゼンテーション（2）（グループによるプレゼンテーション） 各グループによるコンテスト形式での作品発表	
到達目標・基準	◎E：Macintoshの基本的な操作ができる。		
事前・事後学習	事前学習：VOGUE、Harper's BAZAAR、ELLE DECOなどのファッション誌およびインテリア誌のレイアウトを中心にデザインについての知識を深めておく（20分）。 事後学習：あらゆるメディアをビジュアルの視点から比較検討する（25分）。		
指導方法	Macintosh (MacBook Pro) を操作する演習が中心で、Adobe Illustrator、Adobe Photoshop、iMovieのソフトを使いながら、使用方法や活用法を指導する。パワーポイント、映像を使つての講義や、課題制作を行う。後半部からは、チームで作品を制作するグループワークをとりいれプレゼンテーションを行う。		
成績評価の方法・基準	E：課題作品制作のオリジナリティとこだわりを評価する 課題作品 40%、チーム課題作品 40%、授業への貢献度 20%		
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示。		
参考書	授業内で指示する		
履修上の注意	毎日、あらゆるメディアでデジタル関連の記事をチェックすること。		

アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none">・グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーション
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
久保顯彦			
Subject Code : F23C29			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>経済のグローバル化とデジタルテクノロジーの急速な進化は、個人にさまざまな選択肢を増やし、そこから生じた価値観の多様化は、同時にライフスタイルの多様化をもたらした。本講義は、美的感性を高めるために世界の文化、アート、エンタテインメントについてを学ぶことを目的に、ライフスタイルを「衣」「食」「住」「遊」「知」「美」の観点に分け、ファッション視点でスタイルある生き方や美しい暮らしについてを概説する。 (授業目標) ◎D：自身の価値を高めるために、文化・アート・エンタテインメントを考察する習慣を身につける。</p>		
授業計画	1	ライフスタイルとライフコース スタイルある暮らし、生き方とは ライフコースの多様化と時間とお金の使い方について	
	2	ライフスタイル・「美」 (1) 美術館と博物館	
	3	ライフスタイル・「美」 (2) 絵画とファッション	
	4	ライフスタイル・「美」 (3) オペラ、バレエ	
	5	ライフスタイル・「美」 (4) 日本の伝統芸能	
	6	ライフスタイル・「遊」 (1) ブロードウェイとウエストエンド	
	7	ライフスタイル・「遊」 (2) ハリウッド映画と映画スター	
	8	ライフスタイル・「衣」、ファッションとエンタテインメント 映画衣裳、舞台衣裳	
	9	ライフスタイル・「遊」 (3) ヨーロッパ映画、アジア映画	
	10	ライフスタイル・「知」 (1) 読書と図書館、小説家	
	11	ライフスタイル・「住」 (1) 建築家と世界の名建築	
	12	ライフスタイル・「住」 (2) 庭園、別荘、インテリア	
	13	ライフスタイル・「食」、アートと食 無形文化遺産と食文化、スターシェフについて	
	14	ライフスタイル・「美」 (5) 日常と非日常 美しい暮らし	
	15	ライフスタイル・「知」 (2) アートとチャリティ	
到達目標・基準	◎D：スタイルある暮らしを説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌、インテリア雑誌などでライフスタイル全般について自身の好みを明確にしておく。毎回の小レポート対策として、次回授業計画の内容を調べておく(90分)。 事後学習：自身の価値を高めるため美術館に行き直接アートに触れ、映画・舞台芸術をとおして感性を養う(90分)。		
指導方法	パワーポイントや映像を使用し講義形式で行う。毎回授業内でのリアクションペーパーの提出、および2回のレポート提出がある。		
成績評価の方法・基準	D：リアクションペーパー、定期試験を評価する 定期試験 60%、課題 25%、授業態度・貢献度 15%		
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示		
参考書	授業内で指示する。		
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネットなどで文化、芸術、エンタテインメントに関する記事をチェックすること。		

アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
久保 顯彦			
Subject Code : F39A66			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「ファッション プランニングモデル」 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、ゲスト講師を招くなど、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。 本ゼミナールは、ファッション業界の本部（本社）での職種の役割と仕事内容を理解する。 (授業目標) ○B：グループワークにおける自分の役割を実行しながら、主体的に自分の考えをまとめることができる。 ◎C：自分の考えを論理的にプレゼンテーションすることができる。</p>		
授業計画	1	ファッション業界について（1） 本ゼミナールの概要、ファッション業界の職種について	
	2	キャリア講座（1）「就職活動の準備」（キャリアセンター） 卒業生内定先、就職活動のスケジュールと現状について	
	3	「本部の職種研究」（1）（個人ワークおよびペアワーク） ファッション業界における本部の役割、職種について	
	4	ファッション業界の現状（外部講師） ファッション業界におけるキャリアアップと現状について	
	5	「本部の職種研究」（2）（プレゼンテーション） ペアワークによる「本部の職種研究」のプレゼンテーションおよび評価とリフレクション	
	6	2年生内定者による就職体験講話 2年生内定者による就職体験講話	
	7	キャリア講座（2）「SPI模試」 就職活動における筆記試験対策として模試を行う	
	8	「本部営業職の研究」（1）（グループワーク） 営業の仕事内容、必要な力を考える 履歴書の書き方	
	9	「本部営業職の研究」（2）（グループワーク） 営業として担当店舗の売上増加戦略を考える エントリーシートの書き方	
	10	「本部営業職の研究」（3）（グループによるプレゼンテーション） グループワークによる「本部営業職の研究」のプレゼンテーションおよび評価とリフレクション	
	11	「本部プレス職の研究」（1）（グループワーク） プレスの仕事内容、必要な力を考える 自己分析	
	12	2年生内定者懇談会 2年生内定者による個別相談会	
	13	「本部プレス職の研究」（2）（グループワーク） プレスとしてブランドイメージの向上を考える	
	14	「本部プレス職の研究」（3）（グループによるプレゼンテーション） グループワークによる「本部プレス職の研究」のプレゼンテーションおよび評価とリフレクション	
	15	ファッション業界について（2） 本部のマーチャンダイザー職と生産管理（プロダクトコントローラー）職について	
到達目標・基準	○B：グループワークにおける自分の役割を責任を持って実行できる。 ◎C：自分の考えを論理的に説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、あるいはインターネットから最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料にまとめておく（25分）。		
指導方法	パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、個人ワーク、グループ討論、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。ファッション企業や流通業の店舗調査を行い、売るための仕組みや戦略を学ぶ。		
成績評価の方法・基準	○B：受講態度及びグループワークでの貢献度を評価する。 ◎C：プレゼンテーション、課題を評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%		
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布する。		

参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	ファッション業界及びファッション関連業界において就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式等で行う。 映画、舞台芸術、美術館に行き感性を養うこと。 図書館にある「日経MJ」、「WWD」、「アエラ」を一読することを望む。
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション ・グループワーク ・プレゼンテーション
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
久保顯彦、井上近子			
Subject Code：F28C64			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>アパレル業界及びアパレル関連業界での就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式等で行う。1年次キャリアゼミのプレゼンテーション内容「職種研究」「店舗調査」をふまえて、店長や経営者にとって必要な店舗運営や販売管理などの経営的視点を養い「理想のアパレル店舗」を立案することを目的とする。</p> <p>(授業目標) アパレル小売業経営に必要となる知識やスキルを理解する。</p> <p>◎A：小売業経営に対して積極的に調査を行い、ファシリテーターとしてグループ内の話し合いを通じて自分の考えをまとめる力を身につける。 ○E：自分の考えを状況に相応しい手法を用いて論理的にプレゼンテーションするスキルを修得する。</p>
授業計画	<p>1 店舗運営コスト（1）（グループワーク） 個人およびグループによる「アパレル小売業における店舗運営」の研究</p> <p>2 店舗運営コスト（2）（グループワーク） グループによる「アパレル小売業における店舗運営」の研究</p> <p>3 店舗運営コスト（3）（グループワーク、プレゼンテーション） グループによる「店舗運営コスト」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り</p> <p>4 ファッション業界の現状（ゲスト講師） ファッション業界におけるキャリアアップと現状について</p> <p>5 店舗出店コスト（1）（グループワーク） 個人およびグループによる「アパレル小売業における店舗出店」の研究</p> <p>6 店舗出店コスト（2）（グループワーク） グループによる「アパレル小売業における店舗出店」の研究</p> <p>7 店舗出店コスト（2）（グループワーク、プレゼンテーション） グループによる「店舗出店コスト」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り</p> <p>8 学外プロジェクト（1）（グループワーク） Kissポート財団との連携による学外プロジェクト</p> <p>9 学外プロジェクト（2）（グループワーク） Kissポート財団との連携による学外プロジェクト</p> <p>10 学外プロジェクト（3）（グループワーク） Kissポート財団との連携による学外プロジェクト</p> <p>11 学外プロジェクト（4）（グループワーク、プレゼンテーション） Kissポート財団との連携による学外プロジェクトの発表と評価</p> <p>12 学外プロジェクトの振り返りと「理想の店舗」（グループワーク、プレゼンテーション） Kissポート財団との連携による学外プロジェクトの振り返りと「理想の店舗」立案について</p> <p>13 理想の店舗（1）（グループワーク） グループによる「理想の店舗」に必要な条件（人、モノ、カネ、ノウハウ）の討論</p> <p>14 理想の店舗（2）（グループワーク） グループによる「理想の店舗」を計画し、報告書を作成する</p> <p>15 理想の店舗（3）（グループワーク、プレゼンテーション） グループによる「理想の店舗」を発表する</p>
到達目標・基準	◎A：小売業経営に対して興味を持ちながら話し合いを進めることができる。 ○E：自分の考えを人前で説明できる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、インターネット、店舗調査から最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：情報収集した内容をもとに「売るための戦略」についてまとめる（25分）。
指導方法	履修者を2クラスに分けて指導を行う。パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、個人ワーク、グループ討論、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。アパレル企業の店舗調査を行い、店舗運営の手法やブランドマーケティングを学ぶ。
成績評価の方法・基準	A：主体性・チームワーク・責任感：ファシリテーター役など授業への貢献度を評価する。 E：技能・表現：討論でのプレゼンテーションを評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	適宜プリント資料を配布する。
参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	映画、舞台芸術、美術館に行き感性を養い、図書館で「日経MJ新聞」や「WWD」等を読んでおくこと。

アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none">・ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：必修
担当教員			
井上近子			
Subject Code : F12A02			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>ファッション造形（服飾造形）は、アート（芸術）、建築、デザイン、音楽、カルチャー（文化）などと、さまざまな関わりをもって創造される。ファッションデザイナー達は、アートをデザインソース（源泉）として、インスパイア（創作意欲を刺激）され、あるいはオマージュ（賛辞）を捧げるためにシーズンコレクションを発表することに力を注いでいる。本講義は、プロダクトデザイン（服飾製品）が生まれた源泉（芸術）を捉えつつ、デザイナーの個性はもちろんのこと、社会構造や時代背景との関わりについて解説をしていく。</p> <p>（授業目標） 服飾造形が生まれた源泉について、芸術領域の観点から考察する。 ◎D：各時代における社会構造や時代背景をふまえ、服飾造形の特徴と芸術との関わりを理解する。</p>		
授業計画	1	ファッションとアートの関連性 サンローランとモンドリアン、ルイヴィトンと村上隆などの作品にみるファッションとアートの関わりについて	
	2	19世紀末の装飾芸術「アールヌーボー」 資生堂のロゴマーク、広告とパッケージデザインにみる芸術的造形について	
	3	1920年代の世界恐慌と退廃美「シュルレアリスム」 スキヤパレリとダリ、コクトーのコラボレーションについて	
	4	1930年代の低コストモダン「アールデコとミニマリズム」 シャネルとポールポワレ、ラルリックの香水瓶、バウハウスの合理主義・機能主義について	
	5	1960年代の大衆消費社会イメージ「ポップアート」 アンディウォーホル、キースヘリングによるコミック表現について	
	6	1970年代のカウンターカルチャー「サイケデリックムーブメント」 寺山修二、横尾忠則にみる舞台芸術、エミリオプッチの色彩柄について	
	7	1980年代前半の反美学「ポストモダン」 川久保玲、山本耀司による表現、三宅一生の一枚布について	
	8	1980年代後半の造形美「ボディコンシャス」 アズティンアライアの功績とその後の影響力について	
	9	1990年代初頭の最小限美学「ネオミニマリズム」 ヘルムートラング、ジルサンダーにみるリアルクローズファッションについて	
	10	1990年代後半のカルチャーファッション「グランジルック」 ヒップホップとファッション、マルジェラのモードとエレガンスについて	
	11	ファッション誌を演出した芸術家たち ハーバースパザーとヴォーグを彩った芸術家、フォトグラファーについて	
	12	エンタテインメント化するファッションショー シャネル、マックイーン、ヴィクター&ロルフにみる劇場化について	
	13	デザイナーのミューズ（女神）とそのライフスタイル イーディ、ナオミキャンベル、ケイトモスのファッションと生き方について	
	14	映画と衣装デザイナーの関係 映画に登場するサンローラン、ラルフローレン、アルマーニ、ゴルチェの衣装デザインについて	
	15	21世紀を代表するデザイナーのポジショニング エンタテイナーのカーララガーフェルドとエコロジカルなステラマッカートニーの文化的活動について	
到達目標・基準	◎D：各時代における服飾造形の特徴と芸術のテーマについて説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：講義内容のテーマについて、図書館等で調べておくこと（90分）。 事後学習：講義の事例以外の内容について、各時代の特徴を図書館や美術館等で確認すること（90分）。		
指導方法	プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で授業を行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることが心掛けることが大切である。		
成績評価の方法・基準	D：定期試験、課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験70%、受講態度・貢献度20%、課題10%		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。		
参考書	「ファッションの世紀 共振する20世紀のファッションとアート」著者：深井晃子 出版社：平凡社		
履修上の注意	受講生が本科目を理解するうえで大切な姿勢は、講義に関連する内容について、日頃から図書館で文献を調べたり、映画、舞台芸術、美術館で確認する習慣を身につけることである。		
アクティブ・ラーニング	特になし		

ICTの活用	特になし
--------	------

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
Subject Code : F14C28			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッション小売業において、良い商品、価値のある安さの提供は、どこの店でも当たり前であり、店の差別化の条件とはいえなくなっている。そのため、お客様に豊かな衣料サービスを提供できる販売スタッフが求められている。本講義では、ファッション販売に必要な接客技術や事務管理、商品知識、売場づくりの方法について解説する。また、ファッション小売業の現状と課題、進展についても取り上げて講義を行う。7月、12月に実施される「ファッション販売能力検定3級」の受験に対応し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) ファッション業界で活躍できる人材として「ファッション販売能力検定3級」程度の知識を身につける。 ◎D：日々のニュース、店舗調査などからファッション小売業の現状と課題について考察する。
授業計画	<p>1 ファッションビジネスの知識 ファッション産業の分類、商品計画の流れについて</p> <p>2 ファッション小売業の構造と特徴 ファッション小売業の業態、百貨店、専門店の特徴について</p> <p>3 SPAとセレクトショップ 企画から販売方法、組織形態の違いについて</p> <p>4 ファッション小売業のマーケティング戦略 セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニングの設定について</p> <p>5 コンセプトの策定 トレンド情報の収集、シーズンコンセプト、スタイリングテーマについて</p> <p>6 営業計画の策定 営業期、品揃え計画、販売促進計画、売場レイアウトについて</p> <p>7 売場構成、商品陳列の基本知識 VMDにおける3つの手法、空間構成の種類、商品陳列の基本技術について</p> <p>8 販売員の業務内容と基本マナー 開店から閉店までの基本的な業務内容、接客用語、電話対応、クレーム対応と処理について</p> <p>9 購買心理の7段階 販売の流れと販売員の基本動作、コンサルティングセールスについて</p> <p>10 顧客管理の基本知識 顧客満足経営の重要性、固定客づくりについて</p> <p>11 売場における計数管理 予算比、前年比、客単価、値入高と粗利益、商品回転率について</p> <p>12 ファッション商品の知識 アイテム・デザインによる分類、ディテール、シルエット&ラインについて</p> <p>13 素材の知識 素材の種類、その長所と短所、柄について</p> <p>14 サイズ・品質表示 サイズの読み方、組成表示、取扱表示、原産国表示、品質マーク表示について</p> <p>15 競合店調査の方法 商品特性、商品構成、価格帯、売場づくり、客層、接客サービスについて</p>
到達目標・基準	◎D：ファッション販売員に必要な基礎知識である業務内容、商品知識、売場づくりの方法について説明できる。
事前・事後学習	事前学習：日々の新聞やニュース、店舗調査などからアパレル小売業の現状に触れる。分からない専門用語を調べてまとめておくこと（90分）。 事後学習：興味のある記事・ニュース、店舗調査内容をまとめる（90分）。
指導方法	教科書、プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で授業を行う。板書が多くなるため、素早く書き取れることを心がけることが大切である。
成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、受講態度・貢献度20%、小テスト10%、課題10%
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「ファッション販売3」著者：財団法人日本ファッション教育振興協会 出版社：日本ファッション教育振興協会 「ファッション販売能力検定3級試験問題集」著者：財団法人日本ファッション教育振興協会 出版社：日本ファッション教育振興協会
履修上の注意	「ファッション販売能力検定試験3級」の資格取得を目指す学生は、本科目と「服飾造形論」「ファッション素

	材論」を併せて受講することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
Subject Code : F14C29			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	マーケティングの基本理念は、消費者の利益を第一に考えた経営活動を行うことにある。その消費者のニーズに対応した商品を仕入れたり、つくらせたりする計画と管理の機能をマーチャダイジング（商品計画）とよぶ。本講義は、商品計画の業務内容である商品企画から商品の選定、仕入活動、在庫管理に至る一連の流れについて明らかにしながら、価格設定の考え方、利益の構造などについて解説していく。2月に実施される「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 （授業目標） 流通業界におけるバイヤーや店長となる人材として「リテールマーケティング（販売士）検定3級」程度の知識を身につける。 ◎D：小売業における計数管理や在庫管理のしくみを理解し、商品計画における業務の知識を修得する。
授業計画	<p>1 マーケティングとマーチャダイジングの違い メーカーと小売業における4Pの違いについて</p> <p>2 小売業のマーケティング戦略 外部環境と内部資源の把握、標的市場と商圈の設定について</p> <p>3 マーケティング・ミックスの構築 商品構成、商取引流通の設定、販売促進策について</p> <p>4 顧客管理の基本的役割 顧客満足経営の基本知識、FSP（フリークエントショッパーズプログラム）について</p> <p>5 売場の基本知識 ゾーニングの構築から売場レイアウトの設計について</p> <p>6 マーチャダイジングの構成要素 商品計画から商品管理、5つの適正について</p> <p>7 商品計画の意義およびその構造 具体的な内容と策定方法、品揃えの幅と奥行について</p> <p>8 仕入計画の立て方 商品カテゴリー別の予算編成と留意点について</p> <p>9 仕入方法と発注方法 大量仕入と当用仕入、定量発注法と定期発注法について</p> <p>10 売価決定の要素 売価と原価と利益の関係、値入高と値入率について</p> <p>11 利益の構造 商品ロスの基本的原因、粗利益高、粗利益率について</p> <p>12 在庫管理の意義 過剰在庫の発生原因、金額および数量管理について</p> <p>13 商品回転率と交差比率 商品回転率および日数の算出方法、貢献度分析手法について</p> <p>14 POSシステム POSシステムのしくみ、販売データの活用方法について</p> <p>15 戦略的な価格政策と心理的価格政策 端数価格、段階価格、慣習価格、名声価格、均一価格、ハイ・アンド・ロープライス、エブリデイロープライスについて</p>
到達目標・基準	◎D：小売業における商品計画の流れを説明できる。
事前・事後学習	事前学習：新聞記事や経済誌、テレビ等で新製品やヒット商品、ロングセラー商品に関するニュースを確認し、分からない専門用語を調べてまとめておく（90分）。 事後学習：興味のある記事・ニュースを1つ取り上げて、要約する（90分）。
指導方法	教科書、プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることが心がけることが大切である。
成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、受講態度・貢献度20%、小テスト10%、課題10%
テキスト	「販売士養成講習会3級テキストⅠ」日本商工会議所・全国商工会連合会編
参考書	「商品戦略と診断」著者：大江 宏・村松 幸広・首藤 禎史 出版社：同友館
履修上の注意	「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の資格取得を目指す学生は、本科目と「消費と流通」「販売と経営」の3科目すべてを同学期に履修し、以下の条件を満たすことで、検定試験5科目のうち1科目が受験免除される。①第1回の授業に出席すること（本学で受験免除希望者名簿を作成するため）。②11月末に学内で実施す

	る予備試験までの出席率が80%以上であること。③予備試験は70点以上であること。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
Subject Code : F14C30			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	小売業における販売管理とは、事務管理から人事管理、店舗管理まで多岐にわたる。本講義は、販売管理の基礎知識を学修し、販売に関わる事務管理や計数管理の必要性、照明や色彩技術を活用した売場演出の方法について解説していく。2月に実施される「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) 流通業界におけるバイヤーや店長となる人材として「リテールマーケティング（販売士）検定3級」程度の知識を身につける。 ◎D：小売業経営に必要な人事管理、店舗管理の留意点、財務諸表の見方、販売活動に関する法規の知識を修得する。		
授業計画	1	販売員の目的と役割 販売員と顧客の関係、クレームや返品への対応について	
	2	顧客の購買心理過程 顧客心理と接客販売技術について	
	3	小売業の販売業務 ワークスケジューリング、人時生産性について	
	4	商品陳列の基本知識 陳列器具と販売方法における基本陳列の種類について	
	5	売場演出の技術 店内照明の種類と役割、ディスプレイ効果を高める色彩の活用について	
	6	慶弔進物の基礎知識 包装の種類、和式進物包装について	
	7	金銭管理の基本知識 金券類の扱いと代金支払い方法の種類について	
	8	販売活動に関する法規 売買契約、割賦販売、訪問販売、通信販売に関する法規について	
	9	不当景品類の規制 総付景品、一般懸賞、共同懸賞の最高額および総額の制限について	
	10	不当表示の防止 規制の目的、商品名原材料、性能・品質、信用誤認の表示について	
	11	小売店経営における計数管理の必要性 売上・利益・原価の関係、値入高と粗利益高の違いについて	
	12	損益計算書の見方 4つの費用と5つの利益について	
	13	売買損益の計算法 売上高、売上原価、売上総利益について	
	14	商品の安全確保に関する法規 薬事法、PL法、JAS法、消費期限と賞味期限の違い、トレーサビリティについて	
	15	小売業におけるリスクマネジメント 万引き防止対策とセキュリティシステムについて	
到達目標・基準	◎D：販売員に必要な接客技術や売場づくりの方法について説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：新聞記事や経済誌、テレビ等で小売経営や販売に関するニュースを確認し、分からない専門用語を調べてまとめておく（90分）。 事後学習：興味のある記事・ニュースを1つ取り上げて、要約する（90分）。		
指導方法	教科書、プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。		
成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、受講態度および授業への貢献度によって評価する。 定期試験60%、小テスト20%、受講態度・貢献度20%		
テキスト	「販売士養成講習会3級テキストⅡ」日本商工会議所・全国商工会連合会編		
参考書	「営業管理実務」著者：営業管理研究会監修 出版社：産業能率大学出版部		
履修上の注意	「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の資格取得を目指す学生は、本科目と「消費と流通」「商品企画」の3科目すべてを同学期に履修し、以下の条件を満たすことで、検定試験5科目のうち1科目が受験免除される。①第1回の授業に出席すること（本学で受験免除希望者名簿を作成するため）。②11月末に学内で実施する		

	予備試験までの出席率が80%以上であること。③予備試験は70点以上であること。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
Subject Code : F23C30			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	現代の企業経営では、“マーケティングなくして経営なし”と言われるように、マーケティングは不可欠な位置づけにある。企業のマネジメントを遂行するためには、マーケティング機能をいかに統合的に組み合わせて展開するかが課題である。本講義では、企業経営におけるマーケティングの役割やポイントについて理解を深める。 (授業目標) 企業経営や組織運営に不可欠なマーケティングの役割を理解する。 ◎D：理論にもとづいて、企業や組織が取り組むマーケティング戦略の事例について考察する。
授業計画	<p>1 マーケティングとは マーケティングの歴史の変遷、現代企業におけるマーケティングの役割について</p> <p>2 顧客価値と顧客満足 顧客が得られるベネフィットとコストとの関係について</p> <p>3 マーケティング環境の分析 SWOT分析とポーターの5つの競争要因について</p> <p>4 マーケティング・ミックスの重要性 STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）戦略、ペルソナ分析について</p> <p>5 マーケティング・リサーチ 定性と定量調査、アンケート調査、観察調査、行動観察、インタビュー調査について</p> <p>6 ブランド戦略 ブランド・エクイティ、ブランド要素、ブランド拡張について</p> <p>7 製品戦略 製品ライフサイクル理論とイノベーション普及理論について</p> <p>8 価格戦略 上澄み吸収価格と市場浸透価格、消費者心理を考慮した価格政策、参照価格について</p> <p>9 流通戦略 直接流通と間接流通チャネルの特徴、オムニチャネル戦略の課題について</p> <p>10 販売促進戦略 プッシュ戦略とプル戦略の違い、値引きのネガティブ効果、景品表示法について</p> <p>11 マーケティング・コミュニケーション 広告の変遷、消費者反応プロセス、コミュニケーションのノイズについて</p> <p>12 サービス・マーケティング サービスの特性（無形性、同時性、消滅性など）、優れたサービスの定義（SERVQUAL）について</p> <p>13 リレーションシップ・マーケティング パレートの法則、CRM（カスタマーリレーションシップマーケティング）について</p> <p>14 経験価値マーケティング SENSE（感覚）、FEEL（喜怒哀楽）、THINK（思考）、ACT（行動）、RELATE（交流）について</p> <p>15 ソーシャル・マーケティング 企業の社会的責任（CSR）、コズ・リレーテッド・マーケティングについて</p>
到達目標・基準	◎D：マーケティングの基礎理論および用語を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：日々のニュースから企業が取り組むマーケティング戦略について確認しておくこと（90分）。 事後学習：興味ある新聞記事やニュース内容をまとめておくこと（90分）。
指導方法	プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で授業を行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることが心がかかることが大切である。
成績評価の方法・基準	D：定期試験、課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験70%、受講態度・貢献度20%、課題10%
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「基礎コース マーケティング」 著者：小原 博 出版社：新世社
履修上の注意	日頃からニュースなどで企業が取り組むマーケティング戦略を確認しておくことで、マーケティングの基本的な発想法を単なる知識としてではなく、感覚として身につけることを望む。
アクティブ・ラーニング	特になし

ICTの活用	特になし
--------	------

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
井上近子			
Subject Code : F39A66			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「ファッション セールスモデル」</p> <p>学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、ゲスト講師を招くなど、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。</p> <p>本ゼミナールでは、ファッション業界の企業と職種を知り、店舗調査を通して販売に必要な知識を理解する。 (授業目標)</p> <p>○B：グループワークにおける自分の役割を実行しながら、主体的に自分の考えをまとめる力を修得する。 ◎C：自分の考えを論理的にプレゼンテーションするスキルを身につける。</p>		
授業計画	1	ファッション業界の基礎 本ゼミナールの概要、ファッション業界の現状について	
	2	就職活動の準備 (キャリアセンター) 卒業生内定先、就職活動のスケジュールと現状について	
	3	職種研究 (ペアワーク) ファッション業界における店舗と本部の役割、職種について	
	4	ファッション業界の現状 (外部講師) ファッション業界におけるキャリアアップと現状について	
	5	職種研究 (ペアワーク、プレゼンテーション) ペアワークによる「職種研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り	
	6	2年生内定者による就職体験講話 2年生内定者の紹介、就職活動の注意点とアドバイスについて	
	7	SPI模試 (キャリアセンター) 就職活動における筆記試験対策として模試を行う	
	8	ファッション販売員の研究 (グループワーク) 業態別におけるファッション販売員の役割、売れる販売員の条件とは	
	9	ファッション販売員の研究 (グループワーク) 業態別におけるファッション販売員の役割、売れる販売員の条件とは	
	10	ファッション販売員の研究 (グループワーク、プレゼンテーション) グループによる「ファッション販売員の研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り	
	11	履歴書およびエントリーシート書き方 (グループワーク) グループによる志望企業の研究、エントリーシート書き方の注意点について	
	12	2年生内定者懇談会 2年生内定者による個別相談会	
	13	店舗運営の研究 (グループワーク) 販売員から見た店舗運営のあり方、客数および売上を上げる方策とは	
	14	店舗運営の研究 (グループワーク) 販売員から見た店舗運営のあり方、客数および売上を上げる方策とは	
	15	店舗運営の研究 (グループワーク、プレゼンテーション) グループによる「店舗運営の研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り	
到達目標・基準	○B：グループワークにおける自分の役割を責任を持って実行できる。 ◎C：自分の考えを論理的に説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、あるいはインターネットから最新のファッション・ビジネス情報を得ておく (20分)。 事後学習：毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料にまとめておく (25分)。		
指導方法	パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、個人ワーク、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。アパレル企業の店舗調査を行い、店舗運営の特徴やマーケティング戦略を学ぶ。		
成績評価の方法・基準	B：授業態度およびグループワークの貢献度を評価する。 C：プレゼンテーション、課題を評価する プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%		
テキスト	適宜プリント資料を配布する。		
参考書	参考文献に関してはその都度指示する。		
履修上の注意	業態を問わず、日頃から4P (商品、価格、立地、販売促進) の視点で店舗調査を行い、問題点と改善策を考える習慣を身につけること。		

	また、映画、舞台芸術、美術館に行き感性を養い、図書館にある「日経MJ新聞」や「WWD」を一読することを望む。
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション ・グループワーク ・プレゼンテーション
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
久保顯彦、井上近子			
Subject Code：F28C64			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>アパレル業界及びアパレル関連業界での就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式等で行う。1年次キャリアゼミのプレゼンテーション内容「職種研究」「店舗調査」をふまえて、店長や経営者にとって必要な店舗運営や販売管理などの経営的視点を養い「理想のアパレル店舗」を立案することを目的とする。</p> <p>(授業目標) アパレル小売業経営に必要となる知識やスキルを理解する。</p> <p>◎A：小売業経営に対して積極的に調査を行い、ファシリテーターとしてグループ内の話し合いを通じて自分の考えをまとめる力を身につける。 ○E：自分の考えを状況に相応しい手法を用いて論理的にプレゼンテーションするスキルを修得する。</p>
授業計画	<p>1 店舗運営コスト（1）（グループワーク） 個人およびグループによる「アパレル小売業における店舗運営」の研究</p> <p>2 店舗運営コスト（2）（グループワーク） グループによる「アパレル小売業における店舗運営」の研究</p> <p>3 店舗運営コスト（3）（グループワーク、プレゼンテーション） グループによる「店舗運営コスト」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り</p> <p>4 ファッション業界の現状（ゲスト講師） ファッション業界におけるキャリアアップと現状について</p> <p>5 店舗出店コスト（1）（グループワーク） 個人およびグループによる「アパレル小売業における店舗出店」の研究</p> <p>6 店舗出店コスト（2）（グループワーク） グループによる「アパレル小売業における店舗出店」の研究</p> <p>7 店舗出店コスト（2）（グループワーク、プレゼンテーション） グループによる「店舗出店コスト」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り</p> <p>8 学外プロジェクト（1）（グループワーク） Kissポート財団との連携による学外プロジェクト</p> <p>9 学外プロジェクト（2）（グループワーク） Kissポート財団との連携による学外プロジェクト</p> <p>10 学外プロジェクト（3）（グループワーク） Kissポート財団との連携による学外プロジェクト</p> <p>11 学外プロジェクト（4）（グループワーク、プレゼンテーション） Kissポート財団との連携による学外プロジェクトの発表と評価</p> <p>12 学外プロジェクトの振り返りと「理想の店舗」（グループワーク、プレゼンテーション） Kissポート財団との連携による学外プロジェクトの振り返りと「理想の店舗」立案について</p> <p>13 理想の店舗（1）（グループワーク） グループによる「理想の店舗」に必要な条件（人、モノ、カネ、ノウハウ）の討論</p> <p>14 理想の店舗（2）（グループワーク） グループによる「理想の店舗」を計画し、報告書を作成する</p> <p>15 理想の店舗（3）（グループワーク、プレゼンテーション） グループによる「理想の店舗」を発表する</p>
到達目標・基準	◎A：小売業経営に対して興味を持ちながら話し合いを進めることができる。 ○E：自分の考えを人前で説明できる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、インターネット、店舗調査から最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：情報収集した内容をもとに「売るための戦略」についてまとめる（25分）。
指導方法	履修者を2クラスに分けて指導を行う。パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、個人ワーク、グループ討論、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。アパレル企業の店舗調査を行い、店舗運営の手法やブランドマーケティングを学ぶ。
成績評価の方法・基準	A：主体性・チームワーク・責任感：ファシリテーター役など授業への貢献度を評価する。 E：技能・表現：討論でのプレゼンテーションを評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	適宜プリント資料を配布する。
参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	映画、舞台芸術、美術館に行き感性を養い、図書館で「日経MJ新聞」や「WWD」等を読んでおくこと。

アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none">・ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	服専：選択
担当教員			
楠香代子			
Subject Code：1年生F38C64		Subject Code：2年生F17C61	

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>インターンシップ1は、事前、事後研修を含み、原則として実習期間が5日間以上(40時間相当)の実習・研修などの就業体験をするプログラムである。インターンシップ研修を通じ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。プログラム参加希望者全員は必ず事前研修へ参加をし、研修先決定後に各企業でのインターンシップ研修を実施、研修終了後に事後研修を受講すること。研修先は、履修モデルとリンクした業界から選ぶことができる。また、自ら研修先を探すこともできる。</p> <p>(授業目標) インターンシップ1は、自己の職業適性や将来設計について思考し、主体的な職業選択や高い職業意識を育成することを目的とするが、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付けなければいけないという自覚を持ち、行動していく自主性を持つことを目標とする。</p> <p>◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感を養うことができる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携の必要性を養うことができる。</p>
授業計画	<p>1 説明会（6月4日（火）課外時間にて実施予定） インターンシップの意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、研修先案内等の説明</p> <p>2 事前研修（6月18日（火）および7月16日（火）課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） 個人情報保護、守秘義務、マナー、研修の受け方等を行うほか、研修先企業の探し方、案内を行う。</p> <p>3 業界別事前研修 業界により内容が異なるため①・②・③のいずれかから出席する。（ゲスト講師） ① ウェディング業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ② ホテル業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ③ 事務、サービス系（アパレルその他を含む）インターンシップ（課外時間にて実施予定）</p> <p>4 インターンシップ選考 インターンシップにあたっては、あくまでも企業スケジュールに準じて実施されるものである。希望により研修先を選ぶことができるが、各企業の参加学生枠に制限がある。希望者多数の場合は、学内選考または企業内選考を実施し、選考から外れた場合は希望企業での研修が受けられない可能性がある。また、研修日程や実習内容は企業の意向に準ずるため、決定に時間を要する場合がある。</p> <p>5 インターンシップ研修 事前に企業ごとに各自、面接、日程調整を行い、実習を行う。 実習日は必ず日報を作成し、担当者より捺印またはサインをもらうこと。 最終日には、研修担当者より修了証明書を交付いただくこと。 勤務体系は実習先の規定に準ずる。基本的に夏期休暇中、原則として実習期間が5日間以上(40時間相当、事前研修、事後研修時間を含む)とする。 ・場所：研修先による。 ・報酬：基本的にはないが、研修先による。研修終了後アルバイト契約で継続することを推奨する。 実施を予定する夏期・春期休暇中は、企業スケジュールに準じて研修が実施されるものであり、私的な予定等による欠勤は原則認めない。 実習中は戸板生の代表として実習へ参加していることを忘れず、実習先に迷惑にならないように配慮すること。</p> <p>6 事後研修（ゲスト講師） インターンシップ研修修了後、実施報告書の提出と振り返りを行い、その結果を学科ゼミナール、戸板ゼミナールで発表する。</p> <p>7 担当教員との研修後面談 インターンシップ研修修了後、提出した実施報告書をもとに担当教員と実習の振り返り等を含めた面談を実施し、総合的な評価のもと単位認定の決定がなされる。</p>
到達目標・基準	<p>自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。</p> <p>◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を理解できる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解しておくこと。またインターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を得たいか等の目標を設定することが望ましい。</p> <p>事後学習：自身の経験をポートフォリオ作成しまとめることで、就職活動で活かせるよう準備する。また、事後研修で振り返り・発表を行う中で、その他の学生の経験談から幅広い業界・職種の知見等の情報共有を図る。</p>
指導方法	担当教員の他、業界に精通する専門家、キャリアセンターの協力により実施する。
成績評価の方法・基準	<p>事前、事後研修、実習を5日間以上(40時間相当)実施し、研修先の評価表（出勤状況、勤務態度含む）、日報、発表内容をもとに、実習後の担当教員との面談により総合的に評価する。</p> <p>なお、実施しても資料の不備（研修先の印がない等）、期限後の提出者には単位不可となる場合がある。また、以下項目を基準に評価する。</p> <p>A：社会での主体性・チームワーク・責任感の必要性を経験している。 B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携に必要性があることを経験している。</p>

テキスト	なし
参考書	インターンシップ説明会にて配布
履修上の注意	<p>インターンシップ1は授業時間外に説明会、事前研修、実習、事後研修、発表を行う。夏期休暇中と春期休暇中に実施するが、春期については、一部の業界のみ実施する予定である。履修登録はインターンシップ研修終了後に登録する。</p> <p>従って夏期は1年後期、春期は2年前期に単位取得となる。</p> <p>自ら探した研修先は、学校との覚書を締結した企業のみ、インターンシップの履修を認める。</p> <p>インターンシップ1、2の説明会、事前・事後研修は、合同で開催する。1と2の違いは総研修日数(時間)の違いである。1は5日間以上(40時間相当)、2は6日間以上(45時間相当)、1、2ともインターンシップ終了後は、引き続きアルバイト契約にて実務経験を継続することを前提とする。</p> <p>事前研修を欠席した場合、単位は認定不可。また、事前研修の補講は原則行わないものとする。</p>
アクティブ・ラーニング	特に無し
I C Tの活用	特に無し

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	服専：選択
担当教員			
楠香代子			
Subject Code：1年生F38C65		Subject Code：2年生F17C62	

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>インターンシップ2は、原則として実習期間が6日間以上(45時間相当)の実習・研修などの就業体験をするプログラムである。インターンシップ研修を通じ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。プログラム参加希望者全員は必ず事前研修へ参加をし、研修先決定後に各企業でのインターンシップ研修を実施、研修終了後に事後研修を受講すること。研修先は、履修モデルとリンクした業界から選ぶことができる。また、自ら研修先を探すこともできる。</p> <p>(授業目標)</p> <p>インターンシップ2は、自己の職業適性や将来設計について思考し、主体的な職業選択や高い職業意識を育成することを目的とするが、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付けなければいけないという自覚を持ち、行動していく自主性を持つことを目標とする。</p> <p>◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感を養うことができる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携の必要性を養うことができる。</p>
授業計画	<p>1 説明会（6月4日（火）課外時間にて実施予定） インターンシップの意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、研修先案内等の説明</p> <p>2 事前研修（6月18日（火）および7月18日（火）課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） 個人情報保護、守秘義務、マナー、研修の受け方等を行うほか、研修先企業の探し方、案内を行う。</p> <p>3 業界別事前研修 業界により内容が異なるため①・②・③のいずれかに出席する。（ゲスト講師） ① ウエディング業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ② ホテル業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ③ 事務、サービス系（アパレルその他を含む）インターンシップ（課外時間にて実施予定）</p> <p>4 インターンシップ選考 インターンシップにあたっては、あくまでも企業スケジュールに準じて実施されるものである。希望により研修先を選ぶことができるが、各企業の参加学生枠に制限がある。希望者多数の場合は、学内選考または企業内選考を実施し、選考から外れた場合は希望企業での研修が受けられない可能性がある。また、研修日程や実習内容は企業の意向に準ずるため、決定に時間を要する場合がある。</p> <p>5 インターンシップ研修 事前に企業ごとに各自、面接、日程調整を行い、実習を行う。 実習日は必ず日報を作成し、担当者より捺印またはサインをもらうこと。 最終日には、研修担当者より修了証明書を交付いただくこと。 勤務体系は実習先の規定に準ずる。基本的に夏期休暇中、原則として実習期間が6日間以上(45時間相当、事前研修、事後研修時間を含む)とする。 ・場所：研修先による。 ・報酬：基本的にはないが、研修先による。研修修了後アルバイト契約で継続することを推奨する。 実施を予定する夏期・春期休暇中は、企業スケジュールに準じて研修が実施されるものであり、私的な予定等による欠勤は原則認めない。 実習中は戸板生の代表として実習へ参加していることを忘れず、実習先に迷惑にならないように配慮すること。</p> <p>6 事後学習（課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） インターンシップ研修修了後、実施報告書の提出と振り返りを行い、その結果を学科ゼミナール、戸板ゼミナールで発表する。</p> <p>7 担当教員との研修后面談 インターンシップ研修修了後、提出した実施報告書をもとに担当教員と実習の振り返り等を含めた面談を実施し、総合的な評価のもと単位認定の決定がなされる。</p>
到達目標・基準	<p>自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。</p> <p>◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を理解できる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解しておくこと。またインターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を得たいか等の目標を設定することが望ましい。</p> <p>事後学習：自身の経験をポートフォリオ作成しまとめることで、就職活動で活かせるよう準備する。また、事後研修で振り返り・発表を行う中で、その他の学生の経験談から幅広い業界・職種の知見等の情報共有を図る。</p>
指導方法	担当教員の他、業界に精通する専門家、キャリアセンターの協力により実施する。
成績評価の方法・基準	<p>事前、事後研修、実習を原則として実習期間が6日間以上(45時間相当)実施し、研修先の評価表（出勤状況、勤務態度含む）、日報、発表内容をもとに、実習後の担当教員との面談により総合的に評価する。 なお、実施しても資料の不備（研修先の印がない等）、期限後の提出者には単位不可となる場合がある。 また、以下項目を基準に評価する。 A：社会での主体性・チームワーク・責任感の必要性を経験している。 B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携に必要性があることを経験している。</p>
テキスト	なし

参考書	インターンシップ説明会にて配布
履修上の注意	<p>インターンシップ2は、授業時間外に説明会、事前研修、実習、事後研修、発表を行う。夏期休暇中と春期休暇中に実施するが、春期については、一部の業界のみ実施する予定である。履修登録はインターンシップ研修終了後に登録する。</p> <p>従って夏期は、1年後期、春期は2年前期に単位取得となる。</p> <p>自ら探した研修先は、学校との覚書を締結した企業のみ、インターンシップの履修を認める。</p> <p>インターンシップ1、2の説明会、事前・事後研修は、合同で開催する。1と2との違いは総研修日数(時間)の違いである。1は5日間以上(40時間相当)、2は6日間以上(45時間相当)、1、2ともインターンシップ終了後は、引き続きアルバイト契約にて実務経験を継続することを前提とする。</p> <p>事前学習を欠席した場合、単位は認定不可。また、事前学習の補講は原則行わないものとする。</p>
アクティブ・ラーニング	特に無し
I C Tの活用	特に無し

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専:選択
担当教員			
村上大			
Subject Code : F14C33			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	デジタルツールを活用したイラスト作画のノウハウは日々進化しており、学業や日々の暮らしの中で情報発信や書類制作に使われるようになってきた。 本講座ではまずそれらの有用性や生産性を知り、学修において積極的に活用するための、初学者向けの作画トレーニングを行う。企画プレゼンテーションで使う記号・図表を作成したり、ファッションブログ・SNS等でのデジタルイラストを発信するための方法について学ぶ。 (授業目標) ◎E：さまざまなイラスト作画ができる。デジタル・ICTを活用した制作の基礎技術を修得する。
授業計画	<p>1 デジタルツールを活用した制作方法（実習、Webclass：1-15回） 制作初心者の制作事例紹介、PC基本操作、インターネットでの資料収集の方法/著作権について</p> <p>2 キャラクターのイラスト作画（1）PowerPoint イラストの種類と分野、ベクターデータとビットマップデータの違いについて</p> <p>3 キャラクターのイラスト作画（2）PowerPoint 服装、所作、表情などバリエーション案の企画・提案の方法、作品のオリジナリティについて</p> <p>4 キャラクターのイラスト作画（3）（プレゼンテーション：作品発表・講評） キャラクターを活用したプレゼンテーション用画像の制作</p> <p>5 キャラクターのイラスト作画（4）PowerPoint、Adobe Illustrator Web記事コンテンツ用の画像の作成、レイヤー構造について</p> <p>6 製品・売場インテリアのイラスト作画（1）Adobe Photoshop ビットマップデータの作画について</p> <p>7 製品・売場インテリアのイラスト作画（2）Adobe Photoshop 手書きのイラスト（原画）の制作、PCへスキャニング、加工・編集</p> <p>8 製品・売場インテリアのイラスト作画（3）Adobe Photoshop、Adobe Illustrator 立体的なイラストを描く方法、透視図法の基礎について</p> <p>9 製品・売場インテリアのイラスト作画（4）（プレゼンテーション：作品発表・講評） 家具、インテリア、建物の描画事例紹介と制作</p> <p>10 ファッションイラストのデジタル作画（1）Adobe Photoshop・Adobe Illustrator デジタルの人体模型を使用したポーズ・スケッチ、ファッションデザインの原画作成</p> <p>11 ファッションイラストのデジタル作画（2）Adobe Photoshop・Adobe Illustrator テキスタイルの制作、ファッション画の彩色、質感設定</p> <p>12 ファッションイラストのデジタル作画（3）Adobe Photoshop・Adobe Illustrator 宝飾品・アクセサリーのイラスト制作 CGデータの配置、描画</p> <p>13 ファッションイラストのデジタル作画（4）（プレゼンテーション：作品発表・講評） 商品プロモーションのためのポスター・サイネージ作成 文字組・配色・レイアウトの原則</p> <p>14 ポートフォリオ制作（1）PowerPoint ポートフォリオサイトの制作、作品の説明の仕方について</p> <p>15 ポートフォリオ制作（2）（講評） 作品ポートフォリオPDF、ポートフォリオサイトの制作</p>
到達目標・基準	◎E：デジタルツールの基礎的な使い方ができ、日常的に学業で活用できる程度に慣れる。「Power Point」「Adobe Photoshop」「Adobe Illustrator」の基本操作ができる。
事前・事後学習	事前学習：個人制作の企画・作成や資料収集は授業までに課題として取り組み、授業内ではそれらをもとに制作する。(30分) 事後学習：授業で学修した知識や技能は次回の振り返りの演習で応用できるようトレーニングをする。(15分)
指導方法	各課題の発表や成果物に対しては教員から学生の技能にあわせて個別の添削やトレーニング方法のアドバイスを行い、継続的な成長を支援する。添削事例やQ&Aをオンラインで共有をすることで継続的、自主的な学習を促す。
成績評価の方法・基準	E：課題提出物、授業態度及び授業への貢献度を評価する。 課題提出物 70%、授業態度・貢献度（作品発表・講評への貢献度を重視）30%
テキスト	オンライン教材及びプリントを配布する。
参考書	Webサイト：伝わるデザイン http://tsutawarudesign.com/ 書籍：伝わるデザインの基本 増補改訂版（2016/8/5） 著者：高橋 佑磨，片山 なつ 出版社：技術評論社
履修上の注意	事前のデザイン経験やICTの専門知識は必要ない。スマートフォンや無料のアプリやICTサービスを主に使用する

	るため、特殊な機材環境を使用しなくても、自習や課題制作がするめられるカリキュラムとなっている。
アクティブ・ラーニング	実習、プレゼンテーション
I C Tの活用	Webclass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
村上大			
Subject Code : F14C34			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	デザインやデジタル制作の技術は専門家の限られた仕事だけでなく、教育や日々の暮らしの中でも使われるようになってきた。本講座ではそれらを基礎から段階的に修得し、学業や仕事で継続的に活用・実践することを旨とする。 ファッションの学びについての展示・プレゼンテーションやプロモーションの手法を学び、Instagram等のSNSやYouTubeなどで作品を発信するための制作技術を修得する。 (授業目標) ◎E：デジタルの制作技術を日常的に活用し、Web、グラフィック、ビジネス書類等が円滑に作成できる。		
授業計画	1	デジタルツールを活用した制作方法 PC基本操作 (実習、Webclass：1-15回) 制作用のツール・パソコンの使い方、インターネットでの資料収集の方法/著作権について	
	2	リーフレット・ポスター制作 (1) Adobe Photoshop、Adobe Illustrator 広告デザインの基礎 (配色・レイアウト・文字組)、展示ポスターの作り方について	
	3	リーフレット・ポスター制作 (2) Adobe Photoshop、Adobe Illustrator 図解イラスト作画、作品のバリエーション・制作について	
	4	リーフレット・ポスター制作 (3) (プレゼンテーション：作品発表・講評) ファッション商品のプロモーションツール制作	
	5	プレゼンテーション動画制作 (1) Adobe Photoshop、Adobe AfterEffects 動画の動画カット編集、モーショングラフィックスの制作	
	6	プレゼンテーション動画制作(2) Adobe Photoshop、Adobe AfterEffects 制作物の撮影・照明、PCへの取り込み・編集	
	7	プレゼンテーション動画制作 (3) Adobe Photoshop、Adobe AfterEffects ストーリー、テロップの制作、ナレーション・音声の制作	
	8	展示・プレゼンテーション (プレゼンテーション：作品発表・講評) プレゼンテーション動画の制作・展示の練習	
	9	初心者向けデジタル制作教室の企画・実施 (1) Adobe Photoshop、Adobe AfterEffects 講座の企画 広報・集客手法について	
	10	初心者向けデジタル制作教室の企画・実施 (2) Adobe Photoshop、Adobe AfterEffects 技術指導用の動画・プロモーション素材撮影	
	11	初心者向けデジタル制作教室の企画・実施 (3) (プレゼンテーション：作品発表・講評) デジタル技術を学ぶ初心者向けの教室の実施	
	12	初心者向けデジタル制作のWebページ制作 (1) Adobe Photoshop 写真・動画撮影、Webページの作り方について	
	13	初心者向けデジタル制作のWebページ制作 (2) (プレゼンテーション：作品発表・講評) 記事コンテンツの編集、写真撮影・画像加工	
	14	ポートフォリオ制作 (1) 作品紹介の方法、Web・紙のポートフォリオ制作手法について 作品提出	
	15	ポートフォリオ制作 (2) (講評) ビジネスで活用する、ポートフォリオ・スキルシートについて	
到達目標・基準	◎E：学修の成果をICT、デジタルの技能を駆使し作品として具体化し発表・公開できる。 「Adobe Photoshop」「Adobe Illustrator」「Adobe AfterEffects」を専門的な技術を用い使用できる。Webページが作成できる。		
事前・事後学習	事前学習：個人制作の企画・作成や資料収集は授業までに課題として取り組み、授業内ではそれらをもとに制作する。(30分) 事後学習：授業で学修した知識や技能は次回の振り返りの演習で応用できるようトレーニングをする。(15分)		
指導方法	各課題の発表や成果物に対して指導者から学生の技能にあわせて個別の添削やトレーニング方法のアドバイスをし、継続的な成長を支援する。添削事例やQ&Aをオンラインで共有をすることで継続的、自主的な学習を促す。ICTを活用した双方向型授業を行う。		
成績評価の方法・基準	E：課題提出物、受講態度及び授業への貢献度を評価する。 課題提出物 70%、授業態度・貢献度 30%		
テキスト	オンライン教材及びプリントを提供する。		
参考書	Webサイト：伝わるデザイン http://tsutawarudesign.com/ 書籍：伝わるデザインの基本 増補改訂版 (2016/8/5) 著者：高橋 佑磨，片山 なつ 出版社：技術評論社		

	書籍：Webポートフォリオ・デザインブック SNS時代のクリエイティブの見せ方・伝え方（2018/2/27） 著者：小島 幸代，草野 恵子，北川 貴清 出版社：エムディエヌコーポレーション
履修上の注意	情報リテラシーのカリキュラム内容を積極的に学んでいることが望ましい。デジタル技術はあくまでも表現の手段として活用するので、専門的なPCの知識や画力・デザイン経験は必要ない。
アクティブ・ラーニング	実習、プレゼンテーション
I C Tの活用	Webclass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
村上大			
Subject Code：F23C36			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	本講座ではビジネスの実務でデジタル制作のテクノロジーを活用するための技能やノウハウを学ぶ。専門的なソフトウェアや機材の使い方を実践的なトレーニングにより習得し、CGビジュアライゼーションやデジタル映像を制作する。また、SNSやYouTube、ECサイトにて発信するための実践的な制作の進め方や表現方法について学び、ビジネスにおいて強みにできる専門性を磨くことを目的とする。 (授業目標) ◎E：専門的なデジタルの制作技術を活用し、訴求力があるWeb、グラフィック、ビジネス書類等が作成できる。		
授業計画	1	デジタルツールを活用した最新の制作方法 PC基本操作の確認 (実習、Webclass：1-15回) 制作用のツール・パソコンの使い方、インターネットでの資料収集の方法/著作権について	
	2	ファッション・アート分野のCGビジュアライゼーション (1) Adobe Photoshop、Adobe Demension コンピューターグラフィックス技術を活用した衣服・アクセサリの制作	
	3	ファッション・アート分野のCGビジュアライゼーション (2) Adobe Photoshop、Adobe Demension VMD・商品ディスプレイの画像制作、CGのバリエーション制作	
	4	ファッション・アート分野のCGビジュアライゼーション (3) (プレゼンテーション：作品講評・発表) プレゼンテーション画像の制作、デザインの基礎知識 (配色・レイアウト・文字組) について	
	5	特殊効果を活かした動画編集・合成 (1) Adobe AfterEffects カット編集、タイトル・テロップ、モーショングラフィックの制作	
	6	特殊効果を活かした動画編集・合成 (2) Adobe AfterEffects 制作物の撮影、映像編集・合成 ナレーション・音声、音響効果の制作について	
	7	特殊効果を活かした動画編集・合成 (3) Adobe AfterEffects プレゼンテーション資料の作成 (配布資料・動画) プレゼンテーション準備	
	8	作品展示・プレゼンテーション (プレゼンテーション：作品発表・講評) CG、動画作品のプレゼンテーション・展示と評価	
	9	ビジネスプロモーションの企画・制作 (1) PowerPoint、Adobe Photoshop イベントプロモーションのためのWebページ制作、セミナーの企画 集客手法について	
	10	ビジネスプロモーションの企画・制作 (2) PowerPoint、Adobe Photoshop 企画プレゼンテーション・プロモーション素材撮影・制作	
	11	ビジネスプロモーションの企画・制作 (3) (プレゼンテーション：作品発表・講評) ファッションビジネスに関するセミナーの実施、評価	
	12	ファッションビジネスの販促ブログの制作 (1) Adobe Photoshop、WordPress 記事編集、写真・動画撮影、Webページの作り方について	
	13	ファッションビジネスの販促ブログの制作 (2) (プレゼンテーション：作品発表・講評) Webページの成果物のプレゼンテーション	
	14	ポートフォリオ制作 (1) 作品紹介の方法、Web・紙のポートフォリオ制作手法について	
	15	ポートフォリオ制作 (2) (講評) ビジネスで活用する、ポートフォリオ・スキルシートについて	
到達目標・基準	◎E：Web、グラフィック、ビジネス書類を制作し、成果物を発表・公開できる。 学修の成果をICT、デジタルの技能を駆使し作品として具体化できる。 「Adobe Photoshop」「PowerPoint」「Adobe AfterEffects」「Adobe Demension」「WordPress」を専門的な技術を用い使用できる。		
事前・事後学習	事前学習：個人制作の企画・作成や資料収集は授業までに課題として取り組み、授業内ではそれらをもとに制作する。(30分) 事後学習：授業で学修した知識や技能は次回の振り返りの演習で応用できるようトレーニングをする。(15分)		
指導方法	各課題の発表や成果物に対しては教員から学生の技能にあわせて個別の添削やトレーニング方法のアドバイスを行い、継続的な成長を支援する。添削事例やQ&Aをオンラインで共有をすることで継続的、自主的な学習を促す。		
成績評価の方法・基準	E：課題提出物、授業態度及び授業への貢献度を評価する。 課題提出物 70%、授業態度・貢献度 (作品発表・講評への貢献度を重視) 30%		
テキスト	オンライン教材及びプリントを配布する。		

参考書	Webサイト：伝わるデザイン http://tsutawarudesign.com/ 書籍：伝わるデザインの基本 増補改訂版 (2016/8/5) 著者：高橋 佑磨，片山 なつ 出版社：技術評論社
履修上の注意	情報リテラシーと各履修モデルの専門的なカリキュラム内容を積極的に学んでいることが望ましい。デジタル技術はあくまでも表現の手段として活用するので、専門的なPCの知識や、画力・デザイン経験は必要ない。
アクティブ・ラーニング	実習、プレゼンテーション
I C Tの活用	Webclass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
後藤寛司			
Subject Code:F13C16			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>人体とパターンにおける基本理論と、デザインに対応したパターン作図法および展開法の理論を学ぶ。また、人体の上半身包む事を基本とした身頃・袖・衿の作図法を学び、これらを基に胸ぐせダーツの移動・衿ぐり・衿・袖ぐり・袖・スカート等をアイテム別に学修をしていく。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○D：パターン設計の技術的展開ができる。 ○E：実習をとおして、デザインに対応したアイテム別の表現ができる。</p>		
授業計画	1	<p>アパレルパターン概論 立体裁断と平面製図の基礎知識 用具説明と専門用語 原型 基礎線の名称</p>	
	2	<p>スカートセオリーとスカートバリエーション (1) スカート原型 平面製図 実寸</p>	
	3	<p>スカートバリエーション (2) 平面製図 実寸</p>	
	4	<p>スカートバリエーション (3) 平面製図 1/4縮尺</p>	
	5	<p>スカートバリエーション (4) 平面製図 1/4縮尺 立体裁断準備</p>	
	6	<p>スカートの立体裁断 (グループワーク：立体裁断) スカートの立体裁断</p>	
	7	<p>上身頃のセオリー (1) 上身頃原型 ゆとり入り原型製図 平面製図 実寸</p>	
	8	<p>上身頃のセオリー (2) ゆとり入り原型製図 平面製図 実寸</p>	
	9	<p>バストダーツの処理方法とダーツの種類 (1) 平面製図 実寸 1/4縮尺</p>	
	10	<p>バストダーツの種類 (2) 平面製図 1/4縮尺</p>	
	11	<p>衿のセオリー 衿の構造 衿の名称 衿ぐりと衿の関係 平面製図 実寸 1/4縮尺</p>	
	12	<p>衿のバリエーション 平面製図 1/4縮尺</p>	
	13	<p>袖のセオリー アームホールと袖山の関係 袖原型製図 平面製図 実寸 1/4縮尺</p>	
	14	<p>袖のバリエーション 平面製図 1/4縮尺</p>	
	15	<p>身頃応用パターンエクササイズ タックとギャザー 平面製図 1/4縮尺</p>	
到達目標・基準	<p>○D：基礎的なパターン展開ができる。 ○E：デザインに対応したダーツ移動ができる。</p>		
事前・事後学習	<p>事前学習：衣服のアイテム別名称について調べる。(15分) 事後学習：理解できない箇所を確認し、次回の授業に備えること。(30分)</p>		
指導方法	<p>平面の布と立体である衣服の関係について理論的に分かり易く説明し、理論と技術を指導する。</p>		
成績評価の方法・基準	<p>D：パターン設計の技術的展開ができるか課題によって評価する。 E：デザイン画に対応したアイテム別の表現が的確か課題によって評価する。 課題60% 授業への貢献度40%</p>		
テキスト	<p>なし 必要に応じてプリントを配布。</p>		

参考書	
履修上の注意	作業に遅れないよう積極的に取り組むこと。 次年度「パターンメイキング2（CAD）」を履修する場合は、必ず履修すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ICTの活用	特になし

成績評価の方法・基準	D：それぞれのステッチの差し方を正しく理解しているかを評価する。 E：作品の完成度を評価する。 作品 80%、授業への貢献度 20%
テキスト	プリントを配布
参考書	
履修上の注意	作品は授業時間内での完成を目指すか、時間内で終了しなかった場合は、各自で時間外に実習を進める事。
アクティブ・ラーニング	実習
I C Tの活用	特に無し

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
芳田慎平			
Subject Code：F22C24			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	リングやネックレス、ブレスレットなど、普段使いできるアクセサリの課題制作を行うことで、金属材料からつくる彫金技法での基礎的な制作技術を体験・学修する。また制作の過程で素材や流通の知識を学ぶ。基礎的なアクセサリの制作技術を理解した上で、様々なデザインや素材に触れ、自由な発想でオリジナルのアクセサリ制作を行う。講義全体の前半部分では基礎を学び、後半部分では応用としてオリジナリティある作品のデザイン、制作を行う。 (授業目標) ◎E：金属材料によるアクセサリ制作の基礎技法を理解し、応用してオリジナルデザインの制作ができる。
授業計画	1 ガイダンス 授業概要・各課題の説明、工具の知識、評価方法の説明 2 シンプルデザインのリング制作（実習：2～14回） 基礎的な制作方法として、棒状の材料から指輪の制作 3 シンプルデザインのリング制作 基礎的な制作方法として、棒状の材料から指輪の制作 4 ロストワックス技法による金属パーツの原型制作 ロストワックス技法の説明、デザイン、原型制作 5 ワックス原型制作 デザイン、原型制作 6 リング制作応用 ワイヤーを用いたオリジナルデザインリングの制作 7 チャームアクセサリの制作 ロストワックス技法により鑄造された金属パーツのアクセサリへの組み立て 8 オリジナルセットアクセサリの制作 2アイテム以上のアクセサリの制作 デザインシート作成、素材集め など 9 オリジナルセットアクセサリの制作 2アイテム以上のアクセサリの制作 デザインシート作成、素材集め など 10 オリジナルセットアクセサリの制作 2アイテム以上のアクセサリの制作 実制作 など 11 オリジナルセットアクセサリの制作 2アイテム以上のアクセサリの制作 実制作 など 12 オリジナルセットアクセサリの制作 2アイテム以上のアクセサリの制作 実制作 など 13 オリジナルセットアクセサリの制作 2アイテム以上のアクセサリの制作 実制作 など 14 オリジナルセットアクセサリの制作 2アイテム以上のアクセサリの制作 実制作、展示パッケージ、ディスプレイの制作 など 15 作品講評（プレゼンテーション）（ICT：クリッカー） クリッカーを活用し、学生評価を加味したうえで選定した優秀作品制作者によるプレゼンテーション。 展示した作品をビデオでプロジェクターの投影し、デザインのポイントや作品のコンセプトなどを説明する。
到達目標・基準	◎E：課題に沿った内容の基礎的なアクセサリ制作をすることができる。
事前・事後学習	事前学習：アクセサリ専門店や展示会などで実物に触れてみる。（30分） 雑誌やインターネットなどでアクセサリの多様なデザインを知る。（30分） 事後学習：各課題に対する制作方法の手順について参考資料を見直し復習する。（30分）
指導方法	各課題の実習の際に、プロジェクターでの動画紹介や配布資料による説明を行う。 各課題終了時に完成した課題作品を提出してもらい評価をする。 フィードバックの仕方：課題制作の詳細については担当講師が制作実演、またサポート、デザインなどのアドバイスを行う。 オリジナル作品課題について、講師より作品への評価、アドバイスをコメント記載し、返却する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択必修
担当教員			
四元麻紀			
Subject Code：F15B37			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ウエディング業界について広く学び、自己のキャリアデザインの参考にする。 ウエディングビジネスについて広く知識を得て、その価値を知る。具体的な業種の特徴、企業の種類など最新情報も取り入れ、また業界の第一線で働く業界人のゲストも迎え、ウエディング業界についての正しい理解をする。 (授業目標) ○C：実際の職業について生の声を聴き、自分の将来の職業選択の参考にできる。 ◎D：ウエディングビジネス業界について幅広い知識と、ホスピタリティについての考え方を理解する。
授業計画	<p>1 ウエディング業界に求められるホスピタリティ(ゲスト講師・エスプレシーボ・コム安東徳子) 接客業に必要なホスピタリティの理論と姿勢をウエディングの視点から学ぶ</p> <p>2 ウエディング業界とは？ プレウエディングビジネスからアフタービジネスまで業界のしくみを知る</p> <p>3 ウエディング・マーケット ウエディングビジネスが対象とする『結婚適齢層』について学ぶ</p> <p>4 ウエディングビジネスの歴史 第二次世界大戦後からを中心にその歴史を学ぶ</p> <p>5 ウエディングビジネスの種類 会場編 ハードを中心とした会場ビジネスについて深く知る</p> <p>6 現場から見るウエディング会場の現状(ゲスト講師・ディアーズブレイン 衣川雅代) ゲストハウスを事例にした、会場ビジネスの現状を学ぶ</p> <p>7 ウエディングビジネスの種類 衣裳編 ウエディング衣裳会社そのビジネスモデルについて深く知る</p> <p>8 現場から見る婚礼衣装業(ゲスト講師・榎丸三屋 頼金みゆき) 前回の講義で勉強した衣裳会社のビジネスを現場の視点でさらに深く理解する</p> <p>9 ウエディングビジネスの種類 集客業 ウエディングビジネスの要ともいえる集客ビジネスについて深く知る</p> <p>10 ウエディング業界のWEB集客の現状(ゲスト講師・みんなのウエディング 瀬尾圭太) WEB集客ビジネスを経営の視点から深く理解する</p> <p>11 ウエディングビジネスの種別 ジュエリー編 ウエディングジュエリービジネスについて深く知る</p> <p>12 ウエディングビジネスの種別 ヘアメイク編 花嫁ビューティの要、ヘアメイクサロンについて深く知る</p> <p>13 ウエディングビジネスの種別 その他の業種 フロリスト、写真、動画、音楽演出などのパートナー企業について深く知る</p> <p>14 ウエディングプランナーという仕事 ウエディングを代表する仕事であるウエディングプランナーについて深く知る</p> <p>15 ウエディングビジネスのキャリアデザイン 自分がウエディング業界に進む場合のキャリアデザインを行う</p>
到達目標・基準	○C：ウエディングの仕事と役割を理解し、業界人としての適性を説明できる。 ◎D：ウエディングビジネスの種別を説明することができる。
事前・事後学習	事前学習：授業内で興味を持ったビジネス種別や企業についてWEBなどで調べてみること。(90分) 事後学習：授業内での未知のワードやウエディングビジネスの種別について、まとめのノートを作成する。(90分)
指導方法	基本は座学形式。最新の正しい情報を提供しつつ、可能な限り具体的な企業名、商品名、企画名などを紹介し正確な業界の姿を伝える。なお、ゲスト講師の授業回では、ゲスト講師の所属する企業を事前調査させ、授業内質問コーナーを設け、エキサイティングな時間とする予定である。
成績評価の方法・基準	○C：レポートや発言が授業で知り得た知見に基づいたものであるか評価する。 ◎D：授業内の質問シート、お礼状、テキストのリーディングシート、3種別の提出物等の出来映えで評価する。 定期試験50% 授業への貢献度20% 質問シート10% お礼状10% リーディングシート10%
テキスト	究極のホスピタリティを実現する「共感力」の鍛え方 安東徳子著 コスモ21 プライダルのお仕事 (株)ウエディングジョブ

参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、1年次の「ウエディングセレモニー」、「ウエディングビューティデザイン」の履修が望ましい。
アクティブ・ラーニング	特になし。
I C Tの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
安東徳子、河田淳鼓			
Subject Code：F25C38			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	我が国における結婚式という儀式の意味を正しく理解し、それを通じて広く人生儀礼の重要性について気づきを得る。模擬結婚式の企画と実施を学生チームで行うことから、チーム内のコミュニケーション能力を磨き、結婚式に携わる仕事の楽しさと責任を経験し、ウエディングに求められる実践的な能力を修得する。 (授業目標) ◎A：模擬結婚式を主体性と協調性と責任感を持って最後までチームでやり遂げることができる。 ○E：自由な発想に富んだウエディングセレモニーをプランニングすることができる。
授業計画	<p>1 ウエディングセレモニーに求められるホスピタリティ <安東、河田> ウエディングセレモニーに関わる上で必要とされるホスピタリティの理論と姿勢</p> <p>2 結婚式の意味と意義 <河田> 何故結婚式が必要なのか？その大切さを人生儀礼の視点から学ぶ</p> <p>3 結婚式の歴史とハード <河田> 結婚式のスタイルの変遷と結婚式が行われる舞台の種類と特徴を学ぶ</p> <p>4 キリスト教式の結婚式 <河田> ウエディングビジネスに必要なキリスト教の知識とセレモニーの進行を学ぶ</p> <p>5 神前式の結婚式 <河田> ウエディングビジネスに必要な神道の知識とセレモニーの進行を学ぶ</p> <p>6 人前式の結婚式 <河田> ウエディングビジネスに必要な人前式の知識とセレモニーの進行を学ぶ</p> <p>7 人前式の企画手法 <河田> 人前式を企画する企画理論を学び、事例を通じてより理解を深める 学んだ企画理論をもとにケーススタディとして人前式の進行を考える</p> <p>8 コンセプト立案 グループワーク1<安東、河田、ゲスト講師・貴志、赤星>(グループワーク、実習)(スマートフォン：HPよりアイデア拾い出し) 具体的なカップル像をケーススタディとし、コンセプトを創る</p> <p>9 進行の決定 グループワーク2<河田、ゲスト講師・貴志、赤星>(グループワーク、実習)(スマートフォン：HPより拾い出し) コンセプトに基づいた進行をつくる</p> <p>10 進行の決定 グループワーク3<河田、ゲスト講師・貴志講師、赤星講師>(グループワーク、実習)(スマートフォン：HPよりアイデア拾い出し) コンセプトに基づいた進行をつくる</p> <p>11 進行の決定/ドレスとその他ウエディングビューティ グループワーク4<河田、ゲスト講師・貴志、赤星>(グループワーク、実習)(スマートフォン、HPよりアイデア拾い出し) コンセプトに基づいた進行を作る コンセプトに基づいた花嫁、花婿、その他全員のビューティを企画する</p> <p>12 進行の確認とリハーサル グループワーク5<河田、ゲスト講師・貴志、赤星>(グループワーク、実習)(スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証) 進行を再確認し、『場当たり』をする</p> <p>13 進行の確認とリハーサル グループワーク6<河田、ゲスト講師・貴志、赤星>(グループワーク、実習)(スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証) 最終進行表に基づいてリハーサルをする</p> <p>14 進行の確認とリハーサル グループワーク7<安東、河田、ゲスト講師・貴志、赤星>(グループワーク、実習)(スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証) 最終進行表に基づいてリハーサルをする</p> <p>15 模擬結婚式 オープンキャンパスにて実施予定<安東、河田、ゲスト講師・貴志、赤星>(グループワーク、実習、プレゼンテーション)(スマートフォン：リハーサル・本番撮影、チーム内検証) 会場入り→準備→リハーサル→本番→引き上げまでを実施</p>
到達目標・基準	◎A：模擬結婚式を責任感を持って実施することができる。 ○E：ウエディングセレモニーの進行に人前式の3つの柱を正しく組み込むことができる。
事前・事後学習	事前学習：授業毎にアイデアが必要になるため、メモを書き留めておくなどの準備をする。(30分) 事後学習：模擬結婚式の実施に必要な知識を正しく理解し、ノートに図示する。(60分)
指導方法	第1回目から第7回目までは知識の修得が中心で、パワーポイントを使った授業形式。 また、毎回穴埋め式のオリジナルプリントを用い、ノートがもう一つの教材になるような仕組みとする。画像、映像などビジュアルツールを豊富に使用し、また具体的な事例も挙げ、興味を持って授業に臨める環境をつくる。

	第8回目から第12回目までは、グループワークとなるため、毎回の授業のテーマや着地点などが明確になるように、オリジナルワークシートを活用する。 フィードバックの方法：ワークシートを使用することで担当教員と双方向コミュニケーションをとることが可能となり、実習に対する不安や悩みの解消につなげる。なお、これにより、授業の最後に目標とした作業が完了しているかどうか確認可能となり、次回授業までの課題が明確になる。
成績評価の方法・基準	◎A：模擬結婚式を主体性と協調性と責任感を持って実施しているかの観点 ◎E：自由な発想に富んだウエディングセレモニーをプランニングできているかの観点 A：第2回から第7回までの授業内で行う前回授業についてのミニテスト 模擬結婚式準備貢献度 E：模擬挙式の企画内容と担当業務の授業毎の振り返りシート 模擬結婚式の完成度20% 模擬結婚式準備貢献度20%・模擬結婚式実施貢献度20%・振り返りシート20%ミニテスト20%
テキスト	・究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21 ・ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会
参考書	
履修上の注意	・夏のオープンキャンパスにて模擬結婚式の実施を予定 ・TOITA Fes2019において優秀チームの模擬結婚式の実施を予定 ウエディングの知識をさらに高めるため、「ウエディングビジネス論」、「ウエディングビューティデザイン」の履修が望ましい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習、プレゼンテーション
I C Tの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
河田淳鼓			
Subject Code : F24C44			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>これまで修得したウエディングの知識と技術を総動員し、模擬挙式、模擬披露宴を計画し、実施する。チームで行う事を通じて以下の授業目標を達成する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎A：ウエディングプランナー、ドレススタイリストなどのプロフェッショナルの視点で主体性をもって模擬披露宴を企画し、実施することができる。</p> <p>○E：ウエディングレセプションに必要なアイテムをコンセプトに基づいて制作し、台本を執筆することができる。</p>		
授業計画	1	セレモニーとレセプション ウエディングの全体像を理解し、レセプションの役割を明確にする	
	2	パーティのスタイル 時間帯およびフォーマリティの違いによるパーティスタイルについて学ぶ	
	3	ウエディングメニュー ウエディングメニューの概念、条件、および種類について学ぶ	
	4	ウエディングビバレッジ ウエディングビバレッジの概念、条件、および種類について学ぶ	
	5	レセプションの進行 レセプションの進行とスクリプト作成の復習	
	6	サービスコンセプトとオペレーション サービスコンセプトの考え方とオペレーションの種類について学ぶ	
	7	ヒアリングの手法 4つのヒアリングの手法を理解し、ロールプレイングを通じて体得する	
	8	23-STEPに基づく、コンセプトメイク ウエディングプランニング論で学んだ23-STEPに基づきコンセプトメイクの実習をする	
	9	レセプション実習① (グループワーク、実習) (スマートフォン) カップルデータに基づき、コンセプトメイク	
	10	レセプション実習② (グループワーク、実習) (スマートフォン) テーマカラー、テーマアイテムなどのコンセプトのアイテムへの落とし込み	
	11	レセプション実習③ (グループワーク、実習) (スマートフォン) ウエディングビューティプラン	
	12	レセプション実習④ (グループワーク、実習) (スマートフォン) 会場レイアウトとテーブルコーディネート、ウエディングメニューの確定	
	13	レセプション実習⑤ (グループワーク、実習) (スマートフォン) 進行表とスクリプトの作成およびオペレーションプラン	
	14	レセプション実習⑥ (グループワーク、実習) (スマートフォン) オペレーションプランに基づいたシュミレーション	
	15	模擬披露宴 (グループワーク、実習) (スマートフォン) 模擬披露宴の準備、本番、片付け	
到達目標・基準	◎A：模擬披露宴における自分の役割を責任をもってやり遂げることができる。 ○E：ウエディングレセプションに必要な事項が説明できる		
事前・事後学習	事前学習：B I A検定のテキストを読んでおくこと。(30分) 事後学習：授業回ごとにワークシートを完成させる。(60分)		
指導方法	これまでに修得した知識に加え、この授業における第1回～第8回の座学で得た知識を総動員し、チーム内で模擬披露宴にむけた計画を立案する。また、第9回～第14回までの講義にて、レセプションの準備をしつつ模擬披露宴を実際に運営することを通じて目標達成まで主体的に学ぶ力を身につける現場力を育成する なお、模擬披露宴は学内で行う計画である。		
成績評価の方法・基準	A：主体性をもって参加できているか、また、グループメンバーとチームワークをとりながら自分の業務を責任をもって行うことができたかの観点 E：コンセプトに基づいた表現や行動になっているかの観点 評価割合：模擬披露宴の完成度30%・模擬披露宴実施準備の貢献度30%・模擬披露宴の実施日の貢献度20%・実習ノートの提出20%		
テキスト	・ブライダルコーディネーターテキスト (スタンダード) B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会		

	<ul style="list-style-type: none"> ・究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21 ・世界ブライダルの基本 出版社 日本ホテル教育センター
参考書	
履修上の注意	ウエディングセレモニー、ウエディングビューティデザイン、ウエディングプランニング、ウエディングビジュアルプレゼンテーションの履修を推奨する
アクティブ・ラーニング	グループワーク 実習
I C Tの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
安東徳子、佐野みゆき			
Subject Code : F15C39			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	洋装、和装、ヘアメイク、ネイル、エステティック、ブーケなどウエディングに関するトータルビューティデザインの手法を学ぶ。各学生グループが、ウエディングアクセサリーの企画・デザインを行うことを通じて、実際の商品としてできあがるまでを学習する。また、同時に各ドレスショップ企業の取組をドレスコーディネート視点から学習し、ウエディングビューティデザインのトレンドを探る。 (授業目標) 花嫁心理についても学び、デリケートな花嫁との接客力も身に付ける。 ○D：ウエディングドレス、ヘアメイク、フラワー、ジュエリーなど企業研究を通じてウエディングビューティビジネスに関わる基本的知識を身に付ける ◎E：マーケットに合致したコンセプトづくりから具体的なウエディングアクセサリーのデザイン企画提案ができる
授業計画	<p>1 ウエディングビューティに必要なホスピタリティ <佐野>(クリッカー・意識調査) ウエディングビューティに関わるスタッフが持つべきホスピタリティの理論と姿勢</p> <p>2 婚礼衣装の歴史 <佐野>(クリッカー：意識調査) 国内外の婚礼衣装の歴史に触れ、それぞれの衣装が持つストーリー、しきたりなどの知識を得る</p> <p>3 招待客の装い <佐野>(クリッカー：意識調査) ウエディングゲストの衣装の正しいマナー、知識を得る</p> <p>4 トータルウエディングビューティ <安東、佐野>(クリッカー：意識調査) 花嫁ビューティをトータルに提案する手法を学ぶ(ブライズカルテの活用)</p> <p>5 ウエディングドレスの種類と選び方 <佐野>(クリッカー：意識調査) ウエディングドレスのディテールの名称やデザインの種類とパーソナルカラーとパーソナルスタイルに基づいたドレス選びの手法</p> <p>6 ウエディングのヘアメイクとネイル <佐野>(クリッカー：意識調査) ウエディング特有のヘアメイクの考え方とその手法と手法</p> <p>7 花嫁心理とカウンセリング <佐野>(クリッカー：意識調査) 花嫁心理を理解し、カウンセリングのプロセスとスタイルを学ぶ</p> <p>8 トータルウエディングビューティ実習 <佐野>(グループワーク) ケーススタディの条件にそってトータルウエディングビューティの提案実習(実習) WEBショップ掲載商品のマーケティング</p> <p>9 ウエディングドレスアワードの制度化 <佐野>(グループワーク)(クリッカー：意識調査) ウエディングドレスアワードの選考基準をつくる。WEBショップ掲載商品の企画</p> <p>10 アワードの学内選考準備 <佐野>(グループワーク)(クリッカー：意識調査) 選考基準にしたがって選別する。WEBショップ掲載商品の企画</p> <p>11 アワード最終選考 <佐野>(グループワーク、プレゼンテーション)(クリッカー：意識調査) 最優秀ドレスブランド・ショップを選考する</p> <p>12 アワード最終選考 <佐野>(グループワーク、プレゼンテーション)(クリッカー：意識調査) 最優秀ドレスブランド・ショップを選考し、対象企業へご案内する</p> <p>13 WEBショップ掲載商品の企画 <安東、佐野>(グループワーク)(クリッカー：意識調査) マーケティングの結果に従い掲載商品を企画する</p> <p>14 WEBショップ掲載商品の掲載写真とコピーの作成 <佐野>(グループワーク)(クリッカー・意識調査) セールスプロモーションとしての写真とコピーの作成を実習する</p> <p>15 アワードの発表とWEBショップ掲載商品のプレゼンテーション <安東、佐野> アワードの表彰式(受賞企業を来賓に迎える)(プレゼンテーション) WEBショップに載せる原稿や写真を授業内で発表する</p>
到達目標・基準	○D：洋装、和装、ヘアメイク、ネイル、エステティック、ブーケなどウエディングに関するトータルビューティについて説明できる。 ◎E：ウエディングに相応しいビューティアクセサリーのデザインをすることができる。
事前・事後学習	事前学習：授業で紹介されたブランドや企業について、ウェブや雑誌等で調査する。(90分) 事後学習：授業ノートをまとめ、カウンセリングのロールプレイングの練習をする。(90分)
指導方法	第1回から第6回まではパワーポイントを使った授業形式。クリッカーを使って学生の意識や理解を確認しながらすすめる。ビジュアルが大切な講義なので、画像や映像を豊富に使用。毎回知識についてのミニテストを実施。第7回から第15回は実習形式。トータルビューティの提案のためのブライズカルテを使用する。

成績評価の方法・基準	D：新郎新婦の衣裳、およびウエディングコスチューム企業についての知識を持っているか？ E：ウエディング小物のデザインの精度とコンセプトとの整合性を評価する。 授業への貢献度30% プレゼンテーション30% 小物デザイン30% ミニテスト10%
テキスト	・究極のホスピタリティを実現する「共感力」の鍛え方 安東徳子著 コスモ21 ・ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会
参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、1年次の「ウエディングビジネス論」「ウエディングセレモニー」の履修が望ましい。なお、ウエディングの接客についての知識は、アパレルをはじめあらゆる接客業に役立つものである。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	クリッカー

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
本田 真理			
Subject Code : F16C47			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>スキンケア、メイクアップ、顔分析、色彩、皮膚、化粧品の知識を修得し、日常に取り入れるようにする。前半はメイクアップの各工程についての理解を深め、後半はメイクアップを総合的に捉えてメイクアップをデザインできるようにする。</p> <p>また、「JMAメイクアップアドバイザー検定試験（美容知識検定試験）」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設ける。</p> <p>（授業目標） ◎D：それぞれの人に合ったメイクアップの必要性を理解し、提案できる。</p>		
授業計画	1	皮膚の基礎知識 骨格・筋肉・脂肪・皮膚の顔のなりたち 肌トラブルのメイクアップ対応法 スキンタイプ チェック方法	
	2	スキンケア スキンケアの目的とスキンケア化粧品の種類と特徴	
	3	ベースメイク（1） ファンデーションの目的とベースメイク化粧品の種類と特徴	
	4	ベースメイク（2） 肌色分析とコントロールカラー・コンシーラーの種類と特徴	
	5	チーク・ハイライト・ローライト 顔型分析とチーク・ハイライト・ローライト化粧品の種類と特徴	
	6	アイブロウ 眉のバランス分析とアイブロウ化粧品の種類と特徴	
	7	アイシャドウ・アイライン・マスカラ 目のバランス分析とアイメイク化粧品の種類と特徴	
	8	リップ 唇のバランス分析と口紅の種類と特徴	
	9	錯覚とメイクアップ、皮膚の専門知識 線と形の錯覚と紫外線知識	
	10	色彩とメイクアップ 色彩の基礎知識とカラーバランス・カラーデザイン	
	11	メイクアップの歴史とトレンド トレンドの作られ方と取り入れ方	
	12	オフィスメイク 好感が持たれるゴールデンバランスメイク	
	13	イメージメイク 4つのイメージ分類とイメージポイント	
	14	パーソナルカラーメイク パーソナルカラーの基礎知識とメイクアップへの応用方法	
	15	メイクアップ分類 メイクアップデザイン分類と化粧品会社分類	
到達目標・基準	◎D：メイクアップのそれぞれの工程を理解し、人に伝えることができる。		
事前・事後学習	事前学習：メイク情報誌や化粧品売場でメイクアップに関する知識を深めておく。（90分） 事後学習：授業内で学んだことを復習しておく。（90分）		
指導方法	テキストやパワーポイントを使用して、講義形式で行う。 定期的に小テストを実施する。 メイクアップ理論の課題を提出する。		
成績評価の方法・基準	D：定期試験、課題を評価する。 定期試験 50%、課題 30%、授業への貢献度 20%		
テキスト	日本メイクアップ技術検定試験 公式テキスト3・2級 一般社団法人JMA		
参考書			
履修上の注意	メイクアップの理論を実践的に習得するために、自主的に自分の顔で実習する。 検定試験に合格するためには、授業外での自宅での復習が重要となる。 「メイクアップ演習1」は本講義の履修者に限り受講できる。		

アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
本田 真理			
Subject Code : F16C48			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	メイクアップの目的と効果を理解し、実際に自分の顔にメイクアップすることで体感し技術を身につける。客観的な視点から顔を分析し、メイクアップを日常に取り入れるようにする。前半はメイクアップのそれぞれの基本的な方法を習得し、自分の顔でビジネスメイクが表現できるようにする。後半はイメージ理論に沿ったメイクアップの方法を理解し、自分の顔でそれぞれのイメージメイクが表現できるようにする。また、「セルフメイク検定 (JMA)」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 ◎E：イメージと現状とのギャップを的確に把握し、自分の顔にメイクアップで表現することができる。		
授業計画	1	化粧の心理効果と顔分析 (実習：1～15回) 自己実現のためのメイクとそれに必要な客観的理解のための分析ワーク	
	2	スキンケア理論とテクニック 皮膚の基礎知識からわかるスキントypesと肌トラブル 正しいスキンケアの方法を実習する	
	3	ベースメイク理論とテクニック 肌色知識とメイクによる肌トラブル対応知識 コントロールカラー・ファンデーション・コンシーラー・パウダーを実習する	
	4	チーク・ハイライト・ローライトの効果と顔分析・修整テクニック実習 骨格の把握と立体の理解 顔分析に応じたチーク・ハイライト・ローライトを実習する	
	5	アイブロウの錯覚効果とテクニック 基本バランスと毛流の理解 ペンシルとパウダーで自然なアイブロウを実習する	
	6	アイメイクの演出効果とテクニック 目元の立体と色・形の効果の理解 基本のアイシャドウ・アイライン・ビューラー・マスカラを実習する	
	7	リップの血色効果とテクニック 基本バランスとバリエーションによる修整の理解 パーツ分析に応じたリップを実習する	
	8	バランスメイクトータルテクニック 顔分析に応じた修整をトータルメイクで表現 好印象を持たれるビジネスメイクを実習する	
	9	イメージメイク理論と強弱理論 色・形・質感によるイメージ表現と強弱によるポイントメイクの比重を理解 イメージメイク・ワード分類ワーク	
	10	キュートメイク理論とテクニック 色彩によるイメージの理解 キュートメイクを実習する	
	11	フレッシュメイク理論とテクニック 質感によるイメージの理解 フレッシュメイクを実習する	
	12	エレガントメイク理論とテクニック 形によるイメージの理解 エレガントメイクを実習する	
	13	クールメイク理論とテクニック 立体によるイメージの理解 クールメイクを実習する	
	14	マイベストメイクの選定 目的と現状と修正から考えるマイベストメイクをデザイン デザイン画ワーク	
	15	マイベストメイクトータルテクニック デザインしたメイクを実習する	
到達目標・基準	◎E：メイクアップのそれぞれの目的を理解したうえで、イメージと現状とのギャップを説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：メイク情報誌や化粧品売場でメイクアップに関する知識を深めておく。(30分) 事後学習：授業内で実習したことを次の授業までに最低3回は自分の顔で実践することで、確実に技術が身につけられるようにする。(60分)		
指導方法	技術解説とデモンストレーションを行い、実際に自分の顔にメイクアップ実習を行う。 定期的な技術小テストを実施する。 メイクアップデザインの課題を提出する。		

成績評価の方法・基準	E:トータルメイクの実技試験を評価する。 実技試験 50%、課題 30%、授業への貢献度 20%
テキスト	JMAセルフメイク検定公式テキスト 一般社団法人JMA
参考書	
履修上の注意	実習は自分の顔で行うので、ノーメイクになることが前提となる。 実習のために肌状態を万全にし、授業に臨むこと。 メイクアップ実習に必要な道具類を必ず各自で用意すること。
アクティブ・ラーニング	実習
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
本田 真理			
Subject Code : F16C49			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	メイクアップの必要性を理解し、人にメイクアップをする技術を身につける。相モデルの実習を繰り返し行うことで、モデルの特徴を捉えたメイクアップをできるようにする。前半はスキンケアテクニックとベースメイクテクニックの手順をマスターすることを重点的に行う。後半はタッチアップをするためのポイントメイクとポイントメイクオフを行う。 また、「日本メイクアップ技術検定3級（JMA）」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) ◎E：顔分析を行ったうえで、人にバランスメイクアップを施術できる。
授業計画	<p>1 メイクアップの事前準備（実習：1～15回） 技術者としての身だしなみとメイクアップツールの衛生管理</p> <p>2 ポイントメイククレンジングテクニック 目・唇の皮膚構造を踏まえたアイメイク・リップメイククレンジング</p> <p>3 クレンジング・化粧水・乳液テクニック 骨格・筋肉を意識したベースクレンジング・化粧水塗布・乳液塗布</p> <p>4 ベースメイクテクニック（1） 肌色知識とファンデーション・パウダーのフィンガー・スポンジ・パフ・ブラシワーク</p> <p>5 ベースメイクテクニック（2） 肌色調整理論とコントロールカラー・肌トラブル理論とコンシーラー</p> <p>6 チーク・ハイライト・ローライトテクニック 顔分析・修整理論に基づいたチーク・ハイライト・ローライト</p> <p>7 アイブロウテクニック 美人バランスとペンシル・パウダーテクニック アイブロウオフテクニック</p> <p>8 アイシャドウテクニック アイバランスと3色グラデーション アイメイクオフテクニック</p> <p>9 アイライン・マスカラテクニック ペンシル・リキッドライナーとビューラー・マスカラ マスカラオフテクニック</p> <p>10 リップテクニック リップバランスとラインバリエーション リップオフテクニック</p> <p>11 肌分析とスキンケアテクニック 15分でモデルの肌状態を把握するポイントクレンジング・ベースクレンジング・化粧水・乳液</p> <p>12 顔分析と修整ベースメイクテクニック 15分でモデルの顔分析に応じた修整ベースメイク コントロールカラー・ファンデーション・コンシーラー・フェイスパウダー・チーク・ハイライト・ローライト</p> <p>13 顔分析と修整ポイントメイクテクニック 20分でモデルの顔分析に応じた修整ポイントメイク アイブロウ・アイシャドウ・アイライン・マスカラ・リップ</p> <p>14 トータルメイクアップ（1） 60分でバランスメイクアップ スキンケア～ベースメイク・ポイントメイク</p> <p>15 トータルメイクアップ（2） 60分でバランスメイクアップ スキンケア～ベースメイク・ポイントメイク</p>
到達目標・基準	◎E：顔分析を行ったうえで、人にバランスメイクアップを提案できる。
事前・事後学習	事前学習：技術を自己研鑽する。（30分） 事後学習：授業内で実習したことを次の授業までに最低3人に実践することで、確実に技術が身につけられるようにする。（60分）
指導方法	技術解説とデモンストレーションを行い、実際に相モデルでメイクアップ実習を行う。 定期的に技術小テストを実施する。 メイクアップ技術理論の課題を提出する。
成績評価の方法・基準	E：トータルメイクの実技試験を評価する。 実技試験 50%、課題 30%、授業への貢献度 20%
テキスト	日本メイクアップ技術検定試験 公式テキスト3・2級 一般社団法人JMA

参考書	
履修上の注意	<p>「メイクアップ演習基礎」および「メイクアップ論」を履修済であることが必須となる。実習は相モデルで行うので、ノーメイクになることが前提となる。相モデルで行うので、肌状態を万全にし、授業に臨むこと。メイクアップ実習に必要な道具類を必ず各自で用意すること。検定試験に合格するためには、授業外での自宅での復習が重要となる。実習費を徴収する。</p>
アクティブ・ラーニング	実習
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
持田美千代			
Subject Code : F25C48			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	印象分析の理論を学び、イメージに合わせたメイクアップを実習する。4つのイメージの作り方を修得後は、イメージに合わせてメイクを変化させるテクニックを半顔メイクで実習する。 (授業目標) ◎C：TPOに合わせた、カウンセリング及びヘアメイクを修得し、プロフェッショナル意識の基となる主体性と責任感を身につける。 ○E：イメージとシチュエーションに合わせたヘアメイクの制作が出来るようになる。
授業計画	<p>1 顔のパーツ分析とナチュラルメイク実習（ペアワーク：1～14回） 顔のパーツがイメージに与える要因を分析し、イメージを学ぶと共に、モデルの顔の特徴を分析し、特徴を生かしたナチュラルメイクを相モデルで実習する。</p> <p>2 印象分析とイメージメイクテクニック実習（1） ソフトとハード、ウォームとクールで構成される4つのメイクイメージを理解し、各イメージに合わせるメイクができるようにする。ウォームソフトの「可愛い」イメージのメイクを相モデルで実習する。</p> <p>3 印象分析とイメージメイクテクニック実習（2） 4分類のイメージの一つであるクールソフトの印象を理解し、「さわやか」なイメージのメイクを相モデルで実習する。</p> <p>4 印象分析とイメージメイクテクニック実習（3） 4分類のイメージの一つである、ウォームハードの印象である、「華やかで女らしい」メイクの特徴を理解し、相モデルで実習する。</p> <p>5 印象分析とイメージメイクテクニック実習（4） 4分類のイメージの一つであるクールハードの印象を理解し、「大人っぽくマニッシュ」なイメージのメイクを相モデルで実習する。</p> <p>6 イメージを変化させるメイクテクニック実習（ソフトからハードへ） 4つのイメージを理解し、印象を変化させるテクニックを身に付けるため、ウォームソフトに仕上げた顔の半顔をウォームハードに変化させる実習を相モデルで行う。</p> <p>7 イメージを変化させるメイクテクニック実習（ウォームからクールへ） 4つのイメージを理解し、印象を変化させるテクニックの方法として、ウォームハードで仕上げた顔の半顔を、クールハードに変化させる実習を相モデルで行う。</p> <p>8 トータルメイクアップ実習（ヘアを含んだイメージメイク実習） ヘアを含めトータルでイメージを作るメイクの実習を相モデル行うことにより、トータルメイクの実践力を身につける。</p> <p>9 課題作成（個性を生かしたイメージメイク） 相手の個性や特徴・印象を分析し、メイクアッププランシートにメイクプランを設計し、それに基づき特徴を生かしたイメージメイクができるよう相モデルで実習する。</p> <p>10 ブライダルメイクの理論と実習 ブライダルメイク理論とテクニックを理解し、相手のイメージや好みに合わせてヘア・メイク・衣装も含めたトータルなブライダルメイクを相モデルで実習する。</p> <p>11 TPOメイクの理論と実習（パーティメイク・和装メイク） メイクの幅を広げるため、昼と夜の違いを意識したパーティメイク・和装メイクの理論とテクニックを理解し、TPOに合わせたメイクが実践できるよう相モデルで実習する。</p> <p>12 メイクアドバイスと接客マナー実習（メイクセラピー検定2級対策） モデルの印象を分析し、相手のなりたいイメージを聞きだし、メイクアッププランシートにメイクプランを記入し、それに合わせたメイク実習を接客の演習を含め相モデルで行う。メイクセラピー検定2級を想定したマナー実習も行う。</p> <p>13 トレンドメイク実習（雑誌からのスチールメイク実習） ファッション雑誌からトレンドメイクを選び、その内容をメイクアッププランシートに起こし、それをモデルの顔にメイクする実習を相モデルで行う。</p> <p>14 課題作成（イメージとシチュエーションに合わせたヘアメイク実習） モデルに合わせたイメージとシチュエーションを設定し、それに合わせてヘア・メイク・ファッションをトータルで作りに上げる実習を相モデルで行う。スマートフォンによる撮影。</p> <p>15 印象分析（プレゼンテーション） モデルに合わせたイメージとシチュエーションを各自設定し、それに合わせたトータルメイクを相モデルで行い、プレゼンテーションする。スマートフォンによる撮影。</p>
到達目標・基準	◎C：4つのイメージ作り合わせたカウンセリング力やメイクアップが出来る。 ○E：TPOやトレンドを意識して、それぞれの印象に合わせたヘアメイクアップが出来る。
事前・事後学習	事前学習：ファッション雑誌、女性誌などでトレンドメイクに目を通すようにする。（45分） 事後学習：授業内で実習したメイクを次回の授業までに最低3人に実践し確実に技術が身に付けるようにする。（45分） 自分自身のスキンケアをテキストにて習得した技術を確認する。（30分）

指導方法	可能な限り多くの顔に触れる事が大切なので、毎回モデルを変え、時間内にメイクアップが終了するような実践力を身に付けるようにする。メイクアップ技術に加え、接客力やメイクカウンセリング、メイクアドバイスを同時に行うことにより、接客スキルも身に付ける。授業の中だけではなく、日常の中でメイクセンスを磨くことが大切なので、自己修練できるよう指導する。 小実技テスト、レポート作成等を実施する。
成績評価の方法・基準	C：相モデルでの演習小テストを評価する。 E：レポート、実技試験を評価する。 実技試験 50%、課題 30%、授業への貢献度 20% 演習授業の為、実技テストを実施する。 「実技試験内容」相モデルにて洋装ブライダル花嫁のヘアメイク作成。
テキスト	日本メイクアップテキスト3級・2級 (一般社団法人JMA日本メイクアップ技術検定協会)
参考書	
履修上の注意	1) 「メイクアップ演習1」を履修済であることが必須 2) 実習は相モデルで行うので、ノーメイクになることが前提で、スキンケア・メイク品等準備してくること。 3) 顔全体が写る大きめの鏡と、実習で使うメイク品は、自己使用のものでよいので毎回テーマに合わせて持参すること。 4) 実習は毎回相モデルで行うので、欠席は相手の迷惑になるので欠席しない事。 5) 実習は相モデルで行うので、肌状態を万全にし、授業に臨むこと。 6) メイクアップに関連する雑誌等を持参する。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、プレゼンテーション
ICTの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
関根教史			
Subject Code : F16C54			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>美容に関する基礎知識、マナー、基礎動作、道具・器具の使い方、ヘアアレンジの基礎、応用、流行、モード、ブライダル、イメージヘア、カジュアルアレンジヘアを取り入れた実習を行い、メイク、衣服との関連性や調和を解説しながらバランス感覚を養う。</p> <p>(授業目標)</p> <p>相モデル(ペア)実習、グループ実習を通してコミュニケーション能力、協調性を高めながら、自身をキレイにし相手もキレイにすることを身に付ける。</p> <p>○B：ペアワーク、グループワークを通しコミュニケーション能力を高めることができる。</p> <p>◎E：ヘアメイク実習を通しトータル(ヘア、メイク、洋服)バランス能力を高めることができる。</p>		
授業計画	1	<p>ガイダンス、道具の使い方(実習：1～5.7.9.11.15回)</p> <p>ブラシ・コーム・ピン類・ウィッグ・キーパー</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p> <p>※ウィッグ、キーパー使用</p>	
	2	<p>ヘアアレンジ基礎</p> <p>一束・お団子シニヨン・三つ編みシニヨン、ピンニング</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p> <p>※ウィッグ、キーパー</p>	
	3	<p>ヘアアレンジ基礎</p> <p>シニヨン・すき毛の使い方</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p> <p>※ウィッグ、キーパー使用</p>	
	4	<p>ヘアアレンジ基礎</p> <p>逆毛</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p> <p>※ウィッグ、キーパー使用</p>	
	5	<p>ヘアアレンジ基礎</p> <p>三つ編み・編み込み</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p> <p>※ウィッグ、キーパー使用</p>	
	6	<p>ヘアアレンジ基礎(ペアワーク、グループワーク)</p> <p>アイロン</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p>	
	7	<p>流行ヘアアレンジ・メイク(1)</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p> <p>※ウィッグ、キーパー使用</p>	
	8	<p>流行ヘアアレンジ・メイク(2)(ペアワーク)</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p>	
	9	<p>カジュアルヘアとモードヘアの違い(1)</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p> <p>※ウィッグ、キーパー使用</p>	
	10	<p>カジュアルヘアとモードヘアの違い(2)(ペアワーク)</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p> <p>※ウィッグ、キーパー使用</p>	
	11	<p>ブライダルヘア(1)</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p> <p>※ウィッグ、キーパー使用</p>	
	12	<p>ブライダルヘア(2)(ペアワーク)</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p>	
	13	<p>トータルで考えるイメージヘア(1)(ペアワーク)</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p> <p>※スマートフォン</p>	
	14	<p>トータルで考えるイメージヘア(2)(ペアワーク)</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p> <p>※スマートフォン</p>	
	15	<p>スタイル作成</p> <p>・技術確認</p>	
到達目標・基準	<p>○B：ペアワーク、グループワークを通し相手に提案することができる。</p> <p>◎E：ヘアアレンジの基礎(編み込み、カジュアルアレンジスタイル)ができる。</p>		
事前・事後学習	<p>事前学習として、ファッション誌、ビューティ情報誌、ヘアカタログを読んで流行を捉えておくこと。(45分)</p> <p>事後学習として、授業で学んだ技術を復習しておくこと。(45分)</p>		

指導方法	技術デモンストレーションを行い、実際に髪の毛に触れながら、イメージを形にして行く作業をすることでバランス感覚を養いながらヘアアレンジの楽しさを伝える。
成績評価の方法・基準	B：ペアワークにおいて積極的な姿勢（話しかけ）を評価する。 E：イメージを形にすることができる。 レポート課題 30%、課題 40%、授業態度・貢献度 30%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	相モデル（ペア）、グループ実習有り
アクティブ・ラーニング	実習、ペアワーク、グループワーク
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
関根教史			
Subject Code：F25C52			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>美容に関するマナー、動作、道具の種類等の基礎技術の確認を行う。ヘアアレンジ応用、道具の応用、美容器具の扱い方、流行アレンジヘア、ブライダルヘア、和装・洋装ヘア、創作ヘア、アレンジポイントテクニック、アレンジイメージ力を取り入れ、ヘアカウンセリングを通しトータルバランスを解説しながら創造力を養う。</p> <p>(授業目標)</p> <p>相モデル(ペア)実習、グループ実習、ヘアカウンセリングデスカッション能力、ヘアメイクを通しトータルバランスを考えながらイメージをしたことを形にする力を身に付ける。</p> <p>○B：ペアワーク、グループワークを通し、ヘアカウンセリングのコミュニケーション能力を身につける。</p> <p>◎E：ヘアメイク実習を通し、イメージしたことをバランスを考慮し解説しながら形にする技能を高める。</p>		
授業計画	1	ガイダンス、道具の使い方、基礎技術確認(実習：1～6.8.9.11.15回) ブラシ・コーム・ピン類・ウィッグ・キーパー ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	2	ヘアアレンジ確認と応用(1) ポイントスタイルアレンジ ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	3	ヘアアレンジ確認と応用(2) すき毛を使った応用テクニック ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	4	ヘアアレンジ応用(1) ボリュームスタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	5	ヘアアレンジ応用(2) ルーズスタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	6	ヘアアレンジ応用(3) 飾りの付け方バランス ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	7	ヘアアレンジ応用(4)(ペアワーク、グループワーク) 浴衣スタイル ・ヘアデモンストレーション	
	8	ヘアアレンジ応用(5) パーティースタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	9	カジュアルヘアとショーヘアの違い(1) ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	10	カジュアルヘアとショーヘアの違い(2)(ペアワーク) ・ヘアデモンストレーション	
	11	ブライダルヘア ・ヘアデモンストレーション 実習 ※ウィッグ、キーパー使用	
	12	トータルで提案するヘアメイク(1)(ペアワーク) ・トータルプランニング説明 ※スマートフォン	
	13	トータルで提案するヘアメイク(2)(ペアワーク) ※スマートフォン	
	14	トータルで提案するヘアメイク(3)(ペアワーク) ※スマートフォン	
	15	スタイル作成 ・技術確認	
到達目標・基準	<p>○B：キレイさと身だしなみを意識したヘアアレンジを身に付けることができる。</p> <p>◎E：ヘアアレンジの応用(美容器具の扱い方、TPOアレンジスタイル)ができる。</p>		

事前・事後学習	事前学習：ファッション誌、ビューティー情報誌、ヘアカタログを読んで流行を捉えておくこと。(45分) 事後学習：授業で学んだ技術を復習しておくこと。(45分)
指導方法	技術デモンストレーションを行い、実際に髪の毛に触れながら、イメージを形にして行く作業をすることでバランス感覚を養いながらヘアアレンジの楽しさを伝える。
成績評価の方法・基準	B：ペアワークにおいて積極的な姿勢（話しかけ）を評価する。 E：イメージを形にすることができる。 レポート課題 30%、課題 40%、授業態度・貢献度 30%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	相モデル（ペア）、グループ実習有り
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク
ICTの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
ニールマーツ			
Subject Code : F37C63			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>概論として演劇・映画のメイキャップや衣裳デザインの歴史や理論としての色彩を学ぶ。その後、実際にプロフェッショナルが使用する材料、ツールを用いて特殊メイクに必要とされるデザイン、彫塑、型どりのベーシックな手法での実技を行う。後半部では、特殊メイクの実演を通して技術の修得を図る。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○D：色彩理論を学ぶことで得た知識を、日々の生活に応用できる</p> <p>◎E：特殊メイクの基礎知識を学修することで、多様な表現力を身に付ける</p>		
授業計画	1	特殊メイクアップ概論 演劇映画等のメイキャップ、服飾デザインの歴史 実技 タトゥーを描く	
	2	メイクアップ概論(1) カラーについて、PAX PAINT作成 (TATOO カバー)	
	3	メイクアップ概論(2) 色彩について	
	4	メイクアップ概論(3) デザインについて	
	5	特殊メイク基礎スキル(実習：5～15回) 接着と除去の基礎知識、鼻の造形についての説明	
	6	ライフキャスト(LIFECAST) 人体の型どり 自身の顔型取りを行う	
	7	型のクリーン 石膏を削り、顔型を完成させる	
	8	SCULPTURE 塑造(1) 粘土で自身の制作したい鼻のデザインを行う	
	9	SCULPTURE 塑造(2) 粘土で自身の制作したい鼻の造形を行う	
	10	SCULPTURE 塑造(3) 鼻の造形物を原型とし石膏で型をおこす	
	11	型(MOLD)と形(CAST) 型どりの手法を理解し作成する	
	12	ラテックスの取扱使用方法とCLEAN & CAST (LATEX) 液体ラテックスを型にコーティングする	
	13	特殊メイク実演(1) ゾンビメイク実演方法の説明、及び実技. 血のりの基礎知識と使用方法	
	14	特殊メイク実演(2) 特殊メイクデモンストレーション及び造形鼻に色を塗る	
	15	実演 これまでに学んだ技術を基にペアにて特殊メイクを行う。	
到達目標・基準	○D：色彩理論を学ぶことで、自身が思い描く色に関してを説明できる ◎E：特殊メイクの基本実技を説明できる		
事前・事後学習	事前学習：映画や映像等、常に特殊メイクを意識することで、記憶し表現の引き出しを作っておくこと(90分)。 事後学習：色彩理論に関しては、その種の参考文献をよみ理解を深めること(90分)。		
指導方法	1回から4回までのメイクアップ概論については、講義を中心に理論を学ぶ。 6回から15回の特殊メイク基礎スキルについては、実習が中心となる。 本科目は、90分授業を2コマ連続で行う。		
成績評価の方法・基準	D：色彩環の完成度を評価する D：ペアで行う特殊メイクの実技のデザインを評価する E：ペアで行う特殊メイクの実技の完成度を評価する 授業時の態度・実技評価50%、技術査定50%		
テキスト	なし		
参考書	なし		

履修上の注意	作業工程に遅れないよう、積極性を持って課題に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	実習
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	食専：卒業必修、栄必修
担当教員			
食物栄養科専任教員			
Subject Code：N21A01			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>自分の希望と現在の自分自身の現状を冷静かつ的確に判断し、納得のいく就職や進学が実現できるようにする。また学外実習の事前・事後指導、報告会、さらに12月に実施される栄養士実力認定試験対策講座なども行う。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎A：学生として、または将来の栄養士としての責任感を持ち、プレゼンテーション等における協働作業に自ら積極的に参画できる。</p> <p>◎B：プレゼンテーション等における協働作業において積極的に議論、準備ができる。</p> <p>◎C：他の講義を礎として、自身の知識の拡充および発想力を身につけることができる。</p> <p>◎D：栄養士として必要な知識を見直すことができる。</p> <p>◎E：自身の意見も踏まえて論理的にプレゼンテーションができる。</p>
授業計画	<p>1 後学期履修指導 後学期の目標と注意事項（谷口、吉川、川嶋）</p> <p>2 栄養士実力認定試験説明（西山） TOITA Fesキックオフ/避難訓練（3学科共通） TOITA Fesについての開催宣言とその説明（戸板祭実行委員会、学生会） 避難訓練を実施する。（国コミ担当）</p> <p>3 栄養士実力認定試験対策講座① 各分野の基礎的および重要点や試験での難易箇所、試験の傾向などを学ぶ。 2F1…公衆衛生学、社会福祉概論（吉川）、応用問題（北村） 2F2…生化学（沼田）、食品学総論（橋詰） 2F3…給食管理論（井部）、調理学（川嶋）</p> <p>4 栄養士実力認定試験対策講座② 各分野の基礎的および重要点や試験での難易箇所、試験の傾向などを学ぶ。 2F1…給食管理論（井部）、調理学（川嶋） 2F2…公衆衛生学、社会福祉概論（吉川）、応用問題（北村） 2F3…生化学（沼田）、食品学総論（橋詰）</p> <p>5 栄養士実力認定試験対策講座③ 各分野の基礎的および重要点や試験での難易箇所、試験の傾向などを学ぶ。 2F1…生化学（沼田）、食品学総論（橋詰） 2F2…給食管理論（井部）、調理学（川嶋） 2F3…公衆衛生学、社会福祉概論（吉川）、応用問題（北村）</p> <p>6 栄養士実力認定試験対策講座④ 各分野の基礎的および重要点や試験での難易箇所、試験の傾向などを学ぶ。 2F1…解剖・生理学、臨床栄養学概論（吉川） 2F2…栄養学（橋詰）、食品衛生学（高橋） 2F3…栄養指導論（西山）、食品学各論（谷口）</p> <p>7 栄養士実力認定試験対策講座⑤ 各分野の基礎的および重要点や試験での難易箇所、試験の傾向などを学ぶ。 2F1…栄養指導論（西山）、食品学各論（谷口） 2F2…解剖・生理学、臨床栄養学概論（吉川） 2F3…栄養学（橋詰）、食品衛生学（高橋）</p> <p>8 学外実習報告会① 夏期休暇期間に実施した実習について各グループごとに発表する（グループワーク、プレゼンテーション）。 発表する側及び聴講側は、それぞれ目的をもって参加する。（西山、豊島、井部、高橋、北村）</p> <p>9 学外実習報告会② 夏期休暇期間に実施した実習について各グループごとに発表する（グループワーク、プレゼンテーション）。 発表する側及び聴講側は、それぞれ目的をもって参加する。（西山、豊島、井部、高橋、北村）</p> <p>10 生涯の学び（菊池桃子客員教授）（3学科共通） 女性のキャリア形成について学ぶ。（吉川）</p> <p>11 栄養士実力認定試験対策講座⑥ 各分野の基礎的および重要点や試験での難易箇所、試験の傾向などを学ぶ。 2F1…栄養学（橋詰）、食品衛生学（高橋） 2F2…栄養指導論（西山）、食品学各論（谷口） 2F3…解剖・生理学、臨床栄養学概論（吉川）</p> <p>12 栄養士実力認定試験対策講座⑦ 直前模擬試験を実施する。 試験当日についての注意事項など確認する。（西山）</p> <p>13 民法講座（ゲスト講師）（3学科共通） 民法について学ぶ。</p> <p>14 PROGテスト PROGテストを実施する。</p>

	15 短大の2年間をふりかえって 入学してからこの2年間を各自が印象に残ったことを含めて振り返り、作文にまとめる。 達成事項や反省点また将来への決意をあらためて確認する。(谷口、吉川、西山)
到達目標・基準	◎A：課題に対して積極的に取り組むことができる。 B：個人だけでなく集団の課題に対しても積極的に取り組み、自身の意見を述べることができる。 C：様々な科目について連動して考えることができ、自身のアイデアをのべることができる。 ○D：栄養士実力認定試験の判定において自身の目標を達成することができる。 E：自身が学んだことをもとに他者に自身の考えを伝えることができる。
事前・事後学習	事前に配布物があれば必ず目を通しておくこと。試験対策の前には予習・復習を必ず行い、また関連する課題・提出物は知識の定着のために真剣に取り組む、期日までに提出すること。(事前学習90分程度・事後学習90分程度)
指導方法	各回の内容に応じて、授業参加人数(全学科合同、食物栄養科全員、クラス別、グループ別、個別指導など)を変えて実施する。また、授業形態も各回によって、講義形式、討議形式、個別演習など様々な方法で実施する。 フィードバックの仕方：①栄養士実力認定試験については、直前模擬試験を実施しその結果をフィードバックし、本試験に臨む。②学外実習報告会については、発表後に教員よりコメントを伝えることでフィードバックする。③PROGテストの結果を返却することでフィードバックする。
成績評価の方法・基準	A：授業への貢献度および課題提出状況で評価する。 B：授業への貢献度およびプレゼンテーションで評価する。 C：授業への貢献度およびプレゼンテーションで評価する。 D：栄養士実力認定試験の模擬試験で評価する。 E：授業への貢献度およびプレゼンテーションで評価する。
テキスト	なし(必要に応じて適宜プリント配布)
参考書	なし
履修上の注意	1. 食物栄養科の必修科目です。栄養士、社会人になるための必要なステップとして意識して授業に臨んでください。安易に欠席することなく、しっかりと受講すること。 2. 各回の内容や方法、実施教室、持ち物など、毎回掲示します。教室や必携物などを必ず確認し、授業に臨むこと。 3. 提出物は、責任ある社会人になるためにも必ず期限を守ること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	2	2	食専：必修
担当教員			
谷口裕信			
Subject Code：N24C13			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	食品加工学は、食品の加工・製造の面および関連事項を通じて食品に付随する事実や特性を幅広く理解する。授業内容は2部構成とする。まず総論として食品全体について加工方法、劣化現象、保存方法、包装、食品の表示について解説する。次には、各食品について代表的な加工食品の原料及び製造原理、流通商品の製造ノウハウ、メーカー事情、その他関連事項について解説する。 (授業目標) ◎C：食品を多角的理解することができる。市販品よりその食品の情報を収集できる。同系食品でもその違いや本質が理解できる。 ○D：代表的な加工食品の製造方法・製造原理が理解できる。また社会的な影響を理解できる。		
授業計画	1	食品について 食品について概要 授業内容・授業の進め方 食品について（時代背景、現状の問題、加工技術等）解説し、食品について関連事項を含めて学ぶ。	
	2	総論① 食品の加工方法 加工方法 食品の各種加工方法について学ぶ。また最新技術も紹介する。 物理的方法（物理現象の利用） 化学的方法（化学反応の利用） 生物的方法（生物の利用） 最新技術（逆浸透法、高圧処理、ゲル化処理他）	
	3	総論② 食品の劣化 食品の劣化現象について学ぶ。食品を劣化させる犯人を特定する。 劣化の原因（劣化させる犯人：微生物・食害・酸素・酵素・光） 劣化現象（腐敗・酸化・褐変）	
	4	総論③ 食品の保存方法1 食品の保存方法について学ぶ。 低温保存（低温帯の違い、氷温貯蔵他） 乾燥法（FD、SDその他） 燻煙法	
	5	総論④ 食品の保存方法2 食品の保存方法について学ぶ。 食品添加物（種類、表示方法他） 酸素の対策方法（CA貯蔵、MA包装、脱酸素剤他） 冷殺菌	
	6	総論⑤ 食品の包装 食品の包装および関連事項について学ぶ。 包装素材（紙、ガラス、金属、プラスチック） プラスチック素材（各種プラスチック、複合フィルム） 包材関係諸問題（環境問題、エネルギー問題、リサイクル他）	
	7	総論⑥ 食品の表示・商品開発と表示（ICT：WebClass） 食品の表示について学ぶ。表示から食品の情報の収集方法を学ぶ。 商品開発と表示 食品表示法 食品衛生法 JAS法 景表法 健康増進法 表示から情報収集（違法の事例等） WebClassにて食品表示法資料提示	
	8	各論① 穀類1 穀類及び米類の加工品について学ぶ。 米類 米の処理（搗精法） 米類加工方法（無精米、備蓄米他） メーカー事情	
	9	各論② 穀類2 穀類及び小麦の加工品について学ぶ。 小麦類 パンの製法（製パンの原理、各種製パン法） 小麦類の特徴 メーカーの技術（製品の技術紹介）	
	10	各論③ 肉類 肉及び肉類の加工品について学ぶ。 肉類種類（家畜、家禽、その他）	

	<p>肉類加工品（ソーセージ、ハム他） 肉類関連事件等（狂牛病、口蹄疫他） メーカー事情</p> <p>11 各論④ 魚介類 魚介類及び魚介類の加工品について学ぶ。 魚介類種類（魚類、甲殻類、軟体類他） 魚介類加工品（鰹節、すし、塩辛他） 関連諸問題（養殖他） メーカー事情</p> <p>12 各論⑤ 油脂類 油脂類及び油脂類の加工品について学ぶ。 油脂原料（植物油、動物油） 採油法、製油法 油脂加工品（マーガリン、ショートニング他） メーカー事情（業界再編他）</p> <p>13 各論⑥ 野菜類・果物類 野菜類・果実類及び野菜・果実類の加工品について学ぶ。 野菜の種類 果物類種類 野菜・果物の加工品（漬物、ジャム他） メーカー事情</p> <p>14 各論⑦ 嗜好飲料類 嗜好飲料類及びその加工方法について学ぶ。 お茶類 嗜好飲料類（炭酸飲料、缶コーヒー、スポーツドリンク、ミネラルウォーター） アルコール飲料（醸造酒、蒸留酒） メーカー事情</p> <p>15 各論⑧ 乳製品・食品加工概要 乳製品及びその加工方法について学ぶ。 食品加工の全般を整理する。 乳製品種類 加工品（種類、加熱殺菌法） メーカー事情</p>
到達目標・基準	<p>食品加工学は、食品を加工する意義から安心・安全な食品について理解する。基本的な食品加工理論を修得しながら社会情勢の変化を理解し、衛生的で経済的かつ安心・安全な加工食品を選択及び利用する力を身に付ける。</p> <p>◎C:食品を広く理解して、市販よりその特徴や他社製品ごとの違いが言える。 ◎D:代表的な加工食品の製造がイメージでき、製造を通じて関係する諸問題も感覚的につかめる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：シラバスに沿って食品を学んでいくので、各回ごとの教科書の内容を良く目を通し、キーワードや興味ある点・事項などノートに羅列すること。興味ある事項は、インターネット等で調べること。（60分程度）</p> <p>事後学習：授業を通じて習ったことを資料、書籍およびインターネット等で調べて、ノートにまとめその食品の理解を深めること。市場にて市販品をみて情報（表示他）を取集すること。（120分程度）</p>
指導方法	<p>食品加工学は、食品学の基礎に基づく応用学なので、基礎的知識の向上を促す為随時、関連事項・事件等の話題やメーカー事情等の実例を示しながら講義を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒板を使用し、常にノートを取らせるようにする。 ・毎回、前回のポイントを黒板に列挙し、重要点を再確認する。 <p>フィードバックの仕方：①授業内外での質疑応答</p>
成績評価の方法・基準	<p>C:食品全般の基礎知識を質疑や定期試験で評価する。 D:代表的な加工食品の製造方法や原理の理解等を質疑や定期試験で評価する。</p> <p>授業態度等 20% 定期試験 80%</p>
テキスト	新食品加工学 吉田勉編 医歯薬出版 2500円+税
参考書	応用食品学 金子憲太郎編 アイ・ケイコーポレーション 2400円+税
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義授業は、講義に参加（聞く・質疑に答える等）することが原則とする。 2. 授業中は他の人に迷惑にならないよう授業態度に注意すること。授業中は次にあげる行為は禁止する。（おしゃべり、居眠り、飲食、スマホ等の操作、化粧、他の教科の課題の作成等） 3. 授業に必要なでないもの（飲食物、スマホ等、授業に使用しない物）は持ち込まないこと。また鞆等にしまうこと。
アクティブ・ラーニング	
I C T の活用	WebClassにて関連資料を提示

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1	1	食専：栄選択必修
担当教員			
谷口裕信			
Subject Code：N24C14			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	食品加工実習は、食品について、製造（加工・原理）を通じて食品を幅広く理解する。実習では、「学び」、「体験」、「総括」をセットとして食品加工の理解を深める。 「学び」では、加工原理等及び操作方法・加工方法を理解する。 「体験」では、実際に加工食品を製造して味わう。また市販品と比較する。 「総括」では、学び・体験したことで得たことや感じたことをレポートにまとめる。 （授業の目標） 食品加工実習では、食品の基礎知識、表示、市販食品との違い、加工方法を理解し、グループによる加工実習からチームワークと加工方法を身に付ける。 A：班における自分の役割を理解し、加工実習を通じて良いチームワーク作りができる。 ○D：食品学等で習う食品に対する加工法を学び、食品加工の基礎を身に付ける。 ◎E：代表的な加工食品の製造原理を理解し、加工操作ができる。
授業計画	1 食品加工の概要（ICT：WebClass） 食品加工の概要 授業の目的・内容説明 食品加工上及び実習室（加工環境等）の注意事項 レポートの作成方法 食品加工に関連する事例学習（DVD等） WebClassにてレポートの書き方提示 2 果物の加工品①（実習） 果物のジャムの製造 イチゴジャムを製造するに当たり、ジャムの基礎としてジャムの原理や種類及びゼリー化について学ぶ。 瓶詰について理解として、瓶詰の保存性の意義や加熱殺菌について学ぶ。 3 小麦粉の加工品①（実習） 手打ちうどんの製造 手打ちうどんを製造するに当たり、製麺の原理や製造上の注意点を学ぶ。 小麦粉の加工特長として、小麦粉の性質やグルテンの加工特性を学ぶ。 4 伝統食品の加工品①（実習） 伝統食品の加工 こんにゃくの製造上の特長や加工の原理を学ぶ。 こんにゃくの理解として、市販品比較（表示内容確認）して品質特性を学ぶ。 5 果物の加工品②（実習） 果物の保存食品 くだもの瓶詰またはリンゴジャム 瓶詰類の特長や保全性の原理を学ぶ。 果物の加工特性の理解として、副産物（砂糖類）や殺菌とpHの関係などについても学ぶ。 6 乳製品の加工品①（実習） 乳製品の加工 バターの製造の原理や乳化について学ぶ。 バター製造中に生じる副産物を利用して乳飲料も製造する。 乳類の加工特性の理解として、関連加工品について種類や定義を学ぶ。 7 伝統食品の加工品②（実習） 豆腐 木綿豆腐の製造を通じて、その原理種類について学ぶ。 豆腐製造における凝固剤と種類や原料（大豆）について学ぶ。 豆腐の品質の理解として、市販品比較し木綿と絹の違いを学ぶ。 8 乳製品の加工品②（実習） 乳製品の加工 カッテージチーズを基本としてチーズの種類や製造原理を学ぶ。 チーズ製造中に生じる副産物を使用して乳清飲料を製造する。 世界各地の代表的なチーズを試食して、違いや風味等を観察する。 9 野菜の加工品（実習） 野菜の保存食品 ビクルス 野菜の保存方法について学ぶ。漬物の製造原理と塩の役割について学ぶ。 酢について、種類や用途についても学ぶ。 市販品を比較して、原材料（食品添加物含む）や表示について学ぶ。 WebClassにてブラシングの効果について提示 10 商品開発（保存技術・開発） 商品開発の考え方（保存技術・開発） 加工食品の保存技術について解説する（低温処理・乾燥） 瓶詰や缶詰の保存の原理、脱気・密封・殺菌について解説する。 加工食品の商品開発について解説する。 商品開発の事例を踏まえて解説する。 商品開発のノウハウを理解し、商品開発のイメージ作業 11 小麦粉の加工品②（実習） 小麦粉の加工品

	<p>バターロールを通じて、パンの製造理論を学ぶ。 小麦粉の種類とその加工食品について学ぶ。 パンの発酵について、酵母とベーキングパウダーの違いについて学ぶ。</p> <p>12 穀類の加工品 (実習) 穀類の加工品 そば そばの製造法やそばにまつわる事項について学ぶ。 そばの種類やつなぎの役割について学ぶ。 そばの製造を通じて、うどんとそばの製法の違いや注意点を学ぶ。</p> <p>13 パンの応用 (実習) 小麦粉の加工品 パンの応用としてパンタイプのピザを製造する。ピザの歴史等も解説する。 ピザソースとして、トマトソースを製造する。 パンの応用編として、発酵状況や生地の状態及び加工法について学ぶ。</p> <p>14 加糖酸乳 (実習) 乳製品の応用 乳酸飲料の簡易法について学ぶ。 発酵法と簡易法について、加糖酸乳の製造原理を学ぶ。 市販品と比較して、発酵乳や乳酸飲料について学ぶ。</p> <p>15 食品加工の処理法 (実習) 食品の加工法 食品の加工について、物理的・化学的・生物的方法について授業で作成した食品を例に解説する。 市販品確認 (DVD等) として冷凍食品について、状況・製造原理・留意点などを学ぶ。 官能検査体験 (円卓式)</p>
到達目標・基準	<p>A : 班における自分の役割を理解し、チームワーク作りに貢献し、加工実習をやり遂げることができる。 ○D : 代表的な食品の加工法の理解ができ、それに伴う食品の説明ができる。市販品との違いを説明できる。 ◎E : 代表的な加工食品の製造原理が理解でき、それに伴う作業ができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習 : シラバスに沿って次回製造する食品について教科書や参考資料等で調べる。 事後学習 : 実習で習ったことをレポートにまとめて製造した食品の理解を深める。機会を見つけて市場の市販品 (表示含む) を確認する。</p>
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・5~6人を1グループに班別にし班単位で、缶詰、瓶詰、袋詰等は1人1個の割合で製造できる規模で実習する。 ・最初に製造の原理や操作方を説明し、その後は各班ごとを巡回しながら指導する。 ・実習ごとにレポートを提出してもらい理解度を確認する。 ・レポート提出、定期筆記試験により評価を行う。 <p>フィードバックの仕方 : ①レポート提出②レポート評価、コメント③授業内外の質疑応答</p>
成績評価の方法・基準	<p>A : 受講態度・グループ内での授業貢献度を評価する。 D : 加工食品の基礎知識について、加工方法や特性の理解などをレポート提出・定期試験で評価する。 E : 加工実習貢献度 (食品製造の心構えや取り組み姿勢) を評価する。 実習を通して学んでいく教科なので実習態度、レポート及び試験で総合的に評価する。 実習態度 10%、レポート 40%、定期試験50%</p>
テキスト	<p>食品加工実習・実験書 吉田企世子編 医歯薬出版 1,800円+税</p>
参考書	<p>新食品加工学 吉田勉編 医歯薬出版 2,500円+税</p>
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 班単位で製造するので班員で協力して実習に参加すること。 2. 食品を製造する意識を常にもって実習に参加すること。 3. 実習の時は食品製造に適する身支度をして衛生管理に留意し、怪我等しないように注意すること。 4. 食品製造の環境下で授業を行うので、飲食物、スマホ他、授業に関係ない物品は持ち込まないこと。
アクティブ・ラーニング	<p>実習</p>
I C T の活用	<p>WebClass</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	食専：選択
担当教員			
谷口裕信			
Subject Code：N28C49			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	フードスペシャリスト論は、食の専門資格であるフードスペシャリストについてその概要全般について学習する。フードスペシャリストの業務内容及びその業務の可能性を理解し、現代の食環境・食生活の実態を把握する。またフードスペシャリスト資格認定試験の対策も授業内容に盛り込んで解説する。 (授業目標) 食べ物に関する様々な資格がある中で、フードスペシャリストとはどのような資格なのか、その業務内容を理解する。食に関する多様な知識や食生活関わる事例等を広く学び、現代の食の問題について考え、フードスペシャリストが担う役割を理解することを授業目標とする。 ○C：フードスペシャリストの役割を理解し、食に関連する事項を収集することができる。 ◎D：食品の基礎事項、食生活の概要、食品産業について理解して、それぞれ簡単に説明することができる。
授業計画	1 フードスペシャリストの職務とその可能性 (ICT：WebClass) フードスペシャリストについてその職務領域や可能性について学ぶ。 フードスペシャリストの養成 専門職と一般職の違い フードスペシャリストの仕事他 2 人類と食物① 人類の歩みと食物の変容について学ぶ。 それぞれの文化を学び人類の食生産 (食の確保) の歴史を学ぶ。 狩猟牧畜文化 農耕牧畜文化 3 人類と食物② 食品加工・保存技術について時代ごとに学ぶ。 食の確保から安定確保にむけての歴史上の技術等を学ぶ。 伝統技術 近代技術 現代技術 4 世界の食① 食の作法と禁忌と忌避について学ぶ。 食の世界の文化を宗教や地域に応じて学ぶ。 食具の文化 (手食・箸食・ナイフフォーク食) 食のタブー他 (宗教上の禁忌) 5 世界の食② 世界各地の食事情について学ぶ。 地域ごとの食の文化や実情を学ぶ。 ヨーロッパ地域 アジア地域 アメリカ地域 アフリカ地域 その他の地域 6 日本の食① 日本食物史について学ぶ。各時代の食物やその変化について学ぶ。 それぞれの時代ごとの食の変化や技術・文化を学ぶ。 原始・古代 中世 近世 近代 7 日本の食② 日本の食の地域差について学ぶ。 地域ごとの食文化や特色について学ぶ。 郷土食 (都道府県ごとの伝統食他) 行事食他 8 現代日本の食生活① 日本の戦後の食生活の変化について学ぶ。 戦後から今日に至る食の変化や改革を学ぶ。 食生活の変化 食糧政策等 9 現代日本の食生活② 日本の現代食生活の変化と食産業について学ぶ。 食糧を取り巻く事例や施策について学ぶ。 食料の供給と食料自給率 環境と食 10 食品産業の役割① フードシステムと食産業について学ぶ。 食品産業の特徴について学ぶ。 食品製造業の規模と動向

	<p>食品製造業の目的と特徴</p> <p>11 食品産業の役割② 食品産業の役割について学ぶ。 食品産業を分類し、それぞれの役割や規模について学ぶ。 食品卸売業 食品小売業 外食産業</p> <p>12 食品の品質規格と表示 (ICT : WebClass) 食品の品質規格・表示について学ぶ。 食品に取り巻く表示や関係する法規について学ぶ。 食品表示法 JAS法 食品衛生法 健康増進法 その他</p> <p>13 食品情報と消費者保護① 食情報の現状について学ぶ。 食に関する情報について問題点を含め学ぶ。 食情報の濫用 食品情報管理</p> <p>14 フードスペシャリストの役割 フードスペシャリストの役割や可能性について学ぶ。 過去の問題を使用し模擬問題を解き、学習状況を確認する。 フードスペシャリストの役割 フードスペシャリストの可能性 重要点確認</p> <p>15 食品情報と消費者の保護②・総括 食情報を取り巻く問題について学ぶ。 食情報から消費者の保護の視点で関係する事例を学ぶ。 まとめ及び総括 食の安全 消費者の保護</p>
到達目標・基準	○C:フードスペシャリストの役割を理解し、食に関連する事項に興味を持つことができる。 ◎D:フードスペシャリストに必要な食・食生活・食品産業等の基礎事項を理解できる。
事前・事後学習	事前学習：シラバスに沿って授業が展開するので、教科書に目を通して、興味ある項目・キーワードをノートに記載しておくこと。(60分程度) 事後学習：授業で興味を得た内容を資料・書籍・インターネット等で調べてノートにまとめること。語句ノートを作成し、重要点はまとめること。(120分程度)
指導方法	・講義形式で黒板を使用して学生にはノートを取らせるようにする。 ・語句をまとめる語句ノートを用意して各自まとめる。 フィードバックの仕方：授業内外での質疑応答
成績評価の方法・基準	C:フードスペシャリストの役割の理解について質疑や定期試験で評価する。 D:食品の基礎事項、食生活の概要、食品産業等についての理解を質疑や定期試験で評価する。 授業への貢献度 20% 定期試験 80%
テキスト	四訂フードスペシャリスト論 第4版 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 2000円+税
参考書	必要に応じて紹介する
履修上の注意	1. フードスペシャリスト資格取得のための必修科目です。しっかり学ぶこと。 2. 授業中は他の人の迷惑にならないよう授業態度（おしゃべり、居眠り、飲食、化粧、その他の教科の課題作製等）に注意すること。 3. 授業に関係ないもの（飲食物・スマホ等、授業で使用しない物）は持ち込まない、またはカバン等にしまうこと。
アクティブ・ラーニング	
ICTの活用	WebClass

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	2	2	食専：必修
担当教員			
豊島裕子			
Subject Code：N23C07			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 身体運動の生理的機能について、「一過性の運動、およびトレーニングによっておこる生体の生理的適応のメカニズム」について理解する。その理論を応用し、健康づくりのための運動、1) 運動処方の実際(運動の種類、運動量の選択)、2) ライフステージ別(子供、高齢者、女性)、および生活習慣病を有する人の運動処方)についての理解を深める。 (授業目標) 運動生理学の基礎知識を学び、食事と関連させて、健康づくりのための運動を生活の中に取り入れることができるようになる。 ◎D：運動に伴う生理的機能の適応のメカニズムを学び、運動処方の実際に応用できる。 ○E：生活習慣病別の運動の種類(有酸素運動、無酸素運動)、運動量(強度・時間・頻度・期間)の選定ができる。 ライフステージ別の運動について説明できる。
授業計画	<p>1 オリエンテーション (ICT:クリッカー、WebClass) 健康運動の歴史的流れを学び、その中から、健康づくりのためには食習慣の改善に加え、運動習慣を持つ大切さを理解する</p> <p>2 身体運動を発現する骨格筋の生理的機能とその適応 (1) 骨格筋の構造と筋収縮、エネルギー供給機構① (ICT:クリッカー、WebClass) 骨格筋の構造と筋収縮のしくみを学び、特に、筋活動におけるCaイオンの働きと食事におけるCa必要量の関連を理解する。筋収縮のためのエネルギー(ATP)再合成のための3つのエネルギー供給機構の特徴を学ぶ</p> <p>3 身体運動を発現する骨格筋の生理的機能とその適応 (2) エネルギー供給機構② (ICT:クリッカー、WebClass) 1) 運動強度、および運動時間とエネルギー供給機構利用の関係、2) 運動強度、および運動時間とエネルギー減利用の関係を理解すると共に、有酸素運動で特に脂質の利用を促進する運動内容を知る</p> <p>4 身体運動を発現する骨格筋の生理的機能およびその適応 (3) 人の筋力発揮特性 (ICT:クリッカー、WebClass) 筋力発揮の調節を神経系の役割から理解する。</p> <p>5 身体運動を発現する骨格筋の生理的機能およびその適応 (4) トレーニングに伴う骨格筋の適応 (ICT:クリッカー) トレーニングによる筋力増強のメカニズムについて学ぶ</p> <p>6 身体運動を持続させる呼吸循環系機能とその適応 (1) 呼吸器系機能 (ICT:クリッカー、WebClass) 呼吸運動の調節について理解し、運動に伴う肺換気量の変化を学ぶ。肺胞におけるガス交換、血液による酸素、二酸化炭素の運搬について学び、酸素利用のメカニズムを理解する</p> <p>7 身体運動を持続させる呼吸循環系機能とその適応 (2) 循環系機能 (ICT:クリッカー、WebClass) 心臓の構造と機能、および神経系、および内分泌系の働きによる心臓の調節機構を理解する</p> <p>8 身体運動を持続させる呼吸循環系機能とその適応 (3) 循環系機能 (ICT:クリッカー、WebClass) 一過性の運動(最大運動)における循環器系の応答(心拍出量、心拍数、酸素摂取量)、および血圧の変化を理解する</p> <p>9 身体運動を持続させる呼吸循環系機能とその適応 (4) トレーニングに伴う呼吸・循環系機能の適応 (ICT:クリッカー、WebClass) 有酸素的トレーニングによる呼吸循環系機能の適応について理解するとともに、有酸素運動が生活習慣病を予防する理由を学ぶ</p> <p>10 健康づくりのための運動 (1) (ICT:クリッカー、WebClass) 運動処方とはトレーニングの効果を得るための原理・原則を理解し、運動の種類、および運動量(運動強度・時間・頻度)の選択について理解する</p> <p>11 健康づくりのための運動 (2) (ICT:クリッカー、WebClass) 運動強度の指標となる酸素摂取量、心拍数、METSを用いて、運動強度、エネルギー消費量の計算方法を理解する</p> <p>12 健康づくりのための運動 (3) (ICT:クリッカー、WebClass) 発育発達期の生理的機能の特徴を学び、子供の神経系、呼吸循環系、および筋機能を高める運動の至適年齢について理解する。 また、高齢者の生理的機能の特徴を学び、高齢者にとって安全で効果のある運動を知る</p> <p>13 健康づくりのための運動 (4) (ICT:クリッカー、WebClass) 女性の生理的機能の特徴を理解し、女性のための運動について理解する。</p> <p>14 健康づくりのための運動 (5) (ICT:クリッカー、WebClass) 生活習慣病の一つである肥満症の予防・回復のための運動療法と食事療法との関連を理解する。 さらに、様々な症例をあげて、運動プログラムの作成法を理解する</p> <p>15 まとめ。(グループワーク、プレゼンテーション)</p>

	14回の講義を通して、各自が興味を持った内容に関し、グループで討論を行う。その結果を、グループ単位でプレゼンテーションを行う
到達目標・基準	◎D：運動に伴うエネルギー供給機構、およびエネルギー源の利用について説明できる。 一過性運動、およびトレーニングに伴う骨格筋、呼吸循環系機能の適応を説明できる。 運動が生活習慣病を予防・回復する理由を説明できる。 ○E：安全で効果のある健康づくりのための運動（運動の種類、運動量）を説明できる
事前・事後学習	事前学習：シラバスの内容についてテキスト・資料を事前に一読する。疑問点は書き出し、図書館、インターネットなどを利用し調べておく。（90分程度） 事後学習：授業中にクリッカーを用いて行った確認問題を配布するので、答えられなかったところや、間違えたところは、教科書・資料を見て確認する。また、関連問題を宿題として配布するので、自宅で回答しWebClassより提出とする。（90分程度）
指導方法	講義は、パワーポイントを用いて行う。パワーポイントには関連した写真や動画を多く使い、視覚的に理解しやすいよう配慮する。また、講義理解を助けるために配布資料を作成し、これと教科書を比較して閲覧しながら講義を進める。講義では、最新のトピックスなどを紹介し、学生が興味を持って臨めるよう心掛ける。 講義の進行中にクリッカーを用いたテストを行い、学生の理解度を確認しながら、必要に応じて説明を繰り返したり、過去の講義スライドに戻ったりしながら確実な理解を目指す。 クリッカー・テストと、その類似問題を講義終了後に配布し、両者を課題としてWebClass提出を義務付け、講義内容の定着を図る。 フィードバックの仕方：①WebClassを使って課題提出②クリッカーを用いてテストに回答③講義で回答を解説④授業内および授業外での質疑応答
成績評価の方法・基準	D：定期試験と授業内で行うクリッカー・テスト、課題で評価する。 E：定期試験と授業内で行うクリッカー・テスト、課題で評価する。 定期試験 60% 授業中に行うクリッカー・テスト評価 20% 課題 20%
テキスト	「入門運動生理学」 勝田茂 編著 杏林書院 2300+税
参考書	授業内で適宜、紹介する
履修上の注意	運動生理学の理論をより理解するためにも解剖生理学の復習をして置くことが望ましい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	クリッカー、WebClass

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	食専：必修
担当教員			
豊島裕子			
Subject Code：N25C19			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ヒトの一生はライフステージ別に、妊娠期・授乳期、離乳期、幼児期、学童期、思春期、成人期（青年期・壮年期・実年期）高齢期に分けられる。それぞれの時期における身体的特性や栄養学的問題点、適切な栄養素の摂取と食生活のあり方、栄養ケアとマネジメントについて学ぶ。また、特殊環境下、スポーツ活動時における栄養管理についても学ぶ。 （授業目標） 対象者のライフステージに合わせた栄養マネジメント力を身に付け、食のプロフェッショナルとして、食を通じた健康維持・増進に関わる力を身に付ける。 A：受け身の授業参加にとどまらず、常に問題意識をもって授業を聞く。友人の質問にも耳を傾け、自分なりの回答を試みる。 ○C：知識の丸暗記ではなく、新たな事柄に関し判断したり、推測したりする力を身に着ける。 ◎D：ライフステージごとの身体特性や食生活における問題点、適切な栄養素の摂取と食生活のあり方、特殊環境下やスポーツ活動時の身体状況の変化について理解できる。
授業計画	1 成長・発達・加齢、栄養ケア・マネジメント（ICT：クリッカー、WebClass） 応用栄養学の基礎となるヒトにおける生命現象の流れ（ライフサイクル）を学ぶ。成長・発達・加齢さらに老化の定義を学び、ライフステージ別栄養学理解のための基礎を作る。 栄養スクリーニング、栄養アセスメントの実際とその手順について学ぶ。栄養プログラムの目標設定、立案、実施と評価方法と、評価のフィードバックに関しても併せて学ぶ。 2 食事摂取基準（ICT：クリッカー、WebClass） 食事摂取基準策定の歴史、概要について学ぶ。2015年版において、各栄養素ごとに策定の根拠について学ぶ。 3 妊娠期の栄養（ICT：クリッカー、WebClass） 妊娠期の母体と胎児の生理学的特徴を学び、妊娠期に起こりやすい栄養学的問題とその評価法・解決法について学ぶ。 4 授乳期の栄養（ICT：クリッカー、WebClass） 授乳期の女性の生理学的特徴、母乳分泌の機序、授乳婦に起こりやすい栄養学的問題に関して学ぶ。授乳期の栄養ケアについて併せて学ぶ。 5 乳児期の栄養1（ICT：クリッカー、WebClass） 乳児期の発育・発達、生理的特徴と、乳児に関する栄養アセスメント法について学ぶ。出生時・乳児期に起こりやすい栄養学的問題に関し学ぶ。 6 乳児期の栄養2（ICT：クリッカー、WebClass） 母乳と人工栄養の特徴、調乳方法、乳児期の栄養補給法に関して学ぶ。健常児と先天性代謝異常を有する児を比較し、治療乳について理解する。 7 離乳期の栄養（ICT：クリッカー、WebClass） 乳児期の食事摂取基準を学び、離乳の目的、離乳の進め方について学ぶ。 8 幼児期の栄養1（ICT：クリッカー、WebClass） 幼児期の発育・発達とその評価法を学ぶ。幼児期に起こりやすい栄養学的問題として特に発育障害とアレルギーについて学ぶ。 9 幼児期の栄養2（ICT：クリッカー、WebClass）（グループワーク、ディスカッション） 幼児期の食事摂取基準について学ぶ。保育所給食について、ガイドラインを参考に学ぶ。 10 学童期・思春期の栄養（ICT：クリッカー、WebClass） 学童期・思春期の成長・発達の特徴と、アセスメント法について学ぶ。小児期生活習慣病に関する理解を深める。 11 成人期の栄養1（ICT：クリッカー、WebClass） 成人期（青年期・壮年期・実年期）の身体的特性、食生活の特徴から生活習慣病のリスクに関して学ぶ。さらに更年期の生理学的特徴とそれに伴う栄養学的問題について学ぶ。 12 成人期の栄養2（ICT：クリッカー、WebClass）（グループワーク、プレゼンテーション） 生活習慣病の現状について学び、その予防に関して考える 課題解決型学習として、栄養士として成人期の健康維持のためにできる対策に関し話し合う 13 高齢期の栄養（ICT：クリッカー、WebClass）（グループワーク、ディスカッション） 高齢期の加齢・老化に伴う生理学的特徴を学び、アセスメント法、高齢期に多い栄養学的問題に関して学ぶ。さらに、食事摂取基準、栄養ケアに関して学ぶ。 14 特殊環境と栄養、運動と栄養（ICT：クリッカー、WebClass） 高温・低温、高圧・低圧等、特殊環境下におけるヒトの生理学的状態を学び、栄養学的対応を考える。 運動時の生体反応について学び、一般人・アスリートにおける栄養ケアについて学ぶ。 15 全体討論（ICT：クリッカー、WebClass）（グループワーク、ディスカッション） 14回までの講義を振り返り、応用栄養学領域の社会的問題に関して討論する。
到達目標・基準	A：主体的に授業に参加し、疑問があるときは積極的に質問することができる。 ○C：生体反応と栄養ケアの必要性の関連を理解できる。 ◎D：ライフステージ別の身体特性と、それぞれのステージで食事摂取基準が定められている理由が理解できる。、それに対する栄養ケアの必要性が理解できる。特殊環境やスポーツ中に起こる生体反応を理解し、栄養学的対応方法を理解できる。

事前・事後学習	<p>事前学習：シラバスの内容についてテキスト・資料を事前に一読する。疑問点は書き出し、図書館、インターネットなどを利用し調べておく。(90分程度)</p> <p>事後学習：授業中にクリッカーを用いて行った確認問題を配布するので、答えられなかったところや、間違えたところは、教科書・資料を見て確認する。また、関連問題を宿題として配布するので、自宅で回答しWebClass提出とする。(90分程度)</p>
指導方法	<p>講義は、パワーポイント、フードモデルを用いて行う。パワーポイントには関連した写真や動画を多く使い、視覚的に理解しやすいよう配慮する。また、講義理解を助けるために配布資料を作成し、これと教科書を比較して閲覧しながら講義を進める。講義には、教員の体験エピソード、現場の情報など盛り込み、学生が興味を持って臨めるよう心掛ける。</p> <p>講義の進行中にクリッカーを用いたテストを行い、学生の理解度を確認しながら、必要に応じて説明を繰り返したり、過去の講義スライドに戻ったりしながら確実な理解を目指す。</p> <p>クリッカー・テストと、その類似問題を講義終了後に配布し、両者を宿題としてWebClass提出を義務付け、講義内容の定着を図る。</p> <p>フィードバックの仕方：①WebClassを使って課題提出②クリッカーを用いてテストに回答③講義で回答を解説④授業内および授業外での質疑応答</p>
成績評価の方法・基準	<p>A:グループワーク参加態度で評価する。受講態度、質問、クリッカー・テスト参加率、WebClassへの課題の提出率も参考とする。</p> <p>C:授業中のクリッカー・テスト結果、WebClass提出課題評価、プレゼン内容で総合的に評価する。</p> <p>D:定期試験で評価する。</p> <p>定期試験 60% 提出物 20% 講義中の評価 20%</p>
テキスト	「Nブックス 応用栄養学概論」渡邊早苗・松田早苗・真野由紀子編 建帛社
参考書	<p>応用栄養学実習書 柳沢幸江・松井幾子編 建帛社</p> <p>日本人の食事摂取基準(2015年版) 菱田明・佐々木敏 監修 第一出版</p> <p>日本人の食事摂取基準(2015年版) の実践・運用 食事摂取基準の実践・運用を考える会編 第一出版</p>
履修上の注意	<p>テキスト、配布資料を持参する。</p> <p>提出物は期限までに提出する。</p> <p>積極的に質問し、主体的に講義に参加すること。</p>
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、課題解決型学習
I C Tの活用	クリッカー、WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	2	1	食専：必修
担当教員			
豊島裕子			
Subject Code：N25C20			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業内容) ライフステージ別に適切な栄養素の摂取、食生活のあり方、食形態を前提とした献立の実際を学び、実習を通して調理上の注意点、献立立案における配慮事項を学ぶ。また、試食を通し、調理法の選択、食感・味覚上の問題に関しても理解を深める。 さらに献立立案、発注、調理、試食に至る一連の実習を行い、立案献立の栄養評価、調理方法の手順なども含め、具体的な知識を習得する。 (授業目標) 各ライフステージの食事摂取基準を応用する力を習得し、献立作成法・調理技術を身に付け、さらに食に関する問題の解決法を習得することを目標とする。また、班による実習を通して、チームワークの重要性と各自の責任ある行動を学ぶ。 A：班での調理を通し、チームワークの重要性と個々の責任について学ぶ。 ○C：ヒトのライフステージ別生理学的特性を理解した上で、それに適した献立展開、調理法選択ができる。 D：応用栄養学のライフステージ別食事の実際を、献立立案、調理の局面で実行できる力を身に付ける。 ◎E：献立作成、発注、調理の一連の作業を円滑に行うことができる。
授業計画	1 ガイダンス 実習概要、実習の基礎演習、栄養マネジメント、ライフステージごとの食事摂取基準、市販食品の計量など実習に必要な知識を概説する。 2 栄養マネジメント概要(実習) (ICT:WebClass) 若年女性の生理的特性を学び、1女子大生例に関しアセスメント・栄養管理を学ぶ。さらに同例の一日の献立を作成する。 市販食品の計量について学ぶ。 3 乳児期の栄養1(実習) (ICT:WebClass) 無菌操作法を用いて、調乳方法について学ぶ。調製粉乳・フォローアップミルク・治療乳を試飲する。 4 乳児期の栄養2(実習) (ICT:WebClass) 離乳食の進め方を学ぶ。 離乳の時期別に作成した提供献立により離乳食調理実習を行い、市販離乳食と合わせて試食し評価する。離乳の時期による食形態の差異を学ぶ。 5 幼児期の栄養1(実習) (ICT:WebClass) 幼児期の生理的特性を学び、間食の重要性を理解する。提供献立に従い、幼児期(3~5歳)の間食を調理、試食、評価する。 6 幼児期の栄養2(実習) (ICT:WebClass) 乳幼児期の三大アレルギーを学ぶ。提供献立に従い食物アレルギー代替食の調理を行い、試食後、評価する。 7 学童期の栄養(実習) (ICT:WebClass) 学童期生理的特性、栄養管理を学ぶ。提供献立に従い、カルシウム豊富な献立例の調理を行い、試食後、評価をする。 8 思春期の栄養(実習) (ICT:WebClass) 思春期の生理的特性、栄養管理を学ぶ。提供献立に従い、鉄を豊富に含む献立例の調理を行い、試食後、評価する。 9 実年期の栄養(実習) (ICT:WebClass) 実年期の生理的特性、栄養管理を学ぶ。提供献立に従い、食塩・食物繊維・脂質などを意識した献立例の調理を行い、試食し評価する。 10 高齢期の栄養1(実習) (ICT:WebClass) 高齢者の生理的特性、栄養管理を学ぶ。提供献立に従い、咀嚼・嚥下機能の低下がある場合の献立例の調理を行い、試食し評価を行う。 11 行事食(実習) (ICT:WebClass) 児童福祉施設などにおける様々な行事食について学ぶ。提供献立に従い、行事食献立例の調理を行い、試食し、評価する。 12 妊娠期・授乳期の栄養1(実習) (ICT:WebClass) 妊娠期・授乳期の生理的特性、栄養管理を学ぶ。 各個人で、妊娠期・授乳期の献立を作成する。 13 妊娠期・授乳期の栄養2(実習、グループワーク) (ICT:WebClass) 各班ごとに妊娠期・授乳期の献立を作成し、廃棄率の計算、発注量の計算を行い、発注票を作成する。 14 妊娠期・授乳期の栄養3(実習) (ICT:WebClass) 各班が作成した献立に基づき調理を行い、試食・検討・評価を行う。 15 高齢期の栄養2(実習) (ICT:WebClass) 市販の高齢者向けソフト食、ムース食などの官能検査を行なう。
到達目標・基準	A：班における自分の役割を理解し、調理実習・献立作成を通してよいチームワーク作りができる。 ○C：食における問題点をライフステージに合わせて評価する能力を身に付ける。 D：ライフステージ別の食事摂取基準、望ましい食形態等を理解し、ライフステージにあった献立立案能力を身につける。

	◎E:献立立案だけでなく、調理法、味覚への配慮、発注計算などを身に着ける。
事前・事後学習	事前学習:WebClassで配布された献立資料をよく読み、献立内容の意義に関しテキストを参考に理解を深める。献立資料の調理方法をよく読み、実習を円滑に行えるよう準備する。(30分程度) 事後学習:実習後、作成したレポートをWebClassに提出する。実習したライフステージの教科書記載部分を読んで、理解する。(60分程度)
指導方法	フィードバックの仕方:①あらかじめ、当日の実習目的、関連ライフステージの知識に関し概説を行う。②調理に関しデモンストレーションを行う。③班ごとに調理し、試食する。④献立立案実習では、随時各班をまわり、献立作成、発注に関し指導を行う。⑤いずれの実習も終了後レポート作成を行い、知識の定着を図る。⑥レポートを評価・コメント
成績評価の方法・基準	A:班における自分の役割を理解し、献立作成・調理で貢献できたかを評価する。 ○C:試食後のレポートにおける評価がライフステージを前提としてなされているかを評価する。 D:立案した献立内容がライフステージにあっているかを評価する。 ◎E:適切な発注計算、調理ができるかを評価する。 定期試験 50% レポート・課題、献立作成の理解度、実習態度 50%
テキスト	「応用栄養学実習書」 柳沢 幸江編著 建帛社
参考書	「調理のためのベーシックデータ」 女子栄養大学出版部 「7訂 食品成分表」 出版社は問わない
履修上の注意	応用栄養学講義で終了した内容は、十分に理解していることが望ましい。 提出物の期日を厳守すること。 実習中は安全・衛生に注意する。
アクティブ・ラーニング	実習、グループワーク
I C Tの活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	食専：必修
担当教員			
井部奈生子			
Subject Code：N17C40			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>食事計画を実施する上で欠かせないことは、献立作成能力である。栄養士は特定給食施設での給食管理業務の実践にあたることから、献立作成は対象者の特徴を正しく把握し、バランス・季節・嗜好・コストに配慮することが重要となる。そこで本科目では、業務の基盤となる献立作成に必要な基礎知識や考え方を講義する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>献立計画に際しては、多岐にわたる条件を考慮しなければならない。栄養士の専門的な履修に向け、献立作成のための基礎知識と技術を修得する。適切な重量を設定し、味や食材、食器の組み合わせを評価する方法を知り、さらに料理を数字で管理ができるようになる。</p> <p>◎C：献立から栄養評価を行い、献立の品質を高める方法を述べるができる。</p> <p>○D：食生活の状況に適した献立作成の基本的な知識を身に付ける。</p>
授業計画	<p>1 食事計画の目的 日本における献立について理解する。</p> <p>2 食品の計量をする方法 献立立案までの基礎計画について流れをつかむ。</p> <p>3 日本食品標準成分表 (ICT：WebClass) 日本食品標準成分表2015年版 (七訂) ・追補2016年について理解し、献立作成で活用できるようになる。</p> <p>4 食事計画の基本① (ICT：WebClass) 献立作成の実際を知り、対象者の把握をする。</p> <p>5 食事計画の基本② (ICT：WebClass・クリッカー) 自らの食事を知り、正しい食生活について考える。</p> <p>6 食事計画の基本③ (ICT：WebClass) 料理の組み合わせ方、献立作成基準を理解する。</p> <p>7 給与栄養目標量について (ICT：WebClass) 利用者に対応した給食の展開を理解する。</p> <p>8 栄養比率の求め方 (ICT：WebClass・クリッカー) 献立評価の具体的方法の基礎を理解する。</p> <p>9 特定給食施設における栄養管理 (ICT：WebClass) 栄養価計算についての説明を聞きながら理解し、自らできるように修得する。</p> <p>10 食事計画の基本④ (ICT：WebClass) 料理様式別の特徴を比較し、それぞれの特徴を確認する。</p> <p>11 食事計画の基本⑤ (ICT：WebClass・クリッカー) 調味と数値が一致するよう、今まで学修してきた各項目の関連問題を自分の力で解き、答え合わせをして説明を聞きながら理解し、知識を定着させる。 (答え合わせはクリッカーを使用して、理解度を図る)</p> <p>12 食事計画の実際① (ICT：WebClass) 献立作成手順についての説明を聞きながら理解し、知識を定着させる。</p> <p>13 食事計画の実際② (ICT：WebClass) 献立表の役割を学び、施設別献立の特徴を確認する。</p> <p>14 食事計画の実際③ 献立作成の評価方法について説明できるようになる。</p> <p>15 グループ討議 (グループワーク・プレゼンテーション) 献立評価を行い、正しい情報提供の方法を修得する。 グループ討議により優秀献立を選定し、優秀献立作成者が代表としてプレゼンテーションを行う。</p>
到達目標・基準	◎C：栄養士の専門的な履修に向け、献立作成のために必要な適切な重量を設定し、味や食材、食器の組み合わせの正誤を判断できる。 ○D：食生活の状況に適した献立作成の基本を理解している。
事前・事後学習	事前学習：WebClassで必要資料を事前に関連し、献立作成に必要な資料の準備をする。次回の講義内容に関する用語の教科書で確認し、まとめておくこと。(60分程度) 事後学習：配布プリントの確認を含め、講義内容をまとめた課題に取り組む。特に、事後学習が大切である。(120分程度)
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義で内容を説明し内容に応じて、パワーポイント利用して要点を示しながら説明をする。 ・適宜DVD等の視聴覚資料を利用する。 ・一定期間の自分の食事記録を行い、教材とする。 ・授業内で小テストを行い、理解度を確認しながら授業を進めていく。 <p>フィードバックの仕方：課題①課題の提示、②課題を提出後評価し、コメント記載のうえ返却する。 小テスト①小テスト実施、②小テスト採点、③授業後による採点についての質疑応答。</p>

成績評価の方法・基準	C：レポート等を評価する。 D：定期試験、小テストを評価する。 定期試験 50%、レポート課題 35%、小テスト 15%
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・「新ビジュアル 食品成分表 [新訂第二版]」新しい食生活を考える会編著 大修館書店 2016 ・「調理のためのベーシックデータ」松本伸子編著 女子栄養大学出版部 2014 ・「給食施設のための献立作成マニュアル」赤羽正之他 医歯薬出版株式会社 2015
参考書	授業内で紹介をする。
履修上の注意	献立作成の基礎となる論理と技術を学びます。知識を得るためにも料理や食材についての本をたくさん読んでください。レポートの期限は厳守してください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	クリッカー、WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	食専：必修
担当教員			
井部奈生子			
Subject Code：N17C29			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>特定給食施設（特定多数の人に対し、断続的に食事を提供する施設）では、対象の目的に応じた栄養管理が必要になる。本科目では、給食の意義、目的、特性を学び、給食における栄養士の役割を理解し、給食を運営する上で必要な各管理の目的、方法、評価などについて講義する。</p> <p>栄養士としての実践の場に役立つよう、栄養面、安全面、経済面全般を配慮した給食のあり方について学ぶ。</p> <p>（授業目標） 2年次給食管理実習（学内・学外）に向け、給食の運営を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービスの知識を身に付ける。</p> <p>◎D：給食施設ごとの利用者の特徴、給食の目的、根拠法令を把握し、概要と実際を知る。</p>		
授業計画	1	給食の概念 給食の意義と役割、特定給食施設の概要	
	2	給食における栄養・食事管理の概要（ICT:WebClass） 情報技術の効率的活用、栄養計画、栄養教育	
	3	献立計画（ICT:WebClass） 各種給食における献立、効率化	
	4	給食における安全・衛生管理①（ICT:WebClass） 特定給食施設における関連法規	
	5	給食における安全・衛生管理②（ICT:WebClass） HACCPシステム、事故・災害時対策	
	6	食材料管理（ICT:WebClass） 購入計画、方法、評価	
	7	品質管理（ICT:WebClass） 大量調理の特徴と品質、調理システム	
	8	調理作業管理（ICT:WebClass） 作業の標準化、新調理システム	
	9	施設・設備管理（ICT:WebClass） 施設・設備の特性、計画、日常の保守管理	
	10	人事管理・原価管理（ICT:WebClass） 人材育成、給食原価の構成、計画的な原価管理	
	11	給食経営の実際①（グループワーク、プレゼンテーション） 給食の業務委託、学校給食 給食の現状についてグループ討議を行い、代表者が発表する。	
	12	給食経営の実際②（ICT:WebClass） 病院給食	
	13	給食経営の実際③ 社会福祉施設給食	
	14	給食経営の実際④ 事業所給食	
	15	特定給食施設における栄養士の役割（グループワーク、プレゼンテーション） 給食管理におけるこれからの課題、給食サービスの提供についてグループ討議を行い、代表者が発表する。	
到達目標・基準	◎D：給食施設ごとの利用者の特徴、給食の目的、根拠法令を把握し、栄養士が働いている現場について説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：授業内容のポイントをまとめ、事前にプリントを配布する。受講前に配布したプリントの内容については、WebClassを確認して事前学習を進めること。（60分程度） 事後学習：重要単語や重要事項をまとめること。配布プリントの見直しをすること。（120分程度）		
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を中心とした講義形式で行う。授業ポイントをまとめたプリントを配布したり、パワーポイントを使用して解説する。 ・項目ごとに小テストを行い、理解度を確認しながら（クリッカー使用）授業を進めていく。 ・事前学習用の配布プリントは、WebClassで配信する。 <p>フィードバックの仕方：小テスト①小テスト実施、②小テスト採点、③授業後による採点についての質疑対応。 課題①課題の提示、②評価のうえ返却、③授業後による採点についての質疑対応。</p>		
成績評価の方法・基準	D：定期試験、小テスト、提出物を評価する。 定期試験65%、小テスト25%、提出物10%		
テキスト	・「Nブックス 給食の運営－栄養管理・経営管理－」 逸見幾代，平林真弓編著 建帛社 2017		

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「給食経営管理用語辞典」第一出版 ・その他、授業内で適宜紹介する。
履修上の注意	項目ごとに「栄養士実力認定試験」を意識した小テストを行います。テストを行う授業日は前もって連絡をします。何らかの事情で欠席する場合は事前に連絡してください。配布プリント、授業中に行う小テストの内容は定期試験の範囲に含まれます。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	クリッカー、WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	食専：栄必修
担当教員			
井部奈生子、北村暁子			
Subject Code：N27C30			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	給食の運営（経営管理、栄養管理、衛生管理、大量調理、評価方法）全般の流れに沿って、計画書や帳票類、評価票を作成する。献立計画や調理を含めた給食サービス提供を適切に運営することによって、衛生的で栄養的な食事を利用者（喫食者）の嗜好性を考慮しながら、経済的に提供するための方法を学ぶ。衛生管理では、大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた具体的な内容を学ぶ。 (授業目標) 大量調理施設の衛生管理について熟知し、安全な給食を提供するための方法と心構えを理解する。2年次の給食管理実習（学内）、校外実習に臨むにあたり、書類の作成方法、栄養管理の実際を演習し、栄養士業務の流れをつかむ。 ○C：大量調理の特性を理解し、施設・設備に配慮した作業管理の方法を説明することができる。 ◎D：給食を運営するための献立計画を理解し、調理における衛生管理についての基礎的知識を身に付ける。
授業計画	<p>1 給食管理実習について（グループワーク：相互インタビュー） 授業の概要説明、給食管理実習（学内）用「衛生管理マニュアル」の説明を行う。実習グループ内で相互インタビューを実施し、相互理解を深める。</p> <p>2 大量調理施設衛生管理マニュアル（演習：学内給食実習室見取り図の作成） 大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った身支度の整え方、手洗い方法を学ぶ。学内給食実習室内の衛生管理区域について見取り図を作成しながら学ぶ。</p> <p>3 施設・設備管理（演習：大量調理マニュアルに沿った手洗いの実践） 学内給食実習室で衛生管理マニュアルに沿った手洗い方法の実践をする。また、実習室の見学をしながら厨房機器のレイアウトを確認し、衛生管理の実態を知る。</p> <p>4 給食の調理における衛生管理 大量調理における衛生管理について学ぶ。調理工程に沿って、食品ごとの取り扱いの違い、保存食の取り方、温度管理の方法をそれぞれの目的とあわせて学ぶ。</p> <p>5 給食の調理における衛生管理の実践（演習：大量調理マニュアルに沿った調理実習） グループごとに学内給食実習室で大量調理衛生管理マニュアルに沿った簡単な調理を行う。</p> <p>6 成分表を用いた栄養価計算演習（演習：栄養価計算） 献立の見方、調味パーセントの計算を学ぶ。また献立表をもとに栄養価計算を行う。</p> <p>7 給食の計画①（演習：荷重平均栄養成分表の作成） 荷重平均栄養成分表について学び、実際に作成をする。</p> <p>8 給食の計画②（演習：食品構成の作成） 食品構成をまとめるための基礎事項を学び、実際に食品構成表の作成をする。</p> <p>9 給食の実施①（演習：献立作成） 給食の計画に基づいた献立作成を行う。各自がテーマに沿った給食の献立を作成する。</p> <p>10 給食の実施②（演習：献立作成） 給食の計画に基づいた献立作成を行う。衛生管理を意識した献立を作成する。</p> <p>11 給食の実施③（演習：作業計画書の作成） 献立に沿った作業計画書の作成方法を学び、大量調理への応用として衛生管理を意識した作業手順書を作成する。</p> <p>12 給食の評価（演習：栄養出納表の作成） 給食の評価に用いる栄養出納表について学び、実際に作成をする。</p> <p>13 栄養教育①（演習：栄養指導媒体の作成） 給食の場での栄養教育について学び、実際に栄養指導媒体の作成をする。</p> <p>14 栄養教育②（演習：栄養指導媒体の作成） 栄養指導媒体の作成をし、完成させる。</p> <p>15 給食管理実習を行う上での心構え 現場で利用する技術や知識について、グループ討議による評価を行う。</p>
到達目標・基準	○C：大量調理施設の衛生管理について知り、安全な給食を提供するための方法を説明することができる。 ◎D：給食運営に必要な帳票類の作成方法、給食計画の実際を栄養士業務の流れに沿って説明することができる。
事前・事後学習	事前学習：次の授業内容に関する項目についてテキストの該当箇所を読み、これまでに修得した専門基礎分野の復習とあわせてまとめておくこと。（30分程度） 事後学習：レポート等の課題を含め、各回の授業のまとめを作成しファイルに綴じておくこと。特に、事後学習が大切である。（60分程度）
指導方法	内容を説明した後、実際に献立を作成したり、帳票を作成したりする。内容に応じて、グループワークを行い、プロジェクター、配布資料等を利用して重要な点を示しながら説明をする。内容により、給食経営管理実習室、実習食堂で作業もおこなう。 フィードバックの仕方：①課題提出、②評価し採点后返却、③授業後に課題内容についての質疑対応
成績評価の方法・基準	C：レポート、課題等を評価する。 D：定期試験、小テストを評価する。 定期試験 50%、レポート課題（授業への貢献度を含む）35%、小テスト 15%

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・「新ビジュアル 食品成分表 [新訂第二版]」新しい食生活を考える会編著 大修館書店 2016 ・「調理のためのベーシックデータ」松本仲子編著 女子栄養大学出版部 2018 ・「給食施設のための献立作成マニュアル」赤羽正之他 医歯薬出版株式会社 2016 ・衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省 株式会社学建書院 2013
参考書	授業内で紹介する。
履修上の注意	全ての書類は流れがあり、関連性があります。欠席をすると内容や帳票類の書き方がわからなくなり、それ以降の書類作成や実習の進行に影響します。体調管理をしっかりとして下さい。1クラスを4グループに分けて授業を進めますので、グループによって授業内容が前後する場合があります。
アクティブ・ラーニング	実習、グループワーク
I C Tの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	食専：必修
担当教員			
井部奈生子、北村暁子			
Subject Code：N27C31			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>栄養士の業務内容（献立作成、食材発注、検収、大量調理、食事サービス、栄養事務、栄養指導）を学内において実践する。給食管理実習（学内）では、すでに学んだ食事計画、給食管理の理論などの知識を生かして実務を行う。給食の運営のテーマは「学生の健康管理のための給食」とし、給食における栄養教育の実際と効果も含めて観察や調査も行い、実社会同様に実施する。この実習を通じて、給食の運営に携わる栄養士のあり方を学ぶ。</p> <p>（授業目標） 特定給食施設における給食管理の実際を体得するとともに、特定給食における給食管理のあり方を理解する。 ○A：グループにおける自分の役割と大量調理の特性を理解し、献立作成、調理実習ができる。 ◎D：大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った給食業務を身に付ける。</p>
授業計画	<p>1 栄養計画 給与栄養目標量の確認、献立作成</p> <p>2 献立計画（グループワーク：グループで実習するための献立作成を行い、評価する。） 献立会議、献立の評価</p> <p>3 給食業務概要 実習室（厨房）内の施設・設備及び器具類の把握</p> <p>4 作業計画①（グループワーク：大量調理を提供するためのサービスをまとめる。） 単一定食の献立指示表の確認、提供サービス打合せ</p> <p>5 供食実習①（調理実習：調理・試食） 厨房での大量調理、アンケート集計</p> <p>6 帳票整理① 実施献立表と栄養日報の作成要領</p> <p>7 試作①（調理実習：調理・試食） 作業計画、重要管理点の設定</p> <p>8 作業計画② 献立指示表の作成、発注、提供サービス方法の検討</p> <p>9 供食実習②（調理実習：調理・試食） 食材管理、厨房での大量調理、アンケート集計</p> <p>10 帳票整理② 実施献立表と栄養日報の作成、アンケート結果の検討</p> <p>11 試作②（調理実習：調理・試食） 献立の修正、原価の計算、実習において見つかった問題点と対策</p> <p>12 作業計画③、栄養指導媒体 献立指示表の作成、発注、供食サービスの打合せ、栄養情報提供媒体作り</p> <p>13 供食実習③（調理実習：調理・試食） 検収、厨房での大量調理、提供サービス、洗浄方法</p> <p>14 帳票整理③ 給食業務の総合評価、帳票整理において見つかった問題点と対策</p> <p>15 全体報告会（グループワーク・プレゼンテーション） グループ討議による実習内容の評価、反省会</p>
到達目標・基準	○A：グループにおける自分の役割と大量調理の特性を理解し、調理実習をやり遂げることができる。 ◎D：大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った給食業務をまとめ、ポイントを説明できる。
事前・事後学習	事前学習：授業の準備として、1年次に修得した専門基礎分野の復習をする。 試作した献立を大量調理実習前に自宅で作ってみると理解も調理技術も上達する。 事後学習：実習ノートの整理、レポート等の課題を含め、各回の授業のまとめをすること。 特に、事後学習が大切である。
指導方法	1クラスをグループに分け、それぞれの日程で実習が進行する。献立の決定、作業管理、試作による献立の検討、実習準備、実習実施の各段階で随時アドバイスをしながら実習を進めていく。実習献立のまとめには、PCを用いて、栄養価計算ソフトを使用する。 フィードバックの仕方：①実習、②レポート提出、③評価して返却、④授業後による採点についての質疑対応
成績評価の方法・基準	A：研究課題、個人の授業態度、グループのチームワークを評価する。 D：定期試験を評価する。 定期試験 50%、提出物、研究課題 40%、個人の授業態度・グループの評価（積極性、協調性、責任感）10%
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・「新ビジュアル 食品成分表 [新訂第二版]」新しい食生活を考える会編著 大修館書店 2016 ・「調理のためのベーシックデータ」松本伸子編著 女子栄養大学出版部 2014 ・「給食施設のための献立作成マニュアル」赤羽正之他 医歯薬出版株式会社 2015

	・「衛生管理&調理技術マニュアル」文部科学省 株式会社学建書院 2013
参考書	授業内で紹介する。
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループで作業を行うので、協力が必須です。グループが一丸となって実習に臨んで下さい。 2. 事前に細菌検査を実施します。食中毒菌陰性の証明のない学生は実習室への入室を禁止とします。きちんと期限を守って検体を提出してください。 3. 大量調理を行う際には、体調管理が重要です。自分自身の体調管理を十分にしてください。実習当日に体調不良の場合は、必ず申し出てください。 4. 給食の運営・管理についての定期試験を行います。余裕をもって準備をしてください。
アクティブ・ラーニング	実習、グループワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	食専：卒業必修、栄必修
担当教員			
川嶋比野			
Subject Code : N17A41			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「技術は目で見て盗め」、「試行錯誤を繰り返して体で覚えろ」と料理人の世界では昔から言われるが、見よう見まねのみで調理をし、その技術を自分のものとするには長い時間を要する。しかし、調理を科学的に捉え、下記の項目に沿って理論を理解してから取り組むことで、より効率的な技術の向上が可能となり、無駄な失敗を避けることが出来る。調理学は、その科学的理論を学ぶ授業である。</p> <p>(授業目標) 効率の良い調理技術の向上につながる知識を身に付けることを目標とする。調理の意義と食品の特性を深く理解し、栄養・安全・嗜好・環境面の各特性を効率よく高められるようになる。</p> <p>○C：日本及び世界の食文化や料理様式を学び、人間にとって調理とはどういう意義のあるものなのか説明できる。また、おいしさを決める要因について多岐にわたって考えることができる。</p> <p>◎D：①代表的な食材の調理性を科学的に理解している。②調理操作や調理器具など、食材以外の事柄についても理解し、効率の良い調理に応用できる。③関連の認定試験に合格またはA判定を取得できる実力を身に付ける。</p>
授業計画	<p>1 調理の意義、食事計画 調理とは何か？また、食物の条件とは？など、普段何気なく使っている言葉の意味や目的を考えてみる。 さらに、献立作成の要点を理解する。</p> <p>2 世界の食文化、料理様式 世界の食文化を主食、食具などの違いから分類し、考えてみる。 また、日本料理、西洋料理、中国料理の様式の違いと特徴を理解する。</p> <p>3 食物の嗜好性 食べ物のおいしさは何によって決まるのかについて考えてみる。 また、味の種類、相互作用を理解する。</p> <p>4 調味料の種類と呈味性以外の調理機能、野菜の調理性、食品の色素 調味料にはどんな物があるのか？味付け以外での調味料の使い方などについて理解し、応用できる力を身に付ける。 また、野菜や肉の色素が調理によってどう影響を受けるかについて理解する。</p> <p>5 砂糖の調理性 糖の構造を理解し、構造の違いが調理性や栄養に影響を与えていることを理解する。 アミノカルボニル反応や、糖の加熱変化についても理解し、調理に応用できる力を身に付ける。</p> <p>6 卵の調理性 卵に含まれるたんぱく質が様々な調理性に関与していることを理解する。 卵の保存、調理、アレルギー対処、鮮度判定などに応用できる力を身に付ける。</p> <p>7 でんぷんの調理性 でんぷんの構造と種類を理解する。 糊化と老化、ゲル化、デキストリン化などについて理解し、調理へ応用する力を身に付ける。</p> <p>8 芋と豆の調理性 芋や豆の種類と特徴について理解する。 調理において気を付けることなどを学び、種類ごとの正しい調理知識を身に付ける。</p> <p>9 近年話題の調理学用語について 聞いたことがあるキーワードでも、いざ正確な意味や由来を問われると分かっていないことが多い。そのような調理学関連用語を教科書や関連書籍から学び、レポートにまとめる。後日レポートは期限までに提出。</p> <p>10 寒天、ゼラチンの調理性 ゲル化剤について理解する。 寒天とゼラチン及びその他のゲル化剤の特徴の違いを説明できるようになる。</p> <p>11 油脂の調理性 油脂の分類について理解し、安全な扱い方について学ぶ。 また、調理性を理解し、様々な料理に適切に使用するための知識を身に付ける。</p> <p>12 小麦粉の調理性 小麦粉のタンパク質を利用した調理と澱粉を利用した調理の違いについて理解する。 また、膨化を利用したお菓子の仕組みを理解し、調理へ応用する力を身に付ける。</p> <p>13 肉・魚類の調理性、特殊な加熱調理機器と操作 肉と魚の熟成と腐敗の仕組み、違いについて理解する。 また、肉の種類や部位による特徴と料理の使い分けを考えてみる。 また、電子レンジやIH調理器など特殊な調理機器について仕組みや注意点を理解し、適切に使用できる力を身に付ける。</p> <p>14 凍結と解凍、鍋の材質と特徴、加熱調理操作のまとめ 上手な冷凍と解凍の仕方、急速冷凍の違いについて理解する。 また、鍋の使い分けを材質から考えてみる。 さらに、熱の伝わり方について理解し、食材に火が通る仕組みを説明できるようになる。</p> <p>15 調理学の理解 これまで学修してきた各項目の練習問題を解き、解説を聞いて知識を定着させる。(ICT：クリッカーで理解度を確認しながら答え合わせを行う)</p>

到達目標・基準	○C：日本及び世界の食文化や料理様式を学び、人間にとって調理とはどういう意義のあるものなのか理解している。また、おいしさを決める要因について考えることができる。 ◎D：①代表的な食材の調理性の基礎を科学的に理解している。②調理操作や調理器具など、食材以外の事柄についても理解している。③関連の認定試験を自分の力で解いてみる可以尝试。
事前・事後学習	事前学習：シラバスを確認し、項目の内容に該当する調理実習レポートを読み返しておくこと。また、教科書を読んで予習しておくこと。(90分程度) 事後学習：練習問題を解き、プリントを復習すること。調理実習や自宅での調理の際に理論を思い出しながら体感し、理解を深めること。(90分程度)
指導方法	・講義形式で、理解を深めるために質問なども投げ掛け、コミュニケーションを図りながら指導する。クリッカーを使用して理解度を見ることもある。 ・毎回配布プリントを用い、穴埋め方式でキーワードを確認しながら学修していく。 ・パワーポイント、プロジェクター等の機器も使用して進める。 ・レポート提出、定期筆記試験により評価を行う。 フィードバックの仕方：①レポート提出、②評価後返却、③授業後における質疑対応
成績評価の方法・基準	C：指定の調理学用語を自分の言葉でまとめたレポートの提出を評価する。 D：調理の意義と食品の特性および栄養・安全・嗜好・環境面の各特性の理解度を定期試験により評価する。 レポート10%、定期試験(持ち込み不可)90%の配分で評価する。
テキスト	「『栄養管理と生命科学シリーズ』調理の科学 - 記述ノートつき -」 吉田恵子共著 理工図書(2012年)
参考書	「調理と理論」山崎清子共著 同文書院(2016年)
履修上の注意	卒業必修科目である。 配布プリントを整理するため、必ずA4、2つ穴リングのファイルを初回授業時に各自で用意すること。 調理学実習1、2と関連する講義科目である。
アクティブ・ラーニング	
ICTの活用	クリッカー

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	食専：必修
担当教員			
川嶋比野			
Subject Code : N17C42			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>家庭における調理手法の基本と心構えを修得するための実習である。一般家庭で使用する調理用具・機器類などについて、その使用用途を理解し、食材の美味しさを引き出す調理技術を身に付ける。</p> <p>(授業目標) 調理の意義と食品の特性を理解し、栄養士として必要な栄養・安全・嗜好・衛生・環境面の各特性を高めるための調理技能を修得する。 ○A：グループの中での自分の役割を理解し、共に協力し合って調理を効率よくすすめることができる。 B：コミュニケーションをとりながら物事を円滑に進めていく力を身に付ける。 ◎E：①基本的な調理操作として、食品の選択と下処理、調理用具及び機器類の扱い方、火の取り扱い方を理解し、正しく調理することができる。②食材を生かした調理操作として、非加熱調理、加熱調理が効率よくできる。③美味しさを引き出すための調味の仕方、食感を生かした切り方、香りを生かした調理ができる。④包丁を安全に効率よく使いこなすことができる。⑤食品の安全を守るための衛生管理を含めた食材の取り扱いができるようになる。⑥料理の塩分計算ができる。</p>		
授業計画	1	ガイダンス (実習) 実習の心得と注意事項をよく聞き、実行できるようになる。 衛生管理の基本について理解する。 計量法を学び正しい計量ができるようになる。 廃棄率の概念を理解し、計算できるようになる。	
	2	日本料理1 (実習) 日本料理の基本的な調理器具を扱えるようになる。 炊飯、煮干し出汁のとり方、日本茶の入れ方を身に付ける。	
	3	西洋料理1 (実習) 西洋料理の基本的な調理器具を扱えるようになる。 基本的な包丁の使い方を身に付け、りんごの木の葉切りに挑戦する。	
	4	中国料理1 (実習) 中国料理の基本的な調理器具を扱えるようになる。 上湯のとり方を身に付ける 蒸し物調理、キャベツの千切りができるようになる。	
	5	日本料理2 (実習) 炊き込みご飯の作り方、肉の扱い方を身に付ける。 日本料理の盛り付けの基本を理解する。	
	6	西洋料理2 (実習) 揚げ物調理、紅茶の入れ方を身に付ける。 塩の様々な役割、じゃがいもの種類による使い分け方を理解する。	
	7	中国料理2 (実習) 骨付き鶏肉の扱い、烏龍茶の入れ方を身に付ける。 中国料理の材料について特徴を理解する。	
	8	日本料理3 (実習) 一番、二番出汁のとり方、鍋照り調理を身に付ける。 換算係数を使って、汁物を決められた塩分濃度に味付けできるようになる。	
	9	西洋料理3 (実習) 肉の部位別調理法を理解する。 ゼラチンの調理、チャイの入れ方を身に付ける。	
	10	中国料理3 (実習) 炒め物調理、寒天の調理、きゅうりの拍子木切りを身に付ける。	
	11	西洋料理4 (実習) 生クリームの温度管理の重要性を知る。 基本的なハーブ・スパイスの使い方、魚の切り方を身に付ける。	
	12	日本料理4 (実習) 酢飯・錦糸卵の作り方、貝・干びょうの扱いを身に付ける。	
	13	日本料理5 (実習) でんぷんのゲル化の様子を観察し、その調理性を利用した調理ができるようになる。 追い鰹の役割を知る。 海老の調理法を身に付ける。	
	14	野菜の切り方と塩分計算 (実習) 野菜の切り方の総復習 (小口切り、半月切り、千切り、短冊切り等) を行い、正しい手順で、効率よく包丁を使って野菜を切る技術を身に付ける。 基本的な塩分計算法を覚え、調理に必要な各種の調味料の量を計算で求めることができるようになる。	
	15	包丁技術の確認と衛生管理 (実習) 包丁の技術の確認を行い、練習不足な技能がないか自覚する。 調理器具、調理場の掃除方法等の衛生管理法を身に付ける。	

フローチャートの作り方と意義について理解する。	
到達目標・基準	○A：グループの中での自分の役割を理解し、共に協力し合って調理をすすめることができる。 B：コミュニケーションをとりながら物事を進めていく努力ができる。 ◎E：①基本的な調理操作として、食品の選択と下処理、調理用具及び機器類の扱い方、火の取り扱い方を理解している。②食材を生かした調理操作として、非加熱調理、加熱調理ができる。③包丁を安全に使うことができる。④食品の安全を守るための衛生管理を含めた食材の取り扱いの基本ができる。⑤換算係数を用いた塩分計算ができる。
事前・事後学習	事前学習：予定表で献立を確認し、料理について調査すると良い。 事後学習：実習後は指定のレポートを作成し、反省を踏まえて自宅等でもう一度調理すること。練習して初めて身に付く技術である。
指導方法	・デモンストレーションをしながら説明を行い（手元カメラでデモ中の映像をモニターで拡大して見ることができる）、グループごとに実習する。 ・試食前に各グループの実習内容を評価する。 ・後片付けの後、点検を受け、グループごとに終了となる。 フィードバックの仕方：①実習、②料理の出来上がりコメントおよび評価、③効率の良さについてもコメントおよび評価、④実習中および実習後の質疑対応
成績評価の方法・基準	A：出来上がった料理を評価する。 B：グループの作業効率のよさを評価する。 E：包丁技術を実技試験により評価する。衛生管理を含めた食材の取り扱い方、調理法について理解しているかレポートにより評価する。 実習で作った料理および作業効率の良さ(20%)、レポート提出(50%)、実技試験(30%)を総合的に評価する。実習科目のため、技術と成果およびレポートを評価するので筆記試験は行わない。
テキスト	授業内容をプリントし配布する。
参考書	他科目で使用している食品成分表
履修上の注意	栄養士、フードコーディネーター、フードスペシャリスト取得のための必修科目であり、調理学、調理学実習2の関連科目である。 衛生管理徹底のため、指定された身支度を整え、手指の清潔に心がけ、すべてのアクセサリ類は身につけないようにする。実習中は、刃物や火の取り扱いには十分気をつけて行動し、担当者の指示に従い、安全に留意する。 なお、各自、日頃からの自己管理を怠らず、万全な体調で授業に臨むこと。 食物アレルギーの有無について授業前に調査を行うが、調理担当変更、見学、試食を避ける、欠席などの対応についてはアレルギーの程度によって各自で判断し、教員に申し出て行うこと。 調理に伴う食材費および消耗品費は別途徴収する。
アクティブ・ラーニング	実習
I C T の活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	食専：必修
担当教員			
川嶋比野、大野治美			
Subject Code : N17C43			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	文化や宗教の違いによって用いる食材や調理法は異なり、世界または日本国内でも、多種多様な食文化が営まれている。下記項目で、応用力を身に付ける為の実習を行う。 (授業目標) 調理学実習1で学んだ基本的な知識及び技術をもとに、和・洋・中を組み合わせた実習を行い、技術をさらに向上させる。美味しそうな盛り付け方、季節感を演出する方法など、より実践的に応用できる技能を修得する。 ○A：グループの中での自分の役割を理解し、共に協力し合って複雑な調理を効率よくすすめることができる。 B：コミュニケーションをとりながら物事を円滑に進めていく力を身に付ける。 ◎E：①日本料理、西洋料理、中国料理の献立様式の特徴を説明することができる。②食を演出するための盛り付け方を実践することができる。③和洋中の応用的な調理技法を身に付ける。④栄養価計算表と作業工程表を適切に作成することができる。⑤包丁をリズミカルに効率よく使いこなすことができる。		
授業計画	1	日本料理1 (実習) 油揚げとひじきの扱い方を身に付ける。 寒天液の温度管理の必要性を理解する。	
	2	西洋料理1 (実習) ブイヨン、ベシヤメルソースの基本を理解し、調理できるようになる。	
	3	西洋料理2 (実習) アガーの調理性、デミグラスソースの扱い方を理解し、身に付ける。	
	4	日本料理2 (実習) 魚の下処理ができるようになる。	
	5	日本料理3 (実習) 魚の三枚おろしができるようになる。	
	6	中国料理1 (実習) 豆腐と海老の扱い方を身に付ける。	
	7	日本料理4 (実習) 卵の調理、蒸し物の基本を覚え、身に付ける。	
	8	中国料理2 (実習) イカと貝柱(乾)の扱い方、蟹の茹で方とさばき方を身に付ける。	
	9	日本料理5 (実習) 桂剥きの包丁の正しい動きを理解し練習する。 刺身の扱い方、青菜のゆで方、饅頭の作り方を身に付ける。	
	10	中国料理3 (実習) 肉と野菜の細切りを身に付ける。 繊維の方向の影響と重要性を理解する。	
	11	行事食1 (実習) クリスマス料理でおもてなしの盛り付けを身に付ける。 カスタードクリーム、グレービーソースの作り方を修得する。	
	12	行事食2 (実習) お正月料理でお祝いの演出法を身に付ける。 飾り切り、煮物、さつまいもの扱い方を修得する。	
	13	西洋料理3 (実習) スポンジ生地を作る要点を理解し、正しい調理法を身に付ける。 肉の部位による使い分けを意識し、適切な調理法を選択できる力を付ける。	
	14	西洋料理4 (実習) オムレツを作り、フライパンを自在に返すことができるようになる。 バター菓子の調理を行い、バターの役割を理解する。	
	15	包丁技術の確認と衛生管理 (実習) 包丁の技術の確認を行い、練習不足な技能がないか自覚する。 調理器具及び調理室の衛生管理方法を身に付ける。	
到達目標・基準	○A：グループの中での自分の役割を理解し、共に協力し合って複雑な調理をすすめることができる。 B：コミュニケーションをとりながら物事を進めていく努力ができる。 ◎E：①日本料理、西洋料理、中国料理の献立様式の基本を説明できる②栄養価計算表と作業工程表を作成することができる。③包丁を正しく安全に使うことができる。		
事前・事後学習	事前学習：予定表で献立を確認し、料理について調査すると良い。 事後学習：指定のレポートを作成し、反省を踏まえて自宅でもう一度調理すること。練習して初めて身に付く技術である。また、作業工程表を作成する課題を課す。最も短時間で作る手順を考えることで、合理的な調理を習慣付けることができる。レシピの栄養価計算が課題となる回もある。		
指導方法	・デモンストレーションをしながら説明を行い(手元カメラでデモ中の映像をモニターで拡大して見ることが		

	<p>できる)、グループごとに実習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試食前に各グループの実習内容を評価する。 ・後片付けの後、点検を受け、グループごとに終了となる。 ・主に、提出されたレポートと実技試験で評価を行う。 <p>フィードバックの仕方：①実習、②料理の出来上りをコメントおよび評価、③効率の良さについてもコメントおよび評価、④実習中および実習後の質疑対応</p>
成績評価の方法・基準	<p>A：出来上がった料理を評価する。 B：グループの作業効率のよさを評価する。 E：和洋中の応用的な調理法について理解しているか、また、栄養価計算表と作業工程表を適切に作ることができるか、レポートにより評価する。包丁技術を実技試験により評価する。</p> <p>実習で作った料理および作業効率の良さ(20%)，レポート提出(50%)，実技試験(30%)を総合的に評価する。実習科目のため、技術と成果およびレポートを評価するので筆記試験は行わない。</p>
テキスト	授業内容をプリントし配布する。
参考書	他科目で使用している食品成分表
履修上の注意	<p>栄養士、フードスペシャリスト取得のための必修科目である。調理学、調理学実習1の関連科目である。衛生管理徹底のため、指定された身支度を整え、刃物や火の取り扱いには十分気をつけて行動すること。なお、各自、日頃からの自己管理を怠らず、万全な体調で授業に臨むこと。食物アレルギーの有無について授業前に調査を行うが、調理担当変更、見学、試食を避ける、欠席などの対応についてはアレルギーの程度によって各自で判断し、教員に申し出て行うこと。調理に伴う食材費および消耗品費は別途徴収する。</p>
アクティブ・ラーニング	実習
I C T の活用	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	食専：選択
担当教員			
川嶋比野			
Subject Code：N28C50			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>“食”が成熟化し食べ方が多様化する中で、食をビジネス化し、成功するためには、幅広い知識や技術、消費者のニーズに対応できる能力や人にアピールする表現力(感性)が必要になる。フードコーディネート論は、特に“食のアメニティ(快適性)”を強く取り上げた授業である。</p> <p>(授業目標) 美的センスや表現力を養い、快適な食空間を演出するためにはどうすればよいか分かるようになる。 ◎D：①協会認定の教科書を用いて項目ごとに学習し、フードコーディネートを理解する。②関連の資格試験問題を解くことができるようになり、合格できる知識を身に付ける。 ○E：①ホスピタリティ(おもてなし)の精神を理解し、給食やフードビジネスにおいて料理の付加価値を高めるために何が出来るかを考えることができるようになる。②実存のレストランへのメニュー提案の体験を通して、消費者の期待に副うようなセンスの良い商品を考えられるようになる。</p>
授業計画	<p>1 フードコーディネートの業務 (ICT：WebClass) フードコーディネートとはどのような仕事か、そのために必要な知識と経験について理解する。WebClassを用いて関連練習問題を解く。</p> <p>2 フードコーディネートの基本理念 (ICT：WebClass) ホスピタリティの精神について理解し、フードコーディネートの意義について考える。WebClassを用いて関連練習問題を解く。</p> <p>3 現代の世界の食文化 (ICT：WebClass) 日本と代表的な世界の食文化を比較し、それぞれの特徴を確認する。WebClassを用いて関連練習問題を解く。</p> <p>4 メニュープランニング (ICT：WebClass) 献立計画の際に必要な要件について理解し、様々な料理様式を学ぶことで、多様な献立を立てる事ができるようになる。WebClassを用いて関連練習問題を解く。</p> <p>5 フードコーディネーターとしてのメニュー提案業務 飲食店にメニューを提案する際に必要な要件について理解する。</p> <p>6 実存のレストランにメニューを提案してみよう (課題解決型授業) 実存のレストランの現状を把握し、問題点を考えた上で、各自メニュー提案シートを作成し、アクティブラーニングを行う。ニーズと制約条件を両方同時に満たす料理提案ができるようになる。</p> <p>7 食空間のコーディネート (1) 快適な食空間を作るためには、どのような事に配慮すべきか学び、実践できるようになる。</p> <p>8 食空間のコーディネート (2) (ICT：WebClass) 食空間のカラーコーディネート及び照明の効果について学び、適切なコーディネートを選択することができるようになる。WebClassを用いて関連練習問題を解く。</p> <p>9 フードマネージメント (ICT：WebClass) フードマネージメントとは何か理解し、レストランを起業する際にはどのような要件を考慮して計画すべきかを学ぶ。マネージメントに必要な基礎能力を身に付ける。WebClassを用いて関連練習問題を解く。</p> <p>10 食卓のコーディネート (1) 和、洋、中のテーブルウェアの種類と扱い方を画像なども見ながら学び、テーブルコーディネートのセンスを磨く。</p> <p>11 食卓のコーディネート (2) セッティングの基礎を学び、自ら出来るようにシミュレーションを通して修得する。</p> <p>12 食卓のサービスとマナー(1)日本 (実習) 日本の食事マナーについて学び、実物を用いて、正しい箸の扱い方を修得する。お箸とお椀のマナーの実習を行う。</p> <p>13 食卓のサービスとマナー(2)西洋・中国 (ICT：WebClass) 西洋および中国料理のサービスとマナーについて学修し、サービスする側、受ける側、指導する側など、様々な立場から実践できるようになる。WebClassを用いて関連練習問題を解く。</p> <p>14 フードコーディネート論の理解① 今まで学習してきた各項目の関連問題を自分の力で解き、答え合わせをして、解説を聞きながら理解し、知識を定着させる。</p> <p>15 フードコーディネートの論の理解②、メニュー提案結果発表 (プレゼンテーション) 今まで学修してきた各項目の関連問題を自分の力で解き、答え合わせをして、解説を聞きながら理解し、知識を定着させる。 また、メニュー提案したお店からのフィードバックされた結果とコメントを発表するので、自分に不足している知識、能力は何か自覚し、今後どのような勉強や経験が必要か考える。 メニュー提案のプレゼンテーションを行う。</p>
到達目標・基準	<p>◎D：①協会認定の教科書を用いて項目ごとに学修し、フードコーディネートの基礎を理解する。②関連の資格試験問題を解くことができるようになる。 ○E：①ホスピタリティ(おもてなし)の精神とそれによる料理の付加価値について理解している。②実存のレストランへのメニュー提案の体験を通して、商品の提案ができるようになる。</p>

事前・事後学習	事前学習：関連部分の教科書を読んで分からない部分に印をつけておく。(60分程度) 事後学習：ノート・プリントを復習し、事前学習で分からなかったところが理解できたか確認すること。また、WebClassに、授業の各回の関連問題が出題されるので、繰り返し解いて覚えること。外食に行った時には店のコーディネート・サービス等を意識して学ぶこと。買い物に行った時にも、消費者のニーズへの対応や流行について常に情報を集める意識を持ち、感性を磨くこと。(120分程度)
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式であるが、メニュー提案の作成、正しい箸の扱い方の練習など、自ら体を動かして、積極的に参加できる授業内容とする。 ・パワーポイント、プロジェクターを用いて授業を行う。写真やカラー資料も表示して、コーディネート例やテーブルウェアを具体的に紹介する。 ・WebClassで関連問題を解く課題を課す。 ・課題提出と定期筆記試験により評価を行う。 フィードバックの仕方：①課題の提示、②レポート提出、③評価およびコメント、④授業後の質疑対応
成績評価の方法・基準	D：フードコーディネートに関わる基礎的知識の理解度を定期試験により評価する。 E：実存のレストランへのメニュー提案レポートを評価する。 メニュー提案レポート：30%(提出期限厳守)、定期試験：70%(持ち込み不可)を総合的に評価。
テキスト	「三訂 フードコーディネート論」(社)日本フードスペシャリスト協会著 建帛社(2012)
参考書	「食卓のコーディネート基礎」フードデザイン協会編集 阪上愛子著 地方・小出版流通センター(2013)
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・フードスペシャリスト及びフードコーディネーター認定資格取得に必要な必修科目である。 ・2年次の12月にフードスペシャリスト資格認定試験が実施される。
アクティブ・ラーニング	課題解決型学習、プレゼンテーション、マナー実習
I C Tの活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	食専：栄必修
担当教員			
井部奈生子、北村暁子			
Subject Code：N27C30			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	給食の運営（経営管理、栄養管理、衛生管理、大量調理、評価方法）全般の流れに沿って、計画書や帳票類、評価票を作成する。献立計画や調理を含めた給食サービス提供を適切に運営することによって、衛生的で栄養的な食事を利用者（喫食者）の嗜好性を考慮しながら、経済的に提供するための方法を学ぶ。衛生管理では、大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた具体的な内容を学ぶ。 (授業目標) 大量調理施設の衛生管理について熟知し、安全な給食を提供するための方法と心構えを理解する。2年次の給食管理実習（学内）、校外実習に臨むにあたり、書類の作成方法、栄養管理の実際を演習し、栄養士業務の流れをつかむ。 ○C：大量調理の特性を理解し、施設・設備に配慮した作業管理の方法を説明することができる。 ◎D：給食を運営するための献立計画を理解し、調理における衛生管理についての基礎的知識を身に付ける。
授業計画	<p>1 給食管理実習について（グループワーク：相互インタビュー） 授業の概要説明、給食管理実習（学内）用「衛生管理マニュアル」の説明を行う。実習グループ内で相互インタビューを実施し、相互理解を深める。</p> <p>2 大量調理施設衛生管理マニュアル（演習：学内給食実習室見取り図の作成） 大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った身支度の整え方、手洗い方法を学ぶ。学内給食実習室内の衛生管理区域について見取り図を作成しながら学ぶ。</p> <p>3 施設・設備管理（演習：大量調理マニュアルに沿った手洗いの実践） 学内給食実習室で衛生管理マニュアルに沿った手洗い方法の実践をする。また、実習室の見学をしながら厨房機器のレイアウトを確認し、衛生管理の実態を知る。</p> <p>4 給食の調理における衛生管理 大量調理における衛生管理について学ぶ。調理工程に沿って、食品ごとの取り扱いの違い、保存食の取り方、温度管理の方法をそれぞれの目的とあわせて学ぶ。</p> <p>5 給食の調理における衛生管理の実践（演習：大量調理マニュアルに沿った調理実習） グループごとに学内給食実習室で大量調理衛生管理マニュアルに沿った簡単な調理を行う。</p> <p>6 成分表を用いた栄養価計算演習（演習：栄養価計算） 献立の見方、調味パーセントの計算を学ぶ。また献立表をもとに栄養価計算を行う。</p> <p>7 給食の計画①（演習：荷重平均栄養成分表の作成） 荷重平均栄養成分表について学び、実際に作成をする。</p> <p>8 給食の計画②（演習：食品構成の作成） 食品構成をまとめるための基礎事項を学び、実際に食品構成表の作成をする。</p> <p>9 給食の実施①（演習：献立作成） 給食の計画に基づいた献立作成を行う。各自がテーマに沿った給食の献立を作成する。</p> <p>10 給食の実施②（演習：献立作成） 給食の計画に基づいた献立作成を行う。衛生管理を意識した献立を作成する。</p> <p>11 給食の実施③（演習：作業計画書の作成） 献立に沿った作業計画書の作成方法を学び、大量調理への応用として衛生管理を意識した作業手順書を作成する。</p> <p>12 給食の評価（演習：栄養出納表の作成） 給食の評価に用いる栄養出納表について学び、実際に作成をする。</p> <p>13 栄養教育①（演習：栄養指導媒体の作成） 給食の場での栄養教育について学び、実際に栄養指導媒体の作成をする。</p> <p>14 栄養教育②（演習：栄養指導媒体の作成） 栄養指導媒体の作成をし、完成させる。</p> <p>15 給食管理実習を行う上での心構え 現場で利用する技術や知識について、グループ討議による評価を行う。</p>
到達目標・基準	○C：大量調理施設の衛生管理について知り、安全な給食を提供するための方法を説明することができる。 ◎D：給食運営に必要な帳票類の作成方法、給食計画の実際を栄養士業務の流れに沿って説明することができる。
事前・事後学習	事前学習：次の授業内容に関する項目についてテキストの該当箇所を読み、これまでに修得した専門基礎分野の復習とあわせてまとめておくこと。（30分程度） 事後学習：レポート等の課題を含め、各回の授業のまとめを作成しファイルに綴じておくこと。特に、事後学習が大切である。（60分程度）
指導方法	内容を説明した後、実際に献立を作成したり、帳票を作成したりする。内容に応じて、グループワークを行い、プロジェクター、配布資料等を利用して重要な点を示しながら説明をする。内容により、給食経営管理実習室、実習食堂で作業もおこなう。 フィードバックの仕方：①課題提出、②評価し採点后返却、③授業後に課題内容についての質疑対応
成績評価の方法・基準	C：レポート、課題等を評価する。 D：定期試験、小テストを評価する。 定期試験 50%、レポート課題（授業への貢献度を含む）35%、小テスト 15%

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・「新ビジュアル 食品成分表 [新訂第二版]」新しい食生活を考える会編著 大修館書店 2016 ・「調理のためのベーシックデータ」松本伸子編著 女子栄養大学出版部 2018 ・「給食施設のための献立作成マニュアル」赤羽正之他 医歯薬出版株式会社 2016 ・衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省 株式会社学建書院 2013
参考書	授業内で紹介する。
履修上の注意	全ての書類は流れがあり、関連性があります。欠席をすると内容や帳票類の書き方がわからなくなり、それ以降の書類作成や実習の進行に影響します。体調管理をしっかりとして下さい。1クラスを4グループに分けて授業を進めますので、グループによって授業内容が前後する場合があります。
アクティブ・ラーニング	実習、グループワーク
I C Tの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	食専：必修
担当教員			
井部奈生子、北村暁子			
Subject Code：N27C31			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>栄養士の業務内容（献立作成、食材発注、検収、大量調理、食事サービス、栄養事務、栄養指導）を学内において実践する。給食管理実習（学内）では、すでに学んだ食事計画、給食管理の理論などの知識を生かして実務を行う。給食の運営のテーマは「学生の健康管理のための給食」とし、給食における栄養教育の実際と効果も含めて観察や調査も行い、実社会同様に実施する。この実習を通じて、給食の運営に携わる栄養士のあり方を学ぶ。</p> <p>（授業目標） 特定給食施設における給食管理の実際を体得するとともに、特定給食における給食管理のあり方を理解する。 ○A：グループにおける自分の役割と大量調理の特性を理解し、献立作成、調理実習ができる。 ◎D：大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った給食業務を身に付ける。</p>
授業計画	<p>1 栄養計画 給与栄養目標量の確認、献立作成</p> <p>2 献立計画（グループワーク：グループで実習するための献立作成を行い、評価する。） 献立会議、献立の評価</p> <p>3 給食業務概要 実習室（厨房）内の施設・設備及び器具類の把握</p> <p>4 作業計画①（グループワーク：大量調理を提供するためのサービスをまとめる。） 単一定食の献立指示表の確認、提供サービス打合せ</p> <p>5 供食実習①（調理実習：調理・試食） 厨房での大量調理、アンケート集計</p> <p>6 帳票整理① 実施献立表と栄養日報の作成要領</p> <p>7 試作①（調理実習：調理・試食） 作業計画、重要管理点の設定</p> <p>8 作業計画② 献立指示表の作成、発注、提供サービス方法の検討</p> <p>9 供食実習②（調理実習：調理・試食） 食材管理、厨房での大量調理、アンケート集計</p> <p>10 帳票整理② 実施献立表と栄養日報の作成、アンケート結果の検討</p> <p>11 試作②（調理実習：調理・試食） 献立の修正、原価の計算、実習において見つかった問題点と対策</p> <p>12 作業計画③、栄養指導媒体 献立指示表の作成、発注、供食サービスの打合せ、栄養情報提供媒体作り</p> <p>13 供食実習③（調理実習：調理・試食） 検収、厨房での大量調理、提供サービス、洗浄方法</p> <p>14 帳票整理③ 給食業務の総合評価、帳票整理において見つかった問題点と対策</p> <p>15 全体報告会（グループワーク・プレゼンテーション） グループ討議による実習内容の評価、反省会</p>
到達目標・基準	○A：グループにおける自分の役割と大量調理の特性を理解し、調理実習をやり遂げることができる。 ◎D：大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った給食業務をまとめ、ポイントを説明できる。
事前・事後学習	事前学習：授業の準備として、1年次に修得した専門基礎分野の復習をする。 試作した献立を大量調理実習前に自宅で作ってみると理解も調理技術も上達する。 事後学習：実習ノートの整理、レポート等の課題を含め、各回の授業のまとめをすること。 特に、事後学習が大切である。
指導方法	1クラスをグループに分け、それぞれの日程で実習が進行する。献立の決定、作業管理、試作による献立の検討、実習準備、実習実施の各段階で随時アドバイスをしながら実習を進めていく。実習献立のまとめには、PCを用いて、栄養価計算ソフトを使用する。 フィードバックの仕方：①実習、②レポート提出、③評価して返却、④授業後による採点についての質疑対応
成績評価の方法・基準	A：研究課題、個人の授業態度、グループのチームワークを評価する。 D：定期試験を評価する。 定期試験 50%、提出物、研究課題 40%、個人の授業態度・グループの評価（積極性、協調性、責任感）10%
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・「新ビジュアル 食品成分表 [新訂第二版]」新しい食生活を考える会編著 大修館書店 2016 ・「調理のためのベーシックデータ」松本伸子編著 女子栄養大学出版部 2014 ・「給食施設のための献立作成マニュアル」赤羽正之他 医歯薬出版株式会社 2015

	・「衛生管理&調理技術マニュアル」文部科学省 株式会社学建書院 2013
参考書	授業内で紹介する。
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループで作業を行うので、協力が必須です。グループが一丸となって実習に臨んで下さい。 2. 事前に細菌検査を実施します。食中毒菌陰性の証明のない学生は実習室への入室を禁止とします。きちんと期限を守って検体を提出してください。 3. 大量調理を行う際には、体調管理が重要です。自分自身の体調管理を十分にしてください。実習当日に体調不良の場合は、必ず申し出てください。 4. 給食の運営・管理についての定期試験を行います。余裕をもって準備をしてください。
アクティブ・ラーニング	実習、グループワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
夏期	2	1	食専：必修
担当教員			
西山良子、豊島裕子、井部奈生子、高橋真美、北村暁子			
Subject Code：N27C32			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>栄養士養成施設における学外実習は、給食業務を行うために必要な給食サービス提供に関し、栄養士として具備すべき知識及び技能を修得させることを目的とする。そこで、本科目において、指定の特定給食施設で5～10日間の実習を行う。</p> <p>（指導目標） 現場での実体験を通し、栄養士の知識・技術を身につける。</p> <p>○A：これまでに学習してきた給食管理の理論・演習・実習の知識・技術を実際の現場でどのように活かし、運営しているかを理解し、実践できる。 ◎B：現場において職場体験することで、対象者の現状把握、栄養・食事計画の実践、給食サービスの実際等について理解し、実践できる。</p>
授業計画	<p>1 学外施設での実習 事業所、病院、福祉施設、保育園から指定の一施設で実習を行う。 5～10日間（45時間以上）</p> <p>2 事後指導（実習ノート、報告会資料） 実習ノートと報告会配布資料の作成、まとめを行う。（事業所：高橋・北村、福祉：豊島、病院：井部、保育園：西山）</p> <p>3 事後指導（報告会プレゼンテーション準備） 報告会プレゼンテーション発表資料作成、まとめを行う。（事業所：高橋・北村、福祉：豊島、病院：井部、保育園：西山）</p> <p>4 実習報告会（プレゼンテーション） 発表、評価、考察を行う。（担当教員全員） 実習施設別グループ（施設によっては個人の場合もある）の代表が食物栄養科ゼミナールの授業でプレゼンテーションを行う。</p>
到達目標・基準	<p>○A：栄養士として、社会で活躍するために必要な知識や技術を学び、現場で実践できる。 ◎B：特定給食施設で働くプロの栄養士や調理師の中で、一緒に作業することで仕事の現実に触れる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：これまでに学習した専門基礎分野の復習をしっかりとて実習に臨むこと。栄養士実践演習やオリエンテーションでの配布資料は何度も読み直し、熟知しておく。 事後学習：実習ノートの提出ならびに報告会発表資料の作成・まとめ。報告会で発表を行うためのプレゼンテーション準備。</p>
指導方法	<p>各実習施設における実習の事前準備、実習、事後のまとめにおいて、学生自身が調べ、整理し、まとめることを促し、疑問や問題を解決しながら進める。実習後は実習ノートを実習先および授業担当者に提出し、チェックを受ける。さらに実習報告会の発表資料として、配布資料（ワープロソフト使用）、プレゼンテーション資料（パワーポイント使用）を作成する。実習施設、実習日程ごとに発表（プロジェクター使用）する。（1年生も聴講する。） フィードバックの仕方：①実習、②実習ノート・報告会資料提出、③評価のうえ返却、④授業後におけるコメントへの質疑対応</p>
成績評価の方法・基準	<p>A：授業態度、実習態度、貢献度、実習ノート、報告会資料を評価する。 B：授業態度、実習態度、貢献度を評価する。 事前指導、特別講義、事後指導の評価 30%、実習期間中の実習施設指導者による評価 50%、実習ノートと研究課題、報告会内容の評価 20%</p>
テキスト	「給食管理実習の手引書」「実習ノート」（戸板女子短期大学作成実習ファイル、プリントを適宜配布）
参考書	「給食の運営 -栄養管理・経営管理-」「新ビジュアル食品成分表 [新訂第二版]」

履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・事前指導をすべて受けなかった場合、また内容を守れなかった場合は、学外施設への実習は中止となる。各自、責任を持って行動すること。 ・学外実習中の欠席は、科目履修条件を満たすことができず単位取得不可となるため、事前より体調管理を十分に整えておくこと。 <p>注) 1年次において、下記の科目を未修得の学生は本科目の履修不可。 (1年次卒業必修科目) 戸板ゼミナル、食品学、食品衛生学、基礎栄養学1、基礎栄養学2、調理学 (1年次給食関連科目) 調理学実習1、食事計画、給食経営管理論、給食経営管理演習、栄養士基礎演習</p>
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
ICTの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	食専：必修
担当教員			
谷口裕信、高橋真美、北村暁子			
Subject Code：N17C33			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>栄養士資格について理解を深める。さまざまな分野で働く栄養士に関する具体的な研究を行うとともに、就職活動に必要な自己理解を深め、自らの目指す栄養士像づくりをする。ゲスト講師も招き、実際の仕事内容、就職活動の話に触れる機会を設ける。さらに専門分野の就職対策のため、実社会で必要な栄養士の基礎について学び、履歴書、エントリーシート、面接等の具体的な就職活動の練習を重ねていく。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎A：栄養士の職業理解を深め、自らの目指す栄養士像または将来像を見つけ出すことができる。 ○D：キャリア形成の知識、実践力を身につけることができる。</p>
授業計画	<p>1 栄養士の心得① (担当者：谷口) (ICT：WebClassによる授業内容資料の事前閲覧から重要事項の質疑応答) 栄養士の現状について知り、栄養士として働くことの意義や心構えを学ぶ。</p> <p>2 栄養士の心得② (担当者：高橋) 栄養士の定義、学外実習の位置づけや内容について学ぶ。</p> <p>3 栄養士の心得③ (担当者：高橋) (ICT：WebClassによる授業内容資料の事前閲覧から重要事項の質疑応答) 学外実習に向けた心構え、衛生管理や栄養管理などの大量調理に関する基本事項を学ぶ。</p> <p>4 栄養士として就職するには① (担当者：高橋) 企業研究を行い、栄養士の職域や活動状況について学ぶ。</p> <p>5 栄養士として就職するには② (担当者：高橋) 就職活動のための自己分析方法、エントリーシートなどの書類作成方法について学ぶ。</p> <p>6 特別講義一栄養士の現場から① (ゲスト講師 担当者：北村) 老人福祉施設で働く栄養士をゲスト講師として招き、福祉施設での栄養士の仕事内容について学ぶ。</p> <p>7 特別講義一栄養士の現場から② (ゲスト講師 担当者：北村) 行政機関で働く栄養士をゲスト講師として招き、地域に関わる栄養士の仕事内容について学ぶ。</p> <p>8 栄養士として就職するには③ (担当者：谷口) 就職模擬試験について傾向を知り、実践する。</p> <p>9 栄養士として就職するには④ (担当者：谷口) 栄養士の就職における面接対策を学ぶ。</p> <p>10 特別講義一栄養士の現場から③ (ゲスト講師 担当者：北村) 事業所で働く栄養士をゲスト講師として招き、事業所給食の概要について知る。併せて栄養士の活動状況やその可能性について知る。</p> <p>11 特別講義一栄養士の現場から④ (ゲスト講師 担当者：北村) (ICT：WebClassによる授業内容資料の事前閲覧から重要事項の質疑応答) ゲスト講師を招き、食品会社での仕事や商品開発の事例を知る。また食品会社での栄養士としての役割について知る。</p> <p>12 特別講義一栄養士の現場から⑤ (ゲスト講師 担当者：北村) 病院で働く栄養士をゲスト講師として招き、病院栄養士の仕事内容を知るとともに病院栄養士に求められるものを知る。</p> <p>13 栄養士として就職するには⑤ (担当者：谷口) エントリーシート、履歴書の書き方について学び実践する。</p> <p>14 栄養士として就職するには⑥ (担当者：谷口) 就職活動や実務における身だしなみ、社会人としてのマナーについて知る。</p> <p>15 社会が要請する栄養士の役割 (担当者：高橋) 本講座を通じて学んだことを踏まえて自らが目指す栄養士像について各自が考察する。</p>
到達目標・基準	<p>◎A：栄養士資格を取得して働く自己イメージを明確化し、自分の言葉で伝えることができる。 ○D：就職活動に必要な知識を身に付け、実際の就職活動に適用できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：次の講義内容について今までに修得した基礎科目の中から関連項目を調べてまとめておく。各ゲスト講師の分野について教科書や資料等で調べておく。(45分程度) 事後学習：授業で学修したことをノート等に整理してまとめ、ファイルに綴じておくこと。(45分程度)</p>
指導方法	<p>授業担当者による講義だけでなく、ゲスト講師による講義も行う。 プリント教材、パワーポイント、DVDなどの視聴覚資料を使用して講義をする。個人ワークシートの課題に取り組む。提出物、プリント類は各自でファイリングし、最終的にポートフォリオとして完成させ就職活動に役立てる。 フィードバックの仕方：①レポート、課題提出、②評価して返却、③授業後に内容についての質疑応答</p>
成績評価の方法・基準	<p>A：レポート、定期試験を評価する D：受講態度、事後課題を評価する</p>

	定期試験 30%、提出物 40%、授業への貢献度 30%
テキスト	なし
参考書	授業内で適宜紹介する
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・常に研究心のある態度で、積極的に授業に臨むこと。 ・授業内容やその順番については、ゲスト講師の予定とその他によって変更する場合もある。
アクティブ・ラーニング	
I C Tの活用	WebClass

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	食専：必修
担当教員			
西山良子、豊島裕子、井部奈生子、高橋真美、北村暁子			
Subject Code：N27C34			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>授業は、実践的・具体的な内容で行うため、前半と後半に分け、授業方法を変え、理解を高める。</p> <p>前半は、特定給食施設において必要な基礎知識を学び、各施設で活躍している栄養士などを講師に招き、給食現場の現状、求められている栄養士像についての講義を聴く。</p> <p>後半は、各給食施設の目的や仕事内容に合わせた給食計画と給食実務、さらには栄養指導・栄養教育の方法などについて演習を中心とした授業を行い、給食管理実習（学外）につなげる。</p> <p>（授業目標） A：学外実習先での自分の目標を立て、主体的に、積極的に実習に参加でき、やり遂げる責任感を持つことができる。 C：特定給食施設において求められている栄養士の果たすべき役割や目的、相違点を正しく理解することができる。 ◎D：特定給食施設において栄養士として必要な基本知識を学び、主体的に、それぞれのレポート課題の目的に沿ってレポートをまとめ作成することができる。 ○E：それぞれの施設ごとの栄養士の果たすべき役割や目的を理解し、実践的・具体的な方法で給食管理、栄養教育ができる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス(西山・豊島・井部・高橋・北村) 授業担当者全員により、それぞれの実習先について、実習場所の紹介、実習先の概要についてガイダンスを行う。</p> <p>2 特定給食施設の種類と特徴① 特定給食施設（事業所）の種類と特徴について学ぶ。（担当：高橋）</p> <p>3 特定給食施設の種類と特徴② 特定給食施設（高齢者福祉施設）の種類と特徴について学ぶ。（担当：豊島）</p> <p>4 特定給食施設の種類と特徴③ 特定給食施設（病院）の種類と特徴について学ぶ。（担当：井部）</p> <p>5 特定給食施設の種類と特徴④ 特定給食施設（学校）の種類と特徴について学ぶ。（担当：北村）</p> <p>6 特定給食施設の種類と特徴⑤ 特定給食施設（保育園）の種類と特徴について学ぶ。（担当：西山）</p> <p>7 特別講義一給食の現場から① 事業所での栄養士業務について、外部講師を招いて特別講演を行う。（ゲスト講師、担当：高橋） （WebClassのによる資料の事前閲覧により、講義後の質疑応答）</p> <p>8 特別講義一給食の現場から② 高齢者福祉施設での栄養士業務について、外部講師を招いて特別講演を行う。（ゲスト講師、担当：豊島） （WebClassのによる資料の事前閲覧により、講義後の質疑応答）</p> <p>9 特別講義一給食の現場から③ 病院での栄養士業務について、外部講師を招いて特別講演を行う。（ゲスト講師、担当：井部） （WebClassのによる資料の事前閲覧により、講義後の質疑応答）</p> <p>10 特別講義一給食の現場から④ 学校での栄養士業務について、外部講師を招いて特別講演を行う。（ゲスト講師、担当：北村） （WebClassのによる資料の事前閲覧により、講義後の質疑応答）</p> <p>11 特別講義一給食の現場から⑤ 保育園での栄養士業務について、外部講師を招いて特別講演を行う。（ゲスト講師、担当：西山） （WebClassのによる資料の事前閲覧により、講義後の質疑応答）</p> <p>12 実習施設別の給食計画・実務、栄養指導・栄養教育① 〈グループワーク〉 〈ICT:WebClass〉 実習施設別に4グループ（事業所、高齢者福祉施設、病院、保育園）に分かれて、学外実習に向けて研究課題指導を行う。それぞれの実習先別の給食計画について、演習を中心とした授業を行う。（担当：授業担当者全員）</p> <p>13 実習施設別の給食計画・実務、栄養指導・栄養教育② 〈グループワーク〉 〈ICT:WebClass〉 実習施設別に4グループ（事業所、高齢者福祉施設、病院、保育園）に分かれて、学外実習に向けて研究課題指導を行う。それぞれの実習先別の給食計画について、演習を中心とした授業を行う。（担当：授業担当者全員）</p> <p>14 実習施設別の給食計画・実務、栄養指導・栄養教育③ 〈グループワーク〉 〈プレゼンテーション〉 〈ICT:WebClass〉 実習施設別に4グループ（事業所、高齢者福祉施設、病院、保育園）に分かれて、学外実習に向けて研究課題指導を行う。それぞれの実習先別の給食計画について、演習を中心とした授業を行う。（担当：授業担当者全員）</p> <p>15 学外実習に向けての研究課題指導 〈グループワーク〉 〈プレゼンテーション〉 〈ICT:WebClass〉 実習施設別に4グループ（事業所、高齢者福祉施設、病院、保育園）に分かれて、学外実習に向けて研究課題指導を行う。それぞれの実習先別の給食計画について、演習を中心とした授業を行う。</p>

	う。(担当：授業担当者全員)
到達目標・基準	<p>栄養士の職場は、病院・学校・福祉施設・事業所・行政など多岐にわたり、その仕事内容も各施設により特徴がみられる。この科目では、施設ごとの栄養士の果たすべき役割や目的をしっかりと理解し、より実践的、具体的な方法で、知識や技術を身につけることができる。</p> <p>A:学外実習先での自分の目標を立て、主体的に、積極的に実習に参加できる。</p> <p>C:それぞれの特定給食施設において求められている栄養士の果たすべき役割を理解することができる。</p> <p>◎D:特定給食施設ごとの栄養士として必要な基本知識を学び、レポート課題をまとめることができる。</p> <p>○E:それぞれの施設ごとの給食管理を理解することができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：事前に配布されたプリント、資料等を熟知し、専門基礎分野の予習を十分に行っておくこと。日頃から栄養士業務に係る情報については積極的に調べておくこと。(30分程度)</p> <p>事後学習：各自、レポート課題作成を行うことにより理解を深め、それぞれの特定給食施設の特徴をまとめること。(60分程度)</p>
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・前半は、授業担当者およびゲスト講師による講義を中心として、特定給食施設の特徴、基本知識を指導する。 ・後半は演習を中心とした授業を展開し、演習課題やレポート課題作成などを通じて理解が定着するように指導する。 ・パソコン、クリッカーやプロジェクターなどを利用した演習や、栄養教材・栄養指導媒体などを活用することにより、実践的にかつ円滑的な指導を行う。 <p>フィードバックの仕方：①演習、②課題提出、③採点（評価）返却、④授業後の質疑対応</p>
成績評価の方法・基準	<p>A:受講態度、授業貢献度を評価する。</p> <p>C:レポート課題について評価する。</p> <p>D:全体のレポート課題、それぞれの施設ごとの課題、提出物で評価する。</p> <p>E:それぞれの施設ごとの課題、提出物で評価する。</p> <p>研究課題 40% 提出物 40% 授業貢献度 10% 授業態度 10%</p>
テキスト	<p>「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」 学建書院 「給食管理実習の手引き」「臨地実習ノート」(適宜、プリント資料配布)</p>
参考書	<p>「新ビジュアル食品成分表[7訂版]」大修館書店 「栄養士必携」「糖尿病食事療法のための食品交換表」「日本人の食事摂取基準(2015年版)」「日本人の食事摂取基準(2015年版)の実践・運用」</p>
履修上の注意	<p>この授業は、「栄養士」という職業人としての技術を実践的に修得することが目的であり、個人個人の「栄養士」に対する目的意識、心構えによりその成果が異なって表れる。また、学外から特別講師を招いての講義も行うため、主体的、積極的な態度で受講すること。</p>
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	WebClass

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	食専：選択
担当教員			
川嶋比野、高橋真美、北村暁子			
Subject Code：N28C46			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>食育を担っていく人材を育成するための演習を行う。学内での講座や実習だけでなく、学外での調査・見学会等も行う。 (授業目標) 食の生産者及び指導者の視点を養い、幅広い知識と経験を積むことで、栄養士及び食のスペシャリストとして効果的な食育活動が行えるようになることを目標とする。</p> <p>◎D：食環境調査、食育体験、災害時の食の実態調査を通して、食育とは何か理解し、食育についての知識をつける。これからの食育はどうあるべきかについて深く考えることができ、率先して行動に移すことができる。 ○E：食品活用講座、味覚体験を通じて、食育を担っていく人材としての実用的な技能を身に付ける。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション (担当者：川嶋) 履修ガイダンスを行う。レポートの提出方法、ファイルの配布、予定表の配布などを行い、演習を受講するにあたっての要領を心得る。</p> <p>2, 3 食環境調査Ⅰ 合羽橋道具街調査 (担当者：川嶋) (演習) 合羽橋道具街の歴史および市場・食業界の役割を事前授業にて学んだ後、現地でチェックポイントを周りながらプロの道具や仕入れの調査を行う。調査内容をかわら版にまとめる。栄養士として、また食育のスペシャリストとして、合羽橋道具街の活用方法を考える。</p> <p>4, 5 食環境調査Ⅱ 東京卸売市場調査 (担当者：北村) (演習) 東京卸売市場の歴史および市場・食業界の役割を事前授業にて学んだ後、現地でチェックポイントを周りながら実態の調査を行う。調査内容をかわら版にまとめる。栄養士として、また食育のスペシャリストとして、東京卸売市場の利用の仕方を身に付ける。</p> <p>6 食品活用講座Ⅰ 冷凍食品の活用講座 (担当者：北村) 冷凍食品の実態および上手な使用法と解凍法について講座を通して学ぶ。(冷凍食品協会協力)</p> <p>7 食品活用講座Ⅱ 冷凍食品の活用実習 (担当者：北村) (実習) 冷凍食品をうまく活用した料理をデモンストレーションおよび調理・試食体験し、実習形式で身に付ける。集団給食や食育への活用方法を考え、講座内容とともに、かわら版にまとめる。(冷凍食品協会協力)</p> <p>8, 9 災害時の食の実態調査 市ヶ谷駐屯地自衛隊体験 (担当者：高橋, 北村) (演習) 事前授業で概要について学んだ後、自衛隊の市ヶ谷駐屯地へ実際に行き、集団給食の現場を見学、試食、体験する。災害時の食供給の対応等を学び、実態を調査する。調査内容をかわら版にまとめる。</p> <p>10, 11 味覚体験 (担当者：高橋, 川嶋) (演習) 日本料理の食事様式および作法について講義を通じて学んだ後、会席料理の試食会に行き、実際に正式な日本料理様式を味覚体験する。調理長による日本料理についての講義を聞きながら、手間暇かけて仕上げた料理を味わい、おもてなしの心、作法の意味等を理解する。体験内容および感想をかわら版にまとめる。</p> <p>12 食育体験Ⅰ 食育フェア体験 (担当者：川嶋) (演習) 東京都食育フェアを見学し、各企業や学校等が出展しているブースを回って食育を体験する。食育がどのような手法で行われているか体験を通して知り、現代の食育活動の実態を調査する。体験内容と学んだことをかわら版にまとめる。</p> <p>13 食育体験Ⅱ 包丁砥ぎ講習 (担当者：高橋) (実習) 包丁の種類と特徴、正しい扱い方について講座を行った後、老舗の包丁職人さんによる包丁砥ぎ講習を受ける。自分の包丁を砥石を使って実際に砥ぎ、技術を修得する。良い切れ味の包丁が美味しい料理を作る上で欠かせないことを知る。講座および講習内容をかわら版にまとめる。(ミノ刃物協力)</p> <p>14 食環境調査Ⅲ 食肉工場調査 (担当者：北村) (演習) 芝浦の東京都食肉市場の歴史および市場・食業界の役割を事前授業にて学んだ後、現地に行き工場内を見学する。命の尊さ、食の有難みを知り、食育に活かせるようになる。学んだ事および感想をかわら版にまとめる。</p> <p>15 振り返りと意見交換 (担当者：川嶋) (プレゼンテーション) 食育演習を通して学んだ事、体験した事を振り返り、食育への活用についてそれぞれが作文を発表し、意見交換を行う。自分がどのように成長したか実感し、食育を担っていく人材として、今後何が出来るかを考える。</p>
到達目標・基準	◎D：食環境調査、食育体験、災害時の食の実態調査を通して、食育とは何か概要を理解し、食育についての知識をつける。 ○E：食品活用講座、味覚体験を通じて、食育を担っていく人材としての基礎的な技能を身に付ける。
事前・事後学習	事前学習：予定表で次のテーマを確認し、図書館やインターネットを利用して興味のある事柄について調べておくこと。また、学外では、集合場所や電車乗り継ぎなど、必ず各自確認しておくこと。(30分程度) 事後学習：学習、体験した内容をかわら版(レポート)にまとめ、期限を厳守して提出すること。写真等を添付してもよいが、文章と図のバランスを考え、見やすく、役立つかわら版作りを心掛けること。(60分程度)
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容および日程については、オリエンテーションにて説明する。 ・演習項目ごとに教員および担当助手を配置し、食育を担う人材育成に役立つ演習指導を行う。学外からゲスト講師を招いて共に指導する場合もある。 ・演習項目ごとにレポートを課す。

	フィードバックの仕方：①演習または実習、②レポート（かわら版）提出、③評価返却、④授業後の質疑対応
成績評価の方法・基準	D：食環境調査、食育体験、災害時の食の実態調査のレポート（かわら版）により、理解度と成長度を評価する。 E：食品活用講座、味覚体験のレポート（かわら版）により、理解度と成長度を評価する。 レポート（かわら版）90％，受講態度10％ 以上の項目を総合的に評価する。
テキスト	必要に応じてプリントやパンフレットを配布する。
参考書	「食育基本法」および「第3次食育推進基本計画 参考資料集」（農林水産省HPからアクセス可能） 法律や推進計画は随時更新，改正されるので、直接HPを参考にすると良い。
履修上の注意	本演習は、学校休業日や放課後を利用しての実施となる。各自、事前に予定を調整し、参加出来ないことがないようにすること。実施日程や変更、連絡事項は学内掲示版及びメール連絡するので、随時確認すること。 学外の演習が伴うため、自己管理に留意し、良識ある姿勢で受講する。演習内容によりドレスコード（指定服装）を採用する。 なお、別途実習費を徴収する。
アクティブ・ラーニング	実習、演習、プレゼンテーション
I C Tの活用	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	食専：選択
担当教員			
小川聖子			
Subject Code：N22C03			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 日本の食文化の特色を、地理、歴史、気候、社会的・文化的な側面から解説する。さらに、中国、韓国などの日本の隣国、フランスやイタリアなどに代表される欧米の食文化の歴史とを検討し、これらが日本の食文化へ与えている影響を学ぶ。 また、近年注目を集めているユネスコの無形文化遺産である「和食」について、その内容の詳細な解説と問題点を提起する。 (授業目標) 食文化の理解を通じて、食という身近なことへの学術的なアプローチの方法を身につける。さらに将来の日本の食について思考を深める力を身につける。 A：食に関する情報を日々の暮らしの中で積極的に考えることができ、活用することができる。 ○C：現代の食と、歴史上の食とを比較し、食の変遷の様子を述べることができる。 ◎D：文献などをはじめとする資料や、具体的な食事の様子から、食文化について知識を深めることができる。
授業計画	1 食文化とは何か。その成り立ちと特性について 食事は、人間が生物として生命を維持するために必至の物である。そのため長らく、食が文化であるという考え方はなされてこなかった。食文化が学術として確立されたのは、今から50年ほど前に過ぎない。これらのことをふまえて、人間にとっての食文化とは何か、他の動物との違いについて、比較しながら考える。 2 日本人と米 日本の食文化において、もっとも大きな影響を与えている食品は米である。かように米が重用され重要視されるようになるまでの歴史的な背景について学び考える。また、食文化の記録や伝承は、ケの日である普段の食よりも、行事などのハレの日においてみられることが多い。米に関しても同様で、ハレの日の代表的な食品として餅がある。餅を用いた料理について日本各地の差を考え、その歴史的な背景を学ぶ。 3 日本の行事食①ー正月・桃の節句（プレゼンテーション） 江戸時代に確立された五節句は、現在の日本においても「行事食」として根付いている。行事食の第一回目として、行事食の成り立ちと、正月料理と春の七草、桃の節句などについて学ぶ。正月に誰もが経験している「雑煮」について、自己の経験をまとめてレポートにする。レポートを発表。 4 日本の行事食② 一端午の節句・七夕・菊の節句ー 同様に、端午の節句・七夕・菊の節句について学ぶ。 5 和食の特徴とその成り立ちと歴史① 現在「和食」というカテゴリーに含まれる食事の特徴について、整理して考え学ぶ。 6 和食の特徴とその成り立ちと歴史② 和食の元となった「本膳料理」「精進料理」「懐石」について、その特徴を一つずつ順を追って学ぶ。特に「本膳料理」は、現在の日本料理のご飯とおかずの組み合わせ、一汁三菜の始まりがみえる。日本料理ならではの形の始まりを学ぶことで、現在の自分たちの食のルーツを知る。 7 江戸の食文化 江戸時代の江戸は、世界一の人口密集地であり、知的レベルの高い都市であった。食に関しても独特の世界感があり、江戸の食文化が東日本全体へ伝播していった。「すし」「そば」「うなぎ」「天ぷら」のように現在の「和食」の代表的な料理が確立されたのもこのころである。江戸っ子の食とその特徴を学ぶ。 また、江戸時代に確立された庶民の食文化「会席」と「料亭」について学ぶ。 8 日本料理のマナーと食文化 会席料理には、食事のマナーとして着席時の上座下座、器の扱いと箸使い、懐紙の使い方、などがある。それを踏まえて、楽しくおいしく食事をするための心遣いなどを学ぶ。 9 嗜好品の発達 ー和菓子を代表としてー 嗜好品は、菓子、酒、茶など、生命の維持のためには不必要なものである。しかしながら、世界の国々の中でこの嗜好品が存在しない国はないといってもよい。それはすなわち、人間が食に楽しみを求め、食が人と人とを繋げるコミュニケーションツールであることに他ならない。おもに、和菓子の発達を中心に学んでゆく。 10 沖縄の食文化 沖縄は歴史的に見ても、独特の経緯を持って日本の食文化に取り入れられていった。栄養学的にも興味深い一面を持つと同時に、近年では食の周辺の様々な問題を抱えている。琉球時代からの沖縄の食を学ぶことで、食文化が外的な要因で変遷する経過をたどる。 11 韓国の食文化 日本の隣国である韓国の料理について、その特徴と成り立ちを学ぶ。日本は、有史からあらゆる側面において中国文化の影響を大きく受けてきた。それらの大半は、隣国である韓国を通じてわが国にもたらされた。現在、韓国と日本の食文化には共通点も相違点もみられる。韓国の食文化を通じて、隣国の庶民文化の内容と特徴を学ぶ。 12 中国の食文化 中国の食文化は、世界の食文化の中で最も古いものの一つで、その影響を受けた国はアジア全般にわたると言える。我が国も例外ではない。中国の現在の食の事情を知り、我が国との共通点、相違点などを学ぶ。 13 フランス料理とその食材

	<p>フランス料理は、ユネスコの無形文化遺産に食の分野では最初に登録された。その「美食文化」は、他国の文化を巧みに取り入れ、自国の食材と歴史的な背景の中で、文化として花開いたものである。それらはアジアの食文化と大きく異なる点が多い。とくに食材については、フランス国内での地域性が高く「地域の伝承料理」へのこだわりが見られる。これらについて学び、日本の食との相違を考える。</p> <p>14 フランス料理のマナー</p> <p>現在フランス料理は、世界的に見ても正式・公式の食事の際に用いられることが最も多い。フランス料理のマナーについて、具体的に学び、社会人としてすぐに役立つスキルとして身につける。</p> <p>15 ユネスコ無形文化遺産としての「和食」について</p> <p>「和食」は、2013年12月、ユネスコの世界無形文化遺産に登録された。この内容を検討し、和食の伝統とは何かを示し、現実にはどのような問題点があるのかを学ぶ。また、将来に向けて自分たちが今後どのような意識を持ちつつ、食に接してゆく必要があるのか、考えてゆく。</p>
到達目標・基準	<p>A：食に関する情報を日々の暮らしの中で考えることができる。</p> <p>○C：食事が、文化としてどのように変遷してきたかについて述べるができる。</p> <p>◎D：文献や資料を自ら検索し、食文化について知識を深めることができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：新聞、書物、テレビ、インターネット、地域の広報物などに記載されている食の情報をチェックする。また、次回の講義内容に関する予習課題に取り組む。(90分程度)</p> <p>事後学習：興味のある食に関する情報に関して、資料をファイリングし、要約する。(90分程度)</p>
指導方法	<p>パワーポイント、DVDなど、毎回の授業内容に適した視覚資料を用いる。</p> <p>フィードバックの仕方：①教員が立案した資料をプリントし、配布を行う②レポート提出③評価およびコメント④授業後の質疑応答</p>
成績評価の方法・基準	<p>A：毎回の授業における授業態度を評価する(20%)</p> <p>C：授業内において発表を行い、レポートを提出する(20%)</p> <p>D：定期試験を行う(60%)</p> <p>配布資料をファイリングし、授業に積極的に参加すること。定期試験・レポートの内容との総合評価により判定する。</p>
テキスト	<p>授業時に、教員が作成したプリントを配布する。</p>
参考書	<p>『三訂フードコーディネーター論』（公社）日本フードスペシャリスト協会編（建帛社）2013</p> <p>『日本料理の歴史』熊倉功 吉川弘文館</p> <p>『和食とは何か』江原絢子 熊倉功 思文閣出版</p>
履修上の注意	<p>普段から、自分自身の食べている食品や料理について、興味や関心を持つように心がける。</p> <p>本学図書館にある、単行本・雑誌・辞書などで、食文化の授業中に習得したこと、疑問点などを調べ、自分なりに考察できるようにしておく。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>プレゼンテーション</p>
I C Tの活用	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	2	2	食専：卒業必修、栄必修
担当教員			
長谷川洋昭			
Subject Code：N22A04			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	「幸せ」を意味する「福祉」の制度や現状を学ぶことは、人の幸せを健康の観点からサポートする栄養士にとって意味のあることである。 (授業目標) 社会福祉領域に関する基本的知識の修得はもとより、支援を求める人に対する実践的な対人スキルを身に付けることができる。 ◎B：社会の出来事に対して様々な考えがあることを理解し、自身の考えを正確に伝えるスキルを身につける。 ○D：社会の出来事について、様々なメディアを通して収集し考える習慣を身につける。
授業計画	1 ガイダンス「栄養士が社会福祉を学ぶということ」 この講座の目的および学習事項等の説明を聴き、栄養士が社会福祉を学ぶことの必要性やその意義について理解する。 2 自分と他者を理解する（グループワーク） 人を社会を支援するためには、まず自らの価値観を把握する必要がある。グループワークを通し多角的に現在の自分を俯瞰する。 3 社会福祉とボランティア 支援を求める人には制度のあるなしに関わらず、発見したニーズに対して真摯に向き合ってきた人々がいる。その働きが制度化につながっていることから、ボランティアの歴史と思想を学ぶ。 4 少子高齢化社会の現状と課題 少子高齢化社会は厳然たる事実としてここにある。決して悲観するのではなくどのように現状に合わせた社会を創るべきか、その視点を考える。 5 高齢者に対する支援 人は何事もない限り高齢者になる。高齢者を理解することで自分の将来を理解する。また社会の将来を考える。 6 障害者に対する支援 他者から見える障害と見えない障害、同じ障害を持っていても異なる生活課題などを、支援施策の歴史の変遷とともに理解する。 7 貧困問題を抱えた人に対する支援 生活保護制度の現状を中心に、一見判りにくい貧困状態におかれている人の存在を可視化していく。 8 ホームレスの自立を支援すること 視聴覚教材。路上で暮らすホームレスと呼ばれる人が生活保護を受け、自立生活へとつなげていく支援者の姿を2年に渡り密着取材したDVDを見て学ぶ。 9 要保護児童と要支援家庭に対する支援 児童虐待は決して個々の家庭の問題ではなく、社会全体で考えなければならない問題である。虐待は貧困とも大きく関係しているケースも少なくなく、その連鎖を断ち切るためにはどうすればよいのか考える。 10 非行少年に対する社会的自立支援 非行少年や犯罪者を排除する社会では、排除された彼らは居場所を得られず再び犯罪を犯す可能性は高くなる。誰もが再び健全な社会の一員として暮らしていける方策を考える。 11 医療福祉の概要と課題 人の生活の基盤は「健康」である。間違いなく全ての人が関わる医療について、福祉の接点を把握する。 12 地域の社会資源の組織化 人はどこかの「地域」で生活を営むが、それぞれの地域の実情に即した形で福祉は展開される。その上で社会資源の連携は常に意識されるべきものであり、社会福祉協議会を中心とした組織化について考える。 13 災害時要援護者に対する支援 平時において様々な社会資源が機能していても、有事の際はその連携の鎖の輪がひとつ断絶するだけで様々な立場の人が困難な状況に置かれてしまう。「想定外」の人を作らない、平時と有事の取り組みについて考える。 14 支援を求める人に対する面接技法 支援を求める人は、目の前の支援者が本当に信頼に足る人物なのかを冷静に見極めようとする。「信頼関係」を構築するために最低限必要な技法を体得する。 15 ソーシャルワーク実践とは 当事者意識をもって社会福祉を捉えられているか、今までの学びを総合しソーシャルワーク実践を具体的事例から考える。
到達目標・基準	◎B：様々な考えがあることを理解し、自身の考えをまとめることができる。 ○D：様々なメディアを通して収集し考える習慣が概ね身についている。
事前・事後学習	事前学習：講義内に指示されたことを各自学習すること。（60分程度） 事後学習：配布物、板書を読み直すこと。関連する社会の出来事について関心を持つこと（60分程度）

指導方法	毎回レジュメを配布する。視聴覚教材も適宜使い、内容によっては演習形式も取り入れる。 フィードバックの仕方：①課題の提出②小テストの実施③課題および小テストの評価、コメント④授業内および授業外での質疑応答
成績評価の方法・基準	B：積極的な受講姿勢 D：授業中に実施した小テストやリアクションペーパー 概ね次の①～③により評価する。①授業中の小テスト(20%)②提出物(30%)③定期試験(50%)。
テキスト	『社会福祉の形成と展開』井村圭壯・今井慶宗編著（勁草書房）2019
参考書	
履修上の注意	資料を閉じるファイルを用意すること。 また、欠席に対して印刷物の「取り置き」はしないので、友人に依頼するなど各自の責任において調整されたい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
I C Tの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	2	1	食専：必修
担当教員			
武敏子			
Subject Code：N25C23			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	治療食の基本である一般常食から特別治療食へ展開する方法を理解する。治療食の代表として常食、三分粥食、糖尿食、腎臓食の献立作成方法を学び、班ごとに献立を1食に絞り、その献立をもとに実習する。また、腎臓食用の特殊食品を使用した実習も行う。介護食や嚥下障害食、濃厚流動食やその他の治療用特殊食品についての扱いについての実習も行う。 (授業目標) 治療食の基礎、献立作成、調理方法を理解し、グループによる調理実習からチームワークと調理技術を身に付ける。 ○D：臨床栄養学で習う各疾患に対する食事療法の実際を学び、治療食の基礎を身に付ける。 ◎E：代表的な疾患の治療食の献立作成、調理ができる。		
授業計画	1	食事療法の概要と一般常食の食品構成表 病院治療食における一般治療食と特別治療食の種類とその基本を学び、一般常食の食品構成表と献立のポイントを学ぶ。 常食の献立を考える。	
	2	献立作成と発注計算 常食の献立作成と班ごとに実習用の発注計算を行う。	
	3	一般常食の調理実習（実習） 前回作成した一般常食の献立を調理実習し、食欲面からの評価を行い、試食する。	
	4	コントロール食の展開と軟食の献立作成 コントロール食の展開方法を学び、軟食の展開と三分粥の献立作成を行う。	
	5	軟食の献立作成 軟食の展開と三分粥の献立作成を行う。	
	6	三分粥の発注、その他の特別治療食 実習用の発注計算を行う。 その他の特別治療食（胃潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン病、食物アレルギーなど）の特徴を学ぶ。	
	7	軟食の調理実習（実習） 前回作成した三分粥の献立を調理実習する。また、分粥を実際に作りその特徴を学ぶ。	
	8	糖尿病食品交換表 糖尿食の基本を理解し、糖尿病食品交換表を使いこなせるようにする。	
	9	糖尿食の献立作成、その他の特別治療食 糖尿病の献立作成と実習用の発注計算を行う。 その他の特別治療食（肥満症、脂質異常症、膵臓病、肝臓病など）の特徴を学ぶ。	
	10	糖尿食の調理実習（実習） 前回作成した糖尿食の献立を調理実習する。また、糖尿食用特殊食品を試食する。	
	11	腎臓病食品交換表 腎臓食の基本を理解し、腎臓病食品交換表を使いこなせるようにする。	
	12	腎臓食の献立作成、その他の特別治療食 腎臓病の献立作成と実習用の発注計算を行う。 その他の特別治療食（高血圧症、貧血など）の特徴を学ぶ。	
	13	腎臓食の調理実習 1（実習） 前回作成した腎臓食の献立を調理実習する。	
	14	腎臓食の調理実習 2（実習） 腎臓病用の特殊食品を使用して調理実習し、試食する。	
	15	介護食、嚥下障害食、周術期食、経管栄養、きっかけ食 介護食、嚥下障害食の調理実習、濃厚流動食、特殊食品の扱い方を学び、試食・試飲する。	
到達目標・基準	○D：病院治療食における一般治療食と特別治療食の種類が言える。食品構成表と献立作成のポイントが説明できる。糖尿病・腎臓病の食品交換表を使い、献立作成ができる。 ◎E：病院治療食における一般治療食の調理ができる。糖尿食・腎臓食その他の特別治療食の調理ができる。		
事前・事後学習	事前学習：シラバスに沿って疾患の食事療法を学んでいくので、教科書の該当するところを事前に読んでくること。 事後学習：授業の講義で習ったことはプリントやノートのまとめで覚えるようにする。調理実習した治療食については、早めに再度自宅で作ってみると理解も調理技術も上達する。		
指導方法	・実習を通して、代表的な疾患の食事療法の手段としての献立の立て方、調理方法を指導する。 フィードバックの仕方：①実習ごとにレポートを提出してもらい理解度を確認する。②献立提出。③評価・コメント④授業内および授業外での質疑応答		
成績評価の方法・基準	D：治療食の基礎知識、献立作成、調理法の理解度など、レポート提出・定期試験で評価する。 E：調理実習貢献度を評価する。		

	定期試験40%、レポート提出30%、調理実習態度20%、受講態度10%
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・「実践臨床栄養学実習」長浜幸子・西村一弘・宮本佳世子編著 第一出版株式会社2017 ・「糖尿病食事療法のための食品交換表」日本糖尿病学会編 文光堂2017 ・「腎臓病食品交換表」黒川清監修 医歯薬出版株式会社2017 ・「糖尿病治療ガイド2018-2019」日本糖尿病学会編著 文光堂2017
参考書	
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1：毎回の授業で計算作業を行うので、電卓を用意すること。携帯電話は使用禁止。 2：授業中は他の人に迷惑にならないよう授業態度に注意すること。 3：実習の時は衛生に注意して、怪我をしないように注意すること。
アクティブ・ラーニング	実習
I C Tの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	食専：選択
担当教員			
齋藤訓之			
Subject Code : N27C35			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>食品は、必要ととき、必要な場所に、必要な物を、必要な量と状態でそろえ、適切な価格で提供されることで、初めてそのおいしさなり栄養なり喜びなりを生活者に手渡すことができる。食の専門家（フードスペシャリスト）、とくに食品メーカー、事業所給食を含む外食産業、小売業等で商品開発や購買の仕事に携わる人には、これを実現するためのトータルな知識・情報・手腕が求められる。本講座では、その実務に就く以前に学ぶことができる知識と考え方を身につける。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎D：現代の食品の需要と供給の全体像を、生活者としてではなく供給者としての立場に立って理解し、食ビジネスの専門家として説明できる。</p> <p>○C：現代の食品産業にどのような課題があるかを自分で見付け、改善案、解決策を独自に考えることができる。</p>
授業計画	<p>1 フードシステムの全体像 授業で扱う事柄の全体像を理解し、学修の方法とゴールを確認する。</p> <p>2 現代の生活者と食市場 I 食の外部化 (ICT:WebClass) 食の外部化の進展、食情報の多様化、健康志向を中心に現代の生活者の食生活を理解する。</p> <p>3 現代の生活者と食市場 II 新しい家族たち (ICT:WebClass) 新しい家族のあり方、少子高齢社会への対応を中心に現代の生活者の食生活を理解する。</p> <p>4 食品産業の発達と役割 (ICT:WebClass) 食品産業の発達プロセスと今日の活動を概観し、その役割を理解する。</p> <p>5 食品流通の各段階 (ICT:WebClass) 食品流通を分類して理解する。また卸売業の役割を理解する。</p> <p>6 食品小売業の仕組みと役割 (ICT:WebClass) 食品小売業の業種・業態を押さえ、機能と役割を理解する。</p> <p>7 外食業・中食業の仕組みと役割 (ICT:WebClass) 外食業・中職業の業種・業態を押さえ、機能と役割を理解する。</p> <p>8 食品の分類と物流 (ICT:WebClass) 食品の各種の分類を理解する。また各種の物流の仕組みを理解する。</p> <p>9 主要食品の流通 I 穀物と野菜 (ICT:WebClass) 食品の流通について、主に穀物と野菜等の農産物の現状と課題を理解する。</p> <p>10 主要食品の流通 II 畜産と水産 (ICT:WebClass) 食品の流通について、主に畜産・酪農ならびに水産の現状と課題を理解する。</p> <p>11 主要食品の流通 III 調味料と飲料 (ICT:WebClass) 食品の流通について、主に調味料・飲料等の現状と課題を理解する。</p> <p>12 食のマーケティングの基礎I マーケットインへの転換 (ICT:WebClass) 食品で行われるマーケティングについて、古典的考え方から基礎理論までを理解する。</p> <p>13 食のマーケティングの基礎II チームマーチャライジングの時代 (ICT:WebClass) 食品で行われるマーケティングについて、今日行われている新しい方法を理解する。</p> <p>14 食品産業のCSR (ICT:WebClass) 食品産業に求められる安全確保、環境への対応、その他の社会的責任を理解する。</p> <p>15 食品の消費と流通の課題 (ICT:WebClass) (ディスカッション) 食品の生産、製造、物流、そして消費の現場に発生している諸問題を概観し、解決の道筋を考える。</p>
到達目標・基準	<p>◎D：教科書が扱う生産・流通・消費に関する主要な用語を説明できる。</p> <p>○C：現代の食品産業が解決すべき課題を複数指摘することができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：教科書の次回講義予定範囲及びWebClassで示す資料を熟読・理解し、質問したい項目を整理する(70分程度)。</p> <p>事後学習：教科書で扱う主要な用語とくに索引にリストアップされている用語とその意味を単語帳やノートを作るなどして覚える。WebClassで出題する課題に遅滞なく取り組む(90分程度)。</p> <p>授業で学んだことを机上の話として理解するだけでなく、その事例を実際の生活や他の実習の中にも見出すようにすること。気づいた事柄はメモする(日常の行動の中で合計20分以上を目処に能動的に観察を行う)。</p>
指導方法	<p>授業は写真や図解などのビジュアルエイドを取り入れたレクチャーを主体とする。また、学生の問題意識や疑問点を引き出すためおよび理解した事柄を活用するトレーニングとして、ディスカッションも適宜取り入れる。</p> <p>フィードバックの仕方：①毎回の授業後にWebClassを使って授業の感想、理解した事柄、要望等を書き込む。②要望や質疑応答に対応し、フィードバックする(「成績評価の方法・基準」の【授業ごとの小課題】参照)。</p>
成績評価の方法・基準	<p>以下の各項によって評価を行う。アルファベットはディプロマポリシーの該当項目を指す。()内のパーセンテージは配点を示す。</p>

	<p>【授業ごとのWebClass活用と小課題】 C：授業ごとにその授業で学んだポイントを列挙し、自分にとっての重要点と所感を記述し、WebClassを使って提出する。授業ごとのWebClass活用実績（資料閲覧歴等）がある（30%）。</p> <p>【定期試験】 D：教科書が扱う主要な用語（索引にリストアップされている用語）の理解度を測る客観テスト（60%）。 C：授業で学んだ事柄と自分の生活や将来の仕事との関わりを説明する記述問題（10%）。</p>
テキスト	日本フードスペシャリスト協会2000年『三訂 食品の消費と流通』建帛社 ISBN978-4-7679-0538-9 1,900円（税別）
参考書	齋藤訓之 2010年『食品業界のしくみ』ナツメ社 ISBN978-4816349133 1,350円（税別）
履修上の注意	遅刻・途中退出・私語などは円滑な授業運営にとって障害であり、他の学生の学修の妨げになることである。厳に慎むこと。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション
I C Tの活用	WebClass

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	食専：選択
担当教員			
齋藤訓之			
Subject Code：N28C41			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	食は誰にとっても身近な物であり行動であるが、現代の食産業は巨大かつ複雑で、食業界の全体像はつかみにくい。食の専門家を目指す学生がこの大きくとらえどころのないものを理解する手がかりとして、食産業でこれまでに起こった革新を振り返りながら、最新の動向も併せて、現代の食業界を構成する各分野のプレイヤーの技術、戦略、課題を解説する。 (授業目標) ◎D：食業界を構成する企業等の組織のあらまし、食産業の基本的な技術とその意義、食市場の変遷を簡潔に説明できる。 ○C：食分野で現在および将来に求められる商品・サービスを、一時の流行に対応するのではなく、食業界全体の趨勢の中での長期的な戦略と必要な技術を踏まえて検討することができる。
授業計画	<p>1 小売業と外食産業の歩みと現在 消費者を対象に食品を販売する業務の分類を行い、それぞれの変遷と特徴を理解する。</p> <p>2 食品工業と流通業の歩みと現在 (ICT：WebClass) 食品工業および食品の流通の近代以降の変遷を概観し、第1回授業の内容にも照らして現代の食品流通の特徴を理解する。</p> <p>3 農産の変遷 (ICT：WebClass) 農業生産 (耕種農業) の近代化と現代農業のあらましと特徴を理解する。</p> <p>4 水産の変遷 (ICT：WebClass) 漁撈の近代化と水産養殖の進歩のあらましと特徴を理解する。</p> <p>5 畜産の変遷 (ICT：WebClass) 酪農・畜産の変遷と現代の食肉産業ならびに酪農のあらましと特徴を理解する。</p> <p>6 容器包装が変えた食産業 (ICT：WebClass) 瓶詰めが始まる容器による食品保存技術の変遷と流通の革新を理解する。</p> <p>7 温度管理が変えた食産業 (ICT：WebClass) 温度管理による食品保存技術の変遷と流通の革新を理解する。</p> <p>8 物流／ロジスティクスが支える食産業 (ICT：WebClass) 単なる移動を超えた現代の食品物流の仕組みを理解する。</p> <p>9 生産管理／大量生産から多品種少量生産へ (ICT：WebClass) フォード型大量生産からトヨタ生産方式的な多品種少量生産へのシフトを理解する。</p> <p>10 新素材と食品添加物 (ICT：WebClass) 食品の加工と物流を変えた歴史的新素材と今日の食品添加物のあらましを理解する。</p> <p>11 安全・安心・防御 (ICT：WebClass) 原材料生産・加工・物流・最終調理を一貫管理するHACCP的な考え方の歩みと普及を理解する。</p> <p>12 宗教・思想信条と食 (ICT：WebClass) 自然食、有機農業・有機食品の商品化の歴史と現在を俯瞰。世界の宗教や思想信条による食の禁忌等を理解する。</p> <p>13 健康長寿／栄養学と疫学の未来 (ICT：WebClass) 健康長寿の推進に貢献し得る食の提供のために始まっている活動を理解し、社会の変化を考察する。</p> <p>14 ICTとロボティクス (ICT：WebClass) (ディスカッション) 自働 (自律的な自動) 化する生産と提供、高度な需要予測などの普及を理解し、社会の変化を考察する。</p> <p>15 広告・広報・ブランディング (ICT：WebClass) (ディスカッション) 企業と社会とのコミュニケーションと連携によって形成されてきた市場を理解し、今後の企業ならびに社会のあり方を考察する。</p>
到達目標・基準	◎D：食関連産業で日常使われる用語 (食関連の専門メディアの記事に頻出する語句等) を理解していて、専門外の人に正しく説明できる。 ○C：食分野の商品に接したとき、どのような生産・流通を経て販売・消費されるものかを、一般的な知識に照らして推測することができる。
事前・事後学習	事前学習：Webクラスで示す資料を熟読・理解し、質問したい項目を整理する。適宜参考書の関連事項にも当たることが望ましい (70分程度)。 事後学習：Webクラスで出題する課題に遅滞なく取り組む。適宜参考書の関連事項にも当たることが望ましい (90分程度)。 授業で学んだことを机上の話として理解するだけでなく、その事例を実際の生活や他の実習の中にも見出すようにすること。気づいた事柄はメモする (日常の行動の中で合計20分以上を目処に能動的に観察を行う)。
指導方法	授業は写真や図解などのビジュアルエイドを取り入れたレクチャーを主体とする。また、学生の問題意識や疑問点を引き出すためおよび理解した事柄を活用するトレーニングとして、ディスカッションも適宜取り入れる。 フィードバックの仕方：①毎回の授業後にWebClassを使って授業の感想、理解した事柄、要望等を書き込む。

	②要望や質疑応答に対応し、フィードバックする（「成績評価の方法・基準」の【授業ごとの小課題】参照）。
成績評価の方法・基準	以下の各項によって評価を行う。アルファベットはディプロマポリシーの該当項目を指す。（）内のパーセンテージは配点を示す。 【授業ごとのWebClass活用と小課題】 C：授業ごとにその授業で学んだポイントを列挙し、自分にとっての重要点と所感を記述し、Webクラスを使って提出する。授業ごとのWebClass活用実績（資料閲覧歴等）がある（30%）。 【定期試験】 D：教科書が扱う主要な用語（索引にリストアップされている用語）の理解度を測る客観テスト（60%）。 C：授業で学んだ事柄と自分の生活や将来の仕事との関わりを説明する記述問題（10%）。
テキスト	本授業専用資料をWebClassで提示・配布する。
参考書	日本フードコーディネーター協会『フードコーディネーター教本2019:3級資格認定試験対応テキスト』柴田書店 ISBN978-4388154418 3,000円(税別) 日本フードスペシャリスト協会2000年『三訂 食品の消費と流通』建帛社 ISBN978-4-7679-0538-9 1,900円(税別) 齋藤訓之 2010年『食品業界のしくみ』ナツメ社 ISBN978-4816349133 1,350円(税別)
履修上の注意	遅刻・途中退出・私語などは円滑な授業運営にとって障害であり、他の学生の学修の妨げになることである。厳に慎むこと。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション
I C Tの活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	食専：必修
担当教員			
川嶋比野、大野治美			
Subject Code : N17C43			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	文化や宗教の違いによって用いる食材や調理法は異なり、世界または日本国内でも、多種多様な食文化が営まれている。下記項目で、応用力を身に付ける為の実習を行う。 (授業目標) 調理学実習1で学んだ基本的な知識及び技術をもとに、和・洋・中を組み合わせた実習を行い、技術をさらに向上させる。美味しそうな盛り付け方、季節感を演出する方法など、より実践的に応用できる技能を修得する。 ○A：グループの中での自分の役割を理解し、共に協力し合って複雑な調理を効率よくすすめることができる。 B：コミュニケーションをとりながら物事を円滑に進めていく力を身に付ける。 ◎E：①日本料理、西洋料理、中国料理の献立様式の特徴を説明することができる。②食を演出するための盛り付け方を実践することができる。③和洋中の応用的な調理技法を身に付ける。④栄養価計算表と作業工程表を適切に作成することができる。⑤包丁をリズミカルに効率よく使いこなすことができる。		
授業計画	1	日本料理1 (実習) 油揚げとひじきの扱い方を身に付ける。 寒天液の温度管理の必要性を理解する。	
	2	西洋料理1 (実習) ブイヨン、ベシヤメルソースの基本を理解し、調理できるようになる。	
	3	西洋料理2 (実習) アガーの調理性、デミグラスソースの扱い方を理解し、身に付ける。	
	4	日本料理2 (実習) 魚の下処理ができるようになる。	
	5	日本料理3 (実習) 魚の三枚おろしができるようになる。	
	6	中国料理1 (実習) 豆腐と海老の扱い方を身に付ける。	
	7	日本料理4 (実習) 卵の調理、蒸し物の基本を覚え、身に付ける。	
	8	中国料理2 (実習) イカと貝柱(乾)の扱い方、蟹の茹で方とさばき方を身に付ける。	
	9	日本料理5 (実習) 桂剥きの包丁の正しい動きを理解し練習する。 刺身の扱い方、青菜のゆで方、饅頭の作り方を身に付ける。	
	10	中国料理3 (実習) 肉と野菜の細切りを身に付ける。 繊維の方向の影響と重要性を理解する。	
	11	行事食1 (実習) クリスマス料理でおもてなしの盛り付けを身に付ける。 カスタードクリーム、グレービーソースの作り方を修得する。	
	12	行事食2 (実習) お正月料理でお祝いの演出法を身に付ける。 飾り切り、煮物、さつまいもの扱い方を修得する。	
	13	西洋料理3 (実習) スポンジ生地を作る要点を理解し、正しい調理法を身に付ける。 肉の部位による使い分けを意識し、適切な調理法を選択できる力を付ける。	
	14	西洋料理4 (実習) オムレツを作り、フライパンを自在に返すことができるようになる。 バター菓子の調理を行い、バターの役割を理解する。	
	15	包丁技術の確認と衛生管理 (実習) 包丁の技術の確認を行い、練習不足な技能がないか自覚する。 調理器具及び調理室の衛生管理方法を身に付ける。	
到達目標・基準	○A：グループの中での自分の役割を理解し、共に協力し合って複雑な調理をすすめることができる。 B：コミュニケーションをとりながら物事を進めていく努力ができる。 ◎E：①日本料理、西洋料理、中国料理の献立様式の基本を説明できる②栄養価計算表と作業工程表を作成することができる。③包丁を正しく安全に使うことができる。		
事前・事後学習	事前学習：予定表で献立を確認し、料理について調査すると良い。 事後学習：指定のレポートを作成し、反省を踏まえて自宅でもう一度調理すること。練習して初めて身に付く技術である。また、作業工程表を作成する課題を課す。最も短時間で作る手順を考えることで、合理的な調理を習慣付けることができる。レシピの栄養価計算が課題となる回もある。		
指導方法	・デモンストレーションをしながら説明を行い(手元カメラでデモ中の映像をモニターで拡大して見ることが		

	<p>できる)、グループごとに実習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試食前に各グループの実習内容を評価する。 ・後片付けの後、点検を受け、グループごとに終了となる。 ・主に、提出されたレポートと実技試験で評価を行う。 <p>フィードバックの仕方：①実習、②料理の出来上りをコメントおよび評価、③効率の良さについてもコメントおよび評価、④実習中および実習後の質疑対応</p>
成績評価の方法・基準	<p>A：出来上がった料理を評価する。 B：グループの作業効率のよさを評価する。 E：和洋中の応用的な調理法について理解しているか、また、栄養価計算表と作業工程表を適切に作ることができるか、レポートにより評価する。包丁技術を実技試験により評価する。</p> <p>実習で作った料理および作業効率の良さ(20%)，レポート提出(50%)，実技試験(30%)を総合的に評価する。実習科目のため、技術と成果およびレポートを評価するので筆記試験は行わない。</p>
テキスト	授業内容をプリントし配布する。
参考書	他科目で使用している食品成分表
履修上の注意	<p>栄養士、フードスペシャリスト取得のための必修科目である。調理学、調理学実習1の関連科目である。衛生管理徹底のため、指定された身支度を整え、刃物や火の取り扱いには十分気をつけて行動すること。なお、各自、日頃からの自己管理を怠らず、万全な体調で授業に臨むこと。食物アレルギーの有無について授業前に調査を行うが、調理担当変更、見学、試食を避ける、欠席などの対応についてはアレルギーの程度によって各自で判断し、教員に申し出て行うこと。調理に伴う食材費および消耗品費は別途徴収する。</p>
アクティブ・ラーニング	実習
I C T の活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	食専：必修
担当教員			
大野治美			
Subject Code : N17C44			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	食材が調理によって変化する現象を理解する。実験を通して調理に伴う現象を的確につかみ、それを意識化・数量化し、調理のコツや再現性を確認する。また、調理学実習との関連性を考えつつ、実践に役立つ理論、考察力を養うことができる。実験や調理の基礎的な技術が修得出来る様な授業内容である。 (授業目標) 調理を行う際に必要となる調理操作、調理工程、衛生面や安全性を遵守することも栄養士にとって大切な技術である。毎回の実験を通して確認する。 ◎B：実験を通して、協調性・コミュニケーション力を養うことができる。 ○D：実験から学んだ知識を、その他の調理へ応用展開できる。		
授業計画	1	オリエンテーション 調理の意義・目的、レポートの書き方、手ばかり	
	2	計量・計測に関する実験（実験） 食品の体積と重量、目安量	
	3	調理の五感を鍛える実験（実験） 官能評価	
	4	旨味に関する実験（実験） 出汁の旨味、汁物の調理と塩分摂取量	
	5	調理機器の特徴を理解するための実験（実験） 電子レンジの特徴	
	6	米の実験（実験） 米の種類、浸漬による吸水量と調味料による影響	
	7	小麦粉の実験（実験） クッキーの性状に及ぼす材料配合の影響	
	8	砂糖の実験（実験）（ICT：WebClass） 砂糖溶液の加熱変化と性状、砂糖衣、フォンダン WebClassによる小テストを実施	
	9	野菜の実験（実験） 野菜の色とpH	
	10	果物の実験（実験） ゲル化剤の調理特性、たんぱく質分解酵素による影響	
	11	魚の実験（実験） 煮魚、魚肉の性質とそぼろの性状の違い	
	12	肉の実験（実験） ハンバーグステーキに加える副材料の影響	
	13	卵の実験（実験） 希釈卵液のゲル化とテクスチャー	
	14	乳・乳製品の実験（実験）（ICT：WebClass） クリームの泡立てと分離 WebClassによる小テストを実施	
	15	発表（グループワーク・プレゼンテーション） 実験を通して理解したことを班ごとにまとめ、発表する	
到達目標・基準	◎B：各テーマ毎のリーダーと協力しながら、実験を的確に実行できる。 ○D：調理の様々な現象を科学的に捉え、原理・原則が理解できる。		
事前・事後学習	事前学習：あらかじめ授業計画を確認し、調理学や食品学等の教科書に目を通しておくこと。 また、実験手順を確認しておくこと 事後学習：実験レポート作成において、図書館などで資料を調べた上で、参考文献を明記すること。 インターネットなどの引用は認めない		
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な調理方法や実験器具の取り扱い方、濃度の求め方など、その都度確認しながら授業を進める。 ・実験手法をデモンストレーションに沿って解説する。 ・授業の目的に沿ってグループごとに実験・実習を行う。 ・実験結果に基づいて、各自考察を加えた実験レポートを提出してもらい、理解度を確認する。 ・授業内で行う小テストによりクラス全体の理解度を確認しながら指導をする。 フィードバックの仕方：①レポート提出②レポート評価およびコメント③授業内および授業外での質疑応答		
成績評価の方法・基準	B：受講態度やグループ内での授業貢献度を評価する。 D：レポートや小テスト、発表内容から理解度を評価する。 *授業への貢献度20%、実験レポート60%、小テスト20%		

テキスト	プリントを配布する。
参考書	食品成分表、調理のためのベーシックデータ、調理と理論、『調理学』全般
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・計算作業を行うので、電卓を用意すること。携帯電話は使用禁止。 ・衛生管理のため実験・実習中は指定された身なりを整え、爪は短く切り、マニキュアはしない。ピアス、ネックレス、指輪、つけまつげ等はすべて外すこと。 ・包丁などの刃物や火の取り扱いには十分に気をつけ、担当者の指示に従い安全に留意すること。 ・包丁が必要な回には包丁を持参する。
アクティブ・ラーニング	実験、プレゼンテーション
I C Tの活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	食専：選択
担当教員			
大塚公子			
Subject Code：N28C47			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	洋菓子を中心とした製菓の実習を通してそれぞれの菓子の由来や歴史、素材の知識、作り方、器具の扱い、デコレーション等を総合的に学ぶ。デモンストレーションの後、班で協力して作品を仕上げる。盛り付けはデモも参照しながら班独自の工夫をし、発想力、応用力を養う。 (授業目標) 製菓の基礎的知識と技術を修得し、他の授業とも関連付けながら学びを深め、幅広い「食」と「職」への意識を高める。 A：積極的に実習に関わり、班で協力しながら作品づくりに臨み、チームワークを築くことができる。 ◎D：製菓の基礎的知識を学び、素材の調理科学や道具の扱いを理解している。 作業工程で学んだ事、疑問に思った事を考察し、理論付けて表記することができる。 ◎E：基本的な製菓の生地作り、相応しい盛り付け、応用力を身に付ける。
授業計画	<p>1 クレープ（2種）・フルーツ羹（実習） クレープの由来と製法のポイント、巻き方や具材のアレンジ 寒天・小麦粉の性質と扱い</p> <p>2 スコーン・ババロア（実習） スコーン・ババロアの由来と製法のポイント、伝統的な頂き方 ゼラチン・生クリームとの性質と扱い</p> <p>3 だら焼き・串団子2種（実習） だら焼き、団子の由来と製法のポイント 和菓子素材について－その① 小豆餡について</p> <p>4 ピッツア・かぼちゃのプリン（実習） 発酵生地の製法とポイント－その① トマトソース・カラメルについて イーストの性質と扱い</p> <p>5 肉まん・月餅風クッキー（実習） 発酵生地の製法とポイント－その② 中華菓子・ナッツ・ドライフルーツについて 油脂の種類</p> <p>6 シュークリームとその応用（実習） シュー生地の製法とポイント、様々な絞り方と具材のアレンジ 卵の性質と扱い</p> <p>7 チョコレート菓子・マフィン（実習） チョコレートの性質と扱い－その① テンパリングの基本 マフィンの製法と具材のアレンジ</p> <p>8 フルーツケーキ・季節のコンポート（実習） バターケーキの製法とポイント フルーツケーキの由来 コンポートの製法と保存法 バターの性質と扱い</p> <p>9 ロールケーキ・ビスコッティ（実習） 別立て法によるスポンジ生地の製法とポイント バタークリームの製法 メレンゲの種類について</p> <p>10 ショートケーキ・バニラキプフェル（実習） 共立て法によるスポンジ生地の製法とポイント 生クリームの性質と扱い 機器使用による作業の簡便化について</p> <p>11 わらび餅・かりんとう・タルト生地の仕込み（実習） わらび餅、かりんとうの製法とポイント 和菓子素材について－その② パートシュクレ・パートブリゼの製法と違いについて</p> <p>12 りんごのタルト・レアチーズケーキ（実習） タルトの由来と製法のポイント アーモンドクリームの製法 チーズの種類について</p> <p>13 キッシュ・フォンダンショコラ（実習） キッシュの由来と製法のポイント、具材のアレンジ チョコレートの性質と扱い－その② オープンの種類と違いについて</p> <p>14 実技課題（スポンジケーキ）・簡単おやつ（ビスケットサンド・苺大福）（実習） これまで学んだ技術を生かし、1人ずつスポンジケーキを作製 市販品も利用した短時間でできるアレンジ菓子</p> <p>15 日本のおやつ（おやき・桜餅・さつま芋の茶巾・ヒラヤーチー）（実習・プレゼンテーション）</p>

	昔ながらの日本のおやつ <small>の</small> 製法とポイント それぞれの由来と素材について 各台で担当菓子を決め、全台分を作るスタイル
到達目標・基準	A：進んで実習に関わり、協力しながら作品を仕上げ、チームワークに貢献できる。 ◎D：基本的な生地 <small>の</small> 作り方や素材・道具について、何を使ってどのように作られているかを理解している。 実習で学んだポイントや疑問を自分の言葉でまとめ、表記することができる。 ○E：製菓の基本動作（泡立てや混ぜ、加熱や冷却の加減等）を実践できる。また、盛り付けを工夫できる。
事前・事後学習	事前学習：シラバスに沿って実習していくので、その日の内容について調べ、質問事項があれば準備しておく。 事後学習：授業で学んだ事柄やポイントを記憶が新しいうちにレシピやノートにまとめる。自分が関われなかった、あるいはうまく行かなかった作品を再度作ってみることで、より理解が深められる。
指導方法	・講義とデモンストレーションの後、班に分かれて実習を行う。 ・作業工程及び作品を総合的に評価・撮影した後、試食と片付けを行う。点検を受けてから班ごとに終了する。 ・実習ごとに評価表を提出（当日～次回授業前まで）、理解度を確認して採点する。 フィードバックの方法：①授業中の質疑にはその都度対応し、アドバイスを行う。②評価表提出→採点后コメントを付けて返却する。③授業後、採点及びその他の質疑についても対応する。
成績評価の方法・基準	A：受講態度・班での貢献度を評価する。 D：講義と実習の理解度を提出課題により評価する。 E：実技課題により評価する。 評価表50% 実技課題20% 実習貢献度20% 受講態度10%
テキスト	特に無し。毎回レシピを配布する。
参考書	
履修上の注意	身なりの衛生に留意し、怪我のないようにすること。 共同作業のため、思いやりの気持ちを持って臨むこと。 作品の撮影は許可するが、それ以外の携帯電話の使用は禁止する。 食品アレルギー等がある場合は事前に申告すること。
アクティブ・ラーニング	実習、プレゼンテーション
ICTの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	食専：選択
担当教員			
渋谷一春、保阪修			
Subject Code：N28C45			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	専門店のシェフの食材料に対する知識とこだわり、調理技術、盛り付けのテクニック、食材料や味の組み合わせなどをプロから学び、フランス料理、中国料理の様式別に毎回2～3品を調理する。 フランス料理：渋谷 一春 中国料理：保阪 修 (授業目標) 家庭料理とは違うプロの技と味を体験し、応用的知識と感性に磨きをかけ、一段上の調理技術を修得する。 ◎A：班における自分の役割を理解し適切な調理作業で衛生的にかつ安全に実習をやり遂げることができる。 ○D：フランス料理、中国料理の加熱や調味の手法、メニュー作成方法のポイントが説明できる。 メニューの名称と意味を理解することができる。 料理を自分の料理として表現し美しく盛り付けることができる。
授業計画	<p>1 フランス料理1 (実習) メニュー：若鶏のロースト チェリージュビレ 内 容：フランス料理概要、食事様式説明、前菜、メインディッシュ、温製デザート実習</p> <p>2 フランス料理2 (実習) メニュー：鮭のポワレ オリーブ添え フランボワーズのロールケーキ 内 容：魚の加熱と付け合せ、デザート用のロールケーキ実習</p> <p>3 フランス料理3 (実習) メニュー：鴨胸肉ロースト フォアグラ添え チョコレートのムース オレンジ風味 内 容：鴨肉、フォアグラの加熱、付け合せの実習、デザートの実習</p> <p>4 フランス料理4 (実習) メニュー：鯛とホタテ貝の白ワインソース クレープ赤いベリー添え 内 容：魚料理と付け合せ実習、デザートとしてのクレープ実習</p> <p>5 フランス料理5 (実習) メニュー：鶏のカレー煮クスクス添え 温製リンゴのタルト 内 容：鶏肉の煮込み 温野菜実習、デザート実習</p> <p>6 フランス料理6 (実習) メニュー：仔羊フィレ肉マスタードクリームソース クレームキャラメル 内 容：ラム肉の加熱と温野菜実習 デザート実習</p> <p>7 フランス料理7 (実習) メニュー：マッシュルームのオムレツと温野菜 パンドショコラ 内 容：オムレツの実習と応用説明 チョコレートケーキ実習と応用説明</p> <p>8 フランス料理8 (実習) メニュー：マッシュルームのオムレツと温野菜試験 内 容：フランス料理含めウエスタンススタイル料理全般の食事様式について質疑応答、まとめ</p> <p>9 中国料理1 (実習) メニュー：広東風かにたま えびシューマイ 内 容：中国料理の歴史について、料理名、食材の中国表記、メニューの作り方等の講義 基本的な卵料理と点心の基礎の実習</p> <p>10 中国料理2 (実習) メニュー：鶏肉とカシューナッツ炒め えびのすり身つけトースト揚げ マンゴープリン 内 容：野菜の切り方とデザートの実習</p> <p>11 中国料理3 (実習) メニュー：スプタ マーボードーフ 胡麻付き揚げ団子 内 容：肉・野菜の切り方と片栗粉のとめかたの実習、中国点心の実践</p> <p>12 中国料理4 (実習) メニュー：エビのマヨネーズ風味 茄子の冷菜 タピオカココナッツ 内 容：エビの下処理の仕方と前菜の実習、中国点心の実践</p> <p>13 中国料理5 (実習) メニュー：広東風五目焼きそば 鶏肉と帆立のオリエンタルソース バケット添え 内 容：野菜の切り方と片栗粉のとめかたの応用実習</p> <p>14 中国料理6 (実習) メニュー：広東風鯛のお刺身 牛ロースの中国風ステーキ トウチソースかけ 内 容：魚の下ろし方とステーキの焼き方の実習</p> <p>15 中国料理7 (実習) メニュー：広東風かにたまとマーボードーフの技術の確認 内 容：まとめ、意見交換会、社会人になる為の心構え等</p>
到達目標・基準	フランス料理、中国料理の基礎知識や様式を理解し、加熱や調味の手法を知る。グループによる調理実習からチームワークと調理技術を身に付ける。 ◎A：班単位の実習、自分の役割やメニューを理解し、調理実習を通じてチームワークを身につけて作品を作ることができる。 ○D：専門的な加熱や調味の手法、料理を学び、フランス料理、中国料理の基礎を身につける。代表的なメニューを作成し調理、盛り付けができる。

事前・事後学習	事前学習：事前にメニューを確認し、料理について調査する。 事後学習：実習後はテキストを再確認し、担当しなかった料理を作ってみること。
指導方法	・デモンストレーション⇒5～6人のグループ別に調理⇒盛りつけ⇒評価⇒試食⇒片付け ・調理の基本である安全面・衛生面の徹底 フィードバックの仕方：①実習、②レポート提出、③評価返却、④授業中および授業後の質疑対応
成績評価の方法・基準	A：筆記試験は行わず、授業態度、グループ内での授業貢献度を評価する。 D：課題レポートなどで知識や理解度を評価する。 実習時の調理作品、実技試験で評価する。 受講態度50%、課題レポート25%、実技試験25%
テキスト	毎回プリントを配布する。
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	食関係の仕事に就職を希望する人は、履修することをお勧めします。定員25名とする。 選択科目ですが、実習費を納めた後には履修取り消しすることができません。
アクティブ・ラーニング	実習
I C Tの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	食専：選択
担当教員			
村上佐恵子			
Subject Code：N28C49			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 学校や社会で学んだ知識や技術を活かして、社会で自立して生きる具体的な方法の一つである「飲食店経営の開店計画」をテーマに、個性を活かした集客力ある飲食店の空間デザインのコツを学びます。食空間をミクロ（お皿の上）からマクロ（店舗全体の空間）まで引き伸ばし、共通した強いコンセプトを持ってデザインすることを学びます。 フードコーディネーター資格取得の学修にも対応した内容の授業です。 (授業目標) 飲食店開店に向けた具体的な企画能力を、模型作成を通じ総合的に身につける。 ○C：授業を通して学んだ食の世界の知識や技術を、自らの言葉に置きかえてまとめることが出来る。また飲食店経営の実現に際し、飲食店のアドバイザーとして活躍するときに役立つ、繁盛する食空間づくりの基本的なセオリーを文章で伝えることが出来る。 ◎E：自分のアイデアを概要図面や模型という具体的な視覚的表現で構成して提案・検討出来る能力を身につける。
授業計画	<p>1 自宅兼用飲食店・マイショップ経営の魅力 自立する生き方を実現できるマイショップの魅力について マイショップで成功した人々から学ぶ開業のコツ あなたの好きなこと、興味あることから発想する</p> <p>2 成功する個性的な飲食店づくり（実習） イメージボードの作成 経営テーマの決定 テーマを具体化させる店舗コンセプトづくり ○イメージの収集</p> <p>3 空間計画のコツ①（実習） 空間構成配置を考える</p> <p>4 空間計画のコツ②（実習） 顧客導線と働き手の動線計画</p> <p>5 立体で考える①（実習） 図面をトレースして床を作る</p> <p>6 立体で考える②（実習） 壁面デザインを作る 窓を作る</p> <p>7 立体で考える③（実習） 家具のデザイン 家具を作る</p> <p>8 立体で考える④（実習） 機器類のデザイン 機器類を作る</p> <p>9 立体で考える⑤（実習） 色彩計画 全体の色彩を考える</p> <p>10 立体で考える⑥（実習） 色彩計画 空間着彩</p> <p>11 立体で考える⑦（実習） 色彩計画 家具・機器着彩</p> <p>12 立体で考える⑧（実習） 外部と看板デザイン 店名を考え看板を作る 模型組立（実習） 壁や家具などを組み立てる</p> <p>14 装飾物のデザイン（実習） 壁面に装飾物を取り付ける</p> <p>15 講評（プレゼンテーション） 最終授業日に課題成果物の修正と、授業内展示と講評を行い、個性表現の無限の魅力と効果を確認します。</p>
到達目標・基準	○C：授業から学んだことを自分のコンセプトとしてまとめ、正確に伝えることが出来る。 ◎E：自分のアイデアを実現するために何を、どのように、どんな空間で提供していくのか、発想から開店までを、具体的に食空間模型づくりを通して表現する。
事前・事後学習	事前学習：授業計画や自分の学習進度を確認しながら授業内容に即した情報を、図書やインターネット等でチェックする。（30分程度）

	事後学習：授業で習得した知識や手法を整理してまとめておく。(30分程度)
指導方法	授業では、サンプル模型や映画や写真などの視覚教材を多用して、発想力を高めます。各自の個性表現を大切に、一方的な知識や手法の伝達ではなく、意見や提案を検討しながら、発想力と説得力と具現化力を培う指導を行います。 フィードバックの仕方：①毎回授業の終わりで質疑回答の時間を設ける。②最終作品を各自に講評する。
成績評価の方法・基準	学んだ知識や技術を活かして、実際に計画できることを目標にしていますので、試験は行いません。 C：受講態度を評価する。(20%) C：授業内容についてのレポートを評価する。(10%) E：最終提出物の模型、プレゼンテーションを評価する。(70%)
テキスト	無し
参考書	
履修上の注意	個人のセンスや技能を活かしたマイショップ経営の計画を体験しながら、自由に生きる力を身につけていきます。 既成概念にとらわれずに頭を柔らかくして、授業を楽しみながら自分の隠れた才能やセンスを発見して自立の自信をつけましょう。 資格取得へのチャレンジを積極的に応援します。
アクティブ・ラーニング	実習、プレゼンテーション
I C Tの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	食専：選択
担当教員			
村上佐恵子			
Subject Code：N28C51			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要) 人を喜ばせる「おもてなし」。「飲食」をおもてなしを楽しく演出・構成するツールとして見直し、多角的にデザインします。</p> <p>オリジナルの「パーティー」を作り上げることをテーマとし、創作料理と盛り付けデザイン、テーブルコーディネートとテーブル周りの演出、オリジナルのお菓子やデザート調理、招待状作成等、優れた参考事例を元に、総合エンターテインメント体験としてのフードデザインを身につけていきます。</p> <p>フードコーディネーター資格取得のための学修にも対応した内容の授業です。</p> <p>(授業目標)</p> <p>人が集い、飲食を楽しむ「おもてなしのデザイン」について、その発想のコツと具体的で楽しい企画書のまとめ方を身につける。</p> <p>○C：自らテーマを発想してコンセプトをまとめ、それを具現化するための計画を考えることができる。</p> <p>◎E：自分の考えを解り易く視覚的に表現する、訴求効果の高いビジュアルプレゼンテーション出来る能力を身につける。</p>
授業計画	<p>1 楽しく美しいフードエンターテインメントの世界 パーティーの実例から学ぶ「おもてなし」の表現。 テーマと表現。</p> <p>2 パーティー計画①(課題解決型学習) イメージボード作り。 イメージの収集。</p> <p>3 パーティー計画②(課題解決型学習) イメージボード、コンセプト作り。 空間からの具体的なイメージ発想を文字で書く。</p> <p>4 パーティー計画③(課題解決型学習) 招待状づくり。</p> <p>5 パーティー計画④(課題解決型学習) メニューづくり。</p> <p>6 パーティー計画⑤(課題解決型学習) 具体的な料理のデザイン。</p> <p>7 パーティー計画⑥(課題解決型学習) 料理の盛り付けデザイン。</p> <p>8 パーティー計画⑦(課題解決型学習) デザート現物づくり。 現物の撮影。</p> <p>9 パーティー計画⑧(課題解決型学習) テーブルコーディネーション計画：アイデア。</p> <p>10 パーティー計画⑨(課題解決型学習) テーブルコーディネーション計画：配置。</p> <p>11 パーティー計画⑩(課題解決型学習) テーブルコーディネーション計画：描画。</p> <p>12 パーティー計画⑪(課題解決型学習) 会場デザイン描画。</p> <p>13 ビジュアルプレゼンテーションシートづくり①(課題解決型学習) ビジュアルシートのレイアウト。</p> <p>14 ビジュアルプレゼンテーションシートづくり②(課題解決型学習) 文章づくり。</p> <p>15 講評(プレゼンテーション) ビジュアルプレゼンテーションシートの修正と、授業内展示と講評。</p>
到達目標・基準	<p>○C：自分のコンセプトをまとめ、正確に伝えることができる。</p> <p>◎E：就職活動や社会で働き出してから役に立つ、企画書表現としてのビジュアルプレゼンテーションをまとめ、発表する。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：他の授業で使用しているフードコーディネーター資格取得対応教科書の中から、この授業に役立つ項目を熟読しておくこと。また、事前に図書やインターネットで資料を良く見ておくこと。(90分)</p> <p>事後学習：授業で説明した内容、事例を良く反復自習してください。(90分)</p>
指導方法	<p>授業では、映画や写真や現物による視覚教材を多用して、センスと発想力を高めるための基本的な知識を学ぶ講義と、各自が発想した計画を視覚表現する技術を修得する演習を複合して進めます。</p> <p>一方的な知識や手法の伝達ではなく、意見や提案を検討し合いながら、発想力と説得力を培う指導を行います。</p> <p>フィードバックの仕方：①毎回授業の終わりで質疑回答の時間を設ける。②「パーティーの企画書」の作品について講評を行う。</p>

成績評価の方法・基準	学んだ知識や技術を活かして、実際に計画できることを目標にしていますので、試験は行いません。 C：受講態度を評価する。(20%) C：授業内容についてのレポートを評価する。(10%) E：最終提出物のプレゼンテーションを評価する。(70%)
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	資格とセンスを活かして、組織内でプロジェクトリーダーとして仕事を推進出来る、あるいは、独立して仕事をする女性が増えてきました。社会で自立して自由に生きる力を身につけるために、既成概念にとらわれずに、頭を柔らかくして授業を楽しんでください。 欠席せずに積極的に参加しましょう。
アクティブ・ラーニング	課題解決型学習、プレゼンテーション
I C Tの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	食専：選択
担当教員			
和崎恵子			
Subject Code：N28C50			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>フードスタイリングをする上で必要なセッティングの基本（洋食・和食）、食文化、国内外の歳時記を学び、実習を通して食空間プロデュース、フードスタイリングを身に付ける。</p> <p>(授業目標) セッティングの基礎知識、マナー、食文化を理解し食空間プロデュースをする企画力、フードスタイリングの技術を知る B：グループワークでのプレゼンテーションで各々の役割を分担、協力する事でより良い発表ができる。 ◎D：食文化、国内外の歳時記を知り現代の食生活、食のイベントに対して理解を深めることができる。 ○E：自分の考えをまとめ、課題に対して表現する技術を習得し、ビジュアル的にプレゼンテーションできる。フードビジネス（ホテル、レストラン）の商品開発、企画案作成ができる。</p>		
授業計画	1	フードスタイリング概論 フードスタイリングについての概要と必要性について学ぶ。	
	2	食空間プロデュース概論（実習） 食空間プロデュースとはどのような事をするのか、またその効果と必要性について学ぶ。 テーブルセッティングの基本の実習。	
	3	洋の歳時記を学ぶ 洋の歳時記を知り、企画書を作成する。	
	4	ハロウィンテーブルを作成（グループワーク、実習テーブルセッティング、プレゼンテーション）（ICT：クリッカー） ハロウィンテーブルの企画書作成、テーブルを作製、発表 写真撮り、発表。 テーブルセッティングの実習。 クリッカーを活用し、学生評価も加味したうえで文化祭出展作品を選定する。	
	5	テーブルウェアについて テーブルウェアとは何か。洋食器の基本知識。 食卓装飾品について学び、その活用法を知る。	
	6	センターピースについて（実習） センターピースの役割とは。 それぞれが生花を使用して、センターピースアレンジメントを作る。 実際のテーブルに置いて写真撮り。 各自作品をテーブルに配置する。	
	7	料理とサービス、プロトコール 料理メニューの書き方、サービスの仕方。 プロトコールの基本を学ぶ。	
	8	日本の食卓の基本 和食の成り立ちと和食の形態を知る。 本膳形式、懐石、会席料理の違いを知る。	
	9	和の歳時記と行事食 五節句の行事食とコーディネートを学ぶ。 四季の折々の特徴的料理を調べる。	
	10	正月祝い膳 日本人にとっての正月祝い膳の意味を考える。 全国のお雑煮のレポート、お正月、おせち料理のレポート。	
	11	クリスマスとパーティプロデュース パーティの基本的考え方と企画の立て方。 クリスマス市場のリサーチ（今年のクリスマスケーキの特徴、売れ筋）レポート提出。	
	12	クリスマステーブル作製（グループワーク、実習、プレゼンテーション）（ICT：クリッカー） クリスマステーブル作製、発表、写真撮り 企画書提出。 パーティープラン発表。 テーブルセッティングの実習。 クリッカーを活用し、学生評価も加味したうえでクリスマス展示テーブルの選定をする。	
	13	ティーテーブルとおもてなしの仕方 英国紅茶のセッティングとおもてなし方法を実習体験する。 セッティングされたテーブルの中より各自、スタイリング写真を撮る。 バレンタインデーの意味を知る。	
	14	バレンタインのテーブル作製（グループワーク、実習、プレゼンテーション） バレンタインテーブル作製、発表、写真撮り。	
	15	バレンタインの企画書を完成（プレゼンテーション）（ICT：クリッカー） バレンタイン企画の企画力、プレゼンテーション能力を問う。 各自の発表、最優秀者によるプレゼンテーション発表を行う。 クリッカーを活用し、学生評価も加味して最優秀者を選定する。	
到達目標・基準	<p>B：グループワークでの発表により各々が役割、分担を理解して協力、グループでの成果を上げる事ができる。</p> <p>◎D：食文化、国内外の歳時記を知ることが出来、現代の食生活を理解できる。</p>		

	○E：自分の考えを人前でプレゼンテーションできる。
事前・事後学習	事前学習：実習演習に向けてイメージを形に表す写真などをスクラップしてまとめ、企画書の課題に取り組む。(30分) 事後学習：授業で興味を持った情報をインターネットや雑誌等で調べ、実践で生かせるように復習する。又、授業内容をまとめ撮影した授業写真をレジユメに添付する。(60分)
指導方法	講義と実習 テキスト、レジユメパワーポイントを使用して講義。 講義で理論を理解した上で実習を行い、知識の定着を行う。 レポートを提出を行い、企画力、知識の理解度を確認する。 テーブル展示を行いプレゼンテーション能力を促す フィードバックの仕方：①レポートを確認②コメントを記載のうえ返却③実習ではその場で指導コメントを行い、今後の授業への関心を深め知識の定着を促す。
成績評価の方法・基準	B：グループワークにおける、発表の役割、協力態度を評価する。 D：提出レポート、企画書を評価する。(課題についてよく学び、調べ考察されているか。) E：実習作品発表での企画書、作品、プレゼンテーションを評価する。 授業態度 20% 制作作品 80% (レポート、企画書 50% 作品 30%)
テキスト	TALK食空間コーディネーター3級 NPO法人食空間コーディネーター協会著 株式会社優しい食卓
参考書	料理を美味しく演出する「盛り付け&セッティング」 メイツ出版
履修上の注意	講義と実習と交互に行いますので、欠席が多いと最終作品に大きく影響が出るので欠席しないこと。 企画書の提出、リサーチレポート提出など3～4回あります。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、実習(テーブルセッティング)
ICTの活用	クリッカー

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修
担当教員			
国際コミュニケーション学科専任教員			
Subject Code：E21A01			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	立派な社会人になるための知識とマナーの習得、コミュニケーション能力向上のための演習を実施し、就職や今後の人生に備えて学習を積み重ねます。プロジェクト型学習（PBL：Project Based Learning）、グループ活動を多く取り入れ、ひとつの目標に向かって仲間と協力しあうこと、PDCAサイクルをまわすことも学びます。 (授業目標) ○A：グループワークで各メンバーの理解が深まるよう、主体的に責任を果たすことができる。 ◎B：グループ討議や、討議結果のプレゼンテーションなどにより、自分の主張を分かりやすく伝えることができる。 E：分析加工した情報を効果的に伝える資料として作成できる。
授業計画	<p>1 産学連携プロジェクト①(高橋)(グループワーク：グループに分かれての課題解決) グループを作成し、それぞれで課題を発見する グループ毎の課題を決定する 浮き彫りになった課題に対して、解決するための方策をグループで考える①</p> <p>2 TOITA Fesキックオフ/避難訓練(3学科共通) TOITA Fesについての概要説明 避難訓練を実施する</p> <p>3 産学連携プロジェクト②(高橋)(プレゼンテーション) 課題成果発表会 グループ毎にプレゼンテーションを行い選考を行う。</p> <p>4 産学連携プロジェクト③(高橋)/地域探索プロジェクト「戸板の歩き方」①(ボテフ)(グループワーク：グループに分かれての課題解決) 浮き彫りになった課題に対して方策をグループで考え解決する② 大学または近郊で紹介したい場所や授業などを選択し、紹介することでより地域を理解する①</p> <p>5 産学連携プロジェクト④(高橋)/地域探索プロジェクト「戸板の歩き方」③(ボテフ)(プレゼンテーション) 成果発表会。グループ毎にプレゼンテーションを行う</p> <p>6 戸板祭(産学連携プロジェクト/地域探索プロジェクト)振り返り(高橋) 戸板祭(産学連携プロジェクト/地域探索プロジェクト)の振り返りを行い、反省点や今後の改善点を明確にする</p> <p>7 PBL(ボテフ)(グループワーク：グループに分かれての課題解決)(WebClassを通じて資料を提出する) プロジェクト型学習(PBL：Project Based Learning)</p> <p>8 PBL(ボテフ)(グループワーク：グループに分かれての課題解決)(WebClassを通じて資料を提出する) プロジェクト型学習(PBL：Project Based Learning)</p> <p>9 PBL(ボテフ)(グループワーク：グループに分かれての課題解決)(WebClassを通じて資料を提出する) プロジェクト型学習(PBL：Project Based Learning)</p> <p>10 特別講演(菊池桃子客員教授)(3学科共通) 女性の働き方・キャリア</p> <p>11 ICT特別講義(別宮) 情報の扱い方など、社会人として再度学ぶべきことを確認する</p> <p>12 民法講座(ゲスト講師)(3学科共通) 民法に関する講義を聞く</p> <p>13 英語/ICT資格試験講座(ボテフ) 英語とICT資格対策として問題演習を行う</p> <p>14 PROG テスト PROGテストを実施する</p> <p>15 短大2年間の振り返り(別宮) 短大生活2年間の振り返り、社会人としてどのような人生を歩むのかを考える。</p>
到達目標・基準	○A：グループメンバーとしての発言ができる。 ◎B：用意したスライドを活用してプレゼンテーションができる。 E：ICTを活用して情報を収集することができる。
事前・事後学習	事前：各回のテーマとなる内容についてリサーチしてくる。特にPBLに関しては、プロジェクトの進捗状況を確認し、グループ内でのタスクを整理しておく。(約60分) 事後：次回までに進めておくべきことをリストアップし、必要に応じて更なるリサーチを行う。(約60分)
指導方法	各回の内容に応じて、講義、演習などさまざまな方法で実施します。 フィードバックの方法：WebClassを使用して授業内で評価を行い指導する場合と、後日評価内容に従って指導

	<p>する場合がある。</p> <p>A：グループによるPBLの過程を評価する。 B：PBLの最終プレゼンテーションを評価する。 E：ICTを活用して作成された資料を評価する。</p> <p>授業での発言やプレゼンテーション作成時の貢献度 40% プレゼンテーション 40% 課題 20%</p>
成績評価の方法・基準	
テキスト	なし
参考書	授業で指示する。
履修上の注意	掲示される授業に関する指示に従い、毎回きちんと受講して下さい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	国専：選択必修
担当教員			
西岡健自			
Subject Code：1年生E16B40		Subject Code：2年生E16B49	

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>コンピュータは絶え間ない技術革新によって変化しながら、私たちの生活のいたるところに深く浸透しています。このようなコンピュータを快適、かつ、安全に使いこなすために、コンピュータの仕組みを理解し、この仕組みを有効に活用する論理的な手順の考え方や、複雑で大量なデータを扱う標準的な方法について学習します。また、トピックスとして最新のICTの動向と、この動向をいち早く取り入れる社会の状況を概観します。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎D：コンピュータに共通な仕組みや構造について理解を深め、基本的なコンピュータ用語を使うコミュニケーションを円滑に行うことができる。</p> <p>○E：データ処理を含むコンピュータの情報処理などの論理的な手順を表現する方法を実践できる。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション (WebClassの運用方法、反転授業の方法などICT環境の導入) 自己紹介と今後の進め方、注意事項、グループ (Gr) 分けなど</p> <p>2 社会に浸透するコンピュータ (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) コンピュータが社会や日常生活にどのように浸透しているか確認</p> <p>3 コンピュータ共通の仕組み1 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) すべてのコンピュータに共通な、情報処理の基本的な構造と仕組みを理解</p> <p>4 コンピュータ共通の仕組み2 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 基本的な仕組みから複雑で実用的な機能をどのように実現しているのかの理解</p> <p>5 コンピュータ共通の仕組み3 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 基本的な仕組みから実用的な機能を引き出すための工夫 (OSなど) について</p> <p>6 論理的な処理の表現方法1 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 基本的な仕組みから複雑な機能を実現するために必要な手順 (アルゴリズム) を直感的に表現する方法の理解</p> <p>7 論理的な処理の表現方法2 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 手順 (アルゴリズム) の表現に必要な図形要素の理解と演習</p> <p>8 論理的な処理の表現方法3 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 基本的な手順 (アルゴリズム) の表現例の理解</p> <p>9 論理的な処理の表現方法4 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 同じ処理でも異なる手順 (アルゴリズム) があり、手順によって驚異的に処理スピードが上がるこの理解</p> <p>10 論理的な処理の表現方法5 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) ゲームにも応用できる、手順 (アルゴリズム) の表現を簡潔にする方法の理解</p> <p>11 コンピュータのデータ処理1 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 社会生活に必要な大量・複雑なデータを蓄積・活用するための方法 (データベース) の概要</p> <p>12 コンピュータのデータ処理2 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 一般的に使われているデータベース (RDB) の基本的仕組みの概要</p> <p>13 コンピュータのデータ処理3 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 実際のデータベース (Access) を使った、情報の検索などのデータの扱い方の演習</p> <p>14 コンピュータのデータ処理4 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 文字形式の命令 (SQL) による、情報の検索などデータの扱い方の演習</p> <p>15 基本的なコンピュータ用語の補足 (WebClassによる反転授業、クイズ型アクティブラーニング) アルゴリズムとデータベースの周辺で知っておく必要のあるコンピュータ用語の理解</p>
到達目標・基準	◎D：コンピュータに共通な仕組みや構造について概要を理解し、簡単なコンピュータ用語を理解できる。 ○E：データ処理を含むコンピュータの情報処理などの論理的な手順を表現する方法を理解できる。
事前・事後学習	事前学習：事前に提示する視聴覚資料(事前学習資料)をよく理解し、理解を確認するための穴埋め問題と調査・検討を要する問題を宿題として解く(60分程度)。 上記視聴覚資料にあるテーマについて、グループで積極的に討議できるよう準備する(45分程度)。 事後学習：用語や考え方の整理、用語間の関連性などの理解・確認を行い、演習などの課題のある場合は回答を作成して、指定の期限までに提出する(75分程度)。
指導方法	スマホからも参照できるWebClassを利用したナレーション付動画情報(事前学習資料)による事前学習、配布資料(パワーポイントなど)による講義、グループ討議、討議結果のグループ別発表、WebClassを利用した小テスト、論理的な手順の作成などを適宜行います。また、考察を要する問題についてグループの意見をまとめる練習を行います。 フィードバックの方法：グループ討議にはその場でコメントし、小テストには正誤と正解を即座に提示します。
成績評価の方法・基準	◎D：小テスト、論理的な手順を表現する課題回答などを評価。 ○E：質疑応答など、アクティブラーニングへの参加状況を評価。 受講態度 30%、授業での発言、小テスト、課題提出 30%、期末テスト 40%

テキスト	事前に提示する視聴覚資料、小テスト、講義資料をWebClass上のデジタル教材として提供します。
参考書	必要に応じて授業中に指示します。
履修上の注意	好奇心を持って、演習やグループ討議に積極的に参加してください。日常生活の物事を論理的に考える姿勢を養成する科目でもあり、基本的な知識は相互に関連していますので、毎回必ず出席してください。重要な連絡は、5Fの掲示板や教員からのメールで知らせますので、掲示板やメールは毎日一度は見るようにしてください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
I C Tの活用	WebClass、Netwitch、Access

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
西岡健自			
Subject Code：E26C44			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>パソコンやスマートフォンで日頃見ているホームページなどを作成します。自分でデザインした画面がホームページとして動作する体験を通して、ネットワークやデータベースを利用するウェブの基本的な仕組みを知ることができます。また、作成を通して、ホームページなどのウェブを仕事や生活に活用するための実践的なヒントを得ることができます。 (授業目標) ◎D：ウェブサイトとネットワークの仕組みや構造の理解を深め、基本的なウェブの関連用語を自由に使うことができます。 ○E：ウェブサイトの作成や画面のデザインをとおして、表現やものづくりの手順と方法を実践できます。</p>		
授業計画	1	オリエンテーション (WebClassの運用方法、反転授業の方法などICT環境の導入) 自己紹介、授業の進め方のオリエンテーションとグループ (Gr) 分け、および、ウェブ (ホームページ) 導入	
	2	コンピュータ共通の仕組 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) すべてのコンピュータに共通な仕組みと、それに基づくウェブの仕組の概要	
	3	ホームページの作り方1 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 簡単なウェブ作成の道具 (Dreamweaver) と、使い方の初歩	
	4	ホームページの作り方2 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) ホームページ上の画像クリックで他のホームページへ飛ぶの仕組 (ハイパーリンク)	
	5	ホームページの作り方3 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) ホームページ上の画像の位置調整の方法 (CSS)	
	6	ホームページの作り方4 背景画像の設定法 (CSS)	
	7	自分専用ホームページの作成1 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) よく見るホームページをまとめるホームページの画面デザインと作成	
	8	自分専用ホームページの作成2 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) よく見るホームページをまとめるホームページの画面デザインと作成 (続)	
	9	グループ専用ホームページの作成 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) グループのメンバのホームページをまとめるホームページの画面デザインと作成	
	10	記録の残る予定表の作成1 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 日付とメモ欄を備えた簡単な予定表の作成	
	11	記録の残る予定表の作成2 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) コンピュータ上の記憶域 (データベース) に予定を登録・参照できる予定表の作成	
	12	ウェブプログラムの作成 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 道具を使わずコード (文字) によりホームページを作成する方法	
	13	Xmasパーティ参加登録の例 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) データベースを使ったクリスマスパーティ参加募集と登録用ウェブの仕組	
	14	作成したホームページのプレゼンテーション (WebClassによる作品Best3選出) 各グループの作成したグループ専用ホームページについてのプレゼンテーションと評価	
	15	ウェブサイトの公開方法 (学内サーバ上での作品公開) 試作したホームページなどを公開する方法について。	
到達目標・基準	◎D：ウェブサイトとネットワークの仕組みや構造について概要を知り、基本的なウェブの関連用語を理解できます。 ○E：ウェブサイトの作成や画面のデザインをとおして、表現やものづくりの手順と方法を理解できます。		
事前・事後学習	事前学習：事前に提示する視聴覚資料(事前学習資料)をよく理解し、理解を確認するための穴埋め問題と調査・検討を要する問題を宿題として行う(60分程度)。 上記視聴覚資料にあるテーマについて、グループで積極的に活動できるよう準備する(45分程度)。 事後学習：用語や考え方の整理、用語間の関連性などの理解・確認を行い、演習などの課題のある場合は回答を作成して、指定の期限までに提出する(75分程度)。		
指導方法	スマホや自宅のPCからも参照できるWebClassを利用したナレーション付動画情報(事前学習資料)に基づく事前学習、配布資料(パワーポイントなど)に基づく講義、グループ討議、討議結果のプレゼンテーション、WebClassを利用した小テスト、ウェブサイトの作成などを適宜行います。また、考察を要する問題についてグループの意見をまとめる練習を行い、作成した作品のプレゼンテーションを行って、相互に評価します。フィードバックの方法：プレゼンテーションとグループ討議にはその場でコメントし、小テストには正誤と正解を即座に提示します。		

成績評価の方法・基準	◎D：小テストや課題回答、作成したウェブサイトの作品を評価。 ○E：プレゼンテーションなどアクティブラーニングへの参加状況を評価。 受講態度 30%、授業での発言/プレゼンテーション、小テスト、課題提出 30%、期末テスト 40%
テキスト	事前に提示する視聴覚資料、小テスト、講義資料をWebClass上のデジタル教材として提供します。
参考書	必要に応じて授業中に指示します。
履修上の注意	講義を聞くだけの科目ではありません。好奇心を持って、演習やグループ討議に積極的に参加してください。また、基本的な知識は相互に関連していますので、毎回必ず出席してください。重要な連絡は、5Fの掲示板や教員からのメールで知らせますので、掲示板やメールは毎日一度は見るようにしてください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	WebClass、Netwitch、Dreamweaver

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	国専：選択
担当教員			
西岡健自			
Subject Code：E26C40			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	戸板での学習成果の仕上げの一環として、グループで主体的に企画・立案したネットショップなどを制作します。この活動をとおりして、制作スケジュール立案法、制作ドキュメントの記述法、デザインの方法、ウェブなどの作成技術、分かりやすくインパクトのあるプレゼンテーションの方法などを学習します。 (授業目標) ○A：グループで制作するテーマを立案し、各自が主体的に責任を果たしてテーマを完結させることができます。 ◎E：ホームページのデザインのほか、作成スケジュールの立案法、作成ドキュメントの記述法、マルチメディアの活用法、効果的なプレゼンテーションの方法などを理解し、実践できます。
授業計画	<p>1 オリエンテーション (WebClassによる動画資料の閲覧の方法などICT環境の導入、Gr討議と発表) 自己紹介と授業の進め方に関するオリエンテーション、および、グループ分けとグループ別ネットショップテーマ検討</p> <p>2 ネットショップの作り方1 (WebClassで動画資料閲覧、質疑応答) 道具を使った基本的なウェブサイトの作成演習</p> <p>3 ネットショップの作り方2 (WebClassで動画資料閲覧、質疑応答) 既存のネットショップの起動と操作演習、および、改造法</p> <p>4 制作企画の方法と実践 (WebClassで動画資料閲覧、Gr討議と発表) 制作企画の方法説明とグループ別制作企画書の作成</p> <p>5 作品制作1 (グループワーク：作品制作、プレゼンテーション：進捗発表) グループ別テーマを具体的な作品として作成、および、今回の作業内容と次回予定を報告</p> <p>6 作品制作2 (グループワーク：作品制作、プレゼンテーション：進捗発表) グループ別テーマを具体的な作品として作成、および、今回の作業内容と次回予定を報告</p> <p>7 作品制作3 (グループワーク：作品制作、プレゼンテーション：進捗発表) グループ別テーマを具体的な作品として作成、および、今回の作業内容と次回予定を報告</p> <p>8 作品制作4 (グループワーク：作品制作、プレゼンテーション：進捗発表) 中間発表として、制作の進捗状況と途中作品を発表</p> <p>9 作品制作5 (グループワーク：作品制作、プレゼンテーション：進捗発表) グループ別テーマを具体的な作品として作成、および、今回の作業内容と次回予定を報告</p> <p>10 作品制作6 (グループワーク：作品制作、プレゼンテーション：進捗発表) グループ別テーマを具体的な作品として作成、および、今回の作業内容と次回予定を報告</p> <p>11 作品制作7 (グループワーク：作品制作、プレゼンテーション：進捗発表) グループ別テーマを具体的な作品として作成、および、今回の作業内容と次回予定を報告</p> <p>12 作品制作8 (グループワーク：作品制作、プレゼンテーション：進捗発表) グループ別テーマを具体的な作品として作成、および、今回の作業内容と次回予定を報告</p> <p>13 作品制作9 (グループワーク：作品制作、プレゼンテーション：進捗発表) グループ別テーマを具体的な作品として作成、および、今回の作業内容と次回予定を報告</p> <p>14 制作した作品のプレゼンテーション (WebClassによるBest3選定、質疑応答、Gr討議と発表) 完成した作品のプレゼンテーションと評価</p> <p>15 最終報告書の作成とセキュリティについて (WebClassで動画資料閲覧、質疑応答) 成果物の整理と最終報告書の作成、および、ウェブのセキュリティ上の課題説明。</p>
到達目標・基準	○A：グループで制作するテーマを立案し、成果を出すことができます。 ◎E：ネットショップのデザインなど、ICTを利用したモノづくりの経験を積むことができます。
事前・事後学習	事前学習：前回の活動を振り返り、うまく行かなかったことを相談できるように整理しておく。また、次回どのように活動するか検討 (60分程度)。 事後学習：講義や活動の過程で分かったことや、用語・考え方を整理して次回以降の活動に備える。課題のある場合は回答を作成し、指定の期限までに提出 (60分程度)。
指導方法	ネットショップの作成方法、企画と制作の手順、ドキュメントの作成方法などを、各グループの活動の進行に合わせて行います。また、各自の主体的な活動を重視しますが、必要に応じて、グループによる制作活動を円滑に進めるための知識・技術の講義を行います。なお、進捗や成果のプレゼンテーションにより各グループの状況を共有し、面談・相談などとおして各グループが活動的に作業を進められるよう調整します。 フィードバックの方法：プレゼンテーションにはその場でコメントし、作品制作の進捗に応じた助言を提示します。
成績評価の方法・基準	○A：共同作業によるモノづくりのスケジュールの進捗状況、あるいは、スケジュール上の問題の対処を評価。 ◎E：各グループの進捗に応じた中間成果物、プレゼンテーション、および、成果物の出来栄を評価。 受講態度30%、授業での発言、中間成果物、プレゼンテーション30%、成果物40%

テキスト	技術的な要点をWebClassなどから参照できるデジタル教材として提供します。
参考書	各グループの制作状況に応じて適宜授業中に指示します。
履修上の注意	ネットショップなどの制作のために、各種技術・方法を自分で調べて身につけるための科目です。受け身の授業ではなく、自主的に研究する姿勢で、調べたことを実践し、理解を深めてください。ここで活動した内容は、短大生としての2年間のまとった学習成果として役立つことができます。重要な連絡は、5Fの掲示板や教員からのメールで知らせますので、掲示板やメールは毎日一度は見る習慣をつけてください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択必修
担当教員			
西岡健自、別宮玲			
Subject Code：E26B50			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>社会人として必要な主体性、責任感、計画性を涵養する授業である。</p> <p>本授業では、自ら15週の達成目標を設定し、それを実現するために活動することを求められる。</p> <p>テーマはこれまでに学んだ授業の延長線上にある応用や発展テーマでも良いし、自分の関心の高い別分野を選んでも良い。</p> <p>またテーマを複数用意し、授業の前半と後半で別テーマに取り組んでも構わない。</p> <p>授業の流れは企画→制作→発表となる。授業計画に例を示すので参考にすること。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎A：高い目標をテーマに掲げ、現実的な計画を立てることができる。</p> <p>◎E：これまでに習得した技術を生かした成果をあげ、その成果をプレゼンテーションすることで聴衆の共感を得ることができる。</p>		
授業計画	1	ガイダンス（別宮）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動） ・授業の進め方の説明とグループ分けを行う。	
	2	グループテーマの設定（別宮）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・各グループごとに何を制作するか検討する。 ・役割分担と大まかなスケジュールを作成する。また必要な機材や費用を見積もる。	
		※以下、「芝公園周辺を海外の人たちにアピールする動画の作成」をテーマとした場合の計画を示す	
	3	コンテンツの検討（別宮）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・芝公園の何をアピールするのか、どこに取材に行くのかを検討する。 ・前回より詳細なスケジュールを作成する。	
	4	コンテの作成と取材の計画（別宮）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 ・インタビューや撮影に許可の必要な場所へのアポイントメントもここで行う。	
	5	コンテの作成と翻訳（1）（別宮）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 ・海外向けにキャプションなどの英訳を行う。	
	6	コンテの作成と翻訳（2）（別宮）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 ・海外向けにキャプションなどの英訳を行う。	
	7	内部レビュー（別宮）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・ここまでの計画と成果物（ここではコンテ）をグループメンバーで確認し、修正が必要であれば行う。	
	8	取材（1）（西岡）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・インタビューや撮影を行う。初日。	
	9	取材（2）（西岡）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・インタビューや撮影を行う。二日目。	
	10	動画作成の準備（1）（西岡）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・取材結果をまとめ、動画に必要な文章（台本やキャプション）にする。 ・海外向けにキャプションなどの英訳を行う。	
	11	動画作成の準備（2）（西岡）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・取材結果をまとめ、動画に必要な文章（台本やキャプション）にする。 ・有識者の英訳のチェックが必要であれば、このタイミングで完了させると良い。	
	12	動画作成（1）（西岡）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・動画を作成する。 ・動画への素材の取り込み、全体の流れの確認を行う。	
	13	動画作成（2）（西岡）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・動画を作成する。 ・ブラッシュアップ。細かなタイミングの修正などを行う。	
	14	動画と発表台本の作成（西岡）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・動画を完成させる。	

	15 <ul style="list-style-type: none"> ・最終成果発表用の台本を作成する。 最終成果発表（西岡、別宮）（プレゼンテーション:最終成果物を発表する） ・完成した動画を制作過程などを交えて発表する。
到達目標・基準	◎A：実現可能な計画を立てることができる。 ○E：自らの取り組みの成果をプレゼンテーションできる。
事前・事後学習	事前学習：次回およびそれ以降の活動計画を作成する。（20分） 事後学習：授業の最初に進捗報告を行うため、授業後発表準備を行うこと。（30分） また、制作計画を達成するため、必要に応じて時間外でも積極的な活動を行うことを推奨する。授業時間外の設備の利用などは担当教員に相談すること。
指導方法	学生それぞれが決めたテーマに沿ってガイドする。全体に向けての解説は短時間で、多くの時間は制作のために使用する。作業の進み具合で、個人個人へ技術やアイデアについてサポートする。 成果物の種類はPCを使用した制作、レポートの執筆など、テーマに併せて決めて良い。 フィードバックの方法：毎回授業の最初に学生はグループごとに進捗をプレゼンテーションする。その場でクラス全員が聞いている中でのアドバイスをを行うことで教員からのフィードバックを行う。また授業時間中も随時質問への対応を行う。
成績評価の方法・基準	A：計画書と達成状況进行评估する。 E：最終成果の報告（最終日に実施する成果報告）进行评估する。 学習態度および進捗報告30%、作品と成果発表70% 作品は、最終成果の発表と品質に対し、評価ポイントをもとに評価する。評価ポイントはガイダンス時に発表する。
テキスト	特定の教科書は使用しない。 授業の要点については、デジタル教材で説明する。
参考書	
履修上の注意	テーマ設定に自由度を考慮した科目である。制作内容は学生毎あるいはグループ毎に異なる事となる。受け身の授業ではなく、自主的に研究する科目と考え、積極的に作業し、成果をあげて欲しい。 ここでのテーマは、他のワークショップにも引き継ぐ事ができ、短大生としてのまとまった学習成果として就職活動など今後役に立てられるものである。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	Netウィッチ

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択必修
担当教員			
西岡健自			
Subject Code : E17B53			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>ビジネスとは何か、人々はビジネスとどう関わっているのか、ビジネスを実践する企業は何を求め、どのように活動しているのか、そうした企業を社会はどう評価するのか、ICTの社会への浸透によりビジネスはどう変わるのかなど、また、生活と収入の関係、企業研究の方法など社会生活や就職活動に必要な知識を学習します。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○C：収入と生活の関係やビジネスの収支のシミュレーションなどをとおして、社会人として論理的に考える方法や判断の仕方を身につける。</p> <p>◎D：社会とビジネスの基本的な仕組みについて理解を深め、基本的なビジネス用語などを使ってコミュニケーションを円滑に行うことができる。</p>		
授業計画	1	オリエンテーション (WebClassの運用方法、反転授業の方法などICT環境の導入) 自己紹介と今後の進め方、グループ (Gr) 分けについて	
	2	ビジネス活動の概要1 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) ビジネスの定義と産業の種類	
	3	ビジネス活動の概要2 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) ビジネスの種類と関係する人々の役割	
	4	ビジネス活動の概要3 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) ビジネスの流れと初任給、および、生活に必要なお金の検討	
	5	ビジネス活動の概要4 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) ビジネスの収支計算の方法、および、一人暮らしの家計簿作成	
	6	ビジネス活動の概要5 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 企業の経営と組織、および、一人暮らしの家計簿のグループ別プレゼンテーション	
	7	ビジネスとICT1 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 企業の取引形態の変化とビジネスを支える業務システムの種類と役割。	
	8	ビジネスとICT2 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 企業の収益を支えるビジネスモデル1	
	9	ビジネスとICT3 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 企業の収益を支えるビジネスモデル2	
	10	就職に向けた基礎知識1 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 業界と職種について、および、最近の就職活動の状況とビジネスシミュレーション1 (起業)	
	11	就職に向けた基礎知識2 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 企業から見た新卒への期待と人事評価、および、ビジネスシミュレーション2 (収益の確保)	
	12	就職に向けた基礎知識3 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 社会から見た企業に対する客観的評価と労働基準法	
	13	就職に向けた基礎知識4 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 企業研究の目的と方法、および、企業研究の実践。	
	14	就職に向けた基礎知識5 (Gr討議と発表) 企業研究の実践と研究成果のグループ別プレゼンテーション。	
	15	女性の労働環境 (WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表) 国内の女性の労働環境の現状と改善の方向。	
到達目標・基準	○C：収入と生活のシミュレーションなどをとおして社会人として論理的に考え、判断する方法を理解できる。 ◎D：社会の基本的な仕組みについて理解を深め、基本的なビジネス用語などを理解できる。		
事前・事後学習	事前学習：事前に提示する視聴覚資料(事前学習資料)をよく理解し、末尾に記載の宿題を行う(60分程度)。 上記視聴覚資料にあるテーマについて、グループで積極的に討議できるように準備する(45分程度)。 事後学習：用語や考え方の整理、用語間の関連性などの理解・確認を行い、演習などの課題のある場合は回答を作成して、指定の期限までに提出する(75分程度)。		
指導方法	スマホからも参照できるWebClassを利用したナレーション付動画情報(事前学習資料)に基づく事前学習、配布資料(パワーポイントなど)に基づく講義、グループ討議、討議結果のプレゼンテーション、WebClassを利用した小テストなどを適宜行います。また、調査・分析の必要な宿題や課題の実行をとおして、意見をまとめる練習を行います。 フィードバックの方法：プレゼンテーションとグループ討議にはその場でコメントし、小テストには正誤と正解を即座に提示します。		
成績評価の方法・基準	○C：企業研究などの調査結果や適宜行うプレゼンテーションの内容を評価。 ◎D：課題回答や小テストの結果を評価。 受講態度 30%、授業での発言/プレゼンテーション、小テスト、課題提出 30%、期末テスト 40%		

テキスト	事前に提示する視聴覚資料、小テスト、講義資料をデジタル教材として提供します。
参考書	就職四季報 女子版 2020（東洋経済）、その他、必要に応じて授業中に指示します。
履修上の注意	1年生の後期以降は就職活動が始まります。この科目は進路に関わる内容が多く含まれます。自分の将来を考えながら演習やグループ討議に積極的に参加し、キャリアプランに活かせるようにしましょう。 また、基本的な知識は相互に関連していますので、毎回必ず出席してください。重要な連絡は、5Fの掲示板や教員からのメールで知らせますので、掲示板やメールは毎日一度は見るようにしてください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	WebClass、Netwitch

講義科目名称：インターンシップ1（国際コミュニケーション学 授業コード：2691

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	国専：選択
担当教員			
西岡健自			
Subject Code：1年生F29C68		Subject Code：2年生E18C72	

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>インターンシップ1は、事前、事後研修を含み、原則として実習期間が5日間以上(40時間相当)の実習・研修などの就業体験をするプログラムである。インターンシップ研修を通じ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。プログラム参加希望者全員は必ず事前研修へ参加をし、研修先決定後に各企業でのインターンシップ研修を実施、研修終了後に事後研修を受講すること。研修先は、履修モデルとリンクした業界から選ぶことができる。また、自ら研修先を探すこともできる。</p> <p>(授業目標) インターンシップ1は、自己の職業適性や将来設計について思考し、主体的な職業選択や高い職業意識を育成することを目的とするが、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付けなければいけないという自覚を持ち、行動していく自主性を持つことを目標とする。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感を養うことができる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携の必要性を養うことができる。</p>
授業計画	<p>1 説明会（6月4日（火） 課外時間にて実施予定） インターンシップの意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、研修先案内等の説明</p> <p>2 事前研修（6月19日（水）および7月17日（水） 課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） 個人情報保護、守秘義務、マナー、研修の受け方等を行うほか、研修先企業の探し方、案内を行う。</p> <p>3 業界別事前研修 業界により内容が異なるため①・②・③のいずれかから出席する。（ゲスト講師） ① ウェディング業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ② ホテル業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ③ 事務、サービス系（アパレルその他を含む）インターンシップ（課外時間にて実施予定）</p> <p>4 インターンシップ選考 インターンシップにあたっては、あくまでも企業スケジュールに準じて実施されるものである。希望により研修先を選ぶことができるが、各企業の参加学生枠に制限がある。希望者多数の場合は、学内選考または企業内選考を実施し、選考から外れた場合は希望企業での研修が受けられない可能性がある。また、研修日程や実習内容は企業の意向に準ずるため、決定に時間を要する場合がある。</p> <p>5 インターンシップ研修（実習：受け入れ先企業内研修） 事前に企業ごとに各自、面接、日程調整を行い、実習を行う。 実習日は必ず日報を作成し、担当者より捺印またはサインをもらうこと。 最終日には、研修担当者より修了証明書を交付いただくこと。 勤務体系は実習先の規定に準ずる。基本的に夏期休暇中、原則として実習期間が5日間以上(40時間相当、事前学習、事後学習時間を含む)とする。 ・場所：研修先による。 ・報酬：基本的にはないが、研修先による。研修終了後アルバイト契約で継続することを推奨する。 実施を予定する夏期・春期休暇中は、企業スケジュールに準じて研修が実施されるものであり、私的な予定等による欠勤は原則認めない。 実習中は戸板生の代表として実習へ参加していることを忘れず、実習先に迷惑にならないように配慮すること。</p> <p>6 事後研修 課外時間にて実施予定（ゲスト講師） インターンシップ研修修了後、実施報告書の提出と振り返りを行い、その結果を学科ゼミナール、戸板ゼミナールで発表する。</p> <p>7 担当教員との研修後面談 インターンシップ研修修了後、提出した実施報告書をもとに担当教員と実習の振り返り等を含めた面談を実施し、総合的な評価のもと単位認定の決定がなされる。</p>
到達目標・基準	<p>自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を理解できる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解しておくこと。また、インターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を得たいか等の目標を設定することが望ましい（60分）。</p> <p>事後学習：自身の経験をポートフォリオ作成しまとめることで、就職活動で活かせるよう準備する。また、事後研修で振り返り・発表を行う中で、その他の学生の経験談から幅広い業界・職種の知見等の情報共有を図る（60分）。</p>
指導方法	<p>担当教員その他、業界に精通する専門家、キャリアセンターの協力により実施する。 フィードバックの方法：インターンシップ1の事後学習における振り返り、企業からの評価などに基づく教員との面談を行って、今後の就活についての理解を深める。</p>
成績評価の方法・基準	<p>事前、事後研修、実習を5日間以上(40時間相当)実施し、研修先の評価表（出勤状況、勤務態度含む）、日報、発表内容をもとに、実習後の担当教員との面談により総合的に評価する。 なお、実施しても資料の不備（研修先の印がない等）、期限後の提出者には単位不可となる場合がある。 また、以下項目を基準に評価する。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を経験している。</p>

	○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携に必要性があることを経験している。具体的には、インターンシップ1の事前・事後研修の評価 25%、企業からの評価 50%、教員との面談 25%。
テキスト	なし
参考書	インターンシップ説明会にて配布
履修上の注意	インターンシップ1は、授業時間外に説明会、事前学習、実習、事後学習、発表を行う。夏期休暇中と春期休暇中に実施するが、春期については、一部の業界のみ実施する予定である。履修登録はインターンシップ研修終了後に登録する。 従って夏期インターンシップは、1年後期、春期インターンシップは2年前期に単位取得となる。 自ら探したインターンシップ先は、学校との覚書を締結した企業のみ、インターンシップの履修を認める。 インターンシップ1、2の説明会、事前・事後研修は、合同で開催する。1と2との違いは総研修日数(時間)の違いである。1は5日間以上(40時間相当)、2は6日間以上(45時間相当)、1、2ともインターンシップ終了後は、引き続きアルバイト契約にて実務経験を継続することを前提とする。 事前学習を欠席した場合、単位は認定不可。また、事前学習の補講は原則行わないものとする。
アクティブ・ラーニング	
I C Tの活用	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	国専：選択
担当教員			
西岡健自			
Subject Code：1年生F29C69		Subject Code：2年生E18C73	

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>インターンシップ2は、事前、事後研修を含み、原則として実習期間が6日間以上(45時間相当)の実習・研修などの就業体験をするプログラムである。インターンシップ研修を通じ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。プログラム参加希望者全員は必ず事前研修へ参加をし、研修先決定後に各企業でのインターンシップ研修を実施、研修終了後に事後研修を受講すること。研修先は、履修モデルとリンクした業界から選ぶことができる。また、自ら研修先を探すこともできる。</p> <p>(授業目標) インターンシップ2は、自己の職業適性や将来設計について思考し、主体的な職業選択や高い職業意識を育成することを目的とするが、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付けなければいけないという自覚を持ち、行動していく自主性を持つことを目標とする。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感を養うことができる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携の必要性を養うことができる。</p>
授業計画	<p>1 説明会（6月4日（火） 課外時間にて実施予定） インターンシップの意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、研修先案内等の説明</p> <p>2 事前研修（6月19日（水）および7月17日（水） 課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） 個人情報保護、守秘義務、マナー、研修の受け方等を行うほか、研修先企業の探し方、案内を行う。</p> <p>3 業界別事前研修 業界により内容が異なるため①・②・③のいずれかから出席する。（ゲスト講師） ① ウェディング業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ② ホテル業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ③ 事務、サービス系（アパレルその他を含む）インターンシップ（課外時間にて実施予定）</p> <p>4 インターンシップ選考 インターンシップにあたっては、あくまでも企業スケジュールに準じて実施されるものである。希望により研修先を選ぶことができるが、各企業の参加学生枠に制限がある。希望者多数の場合は、学内選考または企業内選考を実施し、選考から外れた場合は希望企業での研修が受けられない可能性がある。また、研修日程や実習内容は企業の意向に準ずるため、決定に時間を要する場合がある。</p> <p>5 インターンシップ研修（実習：受け入れ先企業内研修） 事前に企業ごとに各自、面接、日程調整を行い、実習を行う。 実習日は必ず日報を作成し、担当者より捺印またはサインをもらうこと。 最終日には、研修担当者より修了証明書を交付いただくこと。 勤務体系は実習先の規定に準ずる。基本的に夏期休暇中、原則として実習期間が6日間以上(45時間相当、事前研修、事後研修時間を含む)とする。 ・場所：研修先による。 ・報酬：基本的にはないが、研修先による。研修終了後アルバイト契約で継続することを推奨する。 実施を予定する夏期・春期休暇中は、企業スケジュールに準じて研修が実施されるものであり、私的な予定等による欠勤は原則認めない。 実習中は戸板生の代表として実習へ参加していることを忘れず、実習先に迷惑にならないように配慮すること。</p> <p>6 事後学習（課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） インターンシップ研修修了後、実施報告書の提出と振り返りを行い、その結果を学科ゼミナール、戸板ゼミナールで発表する。</p> <p>7 担当教員との研修後面談 インターンシップ研修修了後、提出した実施報告書をもとに担当教員と実習の振り返り等を含めた面談を実施し、総合的な評価のもと単位認定の決定がなされる。</p>
到達目標・基準	<p>自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を理解できる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解しておくこと。またインターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を得たいか等の目標を設定することが望ましい（60分）。</p> <p>事後学習：自身の経験をポートフォリオ作成しまとめることで、就職活動で活かせるよう準備する。また、事後研修で振り返り・発表を行う中で、その他の学生の経験談から幅広い業界・職種の知見等の情報共有を図る（60分）。</p>
指導方法	<p>担当教員その他、業界に精通する専門家、キャリアセンターの協力により実施する。 フィードバックの方法：インターンシップ2の事後学習における振り返り、企業からの評価などに基づく教員との面談を行って、今後の就活についての理解を深める。</p>
成績評価の方法・基準	<p>事前、事後研修、実習期間が6日間以上(45時間相当)実施し、研修先の評価表（出勤状況、勤務態度含む）、日報、発表内容をもとに、実習後の担当教員との面談により総合的に評価する。 なお、実施しても資料の不備（研修先の印がない等）、期限後の提出者には単位不可となる場合がある。 また、以下項目を基準に評価する。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を経験している。</p>

	○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携に必要性があることを経験している。具体的には、インターンシップ2の事前・事後学習の評価 25%、企業からの評価 50%、教員との面談 25%。
テキスト	なし
参考書	インターンシップ説明会にて配布
履修上の注意	インターンシップ2は、授業時間外に説明会、事前研修、実習、事後研修、発表を行う。夏期休暇中と春期休暇中に実施するが、春期については、一部の業界のみ実施する予定である。履修登録はインターンシップ研修終了後に登録する。 従って夏期は、1年後期、春期は2年前期に単位取得となる。 自ら探したインターンシップ先は、学校との覚書を締結した企業のみ、インターンシップの履修を認める。 インターンシップ1、2の説明会、事前・事後研修は、合同で開催する。1と2との違いは総研修日数(時間)の違いである。1は5日間以上(40時間相当)、2は6日間以上(45時間相当)、1、2ともインターンシップ終了後は、引き続きアルバイト契約にて実務経験を継続することを前提とする。 事前学習を欠席した場合、単位は認定不可。また、事前学習の補講は原則行わないものとする。
アクティブ・ラーニング	
I C Tの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
別宮玲、福田博志			
Subject Code : E26C38			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>コンピューターやインターネットなど、ICT（情報通信技術）は我々の生活に欠かすことのできない存在である。この授業では、現在社会におけるICTおよびIT（情報技術）の役割を学び、企業における経営戦略にどのように結びついているかを学ぶ。その後、情報システム開発における様々な手法を学習する。また、情報に関する法令や財務知識の基礎も本授業の学習範囲である。</p> <p>(授業目標) ◎D：経営戦略とシステム開発について学び、ITパスポート試験ストラテジ分野及びマネジメント分野における合格水準の知識を身につける。</p>		
授業計画	1	ガイダンス／ストラテジ（1） ・企業会計（1）	
	2	ストラテジ（2） ・企業会計（2）	
	3	ストラテジ（3） ・知的財産権	
	4	ストラテジ（4） ・関連法規と標準化	
	5	ストラテジ（5） ・データ整理技法 ・QC七つ道具とグラフ	
	6	ストラテジ（6） ・企業活動と組織	
	7	ストラテジ（7） ・全社戦略と事業戦略	
	8	ストラテジ（8） ・機能別戦略	
	9	ストラテジ（9） ・ビジネス戦略と経営管理システム	
	10	ストラテジ（10） ・ビジネスインダストリ	
	11	ストラテジまとめ(WebClass:ITパスポート過去問と解説公開) ・ストラテジ分野の全範囲を対象としたITパスポート過去問講座	
	12	マネジメント（1） ・SLCPと調達 ・システム開発 ・テストと運用・保守	
	13	マネジメント（2） ・システム開発技法 ・プロジェクトマネジメント ・工程管理（1）	
	14	マネジメント（3） ・工程管理（2） ・サービスマネジメント ・システム監査	
	15	マネジメント分野まとめ(WebClass:ITパスポート過去問と解説公開) ・マネジメント分野の全範囲を対象としたITパスポート過去問講座	
到達目標・基準	◎D：企業組織、財務など、経営全般に関する重要な基礎用語を説明できる。またシステム開発の流れを知り、基本的な業務を説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：次回の範囲の用語について、各自学習して授業に参加する。(60分) 事後学習：毎週授業開始時に、一問一答式の口頭テストを行う。前回の授業内容がテスト範囲になる為、毎週自分の言葉で用語等の説明ができるように事後学習を行う。(120分)		
指導方法	講義のテーマ区切りごとに小テストによる評価を行う。小テストはペーパーに限らず、一問一答式の口頭でのテスト形式も用いる。また資格試験対策のための模擬試験にはWebClassを使用する。 フィードバック方法：一問一答式テストは、その場で正解・不正解を発表。説明を加える。模擬試験もその場で正解・不正解が表示され、解説が行われる。		
成績評価の方法・基準	D：ITパスポートのストラテジ分野及びマネジメント分野の試験問題に準拠した定期試験で評価する。併せて毎週実施する小テストの回答数及び正答数で評価する。		

	評価の比率は受講態度15%、小テスト 35%、定期試験 50%とする。
テキスト	平成31/01年 イメージ&クレーパー方式でよくわかる 栢木先生のITパスポート教室(技術評論社) ※情報処理演習と同じテキストを使用する。
参考書	平成31/01年度 栢木先生のITパスポート教室準拠 書き込み式ドリル (技術評論社)
履修上の注意	ITパスポートの試験範囲に則った授業範囲となっている。 ITパスポート試験の合格を目指す学生には是非受講していただきたい。 前回の学習内容が翌週にはすぐに小テストで確認されるため、毎週の予習・復習が重要である。 また、資格取得を希望する/しないに関わらず、「情報処理演習」と併せて履修することを強く推奨する。
アクティブ・ラーニング	一問一答テスト
I C Tの活用	WebClass, Netウィッチ

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
別宮玲、福田博志			
Subject Code : E26C39			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>コンピュータの仕組み、ハードウェアの知識、コンピュータを操作するための基礎知識を身に付けた後、表計算ソフト、データベースソフトの基本操作と基礎理論を学ぶ。ネットワークやセキュリティといった現在の情報社会において重視される技術分野についての学習も本授業の範囲とする。またここで得た知識を活かした資格取得の方法も学べる授業である。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎D：ITパスポート試験テクノロジー分野における合格水準の知識を身につける。 ○E：ITパスポート試験テクノロジー分野に求められるデータベースおよび表計算の操作ができる。</p>		
授業計画	1	ガイダンス／ハードウェア（1）	
		・ 授業概要	
		・ 情報の表現	
	2	ハードウェア（2）	
		・ 5大装置とCPU	
		・ メモリとキャッシュメモリ	
	3	ハードウェア（3）	
		・ 補助記憶装置	
	4	ハードウェア（4）	
		・ 入力装置と出力装置	
		・ 入出力インタフェース	
	5	ハードウェア（5）	
		・ 基数変換と補数①	
	6	ハードウェア（6）	
		・ 基数変換と補数②	
	7	ソフトウェアとマルチメディア（1）	
		・ ソフトウェア	
		・ ファイル管理	
	8	ソフトウェアとマルチメディア（2）	
		・ バックアップ	
		・ データ形式とマルチメディア	
	9	システム構成（1）	
		・ システムの構成	
	10	システム構成（2）	
		・ クライアントサーバシステム	
		・ 性能評価	
	11	システム構成（3）	
		・ システムの信頼性	
	12	ネットワーク（1）	
		・ ネットワーク方式	
	13	ネットワーク（2）	
		・ 通信プロトコル	
		・ インターネットの仕組み	
	14	ネットワーク（3）	
		・ 通信サービス	
		・ 電子メール①	
	15	ネットワーク（4）	
		・ 電子メール②	
		・ WWW	
	16	ネットワーク（5）（WebClass:ITパスポート過去問と解説公開）	
		・ ネットワークに関するITパスポート過去問演習	
	17	セキュリティ（1）	
		・ 情報セキュリティ	
	18	セキュリティ（2）	
		・ ユーザ認証とアクセス管理	
	19	セキュリティ（3）	
		・ ウイルス対策	
		・ ネットワークセキュリティ	
	20	セキュリティ（4）	

	<p>暗号化技術 デジタル署名</p> <p>21 セキュリティ (5) (WebClass:ITパスポート過去問と解説公開) ・セキュリティに関するITパスポート過去問演習</p> <p>22 アルゴリズムとプログラミング ・アルゴリズムとデータ構造 ・プログラミング言語</p> <p>23 表計算 (1) ・相対参照と絶対参照</p> <p>24 表計算 (2) ・関数 ・IF関数とネスト</p> <p>25 データベース (1) ・関係データベース ・主キーと外部キー</p> <p>26 データベース (2) ・データの正規化</p> <p>27 データベース (3) ・データ抽出と論理演算 ・整列と集計</p> <p>28 データベース (4) ・排他制御と障害回復</p> <p>29 ユーザインターフェース ・ユーザインターフェース</p> <p>30 テクノロジ分野まとめ(WebClass:ITパスポート過去問と解説公開) ・テクノロジ分野全体のITパスポート過去問演習</p>
到達目標・基準	<p>◎D：業務に必要なITの基礎知識を身につけ、ハードウェア、ソフトウェアに関する主要な用語の説明ができる。</p> <p>○E：データベースおよび表計算アプリケーションの基本操作ができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：次回の範囲の用語について、各自学習して授業に参加する。(60分)</p> <p>事後学習：毎週授業開始時に、一問一答式の口頭テストを行う。前回の授業内容がテスト範囲になる為、毎週自分の言葉で用語等の説明ができるように事後学習を行う。(60分)</p>
指導方法	<p>講義とPCによる演習を併用する授業形式である。演習のテーマ区切りごとに総合演習による評価を行う。併せて毎週、口頭での一問一答テストも行なう。模擬試験にはWebClassを使用する。</p> <p>フィードバック方法：一問一答式テストは、その場で正解・不正解を発表。説明を加える。模擬試験もその場で正解・不正解が表示され、解説が行われる</p>
成績評価の方法・基準	<p>D:ITパスポートのテクノロジ分野の試験問題に準拠した定期試験で評価する。併せて毎週実施する小テストの回答数及び正答数で評価する。</p> <p>E:作成した表計算及びデータベースのファイルの評価する。</p> <p>評価の比率は受講態度15%、小テスト 35%、総合演習 50%とする。</p>
テキスト	<p>平成31/01年 イメージ&クレーバー方式でよくわかる 栢木先生のITパスポート教室(技術評論社) ※情報処理論と同じテキストを使用する</p>
参考書	<p>平成31/01年度 栢木先生のITパスポート教室準拠 書き込み式ドリル (技術評論社)</p>
履修上の注意	<p>ITパスポートの試験範囲に則った授業範囲となっている。</p> <p>ITパスポート試験の合格を目指す学生には是非受講していただきたい。</p> <p>前回の学習内容が翌週にはすぐに小テストで確認されるため、毎週の予習・復習が重要である。</p> <p>また、資格取得を希望する/しないに関わらず、「情報処理論」と併せて履修することを強く推奨する。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>一問一答テスト</p>
I C Tの活用	<p>WebClass, Net ウィッチ</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
別宮玲			
Subject Code : E26C41			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	世の中のアプリケーションは、それぞれ適切なプログラミング言語で作成されている。例えば、Java言語によるスマホアプリやPC用のソフトウェア開発がその一例である。本授業ではロボットPepperの制御をテーマにプログラミングを学ぶ。ここではJavaなどの命令をキーボード入力していくタイプのプログラミング言語ではなく、グラフィカルなプログラミング言語Scratchをベースとしたロボット用プログラミング言語RoboBlocksを用いる。 (授業目標) ◎E：RoboBlocksを用いて、Pepperとの受け答えをスムーズに行うプログラミングを行うことができる。		
授業計画	1	ガイダンス ・授業の方針、概要、レポート提出方法、成績評価方法を確認する。 ・環境確認 ・人間とロボットについて考える	
	2	プログラミング導入（1）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・Pepperにしゃべらせる ・Pepperを動かす ・しゃべらせると同時に動かす	
	3	プログラミング導入（2）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・タッチセンサーを使う ・音センサーで会話を行う	
	4	プログラミング導入（3）（グループワーク：自由にプログラムを作成する） （Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・絵を表示させる ・グループ発表の準備	
	5	発表（1）（グループワーク：自由にプログラムを作成する）（プレゼンテーション：Pepperを使った発表） ・グループでPepperを用いた発表を行う	
	6	プログラミング実践（1）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・音を再生させる ・音の方向と人間の顔を追跡させる	
	7	プログラミング実践（2）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・目のLEDを制御する ・同じ動作を繰り返す	
	8	プログラミング実践（3）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・ランダムで動きを変える ・変数を使う	
	9	プログラミング実践（4）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・プログラムの効率化を行う	
	10	プログラミング実践（5）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・自然な会話を作る	
	11	発表（2）（プレゼンテーション：Pepperを使った発表） ・人間とロボット共同での発表を行う	
	12	プログラミング実践（6）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・ディスプレイのタッチ機能を使う ・センサーを用いてデータを収集する	
	13	プログラミング実践（7）（Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・アンケートを作り調査する	
	14	プログラミング実践（8）（グループワーク：自由にプログラムを作成する） （Pepper:RoboBlocksによるプログラミング） ・グループ発表の準備	
	15	発表（3）（グループワーク：自由にプログラムを作成する）（プレゼンテーション：Pepperを使った発表） ・グループでPepperを用いた発表を行う	
到達目標・基準	◎E：サンプルプログラムを参照しながら簡単な繰り返し処理や分岐処理をPepperに実行させることができる。		
事前・事後学習	プログラミングに先立って、日々現れるAI関連のニュースについて扱うため、日ごろからニュースをよく見て、ノートにまとめておくこと。(60分) 授業で作成したプログラムは、翌週以降にも流用可能なように作られている。また、自宅からでもプログラミングは可能なため、授業後にプログラム上の不備があれば、修正しておくこと。(60分)		

指導方法	サンプルプログラムを使用した講義の後、類似問題および応用問題のプログラミング演習を行う。 質問は随時受け付ける。 フィードバックの方法：通常回では、各学生PC上のエミュレータでプログラムが正常に動作しているかを評価し、結果をその場で学生に伝える。発表の回では、全学生が聞いている中での評価とアドバイスを行う。
成績評価の方法・基準	E：Pepperの動作を各学生機のエミュレータ上で評価する。また個人あるいはグループの発表内容で評価する。 授業態度20パーセント、課題20パーセント、最終課題(発表)60パーセントの割合で成績評価を行う。
テキスト	独自の資料を配布する。
参考書	
履修上の注意	毎週連続した演習が続く。たとえば第3週で作成したプログラムを基に第4週のプログラムを作成する等の演習形態である。欠席した場合には、その回でどのような演習が行われたか、必ず確認し、自習して出席すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	Pepper

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択必修
担当教員			
西岡健自、別宮玲			
Subject Code：E26B50			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>社会人として必要な主体性、責任感、計画性を涵養する授業である。</p> <p>本授業では、自ら15週の達成目標を設定し、それを実現するために活動することを求められる。</p> <p>テーマはこれまでに学んだ授業の延長線上にある応用や発展テーマでも良いし、自分の関心の高い別分野を選んでも良い。</p> <p>またテーマを複数用意し、授業の前半と後半で別テーマに取り組んでも構わない。</p> <p>授業の流れは企画→制作→発表となる。授業計画に例を示すので参考にすること。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎A：高い目標をテーマに掲げ、現実的な計画を立てることができる。</p> <p>◎E：これまでに習得した技術を生かした成果をあげ、その成果をプレゼンテーションすることで聴衆の共感を得ることができる。</p>		
授業計画	1	ガイダンス（別宮）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動） ・授業の進め方の説明とグループ分けを行う。	
	2	グループテーマの設定（別宮）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・各グループごとに何を制作するか検討する。 ・役割分担と大まかなスケジュールを作成する。また必要な機材や費用を見積もる。	
	※以下、「芝公園周辺を海外の人たちにアピールする動画の作成」をテーマとした場合の計画を示す		
	3	コンテンツの検討（別宮）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・芝公園の何をアピールするのか、どこに取材に行くのかを検討する。 ・前回より詳細なスケジュールを作成する。	
	4	コンテの作成と取材の計画（別宮）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 ・インタビューや撮影に許可の必要な場所へのアポイントメントもここで行う。	
	5	コンテの作成と翻訳（1）（別宮）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 ・海外向けにキャプションなどの英訳を行う。	
	6	コンテの作成と翻訳（2）（別宮）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 ・海外向けにキャプションなどの英訳を行う。	
	7	内部レビュー（別宮）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・ここまでの計画と成果物（ここではコンテ）をグループメンバーで確認し、修正が必要であれば行う。	
	8	取材（1）（西岡）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・インタビューや撮影を行う。初日。	
	9	取材（2）（西岡）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・インタビューや撮影を行う。二日目。	
	10	動画作成の準備（1）（西岡）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・取材結果をまとめ、動画に必要な文章（台本やキャプション）にする。 ・海外向けにキャプションなどの英訳を行う。	
	11	動画作成の準備（2）（西岡）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・取材結果をまとめ、動画に必要な文章（台本やキャプション）にする。 ・有識者の英訳のチェックが必要であれば、このタイミングで完了させると良い。	
	12	動画作成（1）（西岡）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・動画を作成する。 ・動画への素材の取り込み、全体の流れの確認を行う。	
	13	動画作成（2）（西岡）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・動画を作成する。 ・ブラッシュアップ。細かなタイミングの修正などを行う。	
	14	動画と発表台本の作成（西岡）（グループワーク：グループでテーマに沿って活動）（プレゼンテーション：Netウィッチで進捗報告） ・動画を完成させる。	

	15 <ul style="list-style-type: none"> ・最終成果発表用の台本を作成する。 最終成果発表（西岡、別宮）（プレゼンテーション:最終成果物を発表する） ・完成した動画を制作過程などを交えて発表する。
到達目標・基準	◎A：実現可能な計画を立てることができる。 ○E：自らの取り組みの成果をプレゼンテーションできる。
事前・事後学習	事前学習：次回およびそれ以降の活動計画を作成する。（20分） 事後学習：授業の最初に進捗報告を行うため、授業後発表準備を行うこと。（30分） また、制作計画を達成するため、必要に応じて時間外でも積極的な活動を行うことを推奨する。授業時間外の設備の利用などは担当教員に相談すること。
指導方法	学生それぞれが決めたテーマに沿ってガイドする。全体に向けての解説は短時間で、多くの時間は制作のために使用する。作業の進み具合で、個人個人へ技術やアイデアについてサポートする。 成果物の種類はPCを使用した制作、レポートの執筆など、テーマに併せて決めて良い。 フィードバックの方法：毎回授業の最初に学生はグループごとに進捗をプレゼンテーションする。その場でクラス全員が聞いている中でのアドバイスをを行うことで教員からのフィードバックを行う。また授業時間中も随時質問への対応を行う。
成績評価の方法・基準	A：計画書と達成状況进行评估する。 E：最終成果の報告（最終日に実施する成果報告）进行评估する。 学習態度および進捗報告30%、作品と成果発表70% 作品は、最終成果の発表と品質に対し、評価ポイントをもとに評価する。評価ポイントはガイダンス時に発表する。
テキスト	特定の教科書は使用しない。 授業の要点については、デジタル教材で説明する。
参考書	
履修上の注意	テーマ設定に自由度を考慮した科目である。制作内容は学生毎あるいはグループ毎に異なる事となる。受け身の授業ではなく、自主的に研究する科目と考え、積極的に作業し、成果をあげて欲しい。 ここでのテーマは、他のワークショップにも引き継ぐ事ができ、短大生としてのまとまった学習成果として就職活動など今後役に立てられるものである。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	Netウィッチ

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
別宮玲			
Subject Code : E26C54			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>社会人として必要な主体性、責任感、計画性を涵養する授業である。</p> <p>本授業では、自ら15週の達成目標を設定し、それを実現するために活動することを求められる。</p> <p>テーマはこれまでに学んだ授業の延長線上にある応用や発展テーマでも良いし、自分の関心の高い別分野を選んでも良い。1年次にプロジェクト演習Aを履修していた学生は、当時のテーマの発展テーマを扱うことを推奨する。またテーマを複数用意し、授業の前半と後半で別テーマに取り組んでも構わない。</p> <p>授業の流れは企画→制作→発表となる。授業計画に例を示すので参考にする。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎A：高い目標をテーマに掲げ、現実的な計画を立てることができる。グループ内での役割分担を行い、相互の情報共有に基づいた適切な進捗管理を行うことができる。進捗管理を行うことで問題の発生を事前に気づき、担当教員に相談することができる。</p> <p>◎E：これまでに習得した技術を生かした成果をあげ、その成果をプレゼンテーションすることで聴衆の共感を得ることができる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方の説明とグループ分けを行う。 <p>2 グループテーマの設定(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:Netウィッチで進捗報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループごとに何を制作するか検討する。 ・役割分担と大まかなスケジュールを作成する。また必要な機材や費用を見積もる。 <p>※以下、「3Dホログラムによる実在人物の立体動画の作成」をテーマとした場合の計画を示す</p> <p>3 コンテンツの検討とスケジュールリング(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:Netウィッチで進捗報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なにを3Dホログラムで表現するのか、そのためには何が必要なのかを検討する。 ・前回より詳細なスケジュールを作成する。全15回のスケジュールを完成させる。 <p>4 3Dホログラム用の静止画撮影(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:SKYMENUで進捗報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロトタイプとして静止画でのホログラムを作成。 ・スマートフォンで静止画撮影。 ・スマートフォンによる試験投影。 <p>5 動画撮影(1)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:SKYMENUで進捗報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撮影ブースで人物の動画を撮影する。 <p>6 動画撮影(2)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:SKYMENUで進捗報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の動画の問題点を解決する。画質の悪さ、明るさ、人物の着用する衣服の色などを変更する。 <p>7 動画撮影(3) / グラフィックのテスト作成(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:SKYMENUで進捗報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回までの試作を参考に、より大きな動きでの動画を撮影する。 ・GIFによるグラフィックによるアニメーションを試作する。 <p>8 動画撮影(4)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:SKYMENUで進捗報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、動画の撮影。 ・撮影された動画の背景処理を行う方法を学習する。 <p>9 動画編集(1)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:SKYMENUで進捗報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撮影された動画の背景処理を行う。 <p>10 動画撮影(5) / 動画編集(2)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:SKYMENUで進捗報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の背景処理の結果を踏まえ、より処理のしやすい動画の撮影方法を考察し実施する。 ・撮影された動画の背景処理を行う。 <p>11 動画編集(3)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:SKYMENUで進捗報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撮影された動画の背景処理を行う。 ・背景処理を行った動画をスマートフォン用書き出す。 <p>12 動画編集(3)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:SKYMENUで進捗報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Windows、Mac、Android、iPhone、それぞれの環境に適したファイル形式を研究する。 ・より高度な編集のため、アプリケーションの学習を行う。 <p>13 動画編集(4)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:SKYMENUで進捗報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終版の動画編集を行う。 <p>14 動画編集(5)(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:SKYMENUで進捗報告)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き最終版の動画編集を行う。 <p>15 最終成果発表(プレゼンテーション:最終成果物を発表する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成した動画を制作過程などを交えて発表する。
到達目標・基準	<p>◎A：実現可能な計画を立てることができる。グループ内で適切な分担を行い、助けあいながら目標を達成することができる。</p> <p>○E：自らの取り組みの成果をプレゼンテーションできる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：次回およびそれ以降の活動計画を作成する。(20分)</p> <p>事後学習：授業の最初に進捗報告を行うため、授業後発表準備を行うこと。(30分)</p> <p>また、制作計画を達成するため、必要に応じて時間外でも積極的な活動をしていただきたい。授業時間外の設備の利用などは担当教員に相談すること。</p>
指導方法	<p>学生それぞれが決めたテーマに沿ってガイドする。全体に向けての解説は短時間で、多くの時間は制作のために使用する。作業の進み具合で、個人個人へ技術やアイデアについてサポートする。</p> <p>成果物の種類はPCを使用した制作、レポートの執筆など、テーマに併せて決めて良い。</p> <p>フィードバックの方法：毎回授業の最初に学生はグループごとに進捗をプレゼンテーションする。その場でクラス全員が聞いている中でのアドバイスをを行うことで教員からのフィードバックを行う。また授業時間中も随時質問への対応を行う。</p>
成績評価の方法・基準	<p>A：計画書と達成状況を評価する。</p> <p>E：最終成果の報告（最終日に実施する成果報告）を評価する。</p> <p>学習態度および進捗報告30%、作品と成果発表70%</p> <p>作品は、最終成果の発表と品質に対し、評価ポイントをもとに評価する。評価ポイントはガイダンス時に発表する。</p>
テキスト	<p>特定の教科書は使用しない。</p> <p>授業の要点については、デジタル教材で説明する。</p>
参考書	
履修上の注意	<p>テーマ設定に自由度を考慮した科目である。制作内容は学生毎あるいはグループ毎に異なる事となる。受け身の授業ではなく、自主的に研究する科目と考え、積極的に作業し、成果をあげて欲しい。</p> <p>ここでのテーマは、他のワークショップにも引き継ぐ事ができ、短大生としてのまとまった学習成果として就職活動など今後役に立てられるものである。</p>
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	Netウィッチ

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	国専：選択
担当教員			
別宮玲			
Subject Code：E26C45			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>Webコンテンツ、映像コンテンツ、書籍といったコンテンツ・情報を制作し流通させるビジネスをコンテンツビジネスという。</p> <p>コンテンツビジネスは日本が世界と競争できる分野であるとされるが、競争に勝つためには現在の強みと弱み、グローバル化のために何が必要かを知る必要がある。</p> <p>本授業では政府資料と最新のニュース、その他様々なメディアを流れる情報や思想を読み取ることで、国内外のコンテンツビジネスの現在と今後を考える。これまでに身に付けてきた異文化理解力とICT知識の総合的な力を必要とする授業である。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎D：日本文化が世界に与えている影響を市場別に説明することができる。ICTの進歩による今後のビジネスの構造の変化を考察できる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の目標と進め方 ・最終課題のテーマ発表 <p>2 コンテンツ産業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツとは何か ・コンテンツ業界の市場構造 ・コンテンツ業界の市場規模 ・デジタルコンテンツの市場規模 <p>3 日本コンテンツの海外進出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クールジャパン政策 ・ローカライズ ・ジャパンプランドとコラボレーション <p>4 音楽業界（ICT:WebClassによる課題提出とフィードバック）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽業界の市場構造 ・パッケージ型と配信型 ・環境変化の中におけるレコード会社の戦略 ・音楽出版社とは ・音楽コンサート市場 <p>5 放送業界（ICT:WebClassによる課題提出とフィードバック）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放送業界の市場構造 ・民間放送局のビジネスモデル ・国営放送局のビジネスモデル ・テレビ視聴者の変化 ・動画配信サービス <p>6 映画業界（ICT:WebClassによる課題提出とフィードバック）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画業界の市場構造 ・映画の興行収入 ・マルチウインドウ戦略 ・映画製作委員会一般化 ・ビデオソフト業界の変化 <p>7 キャラクタービジネス（ICT:WebClassによる課題提出とフィードバック）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャラクタービジネスと他のコンテンツビジネスの関係 ・コンテンツと地域振興（ゆるキャラ） <p>8 ゲーム業界（1）（ICT:WebClassによる課題提出とフィードバック）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム業界の市場構造 ・拡大するオンラインゲーム市場 ・スマホゲームと家庭用ゲーム ・ゲーム内課金とコンプガチャ問題 <p>9 ゲーム業界（2）（ICT:WebClassによる課題提出とフィードバック）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの歴史と文化 ・大手ゲームメーカーの現状 ・Eスポーツ <p>10 アニメーション業界（1）（ICT:WebClassによる課題提出とフィードバック）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アニメーション業界の市場規模 ・拡大する日本アニメの海外市場 <p>11 アニメーション業界（2）（ICT:WebClassによる課題提出とフィードバック）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アニメーションの歴史 ・初期のビジネスモデルと現在のビジネスモデル ・クールジャパンと地域貢献 <p>12 アニメーション業界（3）／コミック(漫画)業界（ICT:WebClassによる課題提出とフィードバック）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙の漫画市場 ・いまだ人気作品を生み続ける漫画雑誌 ・漫画アプリ ・アニメ配信ビジネス

	<p>13 ウェブ・コンテンツ業界 (ICT:WebClassによる課題提出とフィードバック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェブ・コンテンツ業界の市場構造 ・ウェブ・コンテンツ業界の代表的なビジネスモデル ・電子書籍サービスの動き ・インターネット広告 <p>14 モバイル・コンテンツ業界 (ICT:WebClassによる課題提出とフィードバック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モバイルコンテンツ市場の現状 ・SNS毎に異なる利用者のタイプ ・ビッグデータと行動ターゲティング広告 <p>15 コンテンツと著作権 (ICT:WebClassによる課題提出とフィードバック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツ産業と著作権ビジネス ・財産権としての著作権
到達目標・基準	◎D：様々なビジネスの構造を理解することで、社会人として必要な基本的なビジネス知識を身につける。
事前・事後学習	事前学習：コンテンツビジネスに関するニュースを日々調べる。(60分) 事後学習：毎週の講義を振り返り、口頭での質問にも対応できるように自分の言葉で整理し、まとめる。(60分)
指導方法	講義形式の授業である。 講義形式の授業だが、授業内で受講者対象のアンケートをWebClassで実施し、市場一般の統計情報と比較するなど、PCを使用する機会が多いため情報教室で授業を行う。 フィードバックの方法：WebClassでの課題対応の他、アンケートの集計結果なども学生がいつでも参照できるようWebClassで公開する。
成績評価の方法・基準	筆記試験とレポートで評価する。レポートは単元ごとに提出する。 D：提出されたレポートと筆記試験でコンテンツビジネスの理解度を評価する。 授業態度20%、課題30%、定期試験50%
テキスト	最新コンテンツ業界の動向とカラクリがよくわかる本[第3版] (秀和システム)
参考書	コンテンツ産業の現状と今後の発展の方向性(経済産業省) 最新アニメ業界の動向とカラクリがよくわかる本[第2版] (秀和システム)
履修上の注意	日常的な情報収集が必要な授業である。 特に自分が好きなコンテンツについては自信を持って説明ができるよう常に準備をし、積極的に授業に参加することを期待する。
アクティブ・ラーニング	WebClassによるアンケートと、集計結果を用いた授業
I C Tの活用	WebClass, Netウィッチ

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
別宮玲			
Subject Code：E110A70			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ICTを活用したオフィスワークを希望する学生のためのゼミである。目標とする進路としては金融業界やIT業界など様々な業界、企業が挙げられる。 進路目標を設定するための業界研究と併行して、エントリーシートや面接に必要な自分自身のエピソードを分析・整理する。またSPI対策も行う。 (授業目標) C：グループディスカッションや自己分析、自己PRの積み重ねを経て、思考力や判断力を養う。 ◎D：エントリーシートの記入方法を学び、希望業界に関する知識や理解を深める。 ○E：各業界に沿った資格等の取得を目指す。		
授業計画	1	キックオフ ・ゼミの進め方と特徴の確認。	
	2	目標設定 ・現時点での自分の進路目標を整理する。	
	3	自己PR。エントリーシートとは ・エントリーシートとは何かを理解し、必要な自己PRについて学ぶ。	
	4	進路面談。就活ノート作成(クラウドサービス：自己分析ノートを記述) ・個別面談による進路相談を行う。また就活ノートを作成する。	
	5	自己分析と業界研究(クラウドサービス：自己分析ノートを記述) ・自分の特性と希望業界の確認と研究。	
	6	SPI対策(1) ・SPIおよびCAB対策の学習方法を学ぶ。	
	7	キャリア講座(キャリアセンター) ・金融・広告・IT業界の概要を学ぶ。	
	8	SPI対策(2) ・過去の傾向などを踏まえSPI試験対策として問題演習を行う。	
	9	進路面談。就活ノートレビュー(クラウドサービス：自己分析ノートへのフィードバック) ・就活ノートを参考に面談を受ける。	
	10	グループディスカッション(1)(グループワーク：グループディスカッション) ・就活で良く扱われるテーマを用いてグループディスカッションを行う。	
	11	内定者交流会(キャリアセンター) ・VTRや経験談から集団面接の実際を学ぶ。 ・内定者の体験談から個別面接での対応や、就活全体の心構えを学ぶ。	
	12	英語資格試験講座 ・過去の傾向などを踏まえTOEIC対策として全パートの問題演習を行う。	
	13	グループディスカッション(2)(グループワーク：グループディスカッション) ・就活で良く扱われるテーマを用いてグループディスカッションを行う。	
	14	進路面談(1)(クラウドサービス：自己分析ノートへのフィードバック) ・個別で進路面談を行う。 ・この回で面談を行わない学生はエントリーシート対策と業界研究を行う。	
	15	進路面談(2)(クラウドサービス：自己分析ノートへのフィードバック) ・個別で進路面談を行う。 ・この回で面談を行わない学生はエントリーシート対策と業界研究を行う。	
到達目標・基準	C：グループディスカッションに役割があることを意識して参加することができる。 ◎D：就職活動に必要な知識の修得方法を身につける。 ○E：就職活動に必要な資格の対策を講じることができる。		
事前・事後学習	事前学習：自分が希望する企業や職種、関連するニュースについて調べ、質問などあればまとめておく。(60分) 事後学習：就職活動に役立つ業界ニュースや自分の経験などを集めた就活ノートを毎授業後に更新する。(60分)		
指導方法	企業研究の方法について指導し、自分が希望する就職先について理解できるよう指導する。 自己分析や業界研究についてはクラウド上の就活ノートとして保存し、教員も共有することで随時添削を行える環境を構築する。 また、グループディスカッションを通して、コミュニケーション力を高められるよう、指導する。 フィードバック方法：就活ノートはクラウド上でコメントする。グループディスカッションは授業内で全員にわかるようにアドバイスを行う。		
成績評価の方法・基準	C：グループディスカッションでの行動を評価する。 D：課題で評価する。		

	<p>E：資格試験の結果や授業内の提出物で評価する。</p> <p>平常点（授業への貢献度・積極性） 40% 課題 50% 資格取得 10%</p>
テキスト	授業内で指示する。購入の必要はない。
参考書	
履修上の注意	<p>毎回必ず出席することが大切である。教室も変わる場合があるため注意すること。</p> <p>重要な伝達や情報があるので、5Fの掲示板および学校からのメールを毎日よく見ること。</p> <p>ITビジネスはパソコンだけを相手にすれば良い業種ではない。人とのコミュニケーションも非常に重視される。本ゼミにおいても積極的な発言を期待する。</p>
アクティブ・ラーニング	グループワーク
I C Tの活用	クラウドサービス, Netウィッチ

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
別宮玲			
Subject Code : E29C78			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ウェブデザイナーなどIT業界での勤務あるいはITを活用した一般企業での勤務を希望する学生のためのゼミである。 一年後期に引き続き、希望進路に向けた準備を行う。自己分析結果を基にした書類の作成、進路面談などのカウンセリングを実施する。 (授業目標) ◎A：希望進路に向けての就活を実施あるいは終了することができる。		
授業計画	1	キックオフ ・ゼミの進め方と特徴の確認。	
	2	進路面談、就職活動カウンセリング（1）（クラウドサービス：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー） ・個別で進路面談を行う。 ・事前に学生各自がクラウドサービス上に登録したエントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は情報教室でPCによる企業研究を進める。	
	3	進路面談、就職活動カウンセリング（2）（クラウドサービス：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー） ・個別で進路面談を行う。 ・事前に学生各自がクラウドサービス上に登録したエントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は情報教室でPCによる企業研究を進める。	
	4	提出書類対策（1）（クラウドサービス：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー） ・エントリーシートや履歴書を実際の希望業界や企業に併せて作成する。企業研究と併せてクラウド上に情報をまとめ、随時レビューを行う。	
	5	提出書類対策（2）（クラウドサービス：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー） ・エントリーシートや履歴書を実際の希望業界や企業に併せて作成する。企業研究と併せてクラウド上に情報をまとめ、随時レビューを行う。	
	6	提出書類対策（3）（クラウドサービス：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー） ・エントリーシートや履歴書を実際の希望業界や企業に併せて作成する。企業研究と併せてクラウド上に情報をまとめ、随時レビューを行う。	
	7	提出書類対策（4）（クラウドサービス：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー） ・エントリーシートや履歴書を実際の希望業界や企業に併せて作成する。企業研究と併せてクラウド上に情報をまとめ、随時レビューを行う。	
	8	進路面談、就職活動カウンセリング（3）（クラウドサービス：エントリーシート、履歴書のレビュー） ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。	
	9	進路面談、就職活動カウンセリング（4）（クラウドサービス：エントリーシート、履歴書のレビュー） ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。	
	10	グループディスカッション（1）（グループワーク：グループディスカッション） ・就活で良く扱われるテーマを用いてグループディスカッションを行う。	
	11	グループディスカッション（2）（グループワーク：グループディスカッション） ・就活で良く扱われるテーマを用いてグループディスカッションを行う。	
	12	進路面談、就職活動カウンセリング（5）（クラウドサービス：エントリーシート、履歴書のレビュー） ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。	
	13	進路面談、就職活動カウンセリング（6）（クラウドサービス：エントリーシート、履歴書のレビュー） ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。	
	14	進路面談、就職活動カウンセリング（7）（クラウドサービス：エントリーシート、履歴書のレビュー） ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。	

	15	<ul style="list-style-type: none"> ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。 進路面談、就職活動カウンセリング（8）（クラウドサービス：エントリーシート、履歴書のレビュー） ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。
到達目標・基準		◎A：希望進路に向けて、いつまでになにを準備すべきか計画し実行できる。
事前・事後学習		事前学習：自分が希望する企業や職種、関連するニュースについて調べ、質問などあればまとめておく。まとめた内容はクラウド上に保存し、いつでもスマートフォンやPCで参照できるようにする。（60分） 事後学習：就職活動に役立つ業界ニュースや自分の経験などを集めた就活ノートを毎授業後に更新する。（60分）
指導方法		企業研究の方法について指導し、自分が希望する就職先について理解できるよう指導する。 自己分析や業界研究についてはクラウド上の就活ノートとして保存し、教員も共有することで随時添削を行える環境を構築する。 また、グループディスカッションを通して、コミュニケーション力を高められるよう、指導する。 フィードバック方法：就活ノートはクラウド上でコメントする。また面談の際もクラウド上の就活ノートを使用し、随時アドバイスを行う。
成績評価の方法・基準		A：個別面談、就活ノート、グループディスカッションで評価する 平常点（授業への貢献度・積極性）30% 課題（就活ノート、グループディスカッション）30% 最終課題（面談、就活ノート）40%
テキスト		授業内で指示する。購入の必要はない。
参考書		
履修上の注意		毎回必ず出席することが大切である。教室も変わることがあるので注意すること。 重要な伝達や情報があるので、5Fの掲示板および学校からのメールを毎日よく見ること。 ITビジネスはパソコンだけを相手にすれば良い業種ではない。 人とのコミュニケーションも非常に重視される。 本ゼミにおいても積極的な発言を期待する。
アクティブ・ラーニング		グループワーク
I C Tの活用		クラウドサービス, Netウィッチ

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	2	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
Subject Code：E25C31			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要) 国際関係論は国家間に生じる様々な事象を多角的に分析する学問である。そこには国家の存在が前提としてある。近代国家がいつどのようにして誕生し、どんな特徴を持ちながら現代に至るまでその歴史を辿ってきたのかを国際関係論を交え考察する。またその発展によって、国家はどのような状況になり、国家の枠を超える多様な問題に対して世界がどのように取り組んでいるかに注目する。そしてこれらの取り組みを通して、日本と諸外国との関係について理解する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>国家間の国際関係を通して、日本のおかれている立場や日本の将来についてグローバルな視点から考察する。</p> <p>○C：国際的な事象を断片的に見るのではなく、いくつかの違った角度から問題点を見る力を修得する。</p> <p>◎D：国際関係論における主要な三つの理論の違いを知る。</p> <p>◎D：近年起こっている国際問題について考察する。</p> <p>◎D：二国間や多国間で話し合われている地域協力機構や経済協定について理解する。</p>
授業計画	<p>1 国家の役割とその変化 国際関係論の定義と考え方、及び国家が持つ主権の意味</p> <p>2 国際関係論の分類 国際問題を扱う幅広い研究テーマなどの分類</p> <p>3 国際関係理論① (ゲスト講師) (プレゼンテーション：関心を持つ国際問題について) 国際関係理論のリアリズムとリベラリズム</p> <p>4 国際関係理論② (ゲスト講師) (プレゼンテーション：関心を持つ国際問題について) 国際関係理論のコンストラクティヴィズムとその他の理論</p> <p>5 EU I (ゲスト講師) (プレゼンテーション：関心を持つ国際問題について) 欧州統合の歴史をその理念から今日までを振り返る</p> <p>6 EU II (ゲスト講師) (プレゼンテーション：関心を持つ国際問題について) 欧州統合の様々な理論からの統合の行方</p> <p>7 EU III (ゲスト講師) (プレゼンテーション：関心を持つ国際問題について) EUの機構と政策から、EUの超国家性について</p> <p>8 国際連合 (プレゼンテーション：関心を持つ国際問題について) 国際連合の成り立ち、仕組みと役割</p> <p>9 地域協力機構 (プレゼンテーション：関心を持つ国際問題について) EU以外の地域協力機構と経済協定</p> <p>10 民族紛争 (プレゼンテーション：関心を持つ国際問題について) 二国間や多国間で起きている民族を単位とした紛争</p> <p>11 領土問題と領土紛争 (プレゼンテーション：関心を持つ国際問題について) 日本や国家間の領土問題と領土紛争</p> <p>12 米ソの冷戦 (プレゼンテーション：関心を持つ国際問題について) 米ソの冷戦の背景と経緯</p> <p>13 南北問題 (プレゼンテーション：関心を持つ国際問題について) 米ソの冷戦南北の経済的対立</p> <p>14 アジアの冷戦構造 (プレゼンテーション：関心を持つ国際問題について) アジア諸国の冷戦の背景と経緯および現状</p> <p>15 国際通貨制度と国際金融体制 (実習：為替による通貨計算) 国際通貨制度の変遷と戦後の国際金融体制の概要</p>
到達目標・基準	<p>○C：多国間の国際的な事象をそれぞれの国の立場から説明できる。</p> <p>◎D：国際関係論における主要な三つの理論の違いを説明できる。</p> <p>◎D：近年起こっている国際問題を1つ取り上げ、現状分析、自らの見解や今後の課題を明確に説明できる。</p> <p>◎D：地域協力機構や経済協定について1つ具体的に説明できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：国際的なニュースをメディアから収集し、なぜそれらが起きているのか考えておく。(60分程度) メディアや文献から、国際問題の現状分析や課題を見つけ、プレゼンテーションの準備をする。(30分程度) 次回の講義内容に関する予習課題に取り組む。(30分程度) 事後学習：授業内で学んだ事項について復習し、自分の言葉で要約する。(60分程度)</p>
指導方法	<p>授業資料(レジメ)を配布し、パワーポイントを使用しながら適宜関係するビデオなどを含めて授業を行う。また毎回数名に各自が関心を持つ国際問題のプレゼンテーションをしてもらおう。</p> <p>フィードバックの仕方：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価とアドバイスをおこなう。</p> <p>実習課題については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。</p>
成績評価の方法・基準	<p>定期試験(50%)、発表(30%)、受講態度(20%)</p> <p>○C：多国間の国際的な事象説明を定期試験で評価する。</p> <p>◎D：国際関係論における主要な三つの理論の違いについて定期試験で評価する。</p>

	◎D：取り上げた国際問題の分析、見解、今後の課題の明確性とプレゼンテーションを評価する。 ◎D：地域協力機構や経済協定について、小レポートの提出を評価する。
テキスト	授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	高瀬淳一(2006) 「はじめて学ぶ国際関係」実務教育出版 三船恵美(2012)「基礎から学ぶ国際関係論」泉文堂
履修上の注意	履修者全員に、各自が関心を持つ国際問題を一つ取り上げて、その問題の背景(なぜ起こったか?)と現状(どうして解決できないのか?)を説明し、自らの見解を交えてプレゼンテーションと質疑応答をしてもらう。エアライン、ホテル、観光など旅行関連業界は「平和」がキーワードである。また旅行業界のみならず多くの産業は国際情勢に左右されると言っても過言ではない。社会のあらゆる場面で外国とのつながりを考えることが必要となっている現代において、国際関係論で学ぶ内容は必要不可欠な知識となっており、関心を持って授業に臨むこと。その時の国際情勢に合わせて授業計画が一部変更される場合がある。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、実習
I C Tの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
Subject Code : E15C32			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) ホテル、観光に関連する様々な観光産業を取り上げ、それぞれのホテル・ツーリズム産業がどのように形成され、どのようなビジネスモデルで発展してきたかについて具体的にみていくことにより、ホテル・ツーリズム産業の成り立ちを学ぶ。合わせてホテル・ツーリズム産業がおこなっている取り組みを知ることにより、それぞれの業界・産業業務内容を理解する。また世界遺産にも焦点を当て、その基本情報、地理、歴史的背景などの特徴を理解し、認定された経緯、理由などを考察する。 (授業目標) ホテル・ツーリズム産業の様々な業種の特徴を理解する。 ○C：ホテル・ツーリズム産業施設見学を実施し、施設の特徴について考察できる。 ◎D：ホテル業界とツーリズム業界の基礎知識を身に付ける。 ◎D：それぞれのホテル・ツーリズム産業の特徴を理解する。 ◎D：世界遺産の基礎知識と、日本の世界遺産についてまとめ、理解する。
授業計画	<p>1 ホテルツーリズムスタディ（課題解決型：身近な地域のホテル、ツーリズム産業の魅力と問題点） 授業全体の概要と、各自の育った地域の魅力的なホテル、ツーリズム産業について考える</p> <p>2 ホテル業界 ホテル業界の基礎知識とホテル業界の取り組み</p> <p>3 ツーリズム業界 ツーリズム産業の基礎知識とツーリズム・ビジネス分類</p> <p>4 ホテル・ビジネスとツーリズム・ビジネス ホテル・ビジネスとツーリズム・ビジネスの関連性について</p> <p>5 世界遺産（ゲスト講師）（Webclass：日本国内の世界遺産に関する資料配布） 世界遺産の基礎知識、日本国内の世界遺産</p> <p>6 ホテル・ツーリズム産業： 「ホテル業界」 ホテルの商品としての特性、運営オペレーションメンの特性</p> <p>7 ホテル営業業務 ホテルの営業業務とインターンシップとしての関わり</p> <p>8 ホテル・ツーリズム産業： 「JR東日本鉄道会社」、（プレゼンテーション：日本国内の世界遺産） 巨大マーケットを持つ鉄道会社の取り組みと、パッセンジャー・サービスの運営</p> <p>9 ホテル・ツーリズム産業： 「JR九州鉄道会社」、（プレゼンテーション：日本国内の世界遺産） 様々なテーマを持った観光列車の開発と事業の多角化を進める地方鉄道会社の取り組み</p> <p>10 ホテル・ツーリズム産業： 「クルーズ産業」（プレゼンテーション：日本国内の世界遺産） クルーズ・マーケットとクルーズ会社の取り組み</p> <p>11 ホテル・ツーリズム産業： 「バス事業」（プレゼンテーション：日本国内の世界遺産） バス事業の諸業態と近年の取り組み</p> <p>12 ホテル・ツーリズム産業： 「旅行業者」（プレゼンテーション：日本国内の世界遺産） 旅行業者の営業形態と販売形態、カウンター業務の仕事</p> <p>13 ホテル・ツーリズム産業見学（フィールドワーク：近隣エリアのホテル・ツーリズム産業施設） 学外学習として、実際にホテル・ツーリズム産業施設を訪れ業務を体験する。</p> <p>14 ホテル・ツーリズム産業： 「テーマパーク」（プレゼンテーション：日本国内の世界遺産） 「ディズニー・リゾート」などのテーマパークのコンセプトづくりと運営方法</p> <p>15 ホテル・ツーリズム産業： 「航空会社」（プレゼンテーション：日本国内の世界遺産） 航空会社の系譜と航空政策</p>
到達目標・基準	○C：ホテル・ツーリズム産業施設見学を実施し、施設の特徴について説明できる。 ◎D：ホテル業界とツーリズム業界の基礎知識を説明できる。 ◎D：それぞれのホテル・ツーリズム産業の特徴を区分できる。 ◎D：世界文化遺産、自然遺産、複合遺産に区分できる。また日本の世界遺産についてまとめ、人前でプレゼンテーションできる
事前・事後学習	事前学習： 世界遺産の基礎知識と日本の世界遺産それぞれの特徴を調べ、プレゼンテーションできるように準備する（60分） ホテル・ツーリズム産業について、どのような産業なのか、どのような業務があるか調べる（60分） 事後学習 授業で配布したレジメを参照し、授業内で取り上げたホテル・ツーリズム産業の業務についてまとめる（60分）

指導方法	授業資料(プリント)を配布し、パワーポイントを使用しながら適宜関係するDVD等、視聴覚資料を利用し授業を行う。また毎回数名に1つの日本国内の世界遺産についてプレゼンテーションをしてもらう。おこなう。ホテル・ツーリズム産業の現場で働く方を、ゲスト講師として授業に参加してもらうことがある
成績評価の方法・基準	○C：ホテル・ツーリズム産業施設見学を実施し、施設の特徴についての考察レポートを評価する。 ◎D：ホテル業界とツーリズム業界の基礎知識の理解度など小レポート提出・定期試験を評価する。 ◎D：それぞれのホテル・ツーリズム産業の特徴を区分できる。 ◎D：世界文化遺産、自然遺産、複合遺産の区分など定期試験を評価する。また日本の世界遺産についてまとめたプレゼンテーションを評価する。 定期試験（50%）、受講態度（20%）、講義中の小テストや課題レポート（30%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	JTB総合研究所（2018）『観光学基礎』 世界遺産検定事務局（2016）『はじめて学ぶ世界遺産100』 一般財団法人日本ホテル教育センター（2015）『新ホテル総論』プラザ出版
履修上の注意	「ホテルツーリズムスタディ」の受講生は、後期に「ホテルスタディA」、「ツーリズムスタディA」を受講することが望ましい
アクティブ・ラーニング	課題解決型、フィールドワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	webclass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
Subject Code : E15C33			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) ホテルの基本的な性格、ホテルの構成要素、日本、欧米の歴史の変遷など様々な角度から、ホテルビジネスの概論にアプローチし、ホテルビジネスの特色や特徴とホテルビジネスのベースとなる専門用語ならびに知識を学ぶ。合わせて事業部門ごとにホテル業務概要を把握し、ホテル業務を経営と運営の両面からアプローチし、理解力と実践力を身につける。また実際にホテル見学を実施し、ホテル運営側と顧客の視点から、ホテル業務に対し理解を深める。 (授業目標) ホテルビジネスの基礎知識と特色や特徴を理解する ◎C：ホテル見学を通して、ホテルビジネスのホテルのコンセプト、特徴を考察する。 ◎D：立地・機能、資本系列、経営形態などの観点からホテルの分類を知る。 ◎D：ホテルビジネスを理論並びに実務の両面から理解する。
授業計画	1 宿泊施設の区分とホテルの定義 ホテルとは何か、その語源、基本的な性格、法律上の位置づけなど 2 ホテルの構成要素 ホテルが提供する商品の構成要素 3 ホテルの分類（実習：資本系列、経営形態などにホテルを分類）（Webclass：実習資料配布） 立地・機能、資本系列、経営形態など観点からホテルを分類 4 日本における宿泊業の歴史 時代ごとの日本の宿泊業の歴史を概観 5 欧米における宿泊業の歴史 現代のホテル業は、どのように形成されてきたのか 6 ホテル客室のカテゴリーと種類 客室の種類、設備やホテルの料金制度の基礎知識 7 ホテル見学（グループワーク：ホテルの特徴などグループごとにまとめる） 共有スペース、客室の特徴やそのホテルのこだわりなど 8 ホテル実務の基礎（実習：挨拶、言葉遣いなど） ホテル実務に必要な業務知識 9 宿泊部門の業務 ホテルにおける宿泊部門の位置づけ、役割 10 料飲部門、調理部門の業務 料飲部門の組織と担当業務の概要 11 ホテルのレストランメニュー 西洋料理、日本料理、中華料理などのグランド・メニューの基礎知識 12 マーケティング部門の業務 マーケティング部門の業務と役割 13 ホテルビジネスにおけるマネジメント 総務・人事部門などのマネジメント業務 14 施設管理部門の業務 施設・設備メンテナンス部門の業務概要 15 危機管理対策 苦情トラブル、救急・火災などの事故対応
到達目標・基準	◎C：ホテルのコンセプト、特徴を具体的に説明できる。 ◎D：立地・機能、資本系列、経営形態などの観点からホテルの分類ができる。 ◎D：ホテルビジネスを経営と実務の両面から説明できる。
事前・事後学習	事前学習 都内のホテルのホームページにアクセスし、ホテルのイベントについて調べる（60分） 世界の料理について、特に日本のレストランで提供されている料理について調べる（30分） 事後学習 ホテル実務に必要な業務知識についてまとめる（30分） 授業で配布したレジメを参照し、ホテルビジネスを経営について理解する（60分）
指導方法	講義資料（プリント）を配布するので、講義資料内容を確認しながら授業内容を把握していく。パワーポイントを使用し、適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。ホテルビジネスの取り組みを理解し易いように、ホテルの現場で働く方を、ゲスト講師として授業に参加してもらうことがある。 フィードバックの仕方：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価とアドバイスをこころう。グループワーク、実習課題については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。
成績評価の方法・基準	◎C：ホテルのコンセプト、特徴を具体的に説明するレポートを評価する。 ◎D：ホテル分類など定期試験を評価する。 ◎D：ホテルビジネスの理論と実務を説明する定期試験の記述回答を評価する。

	定期試験（50%）、受講態度（20%）、講義中の小テストや課題レポート（30%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	JTB総合研究所（2016）『ホテル概論』JTB総合研究所 日本ホテル教育センター（2015）『新ホテル総論』プラザ出版
履修上の注意	1. 授業中は他の人の迷惑にならないように授業態度に注意すること。 2. ホテル実務でどのようなおもてなしが提供できるか、ホスピタリティ・マインドを常に考えて授業に臨むこと。 3. 「ホテルスタディA」の受講生は、前期に「ホテルツーリズムスタディ」を受講することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	実習、グループワーク
I C Tの活用	webclass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
Subject Code : E27C64			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 宿泊産業のいくつかの経営業態を通して、ホテルビジネスの経営環境を理解する。合わせてホテルビジネスを対象として、マネジメントおよびオペレーションの視点からの事象把握をおこない、ホテルの空間の快適性と提供されるスタッフのホスピタリティの評価、課題、それに対する対応策を検討提案できる能力を身につける。またホテルビジネスで活躍されている方々をゲスト講師として招き、その企業の取り組みについて知識を深める。 (授業目標) 宿泊産業の取り組みを理解し、評価、検討、提案する力をつける。 ◎A：ホテル調査チェックシートを用いて、ホテルのホスピタリティを考察する。 ◎D：宿泊産業の経営形態の違いを理解する。 ◎D：ホテルビジネスを理論並びに実務の両面から理解する。
授業計画	<p>1 ホテルビジネス ホテルビジネスの全体像を捉え、特色や特徴を理解する</p> <p>2 ビジネスホテル市場 ビジネスホテルの位置づけと、ビジネスホテルの取り組み</p> <p>3 日本旅館 日本旅館の位置づけと、日本文化を象徴する日本旅館のおもてなし</p> <p>4 ホテルビジネスと訪日外国人旅行者 インバウンド・ツーリストへのホテルの取り組み</p> <p>5 民泊と民泊仲介サイト (Webclass：ホテル・ホスピタリティの評価、課題の調査票配布) 住宅宿泊事業法導入後の民泊の状況と民泊仲介サイト</p> <p>6 ホテル会員プログラム (ディベート：ホテルごとの上級会員向けのサービスについて) ホテルの顧客囲い込みの取り組みと、提供される上級会員向けのサービス</p> <p>7 ブライダル基礎知識 日本と外国におけるブライダルの歴史、慣習とブライダルの動向</p> <p>8 ブライダルサービス 予約受付、ホテル挙式、披露宴におけるサービス実務</p> <p>9 お食事の基本マナー (グループワーク：テーブルマナーをスタッフと顧客立場から実践練習) テーブルマナーの基礎知識と女性としての大人のたしなみ”</p> <p>10 企業研究：国内ホテル パレスホテル (ゲスト講師) ホテルにおけるコンシェルジュの役割</p> <p>11 企業研究：国内ホテル 藤田観光 (ゲスト講師) 藤田観光とホテル事業</p> <p>12 企業研究：外資系ホテル ヒルトンホテル (ゲスト講師) ヒルトンホテル・グループの取り組み</p> <p>13 ホテル・ホスピタリティ調査発表 (プレゼンテーション：ホテル・ホスピタリティの評価、課題について) 調査対象としたホテルの空間の快適性と提供されたホスピタリティの評価、課題</p> <p>14 ビックスポーツイベントとホテルビジネス (プレゼンテーション：ホテル・ホスピタリティの評価、課題について) オリンピック等の大イベントにおける宿泊施設の取り組み</p> <p>15 ホテルビジネスとMICE戦略 (プレゼンテーション：ホテル・ホスピタリティの評価、課題について) ホテルのMICE市場への取り組み</p>
到達目標・基準	◎A：ホテル調査を通し、チームで話し合い、そのホテルの評価、課題、それに対する対応策を提案できる。 ◎D：宿泊産業の経営形態の違いを分類ができる。 ◎D：ホテルビジネスを経営と実務の両面から、その取り組みについて、例を挙げて説明できる。
事前・事後学習	事前学習：都内のホテルのホームページにアクセスし、それぞれのホテルの特徴について調べる (60分) ホテルの職種の仕事内容 (フロント・サービス、客室係など) について調べる (60分) 事後学習：授業で配布したレジメを参照し、宿泊施設の取り組みについて理解する (60分)
指導方法	講義資料 (プリント) を配布するので、講義資料内容を確認しながら授業内容を把握していく。パワーポイントを使用し、適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。ホテルビジネスの現場で働く方々を、企業研究としてゲスト講師に授業に参加してもらう予定。 フィードバックの仕方：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価とアドバイスをこなう。グループワーク、ディベートについては、授業内、授業後に個別に対応、指導する。
成績評価の方法・基準	◎A：ホテル調査の内容と、プレゼンテーションを評価する。 ◎D：宿泊産業の経営形態の違いを分類など定期試験を評価する。

	○D：ホテルビジネスを経営と実務の両面から、その取り組みについて、例を挙げて説明する定期試験の記述回答を評価する。 定期試験（50%）、受講態度（20%）、講義中の小テストや課題レポート（30%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	JTB総合研究所（2016）『ホテル概論』JTB総合研究所 日本ホテル教育センター（2018）『ブライダル総論』プラザ出版
履修上の注意	1. 授業には積極的に参加し、他の人の迷惑にならないように授業態度に注意すること。 2. ホテル実務でどのようなおもてなしが提供できるか、ホスピタリティ・マインドを常に考えて授業に臨むこと。 3. 「ホテルスタディC」の受講生は、前期に「ホテルツーリズムスタディ」を受講することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	webclassを活用する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
Subject Code : E15C35			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 観光を幅広く学んでいくために、観光学に関する観光関連用語や観光の研究分野などの基礎知識、観光の歴史の変遷と現代社会における観光の意義について理解を深める。またエコツーリズムやグリーンツーリズムはじめ、ニューツーリズムの特徴や取り組みを理解する。さらに観光プランのコース作成を、ディステーション・マーケティング等の視点から、コンセプト作りから観光プランを作成し、フィールドワークをおこない観光プランの正誤性の検証をおこなう。 (授業目標) 観光の基礎知識、国内観光資源を理解し、観光プランの方法を身に付ける。 ◎C：東京都港区芝エリアの観光プランのコース作成の方法を身に付ける。 ○D：観光の現状や歴史的背景を把握しながら、観光の基礎知識と観光関連用語を身につける。 ○D：航空業界、旅行業界で使用されている英語の通話用語を身につける。 ○D：ニューツーリズムの概念と定義、ニューツーリズムにはどのような種類があるか理解する。
授業計画	1 観光と旅行 観光の語源や関連用語、観光研究の分野について 2 観光の現代的意義 現代社会における観光の意義と、観光が経済などに及ぼす影響 3 観光の変遷 日本と欧米の観光の潮流を時代別に区分する。 4 観光産業の英語（実習：通話用語を使用して、自分の名前をいえるようにする） パスポートの英語記載、空港コード、エアラインコードと通話英語など 5 観光地の類型 観光対象、観光資源および観光施設 6 国内観光資源 国内観光資源をカテゴリ別に考察 7 観光政策と観光行政 観光政策の基本、その目標と内容と、地方の観光行政の特性 8 世界遺産 世界遺産の基礎知識、日本の世界遺産について 9 ニューツーリズム ニューツーリズムの共通の特徴と取り組み 10 エコツーリズム エコツーリズムの概念と定義、環境と観光をつなげるエコツアーについて 11 グリーンツーリズム グリーンツーリズムの概念、定義と日本国内の取り組みと成果 12 予約業務とツアーオペレーター（ゲスト講師） ツアーオペレーターの業務と役割 13 東京都港区芝エリア「街歩き」の観光プランニング（グループワーク：観光プランのコース作成） （Webclass：観光プランのコース作成用紙と東京都港区の観光資源資料配布） 東京都港区の観光資源をめぐる、観光プランのコース作成 14 フィールドワーク（フィールドワーク：東京都港区芝エリア） 作成した観光プランの実地調査とプランの検証 15 東京都港区芝エリア「街歩き」観光プランのコース発表（プレゼンテーション：全員が必ず発表する） それぞれが作成した観光プランの発表と評価東の観光プラン
到達目標・基準	◎C：東京都港区芝エリアのコース作成をおこない、人前でプレゼンテーションできる。 ○D：観光、旅行と訳される用語の違いを説明できる。 ○D：英語でレストランの予約を入れるロールプレイング会話演習で、通話用語を使用して、自分の名前を表現できる。 ○D：ニューツーリズムを1つ取り上げ、具体的にどのようなツーリズムか説明できる。
事前・事後学習	事前学習：ニューツーリズムに分類される観光の特徴について調べる（60分） 国内の観光資源を知る上で、観光パンフレットなどの観光資料、情報資料を収集しチェックする（60分） 事後学習：授業で配布したレジメを参照し、観光関連用語を理解する（60分）
指導方法	指導方法 講義資料（プリント）を配布するので、講義資料内容を確認しながら授業内容を把握していく。パワーポイントを使用し、適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。観光産業の取り組みを理解し易いように、観光の現場で働く方を、ゲスト講師として授業に参加してもらう。 フィードバックの仕方：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価とアドバイスをこなう。グループワーク、実習課題については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。

成績評価の方法・基準	<p>◎C：観光プランのコース作成とプレゼンテーションを評価する。 ○D：観光、旅行と訳される用語の違いを定期試験の記述回答を評価する。 ○D：授業前後の英語でレストランの予約を入れるロールプレイングでの会話演習を評価する。 ○D：ニューツーリズムを1つ取り上げ、具体的にどのようなツーリズムか説明するレポートを評価する。</p> <p>定期試験（50%）、受講態度（20%）、講義中の小テストや課題レポート（30%）の総合評価</p>
テキスト	授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	JTB総合研究所（2014）『観光学基礎』 世界遺産検定事務局（2016）『はじめて学ぶ世界遺産100』 十代田 朗（2014）『観光まちづくりのマーケティング』学芸出版社
履修上の注意	<p>1. 授業中は他の人の迷惑にならないように授業態度に注意すること。 2. 自分が観光産業でどのようなおもてなしが提供できるか、ホスピタリティ・マインドを常に考えて授業に臨むこと。</p>
アクティブ・ラーニング	実習、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	webclass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	2	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
Subject Code : E25C34			

<p>授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現</p>	<p>(授業概要) 日本における観光の現状を把握した上で、観光関連産業、観光地形成やサービスなど幅広く知識をつける。 旅行商品が生み出されていく手順を、特定の国内観光地を取り扱いながら、コンセプトづくり、ディスティネーション・マーケティング等の視点からレディメイド型旅行商品の作成される行程と成り立ちを学ぶ。さらに旅行プランを作成して、旅行商品を自分で作成する事で、観光地の観光資源や地方自治体の取り組みを理解する。また近年著しく増加している訪日外国人旅行者に焦点を合わせ、外国人旅行者の観光属性と日本がおこなっている取り組みについて、詳しく学ぶ。 (授業目標) 国内観光資源を理解し、観光プランの方法を身に付ける。 ◎C：募集型企画旅行パンフレット、国際航空運賃の基礎知識と料金計算を修得する。 ◎C：時差の計算を修得する ◎C：海外旅行の観光プランのコース作成を身に付ける。 ○D：日本遺産に登録された観光資源を知る。 ○D：インバウンド旅行者の特徴を理解する。</p>
<p>授業計画</p>	<p>1 日本における観光 国内・海外観光旅行の市場規模、推移と現状</p> <p>2 日本遺産 文化庁が認定した、日本遺産の歴史的魅力や特色</p> <p>3 観光関連法 旅行業法と旅行業約款、国内航空運送約款など</p> <p>4 募集型企画旅行（実習：旅行商品の提案と料金計算） パッケージツアーなどのレディメイド型商品の分析</p> <p>5 観光と香り（ゲスト講師） 五感を通して感じる観光地の香り</p> <p>6 観光地マーケティング ディスティネーション・マーケティングの基本的枠組み、役割と位置づけ</p> <p>7 観光地のブランディング 地域ブランドのイメージと地域資源</p> <p>8 地域からの観光プロモーション 観光におけるプロモーションと地域による観光プロモーション</p> <p>9 国際航空運賃（実習：2ヶ国間の時差の計算、飛行機で移動した際の到着時間の計算など） 国際航空運賃の基礎知識と日付変更線、時差の計算など</p> <p>10 出入国手続き（実習：国内外の入国書類、日本の税関書類の記入や税金の料金計算） 日本から出国し、帰国する際の空港での諸手続</p> <p>11 海外の観光資源（グループワーク：海外の観光資源を分類する）（Webclass：海外旅行プランのコース作成用の資料や配布） 旅行パンフレット、ガイドブックなどのメディア媒体に紹介されている観光資源</p> <p>12 観光地の観光プランニング（グループワーク：海外旅行プランのコース作成） 海外の観光資源をめぐる、観光プランのコース作成</p> <p>13 観光プランのコース発表（プレゼンテーション：全員が必ず発表する） それぞれが作成した観光プランの発表と評価</p> <p>14 インバウンド観光とは（ディベート：訪日外国人旅行者へのおもてなし） 訪日外国人旅行者の習慣、食事などの基礎知識</p> <p>15 インバウンド旅行者増加への取り組みとオーバーツーリズムについて 訪日外国人旅行者の受け入れ状況と観光地の取り組み、オーバーツーリズムの問題</p>
<p>到達目標・基準</p>	<p>◎C：募集型企画旅行パンフレットを用いて、旅行者を想定して料金計算することができる。 ◎C：時差や飛行時間の計算など2ヶ所の観光地の時差を計算できる。 ◎C：海外旅行プランのコース作成をおこない、人前でプレゼンテーションできる。 ○D：国内の魅力的だと感じる日本遺産を2ヶ所以上具体的に説明できる。 ○D：ムスリム観光客への知識と必要な配慮を説明できる。</p>
<p>事前・事後学習</p>	<p>事前学習：国内、海外の観光資源を知り、具体的な観光プランニングができるように、観光ガイドブック・観光パンフレットなどを収集する（60分） 増加するインバウンド旅行者について調べる（30分） 事後学習：授業内容を復習すること。授業で学んだ観光資源や観光現象などを国や地域などを地図などでまとめる（60分） 観光関連産業それぞれの特徴や取り組みについてまとめる（30分）</p>

指導方法	講義資料（プリント）を配布するので、講義資料内容を確認しながら授業内容を把握していく。パワーポイントを使用し、適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。観光産業の取り組みを理解し易いように、観光の現場で働く方を、ゲスト講師として授業に参加してもらう。 フィードバックの仕方：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価とアドバイスをこころなう。グループワーク、ディベート、実習課題については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。
成績評価の方法・基準	◎C：募集型企画旅行パンフレットを用いた、料金計算演習を評価する。 ◎C：時差や飛行時間の計算など2ヶ所の観光地の時差計算を評価する。 ◎C：観光プランのコース作成とプレゼンテーションを評価する。 ○D：日本遺産の区分と、その特徴と魅力について、小レポート提出を評価する。 ○D：インバウンド旅行者への取り組みと今後抱えるオーバーツーリズムに関する小レポートを評価する。 定期試験（50%）、受講態度（20%）、講義中の実習、プレゼンテーションや課題レポート（30%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	JTB総合研究所（2013）『観光概論』 十代田 朗（2014）『観光まちづくりのマーケティング』 溝尾 良隆（2009）『観光学の基礎（観光学全集 第1巻）』
履修上の注意	1. 授業中は他の人の迷惑にならないように、授業態度に注意すること。 2. 時差、旅行代金の計算、旅行プランニング作成など、じっくりと授業に取り組む必要がある。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク
I C Tの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
木内伸樹、佐藤美保			
Subject Code : E110A70			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>エアライン業界についての理解を深めるため、専任教員またはゲスト講師が、毎回の計画に則り、ゼミ形式あるいは講義形式で授業を進める。</p> <p>(授業目標)</p> <p>C：グループディスカッションや自己分析、自己PRの積み重ねを経て、思考力や判断力を養う。 ◎D：エントリーシートの記入方法を学び、希望業界に関する知識や理解を深める。 ○E：各業界に沿った資格等の取得を目指す。</p>		
授業計画	1	オリエンテーション・自己紹介（木内） 授業概略説明、自己PRを踏まえて自己紹介を行う。	
	2	エアライン業界について（木内） エアライン業界の仕事内容について学ぶ。 その後、グループに分かれて、業界に関するディスカッションを行う。	
	3	エアライン業界内定者（2年生）による体験談（木内） エアライン業界内定者（2年生）による体験談を聞き、就職活動に備える。	
	4	エアライン業界研究1（ゲスト・スピーカー） 「エアライン業界に特化したSPI対策講座」	
	5	エアラインキャリア講座（キャリアセンター・木内） キャリアセンターによるエアライン業界講座。	
	6	エアライン業界研究2（ゲスト・スピーカー） 「業界分析、履歴書の書き方①」	
	7	エアライン業界研究3（木内） 「業界分析、履歴書の書き方②」	
	8	キャリア講座（キャリアセンター） 過去の傾向などを踏まえSPI試験対策を行う。	
	9	グループディスカッション1（ゲスト・スピーカー） グループ面接の役割分担等を学ぶ。 その後、グループに分かれて、業界に関するディスカッションを行う。	
	10	エアライン業界研究4（木内） ES作成、就職に役立つ時事問題対策	
	11	グループディスカッション2（ゲスト・スピーカー） グループ面接の役割分担等を学ぶ。 その後、グループに分かれて、業界に関するディスカッションを行う。	
	12	英語資格試験講座（佐藤） 過去の傾向などを踏まえTOEIC対策として全パートの問題演習を行う。	
	13	キャリア講座（キャリアセンター） SPI模擬試験の解説	
	14	メイクアップ講座（ゲスト・スピーカー） 就職のためのメイクアップ講座	
	15	グループディスカッション3（木内） 2グループに分かれ、グループ面接で役立つポイントを学び、その後、各グループごとに模擬面接を行う	
到達目標・基準	<p>C：グループディスカッションに役割があることを意識して参加することができる。 ◎D：就職活動に必要な知識の修得方法を身につける。 ○E：就職活動に必要な資格の対策を講じることができる。</p>		
事前・事後学習	<p>事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。業界研究やエントリーシートの準備をすること。（約40分） 事後学習：授業内で学んだ知識をまとめ、今後の就職活動に役立てる準備をすること。（約40分）</p>		
指導方法	<p>企業研究の方法について指導し、自分が希望する就職先について理解できるよう指導する。 また、グループディスカッションを通して、コミュニケーション力を高められるよう指導する。 フィードバックの方法：①エントリーシート・履歴書にコメントをつけて返却、②コメントに関する質疑対応</p>		
成績評価の方法・基準	<p>C：グループディスカッションでの行動を評価する。 ◎D：課題で評価する。 ○E：資格試験の結果や授業内の提出物で評価する。</p> <p>平常点（授業への貢献度・積極性）40%</p>		

	課題 資格取得	50% 10%
テキスト	なし	
参考書	授業内で指示する	
履修上の注意	毎回必ず出席することが大切である。教室が変わることがあるので注意すること。 重要な情報・伝達事項があるので5 Fの掲示板を常に確認すること。	
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション	
I C Tの活用		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
木内伸樹、佐藤美保、森田千草			
Subject Code : E29C75			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>一年後期に引き続き、ホテル業界・エアライン業界についての知識を深めると同時に、自己PR力を養うため、専任教員またはゲスト講師が、毎回の計画に則り、ゼミ形式あるいは講義形式で授業を進める。</p> <p>(授業目標)</p> <p>C：グループディスカッションや自己分析、自己PRの積み重ねを経て、思考力や判断力を養う。 ◎D：就職活動に必要な書類の記入方法を学び、希望業界に関する知識や理解をさらに深める。 ○E：各業界に沿った資格等の取得を目指す。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション・現状報告（森田・木内）（プレゼンテーション） 2 グループに分かれて、就活状況の報告をする。</p> <p>2 グループワーク演習（ゲスト・スピーカー）、ホテル・ツーリズム業界研究と応募書類の作成1（ゲスト・スピーカー） グループディスカッション ホテル・ツーリズム業界研究を行い、応募書類の作成方法を学ぶ。</p> <p>3 エントリー用紙指導（ゲスト・スピーカー）、ホテル・ツーリズム業界へのエントリー用紙作成指導（森田） 履歴書、ES、自己PRの書き方 ホテル・ツーリズム業界就職のためのエントリーシートの作成方法を学ぶ。</p> <p>4 エントリー用紙指導（ゲスト・スピーカー）、ホテル業界志望者のグループ面接・グループディスカッション対策1（ゲストスピーカー）（グループワーク） 履歴書、ES、自己PRの書き方 ホテル・ツーリズム業界就職のためのグループ面接・グループディスカッションの方法を学ぶ。</p> <p>5 エントリー用紙指導（木内）、ホテル業界志望者のグループ面接・グループディスカッション対策2（ゲストスピーカー）（グループワーク） エアライン業界分析、履歴書、ES、自己PRの書き方 ホテル・ツーリズム業界就職のためのグループ面接・グループディスカッションの方法を学ぶ。</p> <p>6 面接指導、エントリー指導（ゲスト・スピーカー）、ホテル・ツーリズム業界志望者のための自己分析・自己PR指導（森田） CA・GSによる個別指導 ホテル・ツーリズム業界就職のための自己分析と自己PRの書き方を学ぶ。</p> <p>7 面接指導（木内）、ホテル業界研究と応募書類の作成2（ゲスト・スピーカー） グループディスカッション ホテル・ツーリズム業界研究と応募書類の作成方法を学ぶ。</p> <p>8 ES指導（ゲスト・スピーカー）、ホテル・ツーリズム業界スタディ・就職カウンセリング1（森田） 志望動機の書き方指導 ホテル・ツーリズム業界研究と就職のための個別指導を行う。</p> <p>9 エアライン業界スタディ、就職活動カウンセリング（木内）、ホテル・ツーリズム業界志望者のための面接指導（ゲストスピーカー） 業界研究・個別指導 ホテル・ツーリズム業界就職に向けてグループ面接・グループディスカッション・個別面接対策を行う。</p> <p>10 面接指導（佐藤）、ホテル・ツーリズム業界スタディ・就職カウンセリング2（森田） エアライン業界就職のためのグループ面接を行う。 ホテル・ツーリズム業界研究と就職のための個別指導を行う。</p> <p>11 ES・業界研究（森田・木内） 2グループに分かれて、ES・業界研究、個別指導を行う。</p> <p>12 ES・面接・GD（ゲスト・スピーカー）、ホテル・ツーリズム業界スタディ・就職カウンセリング3（森田） 各学生の状況に応じて、ES、面接対策、GDに分かれて授業を行う。 ホテル・ツーリズム業界研究と就職のための個別指導を行う。</p> <p>13 ES・業界研究（森田・木内） 2グループに分かれて、ES・業界研究、個別指導を行う。</p> <p>14 プレゼンテーション準備（森田・木内） 2グループに分かれて、情報収集を行う。</p> <p>15 プレゼンテーション（森田・木内）（プレゼンテーション） 2グループに分かれて、一人5分程度のプレゼンを行う。</p>
到達目標・基準	<p>C：グループディスカッションでの全体像を把握しつつ、自分の役割を意識して参加することができる。 ◎D：希望業界の企業研究の方法を身につける。 ○E：希望業界で必要な資格の対策を講じることができる。</p>

事前・事後学習	事前学習として業界研究やエントリーシートの準備をする。(40分) 事後学習として、宿題として出された調査やプレゼンテーションの準備をする。(45分)
指導方法	企業研究の方法について指導し、自分が希望する就職先について理解できるよう指導する。 また、グループディスカッションを通して、コミュニケーション力を高められるよう指導する。 フィードバックの方法: ①エントリーシート・履歴書にコメントをつけて返却、②コメントに関する質疑対応
成績評価の方法・基準	○C:グループディスカッションでの役割を理解し、その場に応じて行動しているかどうかを評価する。 ◎D:業界研究ノートで評価する。 ○E:TOEICの点数(伸び率含む)で評価する。 授業への貢献度: 30% 課題・資格取得: 40% プレゼンテーション: 30%
テキスト	なし
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎回必ず出席することが大切である。教室が変わることがあるので注意すること。 重要な伝達や情報があるので、5Fの掲示板を毎日よく見ること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ICTの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
有田りな			
Subject Code:E14C27			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>多種多様な業種によって成り立っている航空会社。それらの業種を紹介し、業務内容を説明する。具体的なサービス事例や各社の取り組みを紹介し、エアライン業界におけるホスピタリティマインドを理解する。</p> <p>キャビンアテンダント・グランドスタッフに求められる素養を紹介するとともに、基礎的な自己分析を実施。 (授業目標)</p> <p>○A: 授業内の課題・事前学習を主体的に取り組み、紹介する事例を自らの問題として取り組む責任感を養う。 ○D: 航空業界の職種を知り、安全運航と顧客満足への取り組みを理解する。</p>		
授業計画	1	ガイダンス 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明を行う	
	2	接客業に従事する者に求められる素養と自己分析 接客業に従事する者に求められる素養を学ぶ 自己分析を行う方法を説明し、学生時代に取り組むべき事柄を考える	
	3	キャビンアテンダントの業務と求められる素養 キャビンアテンダントの業務内容を分析し、求められる素養を理解する	
	4	グランドスタッフの業務と求められる素養 グランドスタッフの業務内容を分析し、求められる素養を理解する	
	5	航空産業の概要① 日本の航空業界の変遷・世界の航空業界の動向とアライアンスを理解する	
	6	航空産業の概要② 一機を飛ばすために様々な職種が協力し合っている、航空業界の仕組みと各業種を知る	
	7	フルサービスキャリア (FSC)とローコストキャリア (LCC)① 大手航空会社 (FSC)と格安航空会社 (LCC)の収益構造を比較する	
	8	フルサービスキャリア (FSC)とローコストキャリア (LCC)② (プレゼンテーション：グループごとにまとめを発表) 大手航空会社 (FSC)と格安航空会社 (LCC)のサービス内容を、具体的事例を用いて比較する	
	9	航空業界における顧客満足への施策 事例研究を通して、顧客満足への施策を比較する	
	10	キャビンアテンダントの仕事 長距離国際線を例として、保安要員とサービス要員としての役割を知る	
	11	グランドスタッフの仕事① グランドスタッフの多岐にわたる業務と魅力を知る	
	12	グランドスタッフの仕事② グランドハンドリング業務と求められる素養を知り、考察する	
	13	飛行機の運航を支える仕事① 運航などに関わる業務を紹介する	
	14	飛行機の運航を支える仕事② 予約などに関わる業務を紹介する	
	15	エアラインホスピタリティ エアラインホスピタリティの事例研究を行う	
到達目標・基準	<p>○A: グループワークにて、相手の意見を尊重し協働できる。また、自身の意見を自分の言葉で発信することができる。与えられた課題に主体的に取り組むことができる。</p> <p>○D: 航空業界で働くスタッフに求められる人材像のポイントについて説明することができる。</p>		
事前・事後学習	<p>【事前学習】 事前に告知したテーマにかかわるニュース報道などの情報収集 (80分)</p> <p>【事後学習】 テーマごとに配布するプリントの読み返しと航空業界用語・キーワードの確認 (60分)</p>		
指導方法	<p>配布資料・パワーポイントを使って講義形式で行う。</p> <p>理解を深めるために適宜グループワークを実施し、インプットされた知識の整理とアウトプットを行う。</p> <p>毎週自身が選んだ記事の発表を行い、業界への理解を深める。</p> <p>状況に応じて随時TOEICミニテストを行い、エアライン業界の就職に備える。</p> <p>授業の最後に毎回小レポートを記入・提出。</p> <p>レポートなどの提出物は、授業内での全体講評と個別コメントでフィードバックをする。</p>		
成績評価の方法・基準	<p>学期末テスト・毎回の小レポート・提出物・平常点 (授業態度) を総合的に判断する。</p> <p>○A: 授業での取り組み姿勢と発言を評価する</p> <p>○D: 試験と知識確認テストを評価する</p> <p>学期末テスト40% 小レポート・課題 (プレゼンテーション) 提出物30% 平常点30%</p>		

テキスト	<p>晃洋書房『エアライン・ビジネス入門』稲本恵子編著</p> <p>適宜資料を配布する。 航空に関する新聞記事なども使用する。</p>
参考書	<p>一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 『公式TOEIC Listening & Reading問題集4』 アートヴィレッジ『後悔しないJAL ANA 外資系CA就職対策決定版』アイザックエアラインスクール編著 ぎょうせい社『エアラインオペレーション入門』 ANA総合研究所共著</p>
履修上の注意	<p>この時期に業界・企業の情報収集能力を身につけることが将来大いに役立ちます。 地道な事前学習ですが積極的に取り組み、習慣化していきましょう。 授業内で紹介する業種にて、自分がどのようなおもてなしが提供できるのか、また、 どのような点にやりがいを見いだせるかを考え、自主的に授業に取り組んでください。</p>
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
ICTの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
有田りな			
Subject Code : E14C28			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>多種多様な職種によって成り立っている航空会社の中で、顧客満足を左右する大きな役割を担うキャビンアテンダントの事例を取り上げ、様々な客層に高品質なもてなしを提供するために必要な知識（国際理解・マナー）を学ぶ。</p> <p>キャビンアテンダントの接遇の基本を社会生活におけるコミュニケーションのツールとして利用し、豊かな人間関係の創造と自分への自信に繋げていくことをテーマとする。 (授業目標)</p> <p>○B：マナー5原則（表情・挨拶・身だしなみ・話し方・仕草態度）を身につけ、学校生活など日常のコミュニケーションで役立てることができる</p> <p>◎D：航空業界の概要を知り、仕事の仕組みや構成のあり方を理解する</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業の内容説明と自己紹介（プレゼンテーション）行う</p> <p>2 キャビンアテンダントの業務① キャビンアテンダントの役割と業務の流れを大筋で捉える</p> <p>3 キャビンアテンダントの業務② キャビンアテンダントの業務とサービス向上の取り組みについて知る</p> <p>4 キャビンアテンダントの業務③ LCCや外資航空会社で求められる役割や業務を知る</p> <p>5 接遇の基本① キャビンアテンダントの接遇スキルの基礎を学ぶ</p> <p>6 接遇の基本② サービスに適した言葉遣いや言葉の選び方を学ぶ。発声・機内アナウンス</p> <p>7 接遇の基本③ 演習 立居振舞の基礎を学び実践する</p> <p>8 安全保安要員としての役割（グループワーク：グループごとにまとめを発表） フライトの安全を担うキャビンアテンダントとしての業務と意識について学ぶ</p> <p>9 サービスについて考える（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 限られた空間にて、どのようなサービスを行うことができるか討議する</p> <p>10 サービスについて考える（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 限られた空間にて、どのようなサービスを行うことができるかディベートする</p> <p>11 面接基礎 面接を受けるにあたって必要な心構えを理解する</p> <p>12 面接演習① 模擬面接を通して、バーバル・ノンバーバルコミュニケーション力の向上を図る</p> <p>13 面接演習② 模擬面接を通して、自分の考えを伝える力の向上を図る</p> <p>14 接遇の基本総合演習 接遇の事例研修とロールプレイングを行う</p> <p>15 エアラインスタディ エアラインの事例と実践の検証をする</p>
到達目標・基準	<p>○B：相手の意見を尊重しながら、他者に合わせるべきところと主張すべきところを押さえて、多様な人と関わるができる</p> <p>◎D：エアライン・サービスを提供する上で必要な構成要素と業務に携わる人々、必要とされる人材・そのホスピタリティについて説明できる</p>
事前・事後学習	<p>【事前学習】事前に告知したテーマに関わるニュース報道などの情報収集（60分）</p> <p>【事後学習】テーマごとに配布するプリントの読み返しと航空業界用語・キーワードの確認 毎回の演習内容のリプレイ（60分）</p>
指導方法	<p>配布資料・パワーポイントを使って講義形式で行う。必要に応じ、映像も使いながら進めていく。 ゲストスピーカーを招くことも検討。</p> <p>授業の最後必要に応じ、サービスやマナーに関する映像も使用する。</p> <p>事例研究やマナーは実践を取り入れ、体感することで理解を深めるよう進めていく。 毎回小レポートを記入・提出。個別フィードバックを加え返却。</p>
成績評価の方法・基準	<p>学期末テスト、レポート・課題物提出状況、平常点（授業貢献度など）を総合的に判断する。 学期末テスト40% 小レポート・課題提出物30% 平常点30%</p> <p>B：成果物作成やプレゼングループでのチームへの関わり方を評価する D：学期末テストと授業内での質疑応答の内容を評価する</p>

	レポートなどの提出物は、授業内での全体講評と個別コメントでフィードバックする
テキスト	晃洋書房 『エアライン・ビジネス入門』 稲本恵子編著 適宜資料を配布する 航空に関する記事なども使用する
参考書	一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 『公式TOEIC Listening & Reading問題集4』 アートヴィレッジ『後悔しない JAL ANA 外資系CA就職対策決定版』アイザックエアラインスクール編著 ぎょうせい社『エアラインオペレーション入門』 ANA総合研究所共著
履修上の注意	演習を多く取り入れた授業であり、積極的に動く姿勢を強く希望する。サービスをテーマにすることから、常に他者のことを考えた行動を心がけることが必要。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディベート、ロールプレイング
I C Tの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
八田圭子			
Subject Code : E14C29			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・個別発表、集団討論、模擬面接、ESの書き方を通して、プレゼン、コミュニケーション能力を高める。 ・航空制度、財務、運賃、ダイヤ、マーケティング等、空港、客室等の現業だけでなくエアラインビジネス全般の知識を修得する。 ・知識を学んだ上で様々なケーススタディーを行い、問題の発見から解決方法までを自ら考える力を養う。 <p>(授業目標)</p> <p>◎B：参加型の授業を通して、コミュニケーション能力を高める。</p> <p>○C：知識を踏まえた上で問題感知・解決能力、判断力を養う。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション 授業概要説明と自己紹介 SPI① 宿題：航空会社HPの指定箇所を読んでおくこと</p> <p>2 航空会社の仕事（全般） 1機の飛行機を飛ばすために活躍する様々な職種の紹介 安全性、定時性、快適性の解説 ケーススタディーとグループディスカッション SPI①の解説 宿題：航空会社HPの指定箇所を読んでおくこと</p> <p>3 空港業務（国際線）の仕事の流れ SPI② チェックイン（パスポート、ビザ、手荷物、乗り継ぎ）、CIQ（税関、出入国、検疫） イレギュラー、発着枠、時差とダイヤの作り方</p> <p>4 プライオリティゲストとクレーム処理 プライオリティゲストの取り扱い、約款 クレーム処理のケーススタディー、約款 事例研究とグループディスカッション SPI②の解説 宿題：課題1</p> <p>5 JAL スカイ ゲスト講演 空港業務の実際 質疑応答 講演後感想を提出</p> <p>6 エアラインビジネス（財務） 財務諸表（B/S、P/L）とは 財務諸表の見方 エアラインの財務諸表の特徴 SPI③ 宿題の課題1を提出</p> <p>7 エアラインビジネス（日本の航空産業の歴史、主な条約、制度、航空会社の提携の形態） 日本の航空産業の歴史 シカゴ条約、モントリオール条約 航空会社の提携の形態 インターライン、マイル提携、コードシェアとアライアンス 運賃自由化とアライアンス SPI③の解説</p> <p>8 マーケティング マイレージプログラムと上顧客 マーケティングとは マイレージとグローバルアライアンス 運賃とグローバルアライアンス SPI④ 宿題：航空会社のHPの指定箇所を読んでおくこと</p> <p>9 企業研究（1） HP指定箇所、配布資料を読んだ感想をグループで話し合い、発表する。 SPI④の解説</p> <p>10 JAL（CA）またはJALナビア ゲスト講演 CAまたは予約業務の担当者を招聘 講演後、感想文を提出 宿題：配布資料を読み、発表の準備をしていくこと</p> <p>11 企業研究（2） 配布資料を読み、企業の求める人物像についてグループに分かれて話し合う</p> <p>12 グループディスカッション（5～7人） 過去問でグループディスカッションを実施</p>

	<p>相互評価を行う→提出 エントリーシート の書き方の解説 宿題：ES準備 模擬面接（3人） 3名ずつの模擬面接を実施 相互評価を行う→提出 SPI⑤ ES提出</p> <p>13</p> <p>14 エントリーシート ES返却 エントリーシートへのコメント、注意点を解説 宿題：ES書き直し SPI⑤の解説</p> <p>15 各自感想・決意表明（プレゼンテーション） 全体講評 15回の講義を通しての感想と決意表明（一人2分）</p>
到達目標・基準	<p>◎B:物おじせずに意見を交換したり、オリジナルな経験をエアラインでどう活かすかを考え、伝えることが出来る。</p> <p>○C:知識を学び、それを使用してエアラインで起きうる問題解決に応用出来る。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SPIの準備をすること。（30分） ・航空会社のHPで指定したところを読んでくること（30分）。 ・航空に関するニュースを取り上げ、疑問や考えを纏める（30分） ・課題レポートやプレゼンの準備（60分） <p>事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時に出された指示、レポートへのフィードバック、コメントを熟読して改善し、完成度を上げること。（30分） ・SPIの間違った問題の復習をすること。（30分）
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な理論や知識を修得した後、参加型のディスカッションを行い、相互チェックとコメント交換を通して、様々な意見に触れ、自分の考えを纏め、発表できるようにする。 ・フィードバックとして課題レポート、小テストはコメントを付けて返却する。課題の捉え方、物の見方、考え方を解説するとともに、良く出来た学生の模範解答等を披露する。 ・web classを使用して相互チェックを行う。 ・空港見学や講師招聘を通して、エアラインの現業、ビジネス、企業文化等を、より具体的に学ぶ機会を与える。
成績評価の方法・基準	<p>◎B:積極的な授業参加、課題取組み意欲、コメントに対して改善努力が出来たかを評価する。</p> <p>○C:知識を学ぶ意欲と、それを使って問題解決に複眼的に取り組めたかどうかを定期試験で評価する。</p> <p>課題提出25%、積極的な授業参加・貢献度 25%、弱点補強努力 10%、 定期試験40%</p>
テキスト	毎回講師作成のプリントを配布する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・エアライン・ビジネス入門（晃洋書房）を一読することが望ましい。 ・各自、SPI関連の問題集（薄くても構わない）を購入し、1冊仕上げることを望ましい。 ・拙著「鬼の女子力 青鬼編」（Kindle 300円）を予め読んでおくことが望ましい。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・エアライン関係への受験を視野に入れていること。 ・模擬面接、ゲスト講演時にはリクルートスーツを着用のこと。 ・参加型の授業で、課題を克服する努力と過程も評価対象とするため、積極的な姿勢で臨むこと。 ・授業の進捗や変化するニーズに対応するため、授業計画の変更を行う場合もある。 ・授業のほか、航空会社の現場を見学する機会を設ける予定である（2月の追再試験期間）。 ・希望者には講義後、面談を行う。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、プレゼンテーション
ICTの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
松井千輝			
Subject Code：E27C65			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	航空業界で活躍できる人材となるために必要とされることを学ぶ科目。 キャビンアテンダント・グラウンドスタッフの仕事から接遇・立ち居振る舞い・コミュニケーション能力を学ぶ。 グループワーク・ディスカッション等の演習を通して、航空業界で大切にしている「チームワーク力」を高めてゆく。 【授業目標】 ◎A：社会で活躍できる基礎力を身につけ、常に全体感を捉えた上で自分が何ができるかを考え、行動に移すことができる。 B：他者を尊重しながら、自分の考えを確実に伝えることができる。 ○C：物事全般に多角的な視点を持ち、臨機応変に対応できる。 D：航空業界、世の中全般の動きの情報を様々な媒体から得る習慣が身についている。 E：自分の強みと魅力を生かした論理的なプレゼンテーションができる。
授業計画	1 オリエンテーション カリキュラム説明と他己紹介 2 企業理念を学ぶ エアラインの企業理念を学び、授業クラスのゴールを決める（グループワーク） 3 自己分析と理解 自己理解（グループワーク） 4 プレゼンテーション① 自己分析を活かした自分の強みのプレゼンテーションをする（グループワーク）（プレゼンテーション：全員発表） 5 プレゼンテーション② 発表後の振り返りを通しての学び（グループワーク・プレゼンテーション：全員発表） 6 表現力を鍛える CA・GSの業務から表現力を学ぶ（グループワーク） 7 言葉遣い CA・GSの業務から正しい言葉遣い・美しい日本語を学ぶ（グループワーク） 8 発声・アナウンス 発声の練習と日本語アナウンス実践（グループワーク） 9 立ち居振る舞い CA・GSの業務から上品で美しい立ち居振る舞いを身につける（グループワーク） 10 コミュニケーション CA・GSから学ぶコミュニケーション能力とマナー（グループワーク） 11 女性活躍について 女性活躍と職業理解（グループワーク） 12 最終プレゼンテーション準備① 最終プレゼンテーションのチーム決め、準備（グループワーク） 13 最終プレゼンテーション準備② 最終プレゼンテーション準備（グループワーク） 14 最終プレゼンテーション チームごとのプレゼンテーションをする（グループワーク）（プレゼンテーション：全員が必ず発表）（クリッカー：プレゼン評価として使用） 15 ユニバーサルサービス、振り返り ユニバーサルサービスとは 振り返り、企業理念の確認をする（グループワーク）
到達目標・基準	◎A：航空業界のチームワーク力を参考に自分の役割を考え、発言や行動に自信を持つことができる。 B：他者の意見を認め、自分の考えを述べるができる。 ○C：自分の現状と課題を理解し、物事を決めることができる。 D：新聞・ニュースに触れ、関心を持った記事とそれに対する考察を述べるができる。 E：自分らしいプレゼンテーションができる。
事前・事後学習	・事前学習 次回授業までの事前課題へのとりくみ（60分程度） 毎日ニュースに触れる（60分程度） ・事後学習 授業振り返りレポート記入（20分程度） 授業内容の復習と実践（60分程度）
指導方法	・パワーポイント・映像使用。グループワーク・ディスカッションも行いながら、双方向で進めていく。 ・演習多用の実践型授業。 ・毎授業後、小レポート提出。 フィードバックの仕方：①実習：都度、授業内で行う。②課題と小レポート：個別添削後、翌週返却。

成績評価の方法・基準	<p>チームの一員としての自覚及び貢献度・相手に伝える力を評価するため、文書課題・平常点（授業態度・意欲・取り組み等）を総合的に判断する。</p> <p>A：毎授業での取り組み姿勢及び発言、プレゼンテーション（プロセスも含む）を評価する。</p> <p>B：グループワーク、ペアワークの取り組み姿勢を評価する。</p> <p>C：授業での発言内容、小レポートの内容、予習課題、定期試験を評価する。</p> <p>D：授業内での発言内容を評価する。</p> <p>E：授業内のプレゼンテーションを評価する。</p> <p>実践演習参加貢献度30%、小レポート作成・提出20%、最終プレゼンテーション20%、定期試験30%</p>
テキスト	なし。 適宜、プリント配布。
参考書	
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・当科目の履修生同士、お互いに切磋琢磨する姿勢を持つこと。 ・自ら学ぶ意欲と、自己を高めていく意識をもつこと。（受け身受講禁止）
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	クリッカー

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
別宮玲、福田博志			
Subject Code : E26C38			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>コンピューターやインターネットなど、ICT（情報通信技術）は我々の生活に欠かすことのできない存在である。この授業では、現在社会におけるICTおよびIT（情報技術）の役割を学び、企業における経営戦略にどのように結びついているかを学ぶ。その後、情報システム開発における様々な手法を学習する。また、情報に関する法令や財務知識の基礎も本授業の学習範囲である。</p> <p>(授業目標) ◎D：経営戦略とシステム開発について学び、ITパスポート試験ストラテジ分野及びマネジメント分野における合格水準の知識を身につける。</p>		
授業計画	1	ガイダンス／ストラテジ（1） ・企業会計（1）	
	2	ストラテジ（2） ・企業会計（2）	
	3	ストラテジ（3） ・知的財産権	
	4	ストラテジ（4） ・関連法規と標準化	
	5	ストラテジ（5） ・データ整理技法 ・QC七つ道具とグラフ	
	6	ストラテジ（6） ・企業活動と組織	
	7	ストラテジ（7） ・全社戦略と事業戦略	
	8	ストラテジ（8） ・機能別戦略	
	9	ストラテジ（9） ・ビジネス戦略と経営管理システム	
	10	ストラテジ（10） ・ビジネスインダストリ	
	11	ストラテジまとめ(WebClass:ITパスポート過去問と解説公開) ・ストラテジ分野の全範囲を対象としたITパスポート過去問講座	
	12	マネジメント（1） ・SLCPと調達 ・システム開発 ・テストと運用・保守	
	13	マネジメント（2） ・システム開発技法 ・プロジェクトマネジメント ・工程管理（1）	
	14	マネジメント（3） ・工程管理（2） ・サービスマネジメント ・システム監査	
	15	マネジメント分野まとめ(WebClass:ITパスポート過去問と解説公開) ・マネジメント分野の全範囲を対象としたITパスポート過去問講座	
到達目標・基準	◎D：企業組織、財務など、経営全般に関する重要な基礎用語を説明できる。またシステム開発の流れを知り、基本的な業務を説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：次回の範囲の用語について、各自学習して授業に参加する。(60分) 事後学習：毎週授業開始時に、一問一答式の口頭テストを行う。前回の授業内容がテスト範囲になる為、毎週自分の言葉で用語等の説明ができるように事後学習を行う。(120分)		
指導方法	講義のテーマ区切りごとに小テストによる評価を行う。小テストはペーパーに限らず、一問一答式の口頭でのテスト形式も用いる。また資格試験対策のための模擬試験にはWebClassを使用する。 フィードバック方法：一問一答式テストは、その場で正解・不正解を発表。説明を加える。模擬試験もその場で正解・不正解が表示され、解説が行われる。		
成績評価の方法・基準	D：ITパスポートのストラテジ分野及びマネジメント分野の試験問題に準拠した定期試験で評価する。併せて毎週実施する小テストの回答数及び正答数で評価する。		

	評価の比率は受講態度15%、小テスト 35%、定期試験 50%とする。
テキスト	平成31/01年 イメージ&クレーバー方式でよくわかる 栢木先生のITパスポート教室(技術評論社) ※情報処理演習と同じテキストを使用する。
参考書	平成31/01年度 栢木先生のITパスポート教室準拠 書き込み式ドリル (技術評論社)
履修上の注意	ITパスポートの試験範囲に則った授業範囲となっている。 ITパスポート試験の合格を目指す学生には是非受講していただきたい。 前回の学習内容が翌週にはすぐに小テストで確認されるため、毎週の予習・復習が重要である。 また、資格取得を希望する/しないに関わらず、「情報処理演習」と併せて履修することを強く推奨する。
アクティブ・ラーニング	一問一答テスト
I C Tの活用	WebClass, Netウィッチ

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
別宮玲、福田博志			
Subject Code : E26C39			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>コンピュータの仕組み、ハードウェアの知識、コンピュータを操作するための基礎知識を身に付けた後、表計算ソフト、データベースソフトの基本操作と基礎理論を学ぶ。ネットワークやセキュリティといった現在の情報社会において重視される技術分野についての学習も本授業の範囲とする。またここで得た知識を活かした資格取得の方法も学べる授業である。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎D：ITパスポート試験テクノロジー分野における合格水準の知識を身につける。 ○E：ITパスポート試験テクノロジー分野に求められるデータベースおよび表計算の操作ができる。</p>		
授業計画	1	ガイダンス／ハードウェア（1）	
		・ 授業概要	
		・ 情報の表現	
	2	ハードウェア（2）	
		・ 5大装置とCPU	
		・ メモリとキャッシュメモリ	
	3	ハードウェア（3）	
		・ 補助記憶装置	
	4	ハードウェア（4）	
		・ 入力装置と出力装置	
		・ 入出力インタフェース	
	5	ハードウェア（5）	
		・ 基数変換と補数①	
	6	ハードウェア（6）	
		・ 基数変換と補数②	
	7	ソフトウェアとマルチメディア（1）	
		・ ソフトウェア	
		・ ファイル管理	
	8	ソフトウェアとマルチメディア（2）	
		・ バックアップ	
		・ データ形式とマルチメディア	
	9	システム構成（1）	
		・ システムの構成	
	10	システム構成（2）	
		・ クライアントサーバシステム	
		・ 性能評価	
	11	システム構成（3）	
		・ システムの信頼性	
	12	ネットワーク（1）	
		・ ネットワーク方式	
	13	ネットワーク（2）	
		・ 通信プロトコル	
		・ インターネットの仕組み	
	14	ネットワーク（3）	
		・ 通信サービス	
		・ 電子メール①	
	15	ネットワーク（4）	
		・ 電子メール②	
		・ WWW	
	16	ネットワーク（5）(WebClass:ITパスポート過去問と解説公開)	
		・ ネットワークに関するITパスポート過去問演習	
	17	セキュリティ（1）	
		・ 情報セキュリティ	
	18	セキュリティ（2）	
		・ ユーザ認証とアクセス管理	
	19	セキュリティ（3）	
		・ ウイルス対策	
		・ ネットワークセキュリティ	
	20	セキュリティ（4）	

	<p>暗号化技術 デジタル署名</p> <p>21 セキュリティ (5) (WebClass:ITパスポート過去問と解説公開) ・セキュリティに関するITパスポート過去問演習</p> <p>22 アルゴリズムとプログラミング ・アルゴリズムとデータ構造 ・プログラミング言語</p> <p>23 表計算 (1) ・相対参照と絶対参照</p> <p>24 表計算 (2) ・関数 ・IF関数とネスト</p> <p>25 データベース (1) ・関係データベース ・主キーと外部キー</p> <p>26 データベース (2) ・データの正規化</p> <p>27 データベース (3) ・データ抽出と論理演算 ・整列と集計</p> <p>28 データベース (4) ・排他制御と障害回復</p> <p>29 ユーザインターフェース ・ユーザインターフェース</p> <p>30 テクノロジ分野まとめ(WebClass:ITパスポート過去問と解説公開) ・テクノロジ分野全体のITパスポート過去問演習</p>
到達目標・基準	<p>◎D：業務に必要なITの基礎知識を身につけ、ハードウェア、ソフトウェアに関する主要な用語の説明ができる。</p> <p>○E：データベースおよび表計算アプリケーションの基本操作ができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：次回の範囲の用語について、各自学習して授業に参加する。(60分)</p> <p>事後学習：毎週授業開始時に、一問一答式の口頭テストを行う。前回の授業内容がテスト範囲になる為、毎週自分の言葉で用語等の説明ができるように事後学習を行う。(60分)</p>
指導方法	<p>講義とPCによる演習を併用する授業形式である。演習のテーマ区切りごとに総合演習による評価を行う。併せて毎週、口頭での一問一答テストも行なう。模擬試験にはWebClassを使用する。</p> <p>フィードバック方法：一問一答式テストは、その場で正解・不正解を発表。説明を加える。模擬試験もその場で正解・不正解が表示され、解説が行われる</p>
成績評価の方法・基準	<p>D:ITパスポートのテクノロジ分野の試験問題に準拠した定期試験で評価する。併せて毎週実施する小テストの回答数及び正答数で評価する。</p> <p>E:作成した表計算及びデータベースのファイルを評価する。</p> <p>評価の比率は受講態度15%、小テスト 35%、総合演習 50%とする。</p>
テキスト	<p>平成31/01年 イメージ&クレーバー方式でよくわかる 栢木先生のITパスポート教室(技術評論社) ※情報処理論と同じテキストを使用する</p>
参考書	<p>平成31/01年度 栢木先生のITパスポート教室準拠 書き込み式ドリル (技術評論社)</p>
履修上の注意	<p>ITパスポートの試験範囲に則った授業範囲となっている。</p> <p>ITパスポート試験の合格を目指す学生には是非受講していただきたい。</p> <p>前回の学習内容が翌週にはすぐに小テストで確認されるため、毎週の予習・復習が重要である。</p> <p>また、資格取得を希望する/しないに関わらず、「情報処理論」と併せて履修することを強く推奨する。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>一問一答テスト</p>
I C Tの活用	<p>WebClass, Net ウィッチ</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1	1	国専：選択必修
担当教員			
福田博志			
Subject Code : E17B55			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>PCを用いた文書作成スキルはあらゆる職業で必要されるといっても過言ではないだろう。また学生生活においてレポート課題など文書作成を求められる場面も非常に多い。本授業ではMicrosoft Office Specialist (MOS) 検定の「Microsoft Office Word 2016」の出題範囲にそって文書作成のためのアプリケーションであるWordの機能を学習する。また、試験に合格するコツや、テクニックなどについても学習する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎E：文書の作成と管理について、MOS Word 合格相当のPCの操作ができる。 ◎E：文書内に書式やページレイアウトを設定し、表、グラフィックや参考資料を挿入し管理する方法について、MOS Word 合格相当のPCの操作ができる。</p>		
授業計画	1	ガイダンス 授業目標および授業内容の説明 成績評価方法の説明 MOSの概要説明 演習環境に関する説明	
	2	文書の作成と管理（1）：（実習：PCによる演習） 文書を作成する 文書内を移動する	
	3	文書の作成と管理（2）：（実習：PCによる演習） 文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする	
	4	文書の作成と管理（3）・文字、段落、セクションの書式設定（1）：（実習：PCによる演習） 文書を印刷する、保存する 「文書の作成と管理」確認問題を実施し標準解答を確認する 文字列や段落を挿入する 文字列や段落の書式を設定する	
	5	文字、段落、セクションの書式設定（2）・表の作成：（実習：PCによる演習） 文字列や段落を並べ替える、グループ化する 「文字、段落、セクションの書式設定」確認問題を実施し標準解答を確認する 表を作成する 表を変更する	
	6	リストの作成・参考資料の作成と管理（1）：（実習：PCによる演習） リストを作成する リストを変更する 「表とリストの作成」確認問題を実施し標準解答を確認する 参照のための情報や記号を作成する、管理する	
	7	参考資料の作成と管理（2）・グラフィック要素の挿入と書式設定（1）：（実習：PCによる演習） 標準の参考資料を作成する、管理する 「参考資料の作成と管理」確認問題を実施し標準解答を確認する グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する	
	8	グラフィック要素の挿入と書式設定（2）：（実習：PCによる演習） SmartArtを挿入する、書式設定する 「グラフィック要素の挿入と書式設定」確認問題を実施し標準解答を確認する MOS 2016の試験形式 MOS 2016の画面構成と試験環境 MOS 2016の攻略ポイント	
	9	MOS 2016攻略ポイントおよび模擬試験プログラムの使い方：（実習：PCによる演習） MOS 2016の試験形式、画面構成と試験環境の説明 模擬試験プログラムの起動方法および学習方法の説明 模擬試験実施時のトラブル対策と注意事項の説明	
	10	第1回試験対策講座：（実習：PCによる演習） 第1回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う	
	11	第2回試験対策講座：（実習：PCによる演習） 第2回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う	
	12	第3回試験対策講座：（実習：PCによる演習） 第3回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う	
	13	第4回試験対策講座：（実習：PCによる演習） 第4回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う	
	14	第5回試験対策講座：（実習：PCによる演習） 第5回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う	
	15	第6回試験対策講座：（実習：PCによる演習）	

ランダム問題による模擬試験を実施する	
到達目標・基準	<p>◎E：基本的な文書の作成および管理ができる。</p> <p>◎E：文書内に書式やページレイアウトを設定し、表、グラフィックや参考資料を挿入するための基本的な操作ができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：6回のMOS模擬試験は、出題範囲が事前に明確になっているため、十分な事前学習による高得点の獲得を期待する。(90分)</p> <p>事後学習：各講義内容で十分に理解できなかった操作、模擬試験で正答できなかった問題は事後学習で各自補完すること。(60分)</p>
指導方法	<p>パソコンを操作する実習が中心である。前半は講師と共に行う操作練習、後半は個別演習形式で進める。また授業終盤ではMOSの模擬試験による実践演習を行い、試験結果の課題に対し、個別で取り組み、質疑応答を行う。</p> <p>フィードバックの仕方：課題に関しては、授業後、直接個別対応する。</p>
成績評価の方法・基準	<p>◎E：PCを利用したMOSの模擬試験で文書の作成および管理に関する操作の評価を行う。</p> <p>◎E：PCを利用したMOSの模擬試験で書式、ページレイアウトの設定、表、グラフィック、参考資料の挿入に関する操作の評価を行う。</p> <p>またMOS合格者は評価を原則1段階アップさせる。 (本来A評価の者をS評価に、B評価の者はA評価にアップ。元々S評価の者はそのままS評価の成績となる)</p> <p>受講態度30%、総合演習70%の割合で成績評価を行う。</p>
テキスト	よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist Microsoft Word 2016 対策テキスト& 問題集 FOM出版
参考書	
履修上の注意	他のMOS資格 (Excel、PowerPoint) の受験も視野に、計画的な学習をすること。 また、授業に際し、テキストは必携である。
アクティブ・ラーニング	実習
ICTの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
伊波祥代			
Subject Code：E26C43			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ウェブデザインを行うために必要なことは、ただパソコンを上手に使えるということだけではありません。現在の社会におけるインターネットのもつ意味を知り、その長所や短所、潜在するリスクを学ぶことが重要です。 この授業ではウェブデザインのために必要な知識を身につけます。現在の市場の変化、メディアの変化を学んだ後、ネットショップを題材に、その企画、開発、運営のための技術を学び、効果的なウェブ上のビジネスの方法を学習します。 (授業目標) ◎C:インターネットに関連する法律および、ネットショップ運営に必要な知識を説明できる。 ◎D:ネットショップにおけるターゲット層の分析から、必要なサイトコンテンツ、プロモーションまで計画をし、ネットショップ実務士補合格レベルの知識をもつ。
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業紹介、講師紹介、デザインとマーケティング</p> <p>2 市場動向(1) インターネットビジネス市場</p> <p>3 市場動向(2) 小売業の分類と特徴</p> <p>4 市場動向(3) ネットショップの動向</p> <p>5 出店形態と特徴 ショッピングモール店と独自ドメイン店</p> <p>6 インターネットに関連する法律 法律の動向・法規リスト・情報セキュリティ対策</p> <p>7 ネットショップ事業の準備と制作(1) ターゲット팅と顧客ベネフィット (ディスカッション：グループに分かれ、各自が選定したショップの分析を発表、それに対する意見交換を行う)</p> <p>8 ネットショップの準備と制作(2) 商品分析・価格（同業種の中でのポジショニングの設定）</p> <p>9 ネットショップの準備と制作(3) 決済・流通（注文から納品までの流れの整理）</p> <p>10 ネットショップの準備と制作(4) サイトマップの作成</p> <p>11 ネットショップの準備と制作(5) カラーデザイン・トップページ要素の検討</p> <p>12 ネットショップの準備と制作(6) 商品ページ要素の検討・キャッチコピー・商品写真</p> <p>13 ネットショップのプロモーションと運用(2) 独自ドメイン店のプロモーション/ショッピングモール店のプロモーション</p> <p>14 ネットショップ業界における目標と課題の設定(1) 自分がネットショップを立ち上げるものと仮定して、把握すべき法律や技術を整理する（小論文）</p> <p>15 ネットショップ業界における目標と課題の設定(2) 自分がネットショップを立ち上げるものと仮定して、現在の課題と目標、行動計画をまとめる（企画書によるプレゼンテーション）</p>
到達目標・基準	◎C:ネットショップの種類、運用の流れ、実務の共通知識について説明できる。 ◎D:ウェブサイトに用いる色やキャッチコピー、写真の扱いについて効果的な方法を考えられる。
事前・事後学習	事前学習:次回範囲の教科書範囲を事前に熟読し、わからない用語は調べた上で授業に参加すること。(90分) 事後学習:毎週授業開始時に、一問一答式の口頭テストを行う。前回の授業内容がテスト範囲になる為、毎週自分の言葉で用語等の説明ができるように事後学習を行うこと。(60分)
指導方法	教科書を使用した講義形式の授業を行い、学生はその内容に基づき、各自が選定したショップのネットショップ運営企画書を完成させていく。 フィードバック方法:授業内に随時、発表時に講評としてコメント。質疑は授業後に個別対応する。
成績評価の方法・基準	◎C:ネットショップ実務士補に準拠した最終課題（筆記試験と小論文の複合形式）を評価する。 ◎D:ネットショップ運営を想定した企画書とプレゼンテーションを評価する。 授業態度20%、企画プレゼンテーション40%、最終課題（筆記試験と小論文の複合形式）40%の割合で成績評価を行う。
テキスト	改訂版ネットショップ検定公式テキスト ネットショップ実務士レベル1対応（一般財団法人ネットショップ能力認定機構）

参考書	
履修上の注意	<p>挙手による質問など、積極的な授業への参加を期待する。</p> <p>日頃から、インターネット上のサイトを観て、様々なサイトのデザインを見るよう心がけること。ネット関係のニュースも随時取り上げるため、こちらも日常的に意識して欲しい。</p>
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション ・プレゼンテーション
I C Tの活用	Webclass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
伊波祥代			
Subject Code : E16C48			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「ウェブデザイン実務士」資格取得のための必修科目です。効果的で説得力のあるウェブページデザインを実現するために、まずは色彩の基本知識を学びます。色彩の本質を理解し、色彩によるコミュニケーション、色彩心理、色彩計画について学んだ後、グラフィック系アプリケーションのPhotoshopを使って、色調補正、画像合成、エフェクト加工など、具体的なグラフィック制作の手法を習得していきます。</p> <p>○D：色彩理論を理解し、WEB制作における適切な画像処理ができる。 ◎E：Photoshopでの色調整、エフェクト加工、合成技術を用いて、効果的な表現ができる。</p>		
授業計画	1	ガイダンス 授業の概要/講師紹介/過去の学生の作品紹介	
	2	色彩の基礎知識 印刷用媒体（CMYK）とWEB媒体（RGB）の色の違いの学習/明度・彩度・色相の理解	
	3	グラフィックソフトでの色の作成 明度・彩度・色相の概念、およびRGBの数値に基づき、実際に色を作成する。	
	4	HTMLの16進数カラーの理解 Photoshopで作成した色を、htmlで記述する方法を学ぶ。	
	5	色彩の効果についての学習（プレゼンテーション：各自が発表） テーマカラー別に、実際のサイトを検証する。	
	6	画像の圧縮 GIF、JPG、PNGの圧縮方法の違いの理解/圧縮方法ごとの書き出し結果の違いを検証。	
	7	解像度とトリミング Photoshop画像を用い、解像度の概念の理解、および数値を入力してのトリミング方法を習得。	
	8	色補正/色調整 実際の写真を用いて、色補正、色調整などの方法を学ぶ。	
	9	画像合成 画像の切り抜きをして、2つ以上の写真を1枚の画像に合成する。	
	10	テキストのデザイン Photoshopを使い画像に文字を配置し、エフェクト、レイヤースタイル、マスクを使い、効果的な表現方法を学ぶ。	
	11	メディアからの画像の取り込み デジカメやスマートフォンで撮影した写真を、パソコンに取り込む	
	12	自由制作1 修得したPhotoshop技術を用いて、自らが想定したECショップのホーム画像/バナー画像の作成。	
	13	自由制作2 修得したPhotoshop技術を用いて、自らが想定したECショップのホーム画像/バナー画像の作成。	
	14	自由制作3 修得したPhotoshop技術を用いて、自らが想定したECショップのホーム画像/バナー画像の作成。	
	15	発表/講評（プレゼンテーション） 各自が制作したデザインのプレゼンテーションを行う。	
到達目標・基準	○D：色の3原則、画像の圧縮方法について説明できる。 ◎E：Photoshopを使って画像データの色調整ができる。画像合成ができる。		
事前・事後学習	事前学習:次の授業で行う工程に合わせ、必要な素材を用意する(60分) 事後学習:授業内で出た課題を完了させる。(60分)		
指導方法	課題に沿って講義を行い、その後一人1台ずつパソコンを使用して演習を行う。 毎回の授業で与えられた課題を制作し、完成させたグラフィックデータを提出する。 学生が考察した内容を発表し、自分の作品のプレゼンテーションも行う。 フィードバック方法：授業後、質疑に対して個別対応する。		
成績評価の方法・基準	○D：色彩理論と画像処理の基本知識を理解できているかを評価する。 ◎E：習得した技術を応用し、見やすく質の高い表現が実現できているかで評価する 授業毎の課題提出物：30%、レポート：20%、最終自由作品：50%		
テキスト	授業に必要な資料は配布するので、テキストの購入の必要はありません。		
参考書			
履修上の注意	画像の編集技術など、授業内で説明した内容を聞き逃すと、自由作品制作時など後から支障がでてきます。授		

	業中の私語は慎み、できるだけ欠席も控えるよう心がけてください。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション・ディスカッション
I C Tの活用	Webclass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
伊波祥代			
Subject Code : E26C49			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>学生自らが作成したシナリオに基づき、撮影、編集、書き出しまでを行い、1本の動画作品として完成させます。ビデオ編集はAdobe Premiere Proを使用して制作を行い、最後には各自の作品の上映会を行います。これまで閲覧する側だった動画も、自分で意図した通りに自由に編集、表現できるようになり、制作の醍醐味を楽しんでもらえる時間となるはずです。</p> <p>◎D: デジタルデータの特性を理解し、動画編集ソフトのエフェクト効果の適応、合成機能など高度な編集ができる。 ◎E: 技術を駆使し、見る側の感情に訴えかけるような表現ができる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業紹介、講師紹介、昨年の学生の作品紹介</p> <p>2 デジタルビデオの基本知識 作業の流れの把握 解像度、圧縮形式などの学習+チュートリアル（体験）</p> <p>3 プレミアの基本操作（1） チュートリアルレッスン（クリップの編集/各種ツールの使い方）</p> <p>4 プレミアの基本操作（2） チュートリアルレッスン（タイトルの挿入/図形の描画/トランジション/マーカー）</p> <p>5 プレミアの基本操作（3） チュートリアルレッスン（透明度/キーフレームアニメーション）</p> <p>6 プレミアの基本操作（4） チュートリアルレッスン（エフェクト/合成）</p> <p>7 動画ファイルの取り込み 自分のスマホの動画ファイルをパソコンに取り込み、Premiereで編集をする</p> <p>8 作品計画の立案（プレゼンテーション） シナリオに基づき、撮影方法、出演者、サウンドの用意など、具体的な方法を発表</p> <p>9 ビデオ編集（1） ビデオ撮影/編集</p> <p>10 ビデオ編集（2） タイトル、キャプションの挿入</p> <p>11 ビデオ編集（3） 写真やサウンドの挿入</p> <p>12 ビデオ編集（4） 各自編集作業を続ける</p> <p>13 ビデオ編集（5） 各自編集作業を続ける</p> <p>14 ビデオ編集（6）書き出し 完成した作品を、書き出す</p> <p>15 作品発表会（プレゼンテーション：最終プレゼンテーション） 各自の作品を上映、プレゼンテーションを行う</p>
到達目標・基準	◎D: 一動画編集作業の一連の流れを理解する。 ◎E: 動画編集ソフトの基本機能を使い、自分で撮影したビデオとBGMを素材に1本のビデオ作品を完成できる。
事前・事後学習	事前学習: 次の授業で行う工程に合わせ、必要な素材を用意する(60分) 事後学習: 授業内で出た課題を完了させる。(60分)
指導方法	課題に沿って講義を行い、その後一人1台ずつパソコンを使用して演習を行う。 毎回の授業で与えられた課題を制作し、完成させビデオデータを提出。後半の6回の授業では、自由作品として自分の立てたシナリオに沿って映像作品を完成させ、最後に鑑賞会・講評会を行う。 フィードバック方法: 課題については、授業後個別対応する。
成績評価の方法・基準	◎D: チュートリアル課題において、基本知識、技法が身についているかで評価する。 ◎E: 後半6回の授業を通じて制作する自身の作品において、習得した技術を応用し、質の高い表現が実現できているかで評価する 授業毎の課題提出物: 30%、レポート: 20%、最終自由作品: 50%
テキスト	授業に必要な資料は配布するので、テキストの購入の必要はありません。
参考書	

履修上の注意	編集技術など、授業内で説明した内容を聞き逃すと、自由作品制作時など後から支障がでてきます。授業中の私語は慎み、できるだけ欠席も控えるよう心がけてください。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
I C Tの活用	Webclass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
小山洋行			
Subject Code : E16C46			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	デザイン分野で必須のソフトウェア「Adobe Illustrator」や「Adobe Photoshop」を用いて、総合的なデザインを学ぶ演習である。 基本的な技術から応用技術まで幅広い範囲を段階的に学習することで、状況に合わせたソフトウェアの活用方法を修得する。 なお、メディアコンテンツ演習Aでは「Adobe Illustrator」を主とした演習を行い、「Adobe Photoshop」は補助的に使用する。 (授業目標) ○D：多くの人々が利用しやすいようにデザイン（ユニバーサルデザイン）をすることができる。 ◎E：IllustratorとPhotoshopでデザインができる。		
授業計画	1	Illustrator 基本 (1) (実習 イラストレータ修得) 文字入力、図形作成、配置、色についてを実践します。	
	2	Illustrator 基本 (2) (実習 イラストレータ修得) 文字の行間、文字詰め、フォントの種類によるイメージ効果を学びます。	
	3	Illustrator 基本 (3) (実習 イラストレータ修得) 写真画像の配置、袋文字の活用方法を実践します。	
	4	文字を活用したデザイン (1) 就職活動等にも活用可能な名刺のデザインを行います。	
	5	文字を活用したデザイン (2) 名刺デザインを画像と文字を使い構成します。	
	6	パスツール実戦 Illustrator のパスを扱えるよう実践します。	
	7	キャラクターデザイン (1) LINEスタンプに活用できるような「感情に訴える」キャラクターを考えます。	
	8	キャラクターデザイン (2) 考えたキャラクターをイラストレータでデザインします。	
	9	制作課題 キャラクターのデザインをイラストレータのパスの機能を活用し細かなところまで丁寧に作成します。	
	10	制作課題 キャラクターデザインを完成させ、提出し、キャラクターの表情や動きなどの魅力が出ているか講評を行います。	
	11	WEBデザインでのIllustratorの活用方法 イラストレータの特徴をふまえ、効率よくデザインする為のノウハウを学びます。	
	12	インターフェイスデザイン (1) WEBページ等にあるボタン等を考察し、傾向を見いだします。	
	13	インターフェイスデザイン (2) ボタン等をロールオーバー時も含めたデザインをします。	
	14	Photoshop 基本 (1) (実習 フォトショップ修得) 文字、図形、レイヤーの扱い方を実践します。	
	15	Photoshop 基本 (2) (実習 フォトショップ修得) 写真画像の加工の仕方を実践します。	
到達目標・基準	多様なウェブデザインスキルを求められる近年の状況に応える為の演習です。多くの人々が利用しやすいようにデザイン（ユニバーサルデザイン）するといった「思いやりのあるデザイン」を出来るようにする。情報設計をしながら、より魅力的なものをデザイン出来るようにする。色彩感覚、構図・構成、文字の扱い方等の基礎力を身につける。 LINEスタンプのような感情に訴えるキャラクターデザインが出来るよう学ぶ。 ○D：見やすいデザインができる。 ◎E：IllustratorとPhotoshopの操作ができる。		
事前・事後学習	事前学習：普段の生活の中にあるデザインされたものをより意識して見て、本質を見抜き自分の表現の引き出し作りをする。(30分) 事後学習：自分のデザインしたものを客観的にとらえ、マーケット的にどの立ち位置にあるかを意識し、更なるクオリティアップのための考察を行う。(30分)		
指導方法	実習形式の授業です。幾つかの制作課題を与えながら指導する。 課題作品の講評や質疑応答によるフィードバックを行う。		
成績評価の方法・基準	授業態度、実習結果、および提出課題で評価する。 授業態度 30%、実習結果・提出課題 70% D：課題で作成したデザインが見やすい、わかりやすいか評価する。		

	E:IllustratorとPhotoshopの適切な操作をしてデザインがされているか評価する。
テキスト	資料を配布します。
参考書	
履修上の注意	「地味な事でもコツコツ積み上げて行くのが好き」「色の組み合わせを考えるのが好き」「人のためになるデザインが好き」「絵を描くのが好き」といった方に向いている実習である。
アクティブ・ラーニング	実習
I C Tの活用	ソフトウェア Adobe photoshop、 Adobe Illustrator、 ウェブブラウザ 、インターネットを活用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
小山洋行			
Subject Code：E26C47			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	デザイン分野で必須のソフトウェア「Adobe Illustrator」や「Adobe Photoshop」を用いて、総合的なデザインを学ぶ演習である。 基本的な技術から応用技術まで幅広い範囲を段階的に学習することで、状況に合わせたソフトウェアの活用方法を修得する。 メディアコンテンツ演習Bでは「Adobe Photoshop」を主とした演習を行い、「Adobe Illustrator」は補助的に使用する。 (授業目標) ◎D：マーケティングを考慮し、消費者の行動や価値観を分析したのちターゲットを決めて、それに合わせたデザインができる。 ○E：IllustratorとPhotoshopを連携させてデザインができる。		
授業計画	1	ECサイトデザイン研究、リサーチ (実習 イラストレータ、フォトショップ修得) ECサイトデザインにおいて必要不可欠な物をリサーチレポートにまとめます。	
	2	ECサイトブランド構築 ECサイト研究に基づき、オリジナルセレクトショップの構想をたてます。	
	3	Photoshop応用 (1) 文字の扱い方や図形の作成、グループ化、整列方法など実践します。	
	4	Photoshop応用 (2) ショートカット操作を覚え作業効率を良くして行きます。	
	5	色彩 色の活用の仕方、デザインを行いながら研究します。	
	6	構図構成 枠の中にどのように配置すれば、意図した事を伝えられるか学びます。	
	7	ECサイトデザイン制作 (1) リサーチした結果をふまえ、オリジナルセレクトショップのデザインを行います。	
	8	ECサイトデザイン制作 (2) オリジナルセレクトショップのブランドイメージを意識してデザインします。	
	9	ロゴデザイン (1) Illustrator でオリジナルセレクトショップのWEBサイトに載せるロゴデザインをします。	
	10	ロゴデザイン (2) ロゴデザインを5種類デザインしその中から一番適切な物を採用し、WEBデザインの中に組み込みます。	
	11	Photoshop と Illustrator の連携 Photoshop と Illustrator の特徴を理解し、状況にあわせて使い分ける事を学びます。	
	12	ECサイトデザイン制作課題 (3) ロゴデザインと調和するように調整して行きます。キャンペーンバナー等も加えてリアリティのあるデザインにします。	
	13	制作課題 ECサイトのクオリティを上げるための試行錯誤を行います。	
	14	ECサイトデザイン制作課題 (発表、講評) 完成したデザインを発表し、講評も行います。	
	15	スマートフォンサイトデザイン (実習 スマートフォン応用) PC用にデザインしたECサイトをスマートフォン向けに調整し、レスポンシブデザインについて学びます。	
到達目標・基準	多様なウェブデザインスキルを求められる近年の状況に応える為の演習です。消費者の行動や価値観の多様化に伴い、しっかりとマーケティングを考慮しターゲットを明確にして論理的なデザインが出来るようにする。情報設計をしながら、より分かりやすく見やすいデザインが出来るようにする。色の構成や文字の扱いの基礎力を身につける。 セレクトショップのWEBデザインが出来るように学ぶ。 ◎D：ターゲットの立場を考えた「思いやりのあるデザイン」ができる。 ○E：IllustratorとPhotoshop双方のデータのやりとりができる。		
事前・事後学習	事前学習：普段の生活の中にあるデザインされたものをより意識して見て、本質を見抜き自分の表現の引き出し作りをする。(30分) 事後学習：自分のデザインしたものを客観的にとらえ、マーケット的にどの立ち位置にあるかを意識し、更なるクオリティアップのための考察を行う。(30分)		
指導方法	実習形式の授業です。幾つかの制作課題を与えながら指導する。 課題作品の講評や質疑応答によるフィードバックを行う。		
成績評価の方法・基準	授業態度、実習結果、および提出課題で評価する。 授業態度 30%、実習結果・提出課題 70%		

	D:「思いやりのあるデザイン」「マーケティングを意識したデザイン」になっているかを評価する。 E:デザインする要素に応じてIllustratorとPhotoshopを効率よく活用できているかを評価する。
テキスト	資料を配布する。
参考書	
履修上の注意	「地味な事でもコツコツ積み上げて行くのが好き」「色の組み合わせを考えるのが好き」「人のためになるデザインが好き」「絵を描くのが好き」といった方に向いている実習である。
アクティブ・ラーニング	実習
I C Tの活用	ソフトウェア Adobe photoshop、 Adobe Illustrator、 ウェブブラウザ、 インターネットを活用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択必修
担当教員			
中村敏			
Subject Code : E27B54			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	本授業は、様々なビジネスシーンで必要となるプレゼンテーションスキルを自律的に学習できるように、対話形式の講義を行うとともに、ワークショップ形式で授業を進める。また、身近な題材を取り上げることにより、受講者が楽しみながら学べる授業を目指している。授業の成果発表として、全員が複数回のプレゼンテーション実習を行う。 以下に示した授業目標は、発表者と聞き手の関係の中で設定している。 (授業目標) ◎B：聞き手の立場とメリットを十分に理解し、聞き手に分かりやすく自分の考えを正確に伝え、行動させることができる。 ○C：聞き手の現状と目指すべきゴールとのギャップを的確に把握し、ゴールに導くアイデアを論理的に整理することができる。また、聞き手の理解度に合わせて説明する内容を替えることができる。
授業計画	1 ガイダンス、プレゼンテーションとは何か (ICT：スマホ、タブレット、PCを活用し自ら学習を行う全15回) キーメッセージ「資格では差がつかないが、伝え方では差がつく」 授業の進め方のオリエンテーションを行い、授業の全体像、心構え、内容、進め方について理解する。受講者の考えるプレゼンテーションとは何か、本授業を通して何を身に付けたいのかを自己紹介とともに話してもらう。受講者全員のプレゼンテーションに対する認識の整理と本授業のゴールを明確にする。(全員が必ず発表する) 2 プレゼンテーションの本質、聞き手志向とは キーメッセージ「何故、プレゼンテーションをするのか？」 前回の授業で整理したプレゼンテーションに対する認識から、プレゼンテーションの成功とは何なのか？ 聞き手の立場から考える。この時、非常に重要な聞き手の特性として、抵抗の6階層について学ぶ。 3 創造的な作業、ブレインストーミング演習① (グループワーク、プレゼンテーション：ブレインストーミングからグループのまとめを発表) キーメッセージ「プレゼンテーションの最初の一步はアイデアの創造」 本演習は、グループワークで行う。 テーマ：コンビニエンスストアの店長になった時、今よりも儲けるためにはどうすれば良いのか？ ブレインストーミングによる、アイデア出し、アイデアの誘発・拡散を行い、その結果から採用するアイデアの整理、絞り込みを行う。アイデアを実現するために、誰に、どのようなプレゼンテーションをすれば良いのかを整理する。(グループワークを通じて代表者が発表する) 4 創造的な作業、ブレインストーミング演習② (グループワーク、プレゼンテーション：ブレインストーミングからグループのまとめを発表) キーメッセージ「プレストはアイデアの相互作用、誘発を狙う場所」 本演習は、グループワークで行う。 テーマ：コンビニエンスストアの店長になった時、今よりも儲けるためにはどうすれば良いのか？ ブレインストーミングによる、アイデア出し、アイデアの誘発・拡散を行い、その結果から採用するアイデアの整理、絞り込みを行う。アイデアを実現するために、誰に、どのようなプレゼンテーションをすれば良いのかを整理する。(グループワークを通じて代表者が発表する) 5 プレゼンテーションの効果的な構成 (グループワーク、プレゼンテーション：ブレインストーミングからグループのまとめを発表) キーメッセージ「発表者は聞き手のナビゲーター (論理的な流れ)」 プレゼンテーションを行う時、最もやってはいけないことは、聞き手に漂流させてしまうことである。話があちこちに行ってしまったら、聞き手を置いてきぼりにしたりすると、聞き手は何も聞かなくなる。これを防ぐためには、プレゼンテーションのシナリオ、世界地図が必要になる。ここでは、シナリオの作り方を学ぶ。 6 課題 プレゼンテーション実習① (グループワーク、プレゼンテーション：ブレインストーミングからグループのまとめを発表) キーメッセージ「聞き手に向けて地図を書く (聞き手を見ながら)」 ブレインストーミング演習の結果から、各自がプレゼンテーションの資料を作成する。グループ毎に各自がプレゼンテーションを行い、最もよかった発表者を選出する。各グループの代表者がプレゼンテーションを行い、受講者が評価し、コメントする。(全員が発表する) 7 課題 プレゼンテーション実習② (グループワーク、プレゼンテーション：ブレインストーミングからグループのまとめを発表) キーメッセージ「聞き手に向けて地図を書く (聞き手を見ながら)」 ブレインストーミング演習の結果から、各自がプレゼンテーションの資料を作成する。グループ毎に各自がプレゼンテーションを行い、最もよかった発表者を選出する。各グループの代表者がプレゼンテーションを行い、受講者が評価し、コメントする。(全員が発表する) ここまでが、プレゼンテーションの本質であり、基礎にあたる。(聞き手志向、アイデア創出、シナリオ作成) 8 プレゼンテーションの効果的なスタート方法 (グループワーク、プレゼンテーション：ブレインストーミングからグループのまとめを発表) キーメッセージ「導入の言葉は自然に聞き手を引き込むような短い表現」 ここからは、プレゼンテーションスキルを高める応用について学習する。 聞き手は、ほとんどの場合、プレゼンテーションを聞く準備ができていない。これを発表者に注意を向けさせ、短時間でプレゼンテーションの内容に興味を持たせることがスムーズにプレゼン

	<p>テーションを行う上で重要になる。ここでは効果的なスタート方法について学習する。(理解度を測定するワークを行い代表者が発表する)</p> <p>9 スライドの役割とは キーマッセージ「主役は「発表者」スライドは「脇役」(名脇役=Less is More)」 プレゼンテーションの主役は、聞き手と発表者である。本来、スライドはプレゼンテーションを効果的に補助するためのものであるが、多くのプレゼンテーションではスライドが主役になっている。具体的には、発表者の話を聞かずに、スライドを読んでいる状態をさす。本来のスライドの役割を理解し、効果的なスライドの作成について学ぶ。(理解度を測定するワークを行い代表者が発表する)</p> <p>10 プレゼンテーションデザイン① 文字に語らせる キーマッセージ「文字に語らせる」 効果的に聞き手の記憶にメッセージを残すためには、「聞くこと」と「見ること」を同時に行う必要がある。この時、「見ること」であって「読むこと」ではない。(読み始めると、発表者の話を聞かない) 自然と文字が語るスライドの作成について学ぶ。(理解度を測定するワークを行い代表者が発表する)</p> <p>11 プレゼンテーションデザイン② 数字に語らせる キーマッセージ「数字に語らせる」 数字は大きな力を秘めている。「多い」よりも「90%以上」の方が、より明確にメッセージが伝わる。逆に数字の羅列は真実を隠す場合もある。文字と同様に、自然と数字が語るスライドの作成について学ぶ。(理解度を測定するワークを行い代表者が発表する)</p> <p>12 画像の優位性効果 キーマッセージ「百聞は一見に如かず」 「見ること」によって効果的にメッセージを伝えるものとして、写真がある。(動画もあるが、プレゼンテーションが中断されるので注意が必要) 1枚の写真で多くのメッセージを伝えることができるが、選定が難しい。有効な写真の使い方について学ぶ。(理解度を測定するワークを行い代表者が発表する)</p> <p>13 聴衆と心を通い合わせる キーマッセージ「聞き手と心を通わせる」 最後に話し方である。流暢に話すことが良いとは限らない。朴訥でも聞き手の琴線に触れ、心を通い合わせる事が重要である。その為には聞き手の立場に立って話す必要がある。聞き手と心を通い合わせる話し方について学ぶ。(理解度を測定するワークを行い代表者が発表する)</p> <p>14 最終課題 プレゼンテーション実習① 今まで学習してきたことをもとに、最終課題としてのプレゼンテーション実習を行う。自分の好きなこと、興味のあることを1つ選び、受講者の前でプレゼンテーションを行う。成功基準は、受講者が、「(なぜ好きなのか、なぜ興味があるのか)なるほど分かった」「よし、私もやってみよう」と思うかどうか。(全員が発表する) 各自、発表者と他のプレゼンテーションの審査員を担当する。</p> <p>15 最終課題 プレゼンテーション実習② 今まで学習してきたことをもとに、最終課題としてのプレゼンテーション実習を行う。自分の好きなこと、興味のあることを1つ選び、受講者の前でプレゼンテーションを行う。成功基準は、受講者が、「(なぜ好きなのか、なぜ興味があるのか)なるほど分かった」「よし、私もやってみよう」と思うかどうか。(全員が発表する) 各自、発表者と他のプレゼンテーションの審査員を担当する。</p>
到達目標・基準	<p>以下に示した到達目標は、発表者と聞き手の関係の中で設定している。</p> <p>◎B：聞き手の立場に立って、自分の考えを伝えることができる。</p> <p>○C：聞き手を導くゴールに向けてアイデアを論理的に整理して説明することができる。</p>
事前・事後学習	<p>【事前学習】 PowerPointでの資料作成は事前に学習しておくこと(テンプレートの使い方、図の作成方法、画像やグラフの挿入方法)。(30分～1時間程度)</p> <p>【事後学習】 講義内容は十分に復習すること。具体的にはWebClassに登録された講義資料(PowerPoint)をダウンロードし、ノートに書かれた説明を熟読すること。(30分～1時間程度) プレゼンテーション実習で使用するスライド作成は、授業時間外で十分に時間を確保して行うこと。(数時間程度)</p>
指導方法	<p>対話形式の講義を行うことにより、疑問点の早期収束と人前で話すことに対する不安の解消を行う。ワークショップにおいては自主的に取り組むようにファシリテートする。プレゼンテーション実習では、講師だけでなく受講生もコメントを発表することにより、話し手、聞き手の両方からプレゼンテーションの本質を理解するように指導する。</p> <p>後半のカリキュラムからは、より実践的に学習するために、優れたプレゼンテーション事例を取り上げケーススタディを行う。</p> <p>フィードバックの方法：①ワークの実施 ②スライド作成については個々にメールによる指導 ③授業後の質疑応答</p>
成績評価の方法・基準	<p>B：ワークショップにおけるチーム活動の取り組み状況と、聞き手を意識したプレゼンテーションの到達度で評価する。</p> <p>C：各講義の課題に対する取り組み状況と、プレゼンテーションのシナリオの論理性で評価する。</p> <p>評価は、授業への参加態度20%、課題の取組み状況30%、プレゼンテーション実習50%の比率で行う。</p>
テキスト	<p>購入テキストなし 講義資料を毎回配布する。</p>
参考書	<p>パワー・プレゼンテーション ジェリー・ワイズマン 著(ダイヤモンド社) シンプルプレゼン ガー・レイノルズ 著(日経BP社) マッキンゼー流プレゼンテーションの技術 ジーン・ゼラズニー 著(東洋経済新報社)</p>
履修上の注意	<p>プレゼンテーション実習は必ず出席すること。また、ワークショップの構成上、極力遅刻は避けること。各自設定したテーマのプレゼンテーションの作成は授業内容を踏まえ授業時間外での自習時間を当てること。グループワークは集団行動の基本を順守し、グループの和を乱すような態度や言動を慎むこと。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>グループワーク、プレゼンテーション</p>
ICTの活用	<p>スマホ、タブレット/PC</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
藤井直子			
Subject Code : E17C58			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>【授業内容】秘書検定3級合格を目指す。 秘書の役割と資質、一般知識と基本的技能を習得し、実社会で必要な知識や能力について主体的に取り組みながら理解を深める。 自己能力を高め、それらを発揮出来る職業選択の幅と可能性を広げていく。</p> <p>【授業目標】秘書の役割、資質、一般知識、接遇技能について知識を習得し、実社会で生かせる実践力を養う。 ◎D：秘書の資質、技能を理解するとともに、社会人として必要な資質と能力を習得する。 ○E：学習した秘書としての基本的な知識・能力を、社会での諸活動で発揮出来る。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション/社会人としての自覚と心構え 授業概要説明（到達目標の確認、授業での心構え、評価方法） 秘書検定3級試験に関する説明（秘書検定審査基準、受験の際の注意点） 秘書の心構えを習得する。</p> <p>2 秘書の資質・役割/秘書の職務知識 秘書に求められる役割・必要な資質について理解する。 秘書に求められる4つの基本能力について理解する。 上司の仕事と役割を知る。 定型業務と非定型業務における秘書の仕事・効率的な仕事の進め方を学ぶ。</p> <p>3 企業の基礎知識 企業の組織と役割を理解する。 経営管理についての基礎知識を学ぶ。 経営管理に関する初歩的な用語を学ぶ。</p> <p>4 社会常識について 社会常識、経済に関する基本用語を学ぶ。</p> <p>5 マナー・接遇 1 社会での円滑な人間関係についての重要性を理解する。 接遇の心構え、秘書としてマナー、敬語、接遇用語を理解し身に付ける。</p> <p>6 マナー・接遇 2 話し方の応用 指示の受け方、報告・説明をする際の心がけとポイントを理解する。 話の初歩的な聴き方を理解する。</p> <p>7 電話応対 電話のマナーと対応の仕方を学ぶ。（全員がグループワークを通して、実践力を身に付ける）</p> <p>8 マナー・接遇 3 来客応対 来客応対の基本マナーを学ぶ。（全員がグループワークを通して、実践力を身に付ける）</p> <p>9 ICT活用：授業内外での理解力・実践力を深めるため、6月実施の秘書検定試験対策として、WebClassで公開する秘書検定試験用練習問題を各自自主的に活用する。 交際の業務について 慶事・弔事のマナーについて学ぶ。 慶事・弔事での秘書の対応について学ぶ。 贈答のしきたりとマナーを習得する。</p> <p>10 会議と秘書の役割について 会議の目的と予備知識を理解する。 秘書が行う会議の主な準備、会議中の主な仕事、事後処理について学ぶ。</p> <p>11 ビジネス文書の作成 社内文書、社外文書の種類と形式を理解する。 ビジネス文書の慣用表現と敬語を習得する。 メモの種類と効果的な取り方を学ぶ。 折れ線グラフ、棒グラフの書き方を学ぶ。</p> <p>12 文書管理 ビジネス文書の受信・発信方法を理解する。 「秘」扱い文書の取り扱いについて理解する。 郵便の基礎知識を学ぶ。</p> <p>13 資料管理・スケジュール管理 資料の整理、保管、簡単な社内外の情報収集、整理、保管方法を学ぶ。 上司のスケジュール管理について理解する。 快適な職場環境をつくるための基礎知識を学ぶ。</p> <p>14 問題演習と解説 1 これまでに学習した内容についての確認と理解を深める。 秘書検定3級問題演習と解答・解説</p> <p>15 問題演習と解説 2 秘書検定3級問題演習と解答・解説</p>

到達目標・基準	秘書検定3級に合格する実力を身に付ける。 秘書検定3級に合格出来る実力を身に付ける。 ◎D：秘書の役割を全うするために必要なことを通し、秘書としての基本的な知識・資質を理解する。 ○E：学習した秘書の資質、知識、技能を日常生活から実践することが出来る。
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容に関するテキストの章を事前に読んでおくこと。（約60分） 事後学習：毎回の授業で学習した内容を必ず復習すること。（約60分） 学習したことを日常生活で実践すること。（約60分）
指導方法	講義は基本的にテキスト・適宜パワーポイントを使用し進める。 一方的な講義ではなく、思考力を有する演習問題等を積極的に取り入れる。 フィードバックの仕方：確認チェックテスト、実問題演習に関しては都度授業内で質疑応答を行い解説する。
成績評価の方法・基準	D：定期試験・授業態度を評価する。 E：授業中の発言力・定期試験を評価する。 事前学習20%、定期試験40%、授業への貢献度・積極性40%
テキスト	『秘書検定3級クイックマスター』 実務技能検定協会編 早稲田教育出版
参考書	『秘書検定集中講義3級』 実務技能検定協会 早稲田教育出版 『秘書検定3級実問題集』 実務技能検定協会
履修上の注意	知識を習得するだけではなく、それらを実際に活かせる力にすることが大切である。その為には、時間管理・身だしなみ・言葉遣い・マナーなどを日頃から実践し日々の習慣にすることが、自己能力と社会人としての自覚を高め、就職内定にも大きく繋がることを自覚してほしい。 学習したことを自分の日常生活や今後のインターンシップなどの体験に落とし込みながら自主的に考え行動し、学習内容を深く習得すること。 毎回の授業の積み重ねが大切であるため、欠席、遅刻をしないこと。 尚、受講者の理解度、参加意識などに応じて、授業内容を一部変更する場合がある。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
I C T の活用	WebClass 授業内外での理解力・実践力を深めるため：6月実施の秘書検定試験対策として、WebClassで8回目の授業日に公開する秘書検定試験用練習問題を各自自主的に活用する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
松岡友子			
Subject Code : E17C59			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	授業内容とそのねらい ・秘書技能検定2級合格に必要な知識と技能を習得する。 ・問題演習を行いながら、テキストを用いて確認し、知識を深める。 ・職務知識や一般知識で頻出の用語については、課題として各自で調べたものをWebClassを活用して共有し、クラス全体での理解を深める。 授業目標 ◎D：秘書検定2級に合格する。さらにはビジネス文書検定・ビジネス電話検定合格にも対応する幅広い知識を理解する。 ○E：単なる検定対策として知識を理解するだけでなく、社会人に必要とされる技能として身につける。		
授業計画	1	オリエンテーション／秘書検定とは／秘書の心構え 自己紹介・講義の到達目標の確認・授業の共通ルールの徹底 秘書検定の受け方・審査基準説明 秘書に必要なとされる資質・心構えを理解する WebClass:自己紹介文の提出 グループワーク	
	2	秘書に必要な条件／秘書の役割と機能／秘書の職務 秘書に求められる6つの能力について理解する 職務知識として秘書の役割と機能を理解する 定型業務・非定型業務・効率的な仕事の進め方を理解する	
	3	ビジネス文書の作成 ビジネス文書の慣用語句・敬語を理解し覚える メモと簡単な口述筆記について理解する グラフの書き方を理解する	
	4	文書の取り扱い 慶事の対応を理解する 文書の受信・発信について理解する 郵便の基礎知識について理解する 適切な郵送方法とさまざまな通信について理解する	
	5	交際の業務について パーティー・会食の知識を理解する 弔事への対応・心得とマナーを理解する 贈答のしきたりとマナーを理解する	
	6	問題演習 (1) 秘書検定2級過去問演習と解答解説	
	7	問題演習 (2) 秘書検定2級過去問演習と解答解説	
	8	電話応対と接遇 電話応対の基本と実際を理解する 来客応対について理解する 席次・接待・見送りの知識を理解する 接遇用語を理解し覚える	
	9	社会常識 情報処理とニューメディアについて理解する 常識としての基礎用語と略語を理解し覚える 常識としてのカタカナ語を理解し覚える資本と経営について理解する WebClass:各自が調べた用語発表 グループワーク：各自が調べた用語を共有する	
	10	企業と経営・企業の活動 資本と経営について理解する 企業の組織形態について理解する 経営管理について理解する 生産管理、マーケティングについて理解する 会社をめぐる法律について理解する 各種用語について理解を深め、覚える WebClass:各自が調べた用語発表 グループワーク：各自が調べた用語を共有する	
	11	会議と秘書／文書・資料管理／日程管理とオフィス管理 会議の知識・会議中の秘書の仕事を理解する バーチャル・ファイリングの基本と実際を理解する 資料・書類、名刺、雑誌・カタログの整理と情報収集・管理について理解する 日程管理・オフィス管理・快適な環境づくりについて理解する	
	12	人間関係と話し方・聞き方 人間関係の重要性を理解する 話し方の基本知識を理解する	

	<p>1 3 真意をつかむ聞き方を理解する 敬語の用法について理解する 話し方・聞き方の応用 報告の仕方・説明の仕方・説得の仕方について理解する 注意・忠告の仕方と受け方について理解する 苦情処理と上手な断り方について理解する</p> <p>1 4 問題演習 (3) 秘書検定2級過去問演習と解答解説</p> <p>1 5 問題演習 (4) 秘書検定2級過去問演習と解答解説</p>
到達目標・基準	<p>◎D：2018年度後半に予定されている秘書検定2級の試験内容を理解する。 ○E：社会人として求められる、ビジネスマナー・電話応対・来客応対・ビジネス文書作成などの基礎を身につけ、実践することができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：課題が与えられている場合には取り組んで、提出する。(60分) 次回講義内容に該当するテキストを読み込む。(60分) 事後学習：テキストの問題に取り組むなどして、知識の定着をはかる。(30分)</p>
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的にはテキストを用いて講義を進める。適宜パワーポイントやプリントを使用する。 ・検定対策として、問題演習を行う。 ・課題として答案を提出する場合は、点数等評価を記録し、教員からのアドバイスとともに自身の検定への取り組みに役立てる。 ・課題によっては、WebClassを活用して提出や発表を行う。
成績評価の方法・基準	<p>◎D：秘書検定・電話検定・ビジネス文書検定など、各種ビジネス系検定の合格を目指して努力する姿勢を評価する。 ○E：学んだ知識や技能を理解しようとしているか、内容を身につけようとしているか、身につけて実践しようとしているかを評価する。</p> <p>定期試験40%、課題発表10% 授業態度・貢献度30% 課題提出20%</p>
テキスト	秘書検定集中講義2級改訂版 実務技能検定協会編 早稲田教育出版
参考書	秘書検定実問題集2級2018年度版 実務技能検定協会編 早稲田教育出版
履修上の注意	<p>秘書検定の出題範囲は、社会人として必要な基礎知識をほぼすべて網羅している。また検定の社会的認知度も高く、2級取得者は、社会人としての基礎知識の習得ができていると評価される。 勉強内容は多岐にわたり、決してやさしい検定ではないが、2級受検者の多くを学生が占めている。丁寧に学習を積み重ねれば学生でも合格は十分可能である。 ぜひ、秘書検定以外にも、電話検定やビジネス文書検定等の取得も目指してほしい。</p> <p>なお、検定実施日や資格取得状況、受講者の参加意識などにより、授業計画が一部変更される場合がある。</p>
アクティブ・ラーニング	グループワーク
I C T の活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
山崎美和			
Subject Code : E18C61			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	医療事務の仕事の中でも医療費計算業務は、医療機関の経営に係わる重要な業務です。演習問題やカルテ例題で医療費算定のルールを学び、正しい診療報酬明細書（レセプト）を作成する技術を身に付け、「医療秘書技能検定3級」「医事コンピュータ技能検定3級」取得を目指します。 (授業目標) 被保険者証及び診療録の見方、医療費算定の知識を理解し、医療事務に必要な基礎知識及び技術を身に付ける。 ○D：被保険者証及び診療録の見方、算定のルールを学び、基本的な診察料・医学管理料・投薬料・注射料・処置料の正確な医療費を計算する知識を身に付ける。 ◎E：医療費計算方法と共にレセプト記載方法を学び、基本的な診察料・医学管理料・投薬料・注射料・処置料の正確な診療報酬明細書記載に関する知識を身に付ける。
授業計画	<p>1 ガイダンス（医療事務とは） 授業内容、授業の進め方、資格試験について、評価方法に関する説明 医療事務の仕事の内容について学ぶ</p> <p>2 投薬①（薬剤料） 薬価基準に記載されている金額（円）を点数に換算する方法及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>3 投薬②（調剤料、処方料、調剤技術基本料） 薬剤を処方する際の技術料やレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>4 投薬③（処方せん料） 医師が交付する処方せんにかかる技術料やレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>5 注射①（皮内・皮下及び筋肉内注射、静脈内注射） 注射薬の容器の種類と薬剤料の算定方法、注入方法の種類及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>6 注射②（点滴注射、その他） 薬剤料の算定方法と注入方法の種類及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>7 初診料 初診料の算定方法（年齢、緊急受付時間等の加算等）及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>8 再診料 再診料の算定方法（年齢、緊急受付時間等の加算等）及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>9 医学管理等①（特定疾患療養管理料、治療管理料） 病気に対する医師の指導管理等及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>10 医学管理等②（その他医学管理等） 紹介状等の文書に係る費用及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>11 在宅医療①（在宅患者診療・指導料） 医師が患者の自宅等に赴いて診療を行った場合の費用及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>12 在宅医療②（在宅療養指導管理料） 自宅等で患者（家族）が行う注射や酸素療法等の費用及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>13 処置①（通則・一般処置） 処置料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>14 処置②（その他の処置） 処置料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ</p> <p>15 外来カルテ演習 レセプトを作成する</p>
到達目標・基準	○D：初・再診、医学管理、投薬、注射、処置の各項目の基本的な計算や加算ができる。 ◎E：基本的な外来診療例（初・再診、医学管理等、投薬、注射、処置）のカルテから、診療報酬明細書を作成することができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従うこと。（30分程度） 事後学習：講義で学んだ内容（プリント、カルテ例題等）の確認。（60分程度） 授業時に出された演習等の課題を行うこと。（90分程度）
指導方法	・プロジェクトを使用して、主に配布プリント、テキストで講義を行う。 ・医療費計算を行うため、電卓の使い方も指導する。 ・授業では、主に医療費算定のルールと計算方法を解説するため、レセプトは課題として提出してもらう。 *課題のフィードバック方法：コメント記載のうえ返却及びコメントへの質疑応答
成績評価の方法・基準	D：定期試験・提出課題を評価する。 E：定期試験・提出課題を評価する。 定期試験60%、提出課題30%、授業態度・貢献度10%
テキスト	『診療点数早見表』（医学通信社・2019年出版）、『サポートブック』（ソラスト・2019年出版）、『コンピュータ入力練習カルテ例題集』（ケア&コミュニケーション・2019年出版）

参考書	
履修上の注意	<p>「医療秘書技能検定3級」「医事コンピュータ技能検定3級」取得を目標に行われるため、「メディカルワークB（前期）」、「メディカルワークC、D（後期）」も履修すること。 診療点数早見表、サポートブック、コンピュータ入力練習カルテ例題集、電卓（携帯電話、スマートフォンの使用は禁止）、配布資料は必ず持参すること。 課題は期日までに必ず提出すること。やむを得ず期日までに提出できない場合は提出できる日を報告すること。 毎回の授業が大切なため、遅刻や欠席をせず医療機関に従事することを意識し、資格取得を目標に履修して欲しい。</p>
アクティブ・ラーニング	
I C Tの活用	OHC、プロジェクタを用い授業を展開する

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	国専：選択
担当教員			
山崎美和			
Subject Code : E17C66			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	医療事務の仕事の中でも医療費計算業務は、医療機関の経営に係わる重要な業務です。演習問題やカルテ例題で医療費算定のルールを学び、正しい診療報酬明細書（レセプト）を作成する技術を身に付け、「医療秘書技能検定3級」「医事コンピュータ技能検定3級」取得を目指します。 (授業目標) 被保険者証及び診療録の見方、医療費算定の知識を理解し、医療事務に必要な基礎知識及び技術を身に付ける。 ○D：被保険者証及び診療録の見方、算定のルールを学び、基本的な診察料・医学管理料・投薬料・注射料・処置料の正確な医療費を計算する知識を身に付ける。 ◎E：医療費計算方法と共にレセプト記載方法を学び、基本的な診察料・医学管理料・投薬料・注射料・処置料の正確な診療報酬明細書記載に関する知識を身に付ける。
授業計画	1 ガイダンス（医療事務とは） 授業内容、授業の進め方、資格試験について、評価方法に関する説明 医療事務の仕事の内容について学ぶ 2 投薬①（薬剤料） 薬価基準に記載されている金額（円）を点数に換算する方法及びレセプト記載方法を学ぶ 3 投薬②（調剤料、処方料、調剤技術基本料） 薬剤を処方する際の技術料やレセプト記載方法を学ぶ 4 投薬③（処方せん料） 医師が交付する処方せんにかかる技術料やレセプト記載方法を学ぶ 5 注射①（皮内・皮下及び筋肉内注射、静脈内注射） 注射薬の容器の種類と薬剤料の算定方法、注入方法の種類及びレセプト記載方法を学ぶ 6 注射②（点滴注射、その他） 薬剤料の算定方法と注入方法の種類及びレセプト記載方法を学ぶ 7 初診料 初診料の算定方法（年齢、緊急受付時間等の加算等）及びレセプト記載方法を学ぶ 8 再診料 再診料の算定方法（年齢、緊急受付時間等の加算等）及びレセプト記載方法を学ぶ 9 医学管理等①（特定疾患療養管理料、治療管理料） 病気に対する医師の指導管理等及びレセプト記載方法を学ぶ 10 医学管理等②（その他医学管理等） 紹介状等の文書に係る費用及びレセプト記載方法を学ぶ 11 在宅医療①（在宅患者診療・指導料） 医師が患者の自宅等に赴いて診療を行った場合の費用及びレセプト記載方法を学ぶ 12 在宅医療②（在宅療養指導管理料） 自宅等で患者（家族）が行う注射や酸素療法等の費用及びレセプト記載方法を学ぶ 13 処置①（通則・一般処置） 処置料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 14 処置②（その他の処置） 処置料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 15 外来カルテ演習 レセプトを作成する
到達目標・基準	○D：初・再診、医学管理、投薬、注射、処置の各項目の基本的な計算や加算ができる。 ◎E：基本的な外来診療例（初・再診、医学管理等、投薬、注射、処置）のカルテから、診療報酬明細書を作成することができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従うこと。（30分程度） 事後学習：講義で学んだ内容（プリント、カルテ例題等）の確認。（60分程度） 授業時に出された演習等の課題を行うこと。（90分程度）
指導方法	・プロジェクトを使用して、主に配布プリント、テキストで講義を行う。 ・医療費計算を行うため、電卓の使い方も指導する。 ・授業では、主に医療費算定のルールと計算方法を解説するため、レセプトは課題として提出してもらう。 *課題のフィードバック方法：コメント記載のうえ返却及びコメントへの質疑応答
成績評価の方法・基準	D：定期試験・提出課題を評価する。 E：定期試験・提出課題を評価する。 定期試験60%、提出課題30%、授業態度・貢献度10%
テキスト	『診療点数早見表』（医学通信社・2019年出版）、『サポートブック』（ソラスト・2019年出版）、『コンピュータ入力練習カルテ例題集』（ケア&コミュニケーション・2019年出版）

参考書	
履修上の注意	<p>「医療秘書技能検定3級」「医事コンピュータ技能検定3級」取得を目標に行われるため、「メディカルワークB（前期）」、「メディカルワークC、D（後期）」も履修すること。 診療点数早見表、サポートブック、コンピュータ入力練習カルテ例題集、電卓（携帯電話、スマートフォンの使用は禁止）、配布資料は必ず持参すること。 課題は期日までに必ず提出すること。やむを得ず期日までに提出できない場合は提出できる日を報告すること。 毎回の授業が大切なため、遅刻や欠席をせず医療機関に従事することを意識し、資格取得を目標に履修して欲しい。</p>
アクティブ・ラーニング	
I C Tの活用	OHC、プロジェクタを用い授業を展開する

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
山崎美和			
Subject Code : E18C62			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	医療秘書に必要な基礎的知識及び技能として、医療機関の受付業務や電話応対などの実務、医療に関する各制度・法規の内容を理解し、医療機関の事業目的及び組織・運営について学ぶ。「医療秘書技能検定3級」「医事コンピュータ技能検定3級」取得を目指します。 (授業目標) 医療秘書、医療事務の業務や実務、医療機関の役割、医療に関する法規を理解する。 ◎D：医療保険制度、各種健康保険法、守秘義務、医療関連用語、医療機関の事業目的を理解する。 ○E：医療機関の受付や電話応対、患者や医療機関で働く人々との接し方、話し方を習得する。		
授業計画	1	ガイダンス（医療事務と法規） 医療秘書技能検定、授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 医療事務に必要な法律の種類について	
	2	病院・診療所・調剤薬局での事務の仕事、医療秘書の仕事① 病院・診療所・調剤薬局での事務の仕事	
	3	病院・診療所・調剤薬局での事務の仕事、医療秘書の仕事② 守秘義務、電話対応、患者への接し方等について	
	4	医療機関の組織・運営① 組織の構造（ライン・スタッフ組織）と病院管理	
	5	医療機関の組織・運営② 組織の構造（ライン・スタッフ組織）と病院管理	
	6	医療機関の概要・医療保険のしくみ① 医療機関と薬局、医療保障制度の体系、医療保険の種類	
	7	医療機関の概要・医療保険のしくみ② 医療給付の範囲と種類、高額療養費、保険外併用療養費	
	8	その他の関連制度①（公費負担医療） 国や自治体が公費で診療費を負担する制度について	
	9	その他の関連制度②（労災保険、介護保険） 仕事中のけがや、介護保険法について	
	10	診療報酬に関する法規①（診療報酬請求） 診療報酬請求のしくみについて	
	11	診療報酬に関する法規②（療養担当規則） 保険医療機関や保険医が守らなければならない規則について	
	12	医療関連法規①（医療法） 保険医療機関の施設等に関する法律について	
	13	医療関連法規②（医療法） 保険医療機関の施設等に関する法律について	
	14	医療関連法規②（医療従事者に関する法律） 医師、薬剤師、看護師等の資格や業務に関する法律について	
	15	医療関連法規③（医療従事者に関する法律） 検査技師、放射線技師等の資格や業務に関する法律について	
到達目標・基準	◎D：医療保険のしくみ、各種健康保険の種類、保険給付の範囲と種類、医療関連用語を説明できる。 ○E：医療機関の受付業務、電話応対ができる。		
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容確認のため、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。（60分程度） 事後学習：授業で習ったことをテキストや配布資料で覚えるようにすること。また、検定過去問題は繰り返し解くこと。（120分程度）		
指導方法	テキスト、配布資料を中心に講義を進めながら、医療秘書技能検定・医事コンピュータ技能検定の過去の学科問題を解いていく。 接遇、各種保険制度についての課題を提出してもらい理解度を確認する。 *課題のフィードバック方法：コメント記載のうえ返却及びコメントへの質疑応答		
成績評価の方法・基準	D：定期試験を評価する。 E：定期試験、提出課題を評価する。 定期試験60%、提出課題30%、授業態度10%		
テキスト	「テキスト1医療保障制度」（ソラスト・2019年出版）		
参考書			

履修上の注意	<p>「医療秘書技能検定3級」「医事コンピュータ技能検定3級」取得を目標に行われるため、「メディカルクラークA（前期）」、「メディカルクラークC、D（後期）」も履修すること。 テキスト、配布資料は必ず持参すること。 課題は期日までに必ず提出すること。やむを得ず期日までに提出できない場合は提出できる日を報告すること。 毎回の授業が大切なため、遅刻や欠席をせず医療機関に従事することを意識して、資格取得を目標に履修して欲しい。</p>
アクティブ・ラーニング	
ICTの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	国専：選択
担当教員			
山崎美和			
Subject Code : E17C67			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	医療秘書に必要な基礎的知識及び技能として、医療機関の受付業務や電話応対などの実務、医療に関する各制度・法規の内容を理解し、医療機関の事業目的及び組織・運営について学ぶ。「医療秘書技能検定3級」「医事コンピュータ技能検定3級」取得を目指します。 (授業目標) 医療秘書、医療事務の業務や実務、医療機関の役割、医療に関する法規を理解する。 ◎D：医療保険制度、各種健康保険法、守秘義務、医療関連用語、医療機関の事業目的を理解する。 ○E：医療機関の受付や電話応対、患者や医療機関で働く人々との接し方、話し方を習得する。
授業計画	<p>1 ガイダンス (医療事務と法規) 医療秘書技能検定、授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 医療事務に必要な法律の種類について</p> <p>2 病院・診療所・調剤薬局での事務の仕事、医療秘書の仕事① 病院・診療所・調剤薬局での事務の仕事</p> <p>3 病院・診療所・調剤薬局での事務の仕事、医療秘書の仕事② 守秘義務、電話対応、患者への接し方等について</p> <p>4 医療機関の組織・運営① 組織の構造 (ライン・スタッフ組織) と病院管理</p> <p>5 医療機関の組織・運営② 組織の構造 (ライン・スタッフ組織) と病院管理</p> <p>6 医療機関の概要・医療保険のしくみ① 医療機関と薬局、医療保障制度の体系、医療保険の種類</p> <p>7 医療機関の概要・医療保険のしくみ② 医療給付の範囲と種類、高額療養費、保険外併用療養費</p> <p>8 その他の関連制度① (公費負担医療) 国や自治体が公費で診療費を負担する制度について</p> <p>9 その他の関連制度② (労災保険、介護保険) 仕事中のけがや、介護保険法について</p> <p>10 診療報酬に関する法規① (診療報酬請求) 診療報酬請求のしくみについて</p> <p>11 診療報酬に関する法規② (療養担当規則) 保険医療機関や保険医が守らなければならない規則について</p> <p>12 医療関連法規① (医療法) 保険医療機関の施設等に関する法律について</p> <p>13 医療関連法規② (医療法) 保険医療機関の施設等に関する法律について</p> <p>14 医療関連法規② (医療従事者に関する法律) 医師、薬剤師、看護師等の資格や業務に関する法律について</p> <p>15 医療関連法規③ (医療従事者に関する法律) 検査技師、放射線技師等の資格や業務に関する法律について</p>
到達目標・基準	◎D：医療保険のしくみ、各種健康保険の種類、保険給付の範囲と種類、医療関連用語を説明できる。 ○E：医療機関の受付業務、電話応対ができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容確認のため、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。(60分程度) 事後学習：授業で習ったことをテキストや配布資料で覚えるようにすること。また、検定過去問題は繰り返し解くこと。(120分程度)
指導方法	テキスト、配布資料を中心に講義を進めながら、医療秘書技能検定・医事コンピュータ技能検定の過去の学科問題を解いていく。 接遇、各種保険制度についての課題を提出してもらい理解度を確認する。 *課題のフィードバック方法：コメント記載のうえ返却及びコメントへの質疑応答
成績評価の方法・基準	D：定期試験を評価する。 E：定期試験、提出課題を評価する。 定期試験60%、提出課題30%、授業態度10%
テキスト	「テキスト1医療保障制度」(ソラスト・2019年出版)
参考書	

履修上の注意	<p>「医療秘書技能検定3級」「医事コンピュータ技能検定3級」取得を目標に行われるため、「メディカルクラークA（前期）」、「メディカルクラークC、D（後期）」も履修すること。 テキスト、配布資料は必ず持参すること。 課題は期日までに必ず提出すること。やむを得ず期日までに提出できない場合は提出できる日を報告すること。 毎回の授業が大切なため、遅刻や欠席をせず医療機関に従事することを意識して、資格取得を目標に履修して欲しい。</p>
アクティブ・ラーニング	
ICTの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
山崎美和			
Subject Code : E18C64			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	前期「メディカルクラークA」の授業に引き続き、演習問題やカルテ例題で医療費算定のルールを学び、正しい診療報酬明細書（レセプト）を作成する技術を身に付け、「医療秘書技能検定3級」「医事コンピュータ技能検定3級」取得を目指します。 (授業目標) 被保険者証及び診療録の見方、医療費算定の知識を理解し、医療事務に必要な基礎知識及び技術を身に付ける。 ○D：被保険者証及び診療録の見方、算定のルールを学び、メディカルクラークAで学んだ内容及び基本的な手術料・麻酔料・検査料・画像診断の正確な医療費を計算する知識を身に付ける。 ◎E：医療費計算方法及び共にレセプト記載方法を学び、メディカルクラークAで学んだ内容及び基本的な手術料・麻酔料・検査料・画像診断の正確な診療報酬明細書記載に関する知識を身に付ける。
授業計画	1 手術① 手術料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 2 手術・輸血② 手術料、輸血料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 3 麻酔 麻酔料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 4 検査①（検体検査：尿・糞便等、血液学的） 検体検査の種類と実施料、判断料、採取料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 5 検査②（検体検査：生化学的（Ⅰ）、（Ⅱ）） 検体検査の種類と実施料、判断料、採取料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 6 検査③（検体検査：免疫学的、微生物学的） 検体検査の種類と実施料、判断料、採取料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 7 検査④（生体検査：呼吸循環機能～耳鼻咽喉科） 生体検査の種類と実施料、判断料、低減検査の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 8 検査⑤（生体検査：眼科～内視鏡） 生体検査の種類と実施料、判断料、低減検査の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 9 病理診断 病理診断の種類と実施料、判断料、採取料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 10 画像診断①（エックス線診断料） エックス線撮影料と診断料、フィルム料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 11 画像診断②（エックス線診断料） エックス線撮影料と診断料、フィルム料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 12 画像診断③（コンピューター断層撮影診断料） コンピューター断層撮影料と診断料、フィルム料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 13 リハビリテーション・精神科専門療法 リハビリテーション、精神科専門療法の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 14 入院料（入院基本料・食事療養） 入院基本料と施設基準加算の種類、食事代の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 15 外来カルテ演習 レセプトを作成する
到達目標・基準	○D：手術、麻酔、検査、画像診断の各項目の基本的な計算や加算ができる。 ◎E：基本的な外来診療例（初・再診、医学管理等、投薬、注射、処置、手術、麻酔、検査、画像診断）のカルテから、診療報酬明細書を作成することができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従うこと。（30分程度） 事後学習：講義で学んだ内容（プリント、カルテ例題等）の確認。（60分程度） 授業時に出された演習等の課題を行うこと。（90分程度）
指導方法	・プロジェクタを使用して、主に配布プリント、テキストで講義を行う。 ・医療費計算を行うため、電卓の使い方も指導する。 ・授業では、主に医療費算定のルールと計算方法を解説するため、レセプトは課題として提出してもらう。 *課題のフィードバック方法：コメント記載のうえ返却及びコメントへの質疑応答
成績評価の方法・基準	D：定期試験・提出課題を評価する。 E：定期試験・提出課題を評価する。 定期試験60%、提出課題30%、授業態度10%
テキスト	『診療点数早見表』（医学通信社・2019年出版）、『サポートブック』（ソラスト・2019年出版）、『コンピュータ入力練習カルテ例題集』（ケア&コミュニケーション・2019年出版） （検定対策として『医療秘書技能検定実問題集3級②（つちや書店）』・2019年出版）

参考書	
履修上の注意	<p>「医療秘書技能検定3級」「医事コンピュータ技能検定3級」取得を目標に行われるため、「メディカルマークA」「メディカルマークB」「メディカルマークC」も履修すること。 診療点数早見表、サポートブック、コンピュータ入力練習カルテ例題集、電卓（携帯電話、スマートフォンの使用は禁止）、配布資料は必ず持参すること。 課題は期日までに必ず提出すること。やむを得ず期日までに提出できない場合は提出できる日を報告すること。 毎回の授業が大切なため、遅刻や欠席をせずに医療機関に従事することを意識し、資格取得を目標に履修して欲しい。</p>
アクティブ・ラーニング	
I C Tの活用	OHC、プロジェクタを用い授業を展開する

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	国専：選択
担当教員			
山崎美和			
Subject Code：E17C69			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	前期「メディカルクラークA」の授業に引き続き、演習問題やカルテ例題で医療費算定のルールを学び、正しい診療報酬明細書（レセプト）を作成する技術を身に付け、「医療秘書技能検定3級」「医事コンピュータ技能検定3級」取得を目指します。 (授業目標) 被保険者証及び診療録の見方、医療費算定の知識を理解し、医療事務に必要な基礎知識及び技術を身に付ける。 ○D：被保険者証及び診療録の見方、算定のルールを学び、メディカルクラークAで学んだ内容及び基本的な手術料・麻酔料・検査料・画像診断の正確な医療費を計算する知識を身に付ける。 ◎E：医療費計算方法及び共にレセプト記載方法を学び、メディカルクラークAで学んだ内容及び基本的な手術料・麻酔料・検査料・画像診断の正確な診療報酬明細書記載に関する知識を身に付ける。
授業計画	1 手術① 手術料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 2 手術・輸血② 手術料、輸血料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 3 麻酔 麻酔料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 4 検査①（検体検査：尿・糞便等、血液学的） 検体検査の種類と実施料、判断料、採取料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 5 検査②（検体検査：生化学的（I）、（II）） 検体検査の種類と実施料、判断料、採取料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 6 検査③（検体検査：免疫学的、微生物学的） 検体検査の種類と実施料、判断料、採取料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 7 検査④（生体検査：呼吸循環機能～耳鼻咽喉科） 生体検査の種類と実施料、判断料、低減検査の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 8 検査⑤（生体検査：眼科～内視鏡） 生体検査の種類と実施料、判断料、低減検査の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 9 病理診断 病理診断の種類と実施料、判断料、採取料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 10 画像診断①（エックス線診断料） エックス線撮影料と診断料、フィルム料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 11 画像診断②（エックス線診断料） エックス線撮影料と診断料、フィルム料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 12 画像診断③（コンピューター断層撮影診断料） コンピューター断層撮影料と診断料、フィルム料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 13 リハビリテーション・精神科専門療法 リハビリテーション、精神科専門療法の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 14 入院料（入院基本料・食事療養） 入院基本料と施設基準加算の種類、食事代の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 15 外来カルテ演習 レセプトを作成する
到達目標・基準	○D：手術、麻酔、検査、画像診断の各項目の基本的な計算や加算ができる。 ◎E：基本的な外来診療例（初・再診、医学管理等、投薬、注射、処置、手術、麻酔、検査、画像診断）のカルテから、診療報酬明細書を作成することができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従うこと。（30分程度） 事後学習：講義で学んだ内容（プリント、カルテ例題等）の確認。（60分程度） 授業時に出された演習等の課題を行うこと。（90分程度）
指導方法	・プロジェクタを使用して、主に配布プリント、テキストで講義を行う。 ・医療費計算を行うため、電卓の使い方も指導する。 ・授業では、主に医療費算定のルールと計算方法を解説するため、レセプトは課題として提出してもらう。 *課題のフィードバック方法：コメント記載のうえ返却及びコメントへの質疑応答
成績評価の方法・基準	D：定期試験・提出課題を評価する。 E：定期試験・提出課題を評価する。 定期試験60%、提出課題30%、授業態度10%
テキスト	『診療点数早見表』（医学通信社・2019年出版）、『サポートブック』（ソラスト・2019年出版）、『コンピュータ入力練習カルテ例題集』（ケア&コミュニケーション・2019年出版） （検定対策として『医療秘書技能検定実問題集3級②（つちや書店）』・2019年出版）

参考書	
履修上の注意	<p>「医療秘書技能検定3級」「医事コンピュータ技能検定3級」取得を目標に行われるため、「メディカルマークA」「メディカルマークB」「メディカルマークC」も履修すること。 診療点数早見表、サポートブック、コンピュータ入力練習カルテ例題集、電卓（携帯電話、スマートフォンの使用は禁止）、配布資料は必ず持参すること。 課題は期日までに必ず提出すること。やむを得ず期日までに提出できない場合は提出できる日を報告すること。 毎回の授業が大切なため、遅刻や欠席をせずに医療機関に従事することを意識し、資格取得を目標に履修して欲しい。</p>
アクティブ・ラーニング	
I C Tの活用	OHC、プロジェクタを用い授業を展開する

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
山崎美和			
Subject Code : E18C65			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	医療機関のIT化により、電子カルテや医療費計算、診療報酬請求事務（レセプト）のコンピュータ化は全医療機関に普及し、レセプトオンライン請求が進められている。医療事務従事者にとってもコンピュータ技能は必須といえる。この講義では、医事コンピュータソフトを用いて、医療費の計算及び診療報酬明細書（レセプト）の作成を行う。「メディカルクラークA・B・C・D」で学習した内容が必要なため、既習内容の確認も繰り返し行う。 (授業目標) 診療録の見方、医療費算定の知識、コンピューター操作を理解し、医療事務に必要な基礎知識及び技術を身に付ける。 ○D：診療録の見方、算定のルールを学び、正確な医療費を計算する知識を身に付ける。 ◎E：医療費算定方法と共にレセプト記載方法を学び、医事コンピュータ操作の技術を身に付ける。
授業計画	<p>1 オリエンテーション、新患登録（患者情報・病名入力）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 保険証やカルテから正しく患者情報と病名を入力する</p> <p>2 外来カルテ入力演習（投薬・医学管理・注射・処置）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） メディカルクラークA・B・C・Dで学んだ診療報酬算定をもとにカルテを読み取り、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する</p> <p>3 外来カルテ入力演習（投薬・医学管理・注射・処置）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） メディカルクラークA・B・C・Dで学んだ診療報酬算定をもとにカルテを読み取り、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する</p> <p>4 外来カルテ入力演習（注射・処置）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） メディカルクラークA・B・C・Dで学んだ診療報酬算定をもとにカルテを読み取り、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する</p> <p>5 外来カルテ入力演習（注射・処置）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） メディカルクラークA・B・C・Dで学んだ診療報酬算定をもとにカルテを読み取り、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する</p> <p>6 外来カルテ入力演習（～手術）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） メディカルクラークA・B・C・Dで学んだ診療報酬算定をもとにカルテを読み取り、手術を行った際に算定できないものを確認し、医療費を算定（入力）する</p> <p>7 外来カルテ入力演習（～手術）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） メディカルクラークA・B・C・Dで学んだ診療報酬算定をもとにカルテを読み取り、手術を行った際に算定できないものを確認し、医療費を算定（入力）する</p> <p>8 外来カルテ入力演習（～検査・病理診断）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） メディカルクラークA・B・C・Dで学んだ診療報酬算定をもとにカルテを読み取り、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する</p> <p>9 外来カルテ入力演習（～検査・病理診断）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） メディカルクラークA・B・C・Dで学んだ診療報酬算定をもとにカルテを読み取り、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する</p> <p>10 外来カルテ入力演習（～画像診断）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） メディカルクラークA・B・C・Dで学んだ診療報酬算定をもとにカルテを読み取り、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する</p> <p>11 外来カルテ入力演習（～画像診断）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） メディカルクラークA・B・C・Dで学んだ診療報酬算定をもとにカルテを読み取り、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する</p> <p>12 外来伝票入力演習（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） カルテ形式と伝票形式の違いを理解し、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する</p> <p>13 外来伝票入力演習（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） カルテ形式と伝票形式の違いを理解し、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する</p> <p>14 外来伝票入力演習（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） カルテ形式と伝票形式の違いを理解し、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する</p> <p>15 外来カルテ・伝票入力演習（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） カルテ形式と伝票形式の違いを理解し、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する</p>
到達目標・基準	○D：外来診療例カルテの各項目の基本的な計算や加算ができる。 ◎E：患者情報、傷病名の入力と基本的な外来診療例カルテ（初・再診料、医学管理等、投薬、注射、処置、手術・麻酔、検査・病理診断、画像診断）から、診療報酬明細書を作成することができる。
事前・事後学習	事前学習：次回入力するカルテの確認を行うこと。（60分程度） 事後学習：授業で入力したカルテの点数算定、明細書記載方法等の見直しを行うこと。（60分程度）
指導方法	カルテ例題集を中心に演習を進めながら、医事コンピュータによるレセプト作成の指導を行う。 授業内で作成したレセプトは課題として毎回提出してもらい理解度を確認する。

	*課題のフィードバック方法：次回授業でコメント記載のうえ返却及びコメントへの質疑応答
成績評価の方法・基準	D：定期試験・提出課題を評価する。 E：定期試験・提出課題を評価する。 定期試験60%、課題30%、授業態度10%
テキスト	『コンピュータ入力練習カルテ例題集』（ケア&コミュニケーション・2019年出版）、『診療点数早見表』（医学通信社・2019年出版）、『サポートブック』（ソラスト・2019年出版）
参考書	
履修上の注意	コンピュータ入力練習カルテ例題集、診療点数早見表、サポートブック、配布資料は必ず持参すること。 データ保存のためUSBメモリを必ず持参すること。 毎回の授業が大切なため、遅刻や欠席をせず医療機関に従事することを意識し、資格取得を目標に履修して欲しい。
アクティブ・ラーニング	
I C Tの活用	医事コンピュータソフト使用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
山崎美和			
Subject Code : E27C71			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>医事コンピュータ演習1に引き続き、医療費の計算及び診療報酬明細書（レセプト）を作成する。「メディカルクラークA・B・C・D」で学習した内容も必要なため、既習内容の確認も繰り返し行う。入力技術と共に「医事コンピュータ技能検定試験3級」の対策を行い、取得を目指します。</p> <p>(授業目標)</p> <p>診療録の見方、医療費算定の知識、コンピューター操作を理解し、医療事務及び医事コンピュータ技能検定試験3級に必要な知識と技術を身に付ける。</p> <p>○D：診療録及び伝票形式の見方、医療費算定のルールを学び、正確な診療報酬明細書を作成する知識を身に付ける。</p> <p>◎E：医療費算定方法と共にレセプト記載方法及びレセプトチェックを学び、医事コンピュータ操作の技術を身に付ける。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション、1年次復習（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） 医事コンピュータ技能検定、授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 1年次に入力した問題の復習を行う</p> <p>2 検定試験対策（実技）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） テキスト、過去の検定問題を用いて、検定対策を行う</p> <p>3 検定試験対策（実技）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） テキスト、過去の検定問題を用いて、検定対策を行う</p> <p>4 検定試験対策（実技）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） テキスト、過去の検定問題を用いて、検定対策を行う</p> <p>5 検定試験対策（学科・実技総合）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） 過去の検定問題を用いて、検定対策を行う</p> <p>6 検定試験対策（学科・実技総合）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） 過去の検定問題を用いて、検定対策を行う</p> <p>7 検定試験対策（学科・実技総合）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） 過去の検定問題を用いて、検定対策を行う</p> <p>8 検定試験対策（学科・実技総合）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） 過去の検定問題を用いて、検定対策を行う</p> <p>9 検定試験対策（学科・実技総合）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） 過去の検定問題を用いて、検定対策を行う</p> <p>10 入院カルテ入力演習（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） 入院基本料、入院基本料等加算、入院時食事療養費の入力方法と医療費を算定（入力）する</p> <p>11 入院カルテ入力演習（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） 入院基本料、入院基本料等加算、入院時食事療養費の入力方法と医療費を算定（入力）する</p> <p>12 入院伝票入力演習（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） カルテ形式と伝票形式の違いを理解し、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する</p> <p>13 外来・入院カルテ入力演習（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） 外来と入院の医療費算定の違いを学ぶ</p> <p>14 外来・入院カルテ入力演習（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） 外来と入院の医療費算定の違いを学ぶ</p> <p>15 外来・入院カルテ入力演習（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） 外来と入院の医療費算定の違いを学ぶ</p>
到達目標・基準	<p>○D：外来・入院診療例カルテの各項目の基本的な計算や加算ができる。</p> <p>◎E：患者情報、傷病名の入力と基本的な外来・入院診療例カルテ（初・再診料、入院料、医学管理等、投薬、注射、処置、手術・麻酔、検査・病理診断、画像診断）から、診療報酬明細書を作成することができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：次回入力するカルテの確認を行うこと。（60分程度）</p> <p>事後学習：授業で入力したカルテの点数、明細書記載方法等の見直しを行うこと。（60分程度）</p>
指導方法	<p>医事コンピュータ技能検定試験3級問題集・カルテ例題集を中心に演習を進めながら、医療事務コンピュータによるレセプト作成の指導、さらに検定試験学科問題の対策を行う。</p> <p>授業内で作成したレセプトは課題として毎回提出してもらい理解度を確認する。</p> <p>*課題のフィードバック方法：次回授業でコメント記載のうえ返却及びコメントへの質疑応答</p>
成績評価の方法・基準	<p>D：定期試験、提出課題を評価する。</p> <p>E：定期試験、提出課題を評価する。</p> <p>定期試験60%、提出課題30%、授業態度10%</p>
テキスト	<p>『コンピュータ入力練習カルテ例題集』（ケア&コミュニケーション・2018年出版）、『診療点数早見表』（医学通信社・2018年出版）、『サポートブック』（ソラスト・2018年出版）、『医事コンピュータ技能検定問題集3級②』（つちや書店・2019年出版）</p>

参考書	
履修上の注意	<p>コンピュータ入力練習カルテ例題集、医事コンピュータ技能検定問題集3級②、診療点数早見表、サポートブック、配布資料は必ず持参すること。 データ保存のためUSBメモリを必ず持参すること。 毎回の授業が大切なため、遅刻や欠席をせず医療機関に従事することを意識し、資格取得を目標に履修して欲しい。</p>
アクティブ・ラーニング	
I C Tの活用	医事コンピュータソフト使用